

長久保大畑遺跡 新田入口遺跡

(主)前橋伊香保線地方特定道路整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

(本文編)

2000

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

長久保大畑遺跡 新田入口遺跡

(主)前橋伊香保線地方特定道路整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

(本文編)

2000

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



1995年 8月 撮影

序

主要地方道前橋伊香保線道路改良工事は、前橋市高井町と北群馬郡吉岡町大字大久保間の工事が終了、平成11年3月に共用開始となり、一般国道17号線の板東橋の朝夕の交通渋滞の一部解消、沿線市町村の交通等に大いに益しています。

本道路乖離用工事により、何箇所かの埋蔵文化財の記録保存が対象となりました。その一つである吉岡町大字大久保に所在する長久保大畑遺跡、新田入口遺跡の2遺跡の発掘調査は、群馬県土木部より当事業団に調査の委託がなされ、当事業団では平成7年度から10年度にかけて発掘調査を行いました。そして本年度に報告書刊行のための整理事業を行い、この度それが終了しましたので、ここに「長久保大畑遺跡・新田入口遺跡」の発掘調査報告書を上梓することにしました。

本報告書には、縄文時代中期後半の集石遺構、配石遺構とそれにもない出土した多量の土器、石器が報告されています。また古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡37軒も報告されています。

発掘調査から報告書刊行に至るまで群馬県土木部道路建設課、同渋川土木事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、吉岡町教育委員会、地元関係者等には種々御指導、御協力を賜りました。これら関係者の皆様に衷心より感謝申し上げ、併せて先に刊行した沼南遺跡の報告書と共に、地域の歴史を解明するための資料として十分に活用される事を願い序とします。

平成12年3月

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 小 野 宇三郎

例 言

1. 本書は、(主) 前橋伊香保線地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した「長久保大畑・新田入口遺跡」の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 遺跡は、群馬県北群馬郡吉岡町大字大久保に所在する。
3. 遺跡名は、吉岡町遺跡詳細分布調査報告書(吉岡町教育委員会1993) 町台帳154「長久保大畑遺跡(ながくぼおおばたけ)」、町台帳164「新田入口遺跡(しんでんいりぐち)」により付す。
4. 発掘調査は、群馬県教育委員会が調整し、群馬県知事(道路建設課)と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が委託契約を締結し実施した。
5. 試掘調査は、群馬県教育委員会文化財保護課で平成6年11月15日～平成7年3月2日まで実施した。
6. 調査期間

平成7年度 平成7年7月15日～平成8年3月29日

平成9年度 平成9年12月1日～平成10年3月31日

平成10年度 平成10年4月1日～平成11年2月1日

7. 調査組織

平成7年度

事務担当

常務理事	中村英一	事務局長	原田恒弘
調査研究部長	神保侑史	管理部長	蜂巢 実
調査研究第1課長	真下高幸	総務課長	斎藤俊一
総務課係長代理	國定 均、笠原秀樹	総務課主任	須田朋子、吉田有光、柳岡良宏
総務課主事	高橋定義	嘱託員	大澤友治、土橋まり子
事務補助員	吉田恵子、吉田笑子、並木綾子、今井もと子、松井美智代、内山佳子、星野美智子、羽鳥京子、菅原淑子、松下次男、浅見宜記、石田克己、若田 誠		

調査担当

専門員 女屋和志雄 主任調査研究員 田村公夫 調査研究員 小野田孝美

(現富岡市立富岡小学校教諭)

調査作業員 石原幸江、大澤隆二、大谷正子、小森シン、清水しづ江、高見壽美子、田村美千代、塚越栄子、塚越静枝、戸塚清市、中澤光明、長谷川ふく子、茂木美恵、吉田佐知子、吉田文江、清水近江、島田てつ、川浦邦夫、奥原佐久次、中嶋康男、横手亀次郎、井草正男、高林源太郎、川浦純子、坂下松江、貫井フサエ、飯野文子、小金澤たみ子、黒崎正美、小見せい子、関口弘子、高垣松子、八重樫純子、牧口ケサノ、櫻井裕子、永原市助、静岩男、廣井スミエ、清水静枝、鹿子木軸子、坂井くら子、坂井いせ、黒崎サヨ子、黒崎ミツノ、吉田ヤス子、小野木年江、中澤貞子、福島菊郎、城田忍

平成9年度

事務担当

常務理事 菅野 清 事務局長 原田恒弘
副事務局長兼調査研究第1部長 赤山容造
調査研究第2部長 神保侑史 管理部長 渡辺 健
調査研究第2課長 能登 健 総務課長 小淵 淳
総務課総務係長 笠原秀樹 総務課経理係長 井上 剛
総務課係長代理 須田朋子 総務課主任 吉田有光、柳岡良宏
総務課主事 岡嶋伸昌、宮崎忠司 嘱託員 大澤友治、土橋まり子
事務補助員 吉田恵子、吉田笑子、並木綾子、今井もと子、内山佳子、星野美智子、羽鳥京子、
佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、安藤友美、狩野真子、松下次男、浅見宜記、
吉田 茂、若田 誠

調査担当

主幹兼専門員 小野和之 専門員 友廣哲也 主任調査研究員 立澤綾子
調査研究員 松原孝志、諸田康成
調査作業員 田野満衛、吉田文江、森田裕子、石崎澄枝、黒崎正美、武井綾子、野口市子、
星野ミドリ、永井寛治、柳岡ウタ、高野辺トリ子、吉澤繁、富澤美代子、内藤張、
小木博、小木良江、黒崎サヨ子、黒崎ミツノ、吉田ヤス子、神宮香代子、
柳沢京四郎、神保正幸、田中八千代、永町勝子、原澤満仲、平井恒子、水野さかゑ、
本多セツ、渡部富江、大塚博男、佐藤武四郎、手塚ハツエ、町田花子、中山恵美子、
小田島ふじの、小林文吉、小松原傳吉、関清、田邊善三、水落きみよ、丸山三代子、
高山日出夫、高橋康子、城田忍、丸山秀雄、木暮昴二、福田利夫、富澤りき、
吉田むつ、荒木与吉、大嶋博、狩野直次、植木勘、荒木達雄、中井英之、吉田房子、
山田正子、斉藤花代、都筑八重子、峰川三七三、篠田貞子、久保田光枝、篠原惣市、
平井登、橋爪真純、杉田八重、富沢宗一、矢口昇一、大野久子、中島佑介、藺田要、
櫛淵長、星野悦子、関根英雄、城田秀美、中島美由紀、金子くみ子

平成10年度

事務担当

常務理事兼事務局長兼調査研究第1部長 赤山容造
調査研究第2部長 神保侑史 管理部長 渡辺 健
調査研究第1課長 平野進一 総務課長 坂本敏夫
総務課総務係長 笠原秀樹 総務課経理係長 小山建夫
総務課係長代理 須田朋子 総務課主任 吉田有光、柳岡良宏、岡嶋伸昌
総務課主事 宮崎忠司 嘱託員 大澤友治、土橋まり子
事務補助員 吉田恵子、吉田笑子、並木綾子、今井もと子、内山佳子、佐藤美佐子、本間久美子、
北原かおり、本地友美、狩野真子、松下次男、浅見宜記、吉田 茂、若田 誠

調査担当

主幹兼専門員 坂井隆 調査研究員 長岡将之 嘱託員 小林一弘

調査作業員 田野満衛、関根文子、矢口豊子、山本芳子、土屋玲子、石川眞也、清水幸子、芹沢市子、橋元裕児、中嶋康男、成瀬ケイ子、関口弘子、高垣松子、星野ミドリ、永井寛治、高野辺トリ子、吉澤繁、富澤美代子、内藤張、石川輝子、小木博、小木良江、加納文代、斎藤初美、永井涼子、深沢ヨシ子、深沢日出次、矢島キクエ、金井百合子、竹鼻タキノ、松井多喜、清水次子、近藤上、渡部富江、佐藤和子、中里見友江、辻みつる、加納康利、小川照男、岡田金五、堤弘、堤静子、栗原保、狩野貢、反町利雄、笠井正雄、中島エイ子、宇貫美代子、田中美代子、鉄本亜紀乃、狩野基次、狩野登茂子、村磯光子、星野悦子、前川章、朝倉政代、関根英雄、金子くみ子、平林卓

8. 整理事業は、群馬県教育委員会が調整し、群馬県知事（道路建設課）と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が委託契約を締結し実施した。

9. 整理事業期間

平成11年4月1日～平成12年3月31日

10. 整理組織

事務担当

常務理事兼事務局長	赤山容造	調査研究第1部長	神保佑史
調査研究第2部長	水田 稔	管理部長	住谷 進
調査研究第3課長	小山友孝	総務課長	坂本敏夫
総務課総務係長	笠原秀樹	総務課経理係長	小山建夫
総務課係長代理	須田朋子、吉田有光	総務課主任	柳岡良宏、岡嶋伸昌
総務課主事	片岡徳雄	嘱託員	大澤友治

事務補助員 吉田恵子、吉田笑子、並木綾子、今井もと子、内山佳子、鶴岡真希子、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、狩野真子、松下次男、浅見宜記、吉田 茂、若田 誠

整理担当

専門員 田村公夫 主任調査研究員 松村和男

整理嘱託員 牛込恵理子

整理補助員 今井サチ子、小野寺仁子、小久保ヒロミ、吉原清乃、渡辺八千代、船津博子、笠井初子、関正江、星野春子、藤井文江、南雲富子、新井千恵子、田子弘子

遺物写真撮影 専門員 佐藤元彦

保存処理 専門員 関 邦一 嘱託員 土橋まり子 補助員 小材浩一、高橋初美

11. 分析・委託

空中写真撮影 技研設計測量株式会社、株式会社測研

石材鑑定 飯島静男（群馬地質研究会）

リン分析、珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析、樹種同定 パリノ・サーヴェイ株式会社
遺構・遺物トレース 株式会社測研

12. 発掘調査および本書作成にあたり、下記の関係機関・関係諸氏にご助言・ご指導・ご協力を得た。

記して感謝の意を表したい。(敬称略)

群馬県、群馬県土木部道路建設課、渋川土木事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、

吉岡町教育委員会、渋川市教育委員会、前橋市教育委員会

井上唯雄、井野修一、大塚昌彦、鈴木徳雄、瀧野巧、丸山不二夫

その他遺跡周辺の方々

13. 本書の執筆は次のとおりである。

木津博明 瓦 (第3章第4節第12項1. 瓦)

松村和男 第3章5項・6項、遺物観察表 (縄文土器・石器・鉄器)

田村公夫 上記他

14. 本遺跡の記録図・記録写真・出土遺物は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が管理し、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管している。

凡 例

1. 遺構番号は、平成7年度・平成9年度・平成10年度が一連となる。なお、住居跡は平成7年度から平成10年度まで一連の番号であり、平成8年度分は本報告中では欠番となる。

2. 挿図縮尺は図版に記載している。概要は以下の通りである。

遺構 遺構全体図1/1,000、集石遺構1/30、配石遺構1/60、列石遺構1/60、竪穴住居跡1/60、カマド1/30、掘立柱建物跡1/80、竪穴状遺構1/60、溝1/120、道1/120、井戸1/60、火葬跡1/30、土坑1/60、水田1/250、畠1/120

遺物 土器1/3・1/4、石器1/3・1/4、鉄器1/2、小型遺物1/2

3. 遺構断面実測図及び等高線に記した数値は標高を表す。単位はmである。

4. 遺構図の方位は座標北である。

5. 遺構図の方眼杭名は5mごとにA区a-01杭をAa-01と記し、5m以内の地点では方眼杭の東・南を基準に東に*m南に*mをAa-01,*E*Sと表し位置を示す。

6. 地層の名称は次の略号である。（『半田中原・南原遺跡』1994群馬県企業局・渋川市教育委員会」報告書を参照した。）

As-Aは浅間A軽石の略称である。西暦1783年（近世）の降下である。

As-Bは浅間B軽石の略称である。西暦1108年（平安時代）の降下である。

Hr-Iは榛名-伊香保テフラの略号である。榛名-伊香保テフラは榛名山の二ツ岳形成期6世紀中頃の噴火で伊香保を中心とした一帯に降下したものである。この軽石層で子持村黒井峯遺跡が覆われている。

Hr-Sは榛名-渋川テフラの略号である。榛名-渋川テフラは榛名山の二ツ岳形成期5世紀末頃の噴火で渋川を中心とした一帯に降下したものである。この火山灰の火砕流で渋川市中筋遺跡は被災村落となった。

As-Cは浅間C軽石の略称である。4世紀中葉の降下と考える。

7. 縄文時代の配石遺構は礫の集中状況にあわせ以下の名称を用いた。「集石遺構」は礫の密集・集中する遺構、「配石遺構」は礫が整然と配置された遺構、「列石遺構」は礫が帯状に連なる遺構に対して用いた。

8. 遺構図の掲載は、縄文時代：遺構断面には出土土器を投影させた。集石遺構・配石遺構の推定範囲は破線で表す。グリッド出土遺物はグリッド位置図を示しグリッドごとに掲載した。

弥生時代以降：各遺構配置図を示し各遺構図を掲載した。

9. 住居の方位は、カマドの位置を基準にして、カマドをもつ壁に直交する線を主軸線とした。掘立柱建物跡の方位は、梁行方向を主軸線とした。溝の方位は上流方向を基準に走向方向を主軸線とした。火葬跡の方位は張出部をもつ壁に直交する線を主軸線とした。土坑観察表断面形の1はU字状、2は□状を表わす。

10. 遺構図面上のスクリーンは、焼土分布・カーボン分布などを表す。

11. 遺物番号は、遺構ごとにグリッドごとに登録した。遺物番号は遺構図中番号と遺物番号が統一されるようにした。図中の縄文時代のグリッド出土遺物●は土器を、▲は石器を表す。特殊遺物については「特」と番号を記す。弥生時代以降においては出土状態で図化した。土器は出土状態と分布は●で表し、石器「S」、鉄製品を「鉄」、その他は器種と番号を記す。

12. 土器の実測図は原則として四分画法をとった。残存量が1/2以下の遺物の場合は180°展開して図上復元とし、中心線に：を示した。
13. 遺物図のスクリーントーンは縄文土器は赤色塗彩、灰釉陶器は釉薬部分を表す。弥生土器の赤色塗彩は2色刷りとした。
14. 石器の敲打範囲は┌ ┘ で表した。磨滅範囲は線状痕が認められるものについては線で、そうでないものには点描を用いて示した。なお、使用による磨滅や微細剝離範囲は|←→|で表した。
15. 古墳時代以降の土器実測中の→は筥の動いた方向を示す。
16. 遺物観察は次のとおりである。
 - ・番号は遺構図版の遺物出土位置番号及び遺物写真図版中の番号と同一である。
 - ・法量の単位はcm、重さの単位はgである。推定値は()を付す。
 - ・色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」を使用した。
 - ・残存は完形に対して分数で、部分の場合は部位に対して分数で表す。
 - ・縄文土器備考の分類は本報告書関連第1集「沼南遺跡」を参照する。
 - 第I群土器（早期）、第II群土器（前期繊維土器）、第III群土器（前期後葉）、
 - 第IV群土器（中期中葉）、第V群土器（中期後葉）、第VI群土器（後期）
17. 遺物写真は原則として遺物図とほぼ同じ縮尺で掲載した。

目次

口絵
序
例言
凡例
目次

第1章 発掘調査の経過と調査の方法

1. 発掘調査に至る経過…………… 1
2. 調査の経過と調査方法…………… 1

第2章 周辺の環境

1. 遺跡の立地…………… 6
2. 周辺の遺跡…………… 6
3. 標準土層説明……………10

第3章 検出した遺構・遺物

- 第1節 遺跡の概要……………12
- 第2節 縄文時代……………22
 - 第1項 集石遺構……………23
 - 第2項 配石遺構……………52
 - 第3項 列石遺構……………96
 - 第4項 土坑……………98
 - 第5項 遺構外出土土器・土製品……………101
 - 第6項 出土石器……………175
- 第3節 弥生時代……………276
- 第4節 古墳時代以降……………279
 - 第1項 竪穴住居跡……………280
 - 第2項 遺物集中地点……………351
 - 第3項 掘立柱建物跡・柵列・ピット群…353
 - 第4項 竪穴状遺構……………370
 - 第5項 溝……………377
 - 第6項 道……………397
 - 第7項 井戸……………398
 - 第8項 火葬跡……………401

- 第9項 土坑……………403
- 第10項 水田・畠……………430
- 第11項 F区試掘……………453
- 第12項 その他の遺物……………454
 - 堰堰堰（瓦・紡錘車・土錘・鉄器・石製品）

第4章 自然科学分析

1. 縄文時代中期の集石のリン分析……………478
2. 微化石からみた古環境と谷底低地の利用…480
3. 出土した木材・炭化材の樹種……………499

第5章 結語……………504

挿図目次

第 1 図	調査区及びグリッド配置図	4	第 59 図	3 号配石実測図・出土土器実測図	74
第 2 図	遺跡周辺の小字名	5	第 60 図	5 号配石実測図	75
第 3 図	周辺の遺跡	8	第 61 図	9 号配石実測図	76
第 4 図	標準土層図	10	第 62 図	9 号配石出土土器分布図・投影図	77
第 5 図	調査区土層柱状図	11	第 63 図	9 号配石出土土器実測図 (1)	78
第 6 図	時代別遺構配置図	13	第 64 図	9 号配石出土土器実測図 (2)	79
第 7 図	G 区ローム面コンタ図	14	第 65 図	9 号配石出土土器実測図 (3)	80
第 8 図	G 区縄文礫出土状態及びコンタ図	15	第 66 図	9 号配石出土土器実測図 (4)	81
第 9 図	G 区道北縄文遺構配置図	16	第 67 図	10 号配石実測図	82
第 10 図	G 区道南縄文遺構配置図	17	第 68 図	1 号・2 号列石実測図	97
第 11 図	調査区遺構配置コンタ図 (1)	18	第 69 図	1 号列石出土土器実測図	97
第 12 図	調査区遺構配置コンタ図 (2)	19	第 70 図	J 1 号・2 号・3 号土坑実測図・ J 3 号土坑出土土器実測図	99
第 13 図	調査区遺構配置図 (1)	20	第 71 図	J 3 号土坑出土土器実測図	100
第 14 図	調査区遺構配置図 (2)	21	第 72 図	G 区グリッド配置図	103
第 15 図	G 区土層断面図	22	第 73 図	G 区グリッド出土土器分布図 (1)	105
第 16 図	1 号集石実測図	28	第 74 図	G 区グリッド出土土器実測図 (1)	106
第 17 図	1 号集石出土土器実測図	29	第 75 図	G 区グリッド出土土器実測図 (2)	107
第 18 図	3 号集石実測図	30	第 76 図	G 区グリッド出土土器実測図 (3)	108
第 19 図	3 号集石出土土器実測図	31	第 77 図	G 区グリッド出土土器実測図 (4)	109
第 20 図	4 号集石実測図	32	第 78 図	G 区グリッド出土土器実測図 (5)	110
第 21 図	4 号集石出土土器実測図	33	第 79 図	G 区グリッド出土土器実測図 (6)	111
第 22 図	5 号集石実測図	34	第 80 図	G 区グリッド出土土器実測図 (7)	112
第 23 図	5 号集石出土土器実測図	35	第 81 図	G 区グリッド出土土器実測図 (8)	113
第 24 図	6 号集石実測図	36	第 82 図	G 区グリッド出土土器実測図 (9)	114
第 25 図	8 号集石実測図	37	第 83 図	G 区グリッド出土土器実測図 (10)	115
第 26 図	6 号集石出土土器実測図	38	第 84 図	G 区グリッド出土土器実測図 (11)	116
第 27 図	8 号集石出土土器実測図 (1)	38	第 85 図	G 区グリッド出土土器実測図 (12)	117
第 28 図	8 号集石出土土器実測図 (2)	39	第 86 図	G 区グリッド出土土器分布図 (2)	119
第 29 図	10 号 A・B 集石実測図	40	第 87 図	G 区グリッド出土土器分布図 (3)	121
第 30 図	11 号集石実測図	41	第 88 図	G 区グリッド出土土器投影図	122
第 31 図	10 号 A・B 集石出土土器実測図	42	第 89 図	G 区グリッド出土土器実測図 (13)	123
第 32 図	11 号集石出土土器実測図	42	第 90 図	G 区グリッド出土土器実測図 (14)	124
第 33 図	12 号集石実測図・出土土器実測図	43	第 91 図	G 区グリッド出土土器実測図 (15)	125
第 34 図	13 号集石実測図・出土土器実測図	44	第 92 図	G 区グリッド出土土器実測図 (16)	126
第 35 図	14 号集石実測図・出土土器実測図	44	第 93 図	G 区グリッド出土土器実測図 (17)	127
第 36 図	16 号集石実測図・出土土器実測図	45	第 94 図	G 区グリッド出土土器実測図 (18)	128
第 37 図	17 号・18 号集石実測図	45	第 95 図	G 区グリッド出土土器実測図 (19)	129
第 38 図	9 号集石実測図	46	第 96 図	G 区グリッド出土土器実測図 (20)	130
第 39 図	1 号・2 号・6 号・7 号配石実測図	54	第 97 図	G 区グリッド出土土器実測図 (21)	131
第 40 図	1 号・2 号・6 号・7 号配石 出土土器分布図	55	第 98 図	H 区グリッド配置図	132
第 41 図	1 号・2 号・6 号・7 号配石 出土土器投影図	56	第 99 図	I 区グリッド配置図・ H 区・I 区グリッド出土土器実測図	133
第 42 図	1 号配石出土土器実測図 (1)	57	第 100 図	J 区グリッド配置図・ 出土土器実測図 (1)	134
第 43 図	1 号配石出土土器実測図 (2)	58	第 101 図	J 区グリッド出土土器実測図 (2)	135
第 44 図	1 号配石出土土器実測図 (3)	59	第 102 図	J 区グリッド出土土器実測図 (3)	136
第 45 図	1 号配石出土土器実測図 (4)	60	第 103 図	K 区グリッド配置図・ 出土土器実測図	137
第 46 図	1 号配石出土土器実測図 (5)	61	第 104 図	L 区・M 区グリッド配置図	138
第 47 図	2 号配石出土土器実測図 (1)	62	第 105 図	K 区・L 区・M 区グリッド出土土器 実測図	139
第 48 図	2 号配石出土土器展開図 (2)	63	第 106 図	特殊土製器実測図	140
第 49 図	2 号配石出土土器実測図 (3)	64	第 107 図	1 号集石出土土器実測図	177
第 50 図	2 号配石出土土器実測図 (4)	65	第 108 図	1 号・3 号集石出土土器実測図	178
第 51 図	2 号配石出土土器実測図 (5)	66	第 109 図	3 号集石出土土器実測図	179
第 52 図	6 号配石出土土器実測図 (1)	67	第 110 図	3 号・4 号集石出土土器実測図	180
第 53 図	6 号配石出土土器実測図 (2)	68	第 111 図	4 号集石出土土器実測図	181
第 54 図	6 号配石出土土器実測図 (3)	69	第 112 図	5 号集石出土土器実測図 (1)	182
第 55 図	6 号配石出土土器実測図 (4)	70	第 113 図	5 号集石出土土器実測図 (2)	183
第 56 図	7 号配石出土土器実測図 (1)	71	第 114 図	5 号集石出土土器実測図 (3)	184
第 57 図	7 号配石出土土器実測図 (2)	72	第 115 図	5 号・6 号集石出土土器実測図	185
第 58 図	7 号配石出土土器実測図 (3)	73	第 116 図	6 号集石出土土器実測図 (1)	186

第117図	6号集石出土石器実相図(2)	187
第118図	6号・9号・10号集石 出土石器実測図	188
第119図	10号集石出土石器実測図(1)	189
第120図	10号集石出土石器実測図(2)	190
第121図	10号集石出土石器実測図(3)	191
第122図	10号・12号集石出土石器実測図	192
第123図	12号・13号集石出土石器実測図	193
第124図	14号・16号集石、1号配石 出土石器実測図	194
第125図	1号配石出土石器実測図(1)	195
第126図	1号配石出土石器実測図(2)	196
第127図	2号配石出土石器実測図(1)	197
第128図	2号配石出土石器実測図(2)	198
第129図	3号配石出土石器実測図(1)	199
第130図	3号配石出土石器実測図(2)	200
第131図	3号配石出土石器実測図(3)	201
第132図	3号配石出土石器実測図(4)	202
第133図	6号配石出土石器実測図(1)	203
第134図	6号配石出土石器実測図(2)	204
第135図	6号配石出土石器実測図(3)	205
第136図	7号配石出土石器実測図	206
第137図	7号・9号配石出土石器実測図	207
第138図	9号配石出土石器実測図(1)	208
第139図	9号配石出土石器実測図(2)	209
第140図	9号配石出土石器実測図(3)	210
第141図	9号配石出土石器実測図(4)	211
第142図	9号配石出土石器実測図(5)	212
第143図	9号配石出土石器実測図(6)	213
第144図	9号配石出土石器実測図(7)	214
第145図	9号配石出土石器実測図(8)	215
第146図	9号配石出土石器実測図(9)	216
第147図	J2号土坑・グリッド出土 石器実測図	217
第148図	G区グリッド出土石器実測図(1)	218
第149図	G区グリッド出土石器実測図(2)	219
第150図	G区グリッド出土石器実測図(3)	220
第151図	G区グリッド出土石器実測図(4)	221
第152図	G区グリッド出土石器実測図(5)	222
第153図	G区グリッド出土石器実測図(6)	223
第154図	G区グリッド出土石器実測図(7)	224
第155図	G区グリッド出土石器実測図(8)	225
第156図	G区グリッド出土石器実測図(9)	226
第157図	G区グリッド出土石器実測図(10)	227
第158図	G区グリッド出土石器実測図(11)	228
第159図	G区グリッド出土石器実測図(12)	229
第160図	G区グリッド出土石器実測図(13)	230
第161図	G区グリッド出土石器実測図(14)	231
第162図	G区グリッド出土石器実測図(15)	232
第163図	G区グリッド出土石器実測図(16)	233
第164図	G区グリッド出土石器実測図(17)	234
第165図	G区グリッド出土石器実測図(18)	235
第166図	G区グリッド出土石器実測図(19)	236
第167図	G区グリッド出土石器実測図(20)	237
第168図	G区グリッド出土石器実測図(21)	238
第169図	G区グリッド出土石器実測図(22)	239
第170図	G区グリッド出土石器実測図(23)	240
第171図	G区グリッド出土石器実測図(24)	241
第172図	G区グリッド出土石器実測図(25)	242
第173図	G区グリッド出土石器実測図(26)	243
第174図	G区グリッド出土石器実測図(27)	244
第175図	G区グリッド出土石器実測図(28)	245
第176図	G区グリッド出土石器実測図(29)	246

第177図	G区グリッド出土石器実測図(30)	247
第178図	G区グリッド出土石器実測図(31)	248
第179図	G区グリッド出土石器実測図(32)	249
第180図	G区グリッド出土石器実測図(33)	250
第181図	G区グリッド出土石器実測図(34)	251
第182図	H区グリッド出土石器実測図	252
第183図	I区グリッド出土石器実測図(1)	253
第184図	I区グリッド出土石器実測図(2)	254
第185図	I区グリッド出土石器実測図(3)	255
第186図	I区グリッド出土石器実測図(4)	256
第187図	I区グリッド出土石器実測図(5)	257
第188図	J区グリッド出土石器実測図(1)	258
第189図	J区グリッド出土石器実測図(2)	259
第190図	J区グリッド出土石器実測図(3)	260
第191図	K区グリッド出土石器実測図(1)	261
第192図	K区グリッド出土石器実測図(2)	262
第193図	K区グリッド出土石器実測図(3)	263
第194図	L区グリッド出土石器実測図	264
第195図	L・M区グリッド出土石器実測図	265
第196図	M区グリッド出土石器実測図	266
第197図	弥生時代遺構位置図	276
第198図	Y1号土坑実測図	276
第199図	Y1号土坑出土遺物実測図	276
第200図	24号溝・グリッド出土遺物実測図	277
第201図	古墳・平安時代遺構位置図	279
第202図	14号住居跡・出土遺物実測図	281
第203図	12号住居跡実測図	282
第204図	12号住居跡周堤帯実測図	283
第205図	12号住居跡出土遺物実測図	284
第206図	1号住居跡・出土遺物実測図	285
第207図	1号住居跡出土遺物実測図	286
第208図	2号住居跡実測図	287
第209図	2号住居跡遺物実測図	288
第210図	3号住居跡実測図	289
第211図	3号住居跡カマド・出土遺物実測図	290
第212図	4号住居跡・出土遺物実測図	291
第213図	5号住居跡実測図	292
第214図	5号住居跡カマド・貯蔵穴 ・出土遺物実測図	293
第215図	6号住居跡実測図	295
第216図	6号住居跡カマド・貯蔵穴実測図	296
第217図	6号住居跡出土遺物実測図(1)	297
第218図	6号住居跡出土遺物実測図(2)	298
第219図	8号住居跡・出土遺物実測図	300
第220図	9号住居跡・出土遺物実測図	301
第221図	10号住居跡実測図	302
第222図	13号住居跡・出土遺物実測図	303
第223図	15号住居跡実測図	304
第224図	15号住居跡出土遺物実測図	305
第225図	16号住居跡実測図	307
第226図	16号住居跡カマド実測図	308
第227図	16号住居跡出土遺物実測図	309
第228図	17号住居跡実測図	310
第229図	17号住居跡カマド実測図	311
第230図	17号住居跡出土遺物実測図	312
第231図	18号住居跡実測図	313
第232図	18号住居跡カマド・出土遺物実測図	314
第233図	19号住居跡実測図	316
第234図	19号住居跡カマド・貯蔵穴実測図	317
第235図	19号住居跡出土遺物実測図	318
第236図	20号住居跡実測図	320
第237図	20号住居跡カマド実測図	321
第238図	20号住居跡出土遺物実測図	322

第239図	21号住居跡・出土遺物実測図	323	第301図	17号・18号溝・出土遺物実測図	388
第240図	133号住居跡・出土遺物実測図	324	第302図	19号溝・出土遺物実測図	389
第241図	134号住居跡実測図	326	第303図	20号溝実測図	390
第242図	134号住居跡出土遺物実測図(1)	327	第304図	21号・22号・23号溝実測図	391
第243図	134号住居跡出土遺物実測図(2)	328	第305図	21号・23号溝出土遺物実測図	392
第244図	135号住居跡・出土遺物実測図	330	第306図	26号溝出土遺物実測図	392
第245図	136号住居跡実測図	331	第307図	26号・27号溝実測図	393
第246図	136号住居跡出土遺物実測図	332	第308図	25号溝実測図	395
第247図	137号住居跡・出土遺物実測図	334	第309図	1号道位置図・実測図	397
第248図	138号住居跡・出土遺物実測図	335	第310図	中世以降分布図・井戸位置図	398
第249図	139号住居跡実測図	336	第311図	1号・2号井戸実測図	399
第250図	139号住居跡出土遺物実測図	337	第312図	2号井戸出土遺物実測図	400
第251図	140号住居跡実測図	338	第313図	3号・4号井戸実測図	400
第252図	140号住居跡出土遺物実測図	339	第314図	火葬跡位置図	401
第253図	141号住居跡実測図	340	第315図	1号・2号・3号火葬跡・出土遺物実測図	402
第254図	141号住居跡出土遺物実測図	341	第316図	G区土坑実測図(1)	409
第255図	142号住居跡・出土遺物実測図	342	第317図	G区土坑実測図(2)	410
第256図	143号住居跡・出土遺物実測図	343	第318図	H区土坑実測図	414
第257図	144号住居跡・出土遺物実測図	344	第319図	I区・J区土坑実測図	417
第258図	145号住居跡実測図	345	第320図	J区土坑実測図	418
第259図	145号住居跡出土遺物実測図	346	第321図	K区土坑実測図	426
第260図	146号住居跡・出土遺物実測図	348	第322図	K区・L区・M区土坑実測図	427
第261図	147号住居跡・出土遺物実測図	349	第323図	土坑出土遺物実測図	429
第262図	148号住居跡・出土遺物実測図	349	第324図	中・近世水田・畠位置図	430
第263図	遺物集中地点・出土遺物実測図	351	第325図	G区中・近世畠実測図	431
第264図	G区掘立柱建物跡・柵列・井戸位置図	353	第326図	G区中世水田実測図	432
第265図	1号掘立柱建物跡実測図	354	第327図	M区中世1号畠実測図	434
第266図	2号掘立柱建物跡実測図	354	第328図	M区中世2号畠実測図	435
第267図	1号柵列跡実測図	355	第329図	As-B下水田・畠位置図	436
第268図	2号柵列跡実測図	355	第330図	G区・H区As-B下水田実測図(1)	438
第269図	3号掘立柱建物跡実測図	356	第331図	G区・H区As-B下水田断面図(2)	439
第270図	3号柵列跡実測図	357	第332図	G区・H区As-B下水田断面図(3)	440
第271図	4号柵列跡実測図	359	第333図	G区・H区As-B下水田実測図(4)	441
第272図	5号柵列跡実測図	359	第334図	G区・H区As-B下水田断面図(5)	442
第273図	ピット群位置図	360	第335図	I区As-B下畠実測図	443
第274図	G区ピット群実測図	363	第336図	Hr-S上・下水田・畠位置図	444
第275図	G区ピット群断面図	364	第337図	G区Hr-S上畠実測図	445
第276図	K区1号ピット群実測図	365	第338図	G区Hr-S上畠断面図	446
第277図	K区2号ピット群実測図	366	第339図	J区Hr-S上畠実測図	447
第278図	L区ピット群実測図	367	第340図	L区Hr-S上畠実測図	448
第279図	M区1号ピット群実測図	368	第341図	H区Hr-S下水田実測図	449
第280図	M区2号ピット群実測図	369	第342図	H区Hr-S下水田断面図	450
第281図	竪穴状遺構位置図	370	第343図	F区試掘位置図・東壁断面図	453
第282図	1号竪穴状遺構・出土遺物実測図	370	第344図	瓦出土位置図	454
第283図	2号竪穴状遺構実測図	371	第345図	瓦実測図(1)	456
第284図	3号竪穴状遺構実測図	372	第346図	瓦実測図(2)	457
第285図	4号竪穴状遺構実測図(1)	372	第347図	瓦実測図(3)	458
第286図	4号竪穴状遺構実測図(2)	373	第348図	瓦実測図(4)	459
第287図	4号竪穴状遺構出土遺物実測図	373	第349図	紡錘車・土埴実測図	460
第288図	5号竪穴状遺構実測図	374	第350図	鉄器実測図(1)	462
第289図	6号竪穴状遺構実測図	375	第351図	鉄器実測図(2)	463
第290図	7号竪穴状遺構実測図	375	第352図	鉄器実測図(3)	464
第291図	8号竪穴状遺構実測図	376	第353図	鉄器実測図(4)	465
第292図	1号・2号・3号・4号・5号溝 実測図	377	第354図	石製品実測図(1)	469
第293図	6号溝・出土遺物実測図	378	第355図	石製品実測図(2)	470
第294図	7号溝実測図	379	第356図	石製品実測図(3)	471
第295図	8号溝実測図	380	第357図	石製品実測図(4)	472
第296図	9号・10号溝実測図	381	第358図	石製品実測図(5)	473
第297図	11号・12号溝実測図	383	第359図	石製品実測図(6)	474
第298図	13号・14号溝・出土遺物実測図	385	第360図	遺構外出土遺物実測図	475
第299図	15号溝実測図	386			
第300図	16号溝・出土遺物実測図	387			

表 目 次

		J区グリッド出土土器観察表(4)……………170	
第1表	長久保大畑・新田入口遺跡遺構調査日誌(抄)……………2	第16表	K区グリッド出土土器観察表(1)……………170
第2表	遺跡周辺小字名一覧表(小字名は郡村誌による)……………5		K区グリッド出土土器観察表(2)……………171
第3表	周辺の遺跡(1)……………9	第17表	K区グリッド出土土器観察表(3)……………172
	周辺の遺跡(2)……………10	第18表	L区グリッド出土土器観察表……………173
第4表	集石遺構出土土器観察表(1)……………47	第19表	M区グリッド出土土器観察表……………173
	集石遺構出土土器観察表(2)……………48		特殊土製品観察表(1)……………173
	集石遺構出土土器観察表(3)……………49		特殊土製品観察表(2)……………174
	集石遺構出土土器観察表(4)……………50	第20表	石器器種別百分率表……………176
	集石遺構出土土器観察表(5)……………51	第21表	集石出土土器計測表……………267・268
第5表	配石遺構出土土器観察表(1)……………83	第22表	配石出土土器計測表……………268・269・270
	配石遺構出土土器観察表(2)……………84	第23表	J2号土坑出土土器計測表……………270
	配石遺構出土土器観察表(3)……………85	第24表	G区グリッド出土土器計測表……………270・271・272・273・274
	配石遺構出土土器観察表(4)……………86	第25表	H区グリッド出土土器計測表……………274
	配石遺構出土土器観察表(5)……………87	第26表	I区グリッド出土土器計測表……………274
	配石遺構出土土器観察表(6)……………88	第27表	J区グリッド出土土器計測表……………274・275
	配石遺構出土土器観察表(7)……………89	第28表	K区グリッド出土土器計測表……………275
	配石遺構出土土器観察表(8)……………90	第29表	L区グリッド出土土器計測表……………275
	配石遺構出土土器観察表(9)……………91	第30表	M区グリッド出土土器計測表……………275
	配石遺構出土土器観察表(10)……………92	第31表	Y1号土坑出土遺物観察表……………278
	配石遺構出土土器観察表(11)……………93	第32表	24号溝出土遺物観察表……………278
	配石遺構出土土器観察表(12)……………94	第33表	弥生時代グリッド出土遺物観察表……………278
	配石遺構出土土器観察表(13)……………95	第34表	14号住居跡柱穴一覧表……………280
第6表	集石遺構一覧表……………96	第35表	14号住居跡出土遺物観察表(1)……………281
第7表	配石遺構一覧表……………96		14号住居跡出土遺物観察表(2)……………282
第8表	列石遺構一覧表……………96	第36表	12号住居跡柱穴一覧表……………283
第9表	列石遺構出土土器観察表……………96	第37表	12号住居跡出土遺物観察表(1)……………284
第10表	縄文時代土坑一覧表……………98		12号住居跡出土遺物観察表(2)……………285
第11表	J3号土坑出土土器観察表……………98	第38表	1号住居跡出土遺物観察表……………286
第12表	G区グリッド出土土器観察表(1)……………141	第39表	2号住居跡柱穴一覧表……………288
	G区グリッド出土土器観察表(2)……………142	第40表	2号住居跡出土遺物観察表……………288
	G区グリッド出土土器観察表(3)……………143	第41表	3号住居跡柱穴一覧表……………289
	G区グリッド出土土器観察表(4)……………144	第42表	3号住居跡出土遺物観察表……………290
	G区グリッド出土土器観察表(5)……………145	第43表	4号住居跡出土遺物観察表……………291
	G区グリッド出土土器観察表(6)……………146	第44表	5号住居跡床下土坑一覧表……………294
	G区グリッド出土土器観察表(7)……………147	第45表	5号住居跡出土遺物観察表……………294
	G区グリッド出土土器観察表(8)……………148	第46表	6号住居跡出土遺物観察表(1)……………298
	G区グリッド出土土器観察表(9)……………149		6号住居跡出土遺物観察表(2)……………299
	G区グリッド出土土器観察表(10)……………150	第47表	8号住居跡出土遺物観察表……………300
	G区グリッド出土土器観察表(11)……………151	第48表	9号住居跡出土遺物観察表……………302
	G区グリッド出土土器観察表(12)……………152	第49表	13号住居跡出土遺物観察表……………303
	G区グリッド出土土器観察表(13)……………153	第50表	15号住居跡出土遺物観察表……………304
	G区グリッド出土土器観察表(14)……………154	第51表	16号住居跡出土遺物観察表……………308
	G区グリッド出土土器観察表(15)……………155	第52表	17号住居跡出土遺物観察表……………312
	G区グリッド出土土器観察表(16)……………156	第53表	18号住居跡出土遺物観察表……………314
	G区グリッド出土土器観察表(17)……………157	第54表	19号住居跡床下土坑一覧表……………315
	G区グリッド出土土器観察表(18)……………158	第55表	19号住居跡出土遺物観察表……………319
	G区グリッド出土土器観察表(19)……………159	第56表	20号住居跡出土遺物観察表……………321
	G区グリッド出土土器観察表(20)……………160	第57表	21号住居跡出土遺物観察表……………323
	G区グリッド出土土器観察表(21)……………161	第58表	133号住居跡出土遺物観察表(1)……………324
	G区グリッド出土土器観察表(22)……………162		133号住居跡出土遺物観察表(2)……………325
	G区グリッド出土土器観察表(23)……………163	第59表	134号住居跡出土遺物観察表(1)……………325
	G区グリッド出土土器観察表(24)……………164		134号住居跡出土遺物観察表(2)……………329
	G区グリッド出土土器観察表(25)……………165	第60表	135号住居跡出土遺物観察表(1)……………330
	G区グリッド出土土器観察表(26)……………166		135号住居跡出土遺物観察表(2)……………331
第13表	H区グリッド出土土器観察表(1)……………166	第61表	136号住居跡出土遺物観察表……………333
	H区グリッド出土土器観察表(2)……………167	第62表	137号住居跡出土遺物観察表……………334
第14表	I区グリッド出土土器観察表……………167	第63表	138号住居跡出土遺物観察表……………334
第15表	J区グリッド出土土器観察表(1)……………167	第64表	139号住居跡ピット一覧表……………337
	J区グリッド出土土器観察表(2)……………168	第65表	139号住居跡出土遺物観察表……………337
	J区グリッド出土土器観察表(3)……………169	第66表	140号住居跡出土遺物観察表……………339
		第67表	141号住居跡出土遺物観察表(1)……………340
			141号住居跡出土遺物観察表(2)……………341

第68表	142号住居跡出土遺物觀察表	343	第128表	K区土坑一覽表	425
第69表	143号住居跡出土遺物觀察表	344	第129表	L区土坑一覽表	428
第70表	144号住居跡出土遺物觀察表	345	第130表	M区土坑一覽表	428
第71表	145号住居跡出土遺物觀察表	347	第131表	土坑出土遺物觀察表(1)	428
第72表	146号住居跡出土遺物觀察表	347		土坑出土遺物觀察表(2)	429
第73表	147号住居跡出土遺物觀察表	348	第132表	G区中・近世畠計測表	431
第74表	148号住居跡出土遺物觀察表	349	第133表	G区中世水田計測表	432
第75表	住居跡一覽表	350	第134表	M区中世1号畠計測表	433
第76表	遺物集中地点出土遺物觀察表	352	第135表	M区中世2号畠計測表	433
第77表	1号掘立柱建物跡柱穴一覽表	354	第136表	G・H区As-B下水田計測表	440
第78表	1号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	354	第137表	I区As-B下畠計測表	442
第79表	2号掘立柱建物跡柱穴一覽表	354	第138表	G区Hr-S上畠計測表	446
第80表	2号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	354	第139表	J区Hr-S上畠計測表	447
第81表	1号柵列跡柱穴一覽表	355	第140表	L区Hr-S上畠計測表	452
第82表	1号柵列跡柱穴間一覽表	355	第141表	H区Hr-S下水田計測表	452
第83表	2号柵列跡柱穴一覽表	356	第142表	瓦觀察表	455
第84表	2号柵列跡柱穴間一覽表	356	第143表	紡錘車觀察表	460
第85表	3号掘立柱建物跡柱穴一覽表	356	第144表	土埴觀察表	460
第86表	3号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	356	第145表	鉄器觀察表(1)	461
第87表	3号柵列跡柱穴一覽表	358		鉄器觀察表(2)	466
第88表	3号柵列跡A柱穴間一覽表	358		鉄器觀察表(3)	467
第89表	3号柵列跡B柱穴間一覽表	358	第146表	石製品觀察表	468
第90表	4号柵列跡柱穴一覽表	358	第147表	遺構外出土遺物觀察表	476
第91表	4号柵列跡柱穴間一覽表	358			
第92表	5号柵列跡柱穴一覽表	358			
第93表	5号柵列跡柱穴間一覽表	358			
第94表	柵列跡一覽表	359			
第95表	掘立柱建物跡一覽表	359			
第96表	G区ピット群一覽表(1)	361			
	G区ピット群一覽表(2)	364			
第97表	K区1号ピット群一覽表	365			
第98表	K区2号ピット群一覽表	366			
第99表	L区ピット群一覽表	366			
第100表	M区1号ピット群一覽表	368			
第101表	M区2号ピット群一覽表	368			
第102表	1号竪穴状遺構土坑一覽表	370			
第103表	1号竪穴状遺構出土遺物觀察表	371			
第104表	2号竪穴状遺構ピット一覽表	371			
第105表	4号竪穴状遺構出土遺物觀察表(1)	373			
	4号竪穴状遺構出土遺物觀察表(2)	374			
第106表	5号竪穴状遺構ピット一覽表	374			
第107表	8号竪穴状遺構ピット一覽表	376			
第108表	竪穴状遺構一覽表	376			
第109表	6号溝出土遺物觀察表	379			
第110表	8号溝出土遺物觀察表	379			
第111表	12号溝出土遺物觀察表	382			
第112表	13号溝出土遺物觀察表	382			
第113表	14号溝出土遺物觀察表	382			
第114表	16号溝出土遺物觀察表	387			
第115表	18号溝出土遺物觀察表	389			
第116表	19号溝出土遺物觀察表	389			
第117表	21号溝出土遺物觀察表	392			
第118表	23号溝出土遺物觀察表	392			
第119表	26号溝出土遺物觀察表	392			
第120表	溝一覽表	396			
第121表	1号道一覽表	396			
第122表	2号井戸出土遺物觀察表	400			
第123表	3号火葬跡出土遺物觀察表	402			
第124表	G区土坑一覽表	411			
第125表	H区土坑一覽表	415			
第126表	I区土坑一覽表	416			
第127表	J区土坑一覽表(1)	421			
	J区土坑一覽表(2)	422			

長久保大畑遺跡
新田入口遺跡

第1章 発掘調査の経過と調査の方法

1. 発掘調査に至る経過

前橋市から吉岡町を通過する主要地方道前橋伊香保線は、都市近郊の宅地化や通勤圏拡大、流通経済の発展等により通過車両が増加し、慢性的な渋滞に悩まされてきた。こうした中、渋滞緩和及び都市計画道路整備として、昭和55年に現道と関越自動車道(新潟線)の間に前橋市総社町高井の県道南新井前橋線と市道(通称産業道路)が交わる点から北上し吉岡町大久保字駒寄で現道に取り付く総延長30kmのバイパス工事計画が決定された。このバイパス工事は、これとは別に計画されていた前橋市荒牧町から吉岡町大久保下町に至る道路建設に伴う利根川を渡河する上毛大橋建設工事との関係が示唆され、早急な事業実施の必要性に迫られた。

この工事に先立ち路線内の埋蔵文化財について、県道路建設課より県教育委員会文化財保護課に問い合わせがあり、予備調査として路線内の遺跡分布調査が実施され遺跡が確認された。

本路線内には吉岡町内遺跡詳細分布調査(1993)によると北から辺玉遺跡・熊野遺跡・十二遺跡・金竹西遺跡・沼南遺跡・長久保大畑遺跡・新田入口遺跡が上げられていた。

平成元年度から平成2年度にかけて吉岡町教育委員会により金竹西遺跡調査が行われた。

その後平成6年に金竹西遺跡の南側の調査について、県道路建設課と県教育委員会文化財保護課の間で協議され、平成6年度試掘調査を実施し遺跡の確認がなされた。調査については群馬県知事(県道路建設課)の委託を受けて(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施することとなった。調査は、平成7年度より午王頭川南部分から開始した。平成8年度に午王頭川北のE区、平成9年度には再び午王頭川南のH区・I区・J区、平成10年度にL区・M区と工事進捗に合わせるように進められた。

2. 調査の経過と調査方法

調査の経過

本遺跡の発掘調査は、平成7年度に午王頭川右岸のF区からG区・H区北側・I区中央部・J区北側・K区を実施し、平成8年度に午王頭川左岸のE区を実施した。平成9年度ではH区からJ区までの7年度未調査部を実施し、平成10年度にL区・M区の調査を実施し、本事業の発掘調査を終了した。

整理事業は平成9年度から平成11年度の3年間で平成8年度分の午王頭川北側を行い、平成11年度に午王頭川南側の平成7年度・9年度・10年度分の整理事業となった。

調査日誌抄

遺構の調査については、次ページを参考にすることとし、ここでは、基本整理・特記事項等について記す。

平成7年度は調査開始にともない、調査前に遺跡名の決定や吉岡町との連絡調整に迫られた。また検出された遺構は縄文時代配石遺構という礫を大量に用いた特異なもので、礫の除去については崩落礫・構築礫と同様の礫であり困難を要するところであった。調査は強風・降雪の日もあったが、好天に恵まれたことと発掘作業員の好出勤により順調に行うことが出来た。発掘調査は3月15日までに終了し、その後年度内の僅かな日数で出来る限りの基本整理を実施した。

平成9年度は、年度途中からの開始となり、事務所設営から調査区確定などを行うこととなった。遺構は住居跡、水田・畠跡等で発掘作業員の増員により対応してきた。しかし、平成10年1月初旬の大雪は調査の進捗に大いに支障をきたした。しかし、発掘調査は3月13日までに終了することができ、その後基本整理を行った。

平成10年度は、年度当初に過年度の基本整理および準備を進め、7月より発掘調査を実施した。調査

第1表 長久保大畑・新田入口遺跡遺構調査日誌(抄)

年	年月日		F区	G区	H区	I区	J区	K区	L区	M区
平成7年	1995/07/17									
	1995/07/24	G区開始		↓掘土						
	1995/07/31	作業開始		↓削溝坑						
	1995/08/07	G区杭打		↓↓						
	1995/08/14			住						
	1995/08/21			↓						
	1995/08/28			掘削	縄					
	1995/09/04	空撮		削↓	文					
	1995/09/11			↓↓	↓					
	1995/09/18	空撮		↓	中↓					
	1995/09/25			↓	墓井世↓					
	1995/10/02			↓	溝坑戸水↓					
	1995/10/09			↓↓↓	田↓					
	1995/10/16			↓↓↓	↑↓					
	1995/10/23	空撮		↓	↓		掘削	掘削		
	1995/10/30			掘削	↑↓		B	土		
	1995/11/06	J・I開始		削↓	↓		土	住溝坑		
	1995/11/13	空撮		↓	FAB↓		坑↓	↓↓↓		
	1995/11/20				溝墓混下↓		住溝↓			
	1995/11/27				↓↓	畠水↓	↓↓			
	1995/12/04			住	田			↓		
	1995/12/11			↓	↓					
	1995/12/18	I区終了		↓						
	1995/12/25	J区終了			縄					
	1996/01/08	K区開始		住	文			掘削		
	1996/01/15			↓	↓			↓	土	
1996/01/22				↓			↓	住溝坑		
1996/01/29				↓			↓	↓		
1996/02/05				↓			↓	↓		
1996/02/12				↓			↓	↓		
1996/02/19				↓			↓	↓		
1996/02/26				↓			↓	↓		
1996/03/04			谷	↓			↓	↓		
1996/03/11	K区終了		↓		掘削			↓		
1996/03/18	G区終了		↓		掘削					
平成9年	1997/12/01	H区開始			↓	溝 B	掘削			
	1997/12/08				↓	水	↓			
	1997/12/15	I区開始			田	田	↓			
	1997/12/22				土↑	↓	掘削			
	1997/12/29	J区開始			住坑↓	↓	↓	溝土		
	1998/01/05				↓	↓	↓	坑畠		
	1998/01/12				↓	↓	↓	↓		
	1998/01/19				FA田畠	↓	↓	住		
	1998/01/26				↓	↓	↓	↓		
	1998/02/02				↓	↓	↓	↓		
1998/02/09				溝	↓	↓	↓	掘削	掘削	掘削
1998/02/16	HIJ終了			↓	↓	↓	↓	掘削	掘削	掘削
平成10年	1998/06/29							↓	↓	↓
	1998/07/06	M区開始						↓	↓	↓
	1998/07/13									↓
	1998/07/20									溝 畠
	1998/07/27									住↓土↓
	1998/08/03	M区終了								↓
	1998/08/10									↓
	1998/08/17									↓
1998/08/24	KL区終了								↓	

年月日は1週間を単位に表す。↓は1週間の内の作業を表す

区は中央に道路があり、その両脇を調査するという、狭い範囲を長く行うものであった。検出した遺構は中世の溝・道、住居跡などであった。調査終了間近には縄文時代の土坑から完形品の土器が出土するなど最後まで気の抜けない調査であった。調査は連日30°を越す猛暑の中進められた。また、7月下旬は豪雨に見回れ、一時調査区が水没することもあった。8月30日(日)に雨の中午後現場説明会を開催し、地元の方々25名程の参加があった。発掘調査はこの日をもって終了し、その後基本整理を実施し、整理事業に向けての準備を進めた。

整理事業は、平成11年4月より2班体制で行った。作業分担は縄文時代遺構図と弥生時代以降の遺構図と遺物実測を中心するA班と、縄文時代土器・石器実測を中心とするB班に大別された。4月から6月にかけてA班は弥生時代以降の遺構図と遺物復元作業を、B班は石器実測を行った。7月から8月は2班合同で縄文土器の分類・復元を行った。9月から11月はA班は弥生時代以降の遺物実測と縄文時代以降の遺構図の作成、B班は縄文土器実測を行い、12月以降詳細の修正・補足、遺構図版・遺物図版・写真図版等の版組作業を行い印刷準備を進めた。

調査方法

調査においては、調査方法や排土方法、さらに安全対策等に万全の配慮を進めた。以下は調査に伴った主な留意点である。

(グリッド設定)

遺構・遺物の記録方法として、グリッド設定による調査方法を基本とした。基準点測量は現場付近に国家座標基準点となる三角点等が使用不能のため、GPS測量により基-1、基-2を観測し、2級基準点の設置を行った。調査区路線上の視通状況が良好でないため、基-1、基-2の基線付近にT.1～T.6までのトラバー点を設置観測し、結合トラバース計算を行った。調査区内にトラバー点を設置し、逆計算により方眼杭を設置した。方眼杭グリッド名は、吉岡町教育委員会により平成元年～平成2年に

行われた同事業路線内の金竹西遺跡の調査方法に基づき設定した。金竹西遺跡2 A-10ポイント(国家座標X=47,600、Y=-72,400)をAa-0ポイントとした。Aa-0を基準に北から南に向かって100mごとにA・B・C…、さらにその中を5mごとにa・b・c…とアルファベットを付し、西から東に向かって5mごとに1・2・3…と数字を付した。グリッドの呼称は北西隅のグリッド名をもって表した。水準測量、BM設置は調査区内にKBM(仮ベンチマーク)を設定し、1等水準点3523より往復観測を行い、精度が良好なのでKBMより調査区内に10cm単位のベンチマークを設定した。

(調査手順)

調査に際しては、表土部分については重機による一括排土方針を行い、以下については精査を行い遺構確認、遺構調査を進めた。

(実測方法)

記録図面類は、住居跡1/20・カマド1/10を基準とし、土坑・溝等は1/20、水田・畠は1/40を基準にした。また、配石遺構については1/10を基準に記録化した。

平面図は、平板測量を主な手段としたが、カマド・配石遺構は簡易やり方実測を施した。断面図も1/10・1/20で対応し、水系レベルを標高で表すようにした。

図面の作成においては、一部の平面図を業者委託した。

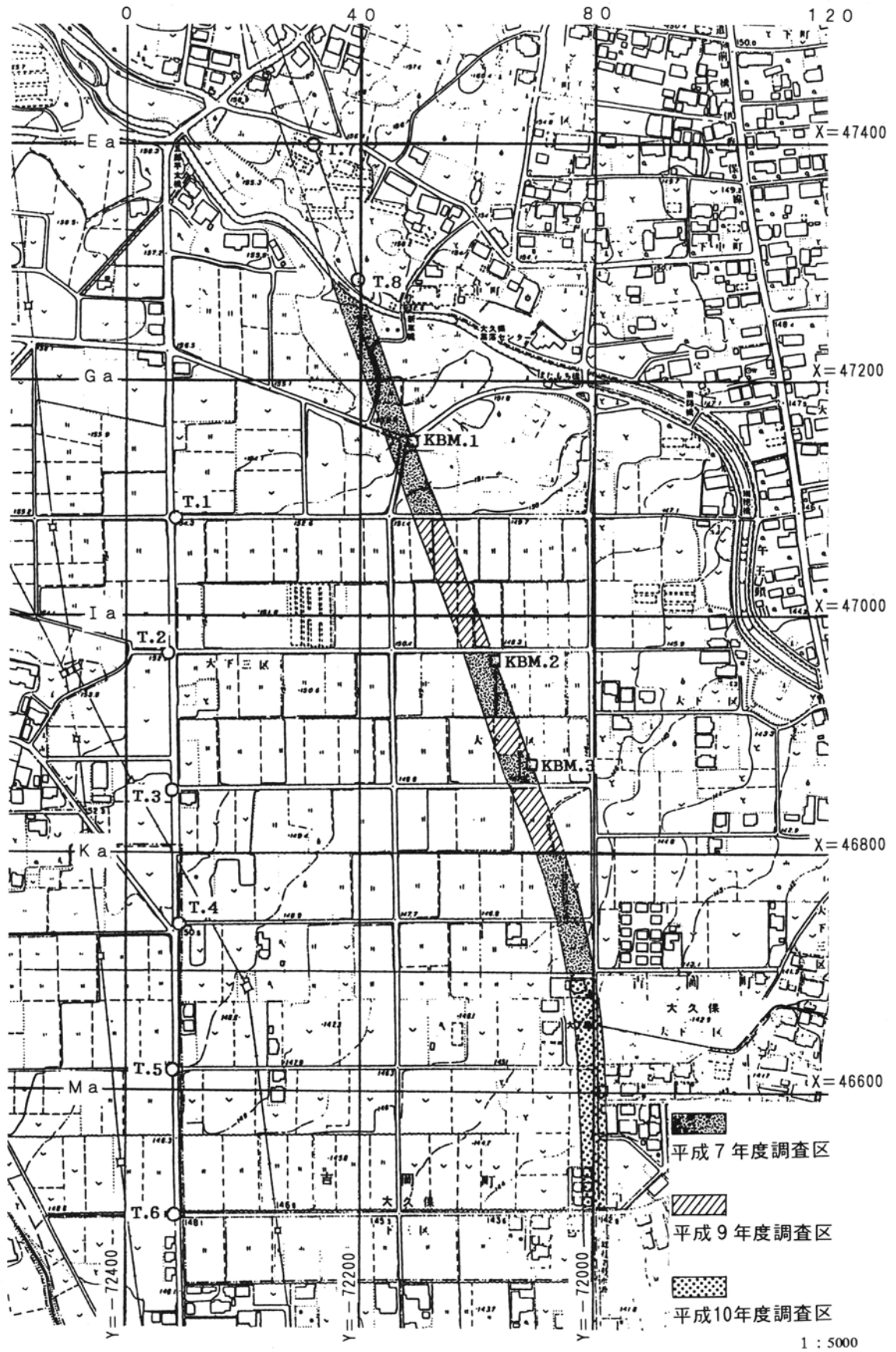
(遺物の取り上げ)

出土遺物は、全点の出土地点(レベル含む)の記録化を基準としたが、微細片は出土遺構・出土層位・出土グリッドを明記し取り上げた。

取り上げ方は、遺構を重視し遺構内で収束するように番号を付した。遺構外出土遺物はグリッドごとで番号を付した。

(写真撮影)

写真は、各遺構に対し担当職員により撮影した。配石遺構等は礫の出土状態から遺構検出状況、特徴的な遺物出土状況等の接写を行った。住居跡も遺物



第1図 調査区及びグリッド配置図

出土状態、遺物取り上げ後の床面上の状態、床下の状態等各々撮影し、さらにカマドも燃焼面と燃焼面下状態、特徴的な遺物の出土状態や土層に際しても、接写を行った。配石遺構や住居等の撮影にはローリングタワー及びフォトエレベーターシステムを用いて行った。また、広域については、業者による気球撮影等も随時実施した。

使用した主な機種は、カメラはプロローニー版(120)一眼レフ6×7(ペンタックス)、ライカ版(135)一眼レフ35mm(キャノンEOS)。フィルムはモノクロームネオパンSS及びリバーサルコダクローム64である。なお、通常の写真はプロローニー版はモノクローム写真のみを扱った。

(基本整理)

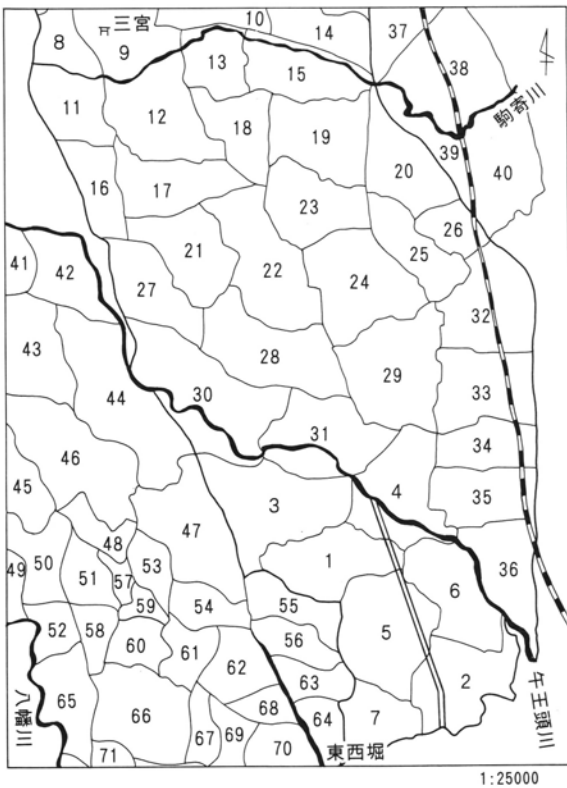
調査途中より、出土遺物の水洗い、図面整理を行い、整理事業段階の省力化を図った。

(安全対策等)

調査区外周に松杭を打ち安全ロープを複数段に設定するとともに、道路に面する部分については安全柵や4mの短管パイプを用いたスタンドバリケード等を設置し周辺への安全対策を施した。また、本調査地域は群馬県特有の赤城風等風の強い地域にあり防塵対策には一段の配慮を要した。近隣住宅に対しては調査区外周に防塵ネットを設置した。個別遺構調査中の防塵対策としては簡易移動式防塵ネットを設け、発掘作業員の健康にも配慮し調査を進めた。

整理方法

実測図・写真・記述の3つの方法を用いて行う。視覚的方法を主に記述で補足し、わかりやすく、明解で、簡潔で、正確なものを目指し作業を進めた。



第2図 遺跡周辺の小字名

第2表 遺跡周辺小字名一覧表

No	小字	No	小字	No	小字	No	小字
1	おおばたけ 大畑	19	もとじゆく 本宿	37	ちゃのき 茶木	54	しんめいにし 明神西
2	しんでのいゆ 新田入口	20	みつや 三津屋	38	うえのはら 上ノ原	55	みちのかみ 道上
3	ながくぼ 長久保	21	はらなか 原中	39	まとうば 的場	56	みちのした 道下
4	ぬま 沼	22	くまの 熊野	40	せらい 瀬来	57	鍛冶屋
5	まえはら 前原	23	ふどうくぼ 不動久保	41	きたこうち 北耕地	58	けだいぶん 毛鯛分
6	ぜんとく 善徳	24	じゅうに 十二	42	きたこうち 北耕地	59	稔廻道
7	みりゅうとう 見柳東	25	たばた 田端	43	やしき 屋敷	60	だいかんめん 代官免
8	みやした 宮西	26	くぼた 久保田	44	ひかしこうち 東耕地	61	しんめいまえ 明神前
9	みや 宮	27	なにかいち 七日市	45	みなみこうち 南耕地	62	おかけ 尾影
10	みやひがし 宮東	28	かたがい 片貝	46	みなみこうち 南耕地	63	いしば 石場
11	みやまえ 宮前	29	きんちくさい 金竹西	47	みなみこうち 南耕地	64	きたうち 北内
12	どうじょう 道城	30	よしかいど 吉開戸	48	あわまき 粟蒔	65	ひよとり 鶴鳥
13	なかじま 中島	31	おおまつ 大松	49	もとやしき 元屋敷	66	てんしん 天神
14	こまよせ 駒寄	32	かみちよう 上町	50	谷	67	ぶぜんご 豊前後
15	みやた 宮田	33	なかつちよう 中町	51	石塚	68	ぶぜん 豊前
16	しんぼぶん 新保分	34	しもちよう 下町	52	清水端	69	上東西
17	おんなづか 女塚	35	しもなかつちよう 下中町	53	ふたこつか 双塚	70	によいりん 如意輪
18	へだま 辺玉	36	おおしも 大下				

第2章 周辺の環境

1. 遺跡の立地

長久保大畑遺跡・新田入口遺跡は、群馬県北群馬郡吉岡町大字大久保に所在する。吉岡町は、群馬県のほぼ中央にあり、榛名山東南麓に位置する。本遺跡は吉岡町の南端に位置し、関越自動車道新潟線駒寄PA南東約1km、JR群馬総社駅北西約1kmに位置し、東1kmに利根川が南流している。また、本事業計画の主要地方道前橋伊香保線は本遺跡東0.3km程を南北に通る。この道は古代において「佐渡奉行街道」と呼ばれ関東と新潟を結ぶ要路であり、本遺跡東には当時の大久保宿の名残が顕著である。

吉岡町の地形は、北西の榛名山山体部と、町の中心である緩斜面の台地部、利根川沿いの低地部に三分される。その比高差は榛名山山体から利根川沿いまでで約700m程ある。また、台地部と低地部の境には利根川の河岸段丘が発達しており、比高差約10mを測る。台地上には榛名山を水源とする利根川支流の滝沢川・吉岡川・駒寄川・午王頭川の四河川が東流及び東南流し、台地を開析・細分する。これらの河川は、榛名山に降った雨がいったん伏流水となり、標高300m程で各所に湧き出し河川を形成したものである。

吉岡町の地層は、吉岡川を境に南と北で大きく異なり、本遺跡のある南側では榛名山崩落の岩屑雪崩の青灰色の砂礫層（陣場岩屑流）が厚く堆積し、その上に浅間山・榛名山の火山噴出物が覆い、さらに低地部では河川の氾濫層が覆う。また、台地部には隣接する榛東村・群馬町にかけて特徴的に分布する陣場岩屑流丘が随所に認められる。吉岡川北側では、6世紀代の榛名山二ツ岳形成に係わる火山噴出物及び噴火後に起こった土石流による堆積物が厚く堆積する。本遺跡調査区内においても北側で2ヶ所の陣場岩屑流山を確認した。

2. 周辺の遺跡

本遺跡は、縄文時代から中・近世に至る複合遺跡である。本遺跡は「吉岡町の遺跡―町内遺跡詳細分布調査報告書―」に154長久保・大畑遺跡（包蔵地、縄文・古墳・平安）、164新田入口遺跡（包蔵地、縄文・奈良・平安）と記される周知の遺跡である。周辺には多くの遺跡が確認調査されている。以下に時代を追って記す。

縄文時代草創期・早期の遺物遺構は周辺には確認されていない。前期の遺構は住居跡や土坑等が七日市遺跡、熊野遺跡、清里長久保遺跡、上野国分僧寺・国分尼寺中間地域等で確認されており、遺物は周辺の遺跡で採取される。特に包含層は本遺跡に南接する高井桃ノ木遺跡で浅間六合軽石を含む黒色土が確認され、本遺跡長久保大畑遺跡G区配石遺構下の黒色土層との関連が示唆される。中期になると遺跡数は増加する。中期中葉の住居跡が検出した本遺跡に北接する沼南遺跡がある。中期後半では、配石遺構が本遺跡長久保大畑遺跡から検出した。その他、住居跡等が本遺跡新田入口遺跡、清里長久保遺跡、下東西遺跡、上野国分僧寺・国分尼寺中間地域等で検出した。遺物の散布は広範囲で確認されている。後期は大下遺跡の土坑等が確認されている他減少してくる。晩期の遺物は極少となる。

弥生時代の様相は、標高160mを境に高い地点では遺物の散布が僅かな状態であるが、160mより低い地点になると遺物の散布量も増加し、遺構が確認されている。主な遺構は、中期竜見町式期の集落の検出した清里・庚申塚遺跡や上野国分僧寺・国分尼寺中間地域等があり、後期樽式期は本遺跡新田入口遺跡をはじめ近接する遺跡は桜ヶ丘遺跡、柿木遺跡、膏薬遺跡等がある。

古墳時代の本遺跡周辺は前橋市総社町から吉岡町・渋川市にかけて榛名山東南麓に広がる県内有数の古墳密集地域である。6世紀中頃から7世紀にかけて

構築された南下古墳群や三津屋古墳、清里・長久保古墳群、6世紀後半から8世紀初頭に構築された総社古墳群等がある。また、総社古墳群周辺には白鳳期の建立と考えられる山王廃寺があり、仏教文化と古墳文化の併存が伺える。集落跡は本遺跡長久保大畑遺跡の4世紀代の住居跡を初現に、6世紀から7世紀代の遺跡が多数検出しており、住居跡は大久保A遺跡や辺玉遺跡、熊野遺跡、金竹西遺跡、高井桃ノ木遺跡や下東西遺跡、上野国分僧寺・国分尼寺中間地域等がある。水田跡は本遺跡長久保大畑遺跡や北原遺跡等で確認され、畠跡は本遺跡長久保大畑遺跡、大久保A遺跡、金子十三町遺跡、西国分新田遺跡等で確認された。なお、この畠跡は本遺跡を含めHr-Sに覆われたものと、Hr-Sを鋤混むものとがあり、時代的把握は今後の研究が待たれる。

奈良・平安時代の遺構は大久保A遺跡の西にある奈良・平安時代を縁起と考えられる三宮神社(本地仏十一面観音)周辺に集中が見られる。この神社は伊香保神社の里宮と考えられている。周辺には8世紀から11世紀にかけての集落跡が検出した大久保A遺跡を初め、道城遺跡、辺玉遺跡、熊野遺跡、金竹西遺跡等8世紀代の集落跡が確認されている。また、下東西遺跡では8世紀初頭の官衙が想定される遺構と8世紀から11世紀の集落跡が確認されている。国分寺周辺の国分境遺跡、上野国分僧寺・国分尼寺遺跡等でも8世紀から11世紀にかけての集落跡が検出している。その他、9世紀代を中心とする長久保大畑遺跡、新田入口遺跡、10世紀代を中心とする沼南遺跡等がある。水田跡は本遺跡長久保大畑遺跡や西国分新田遺跡等で確認されている。畠跡は大久保A遺跡の畝状遺構や本遺跡長久保大畑遺跡で確認された。

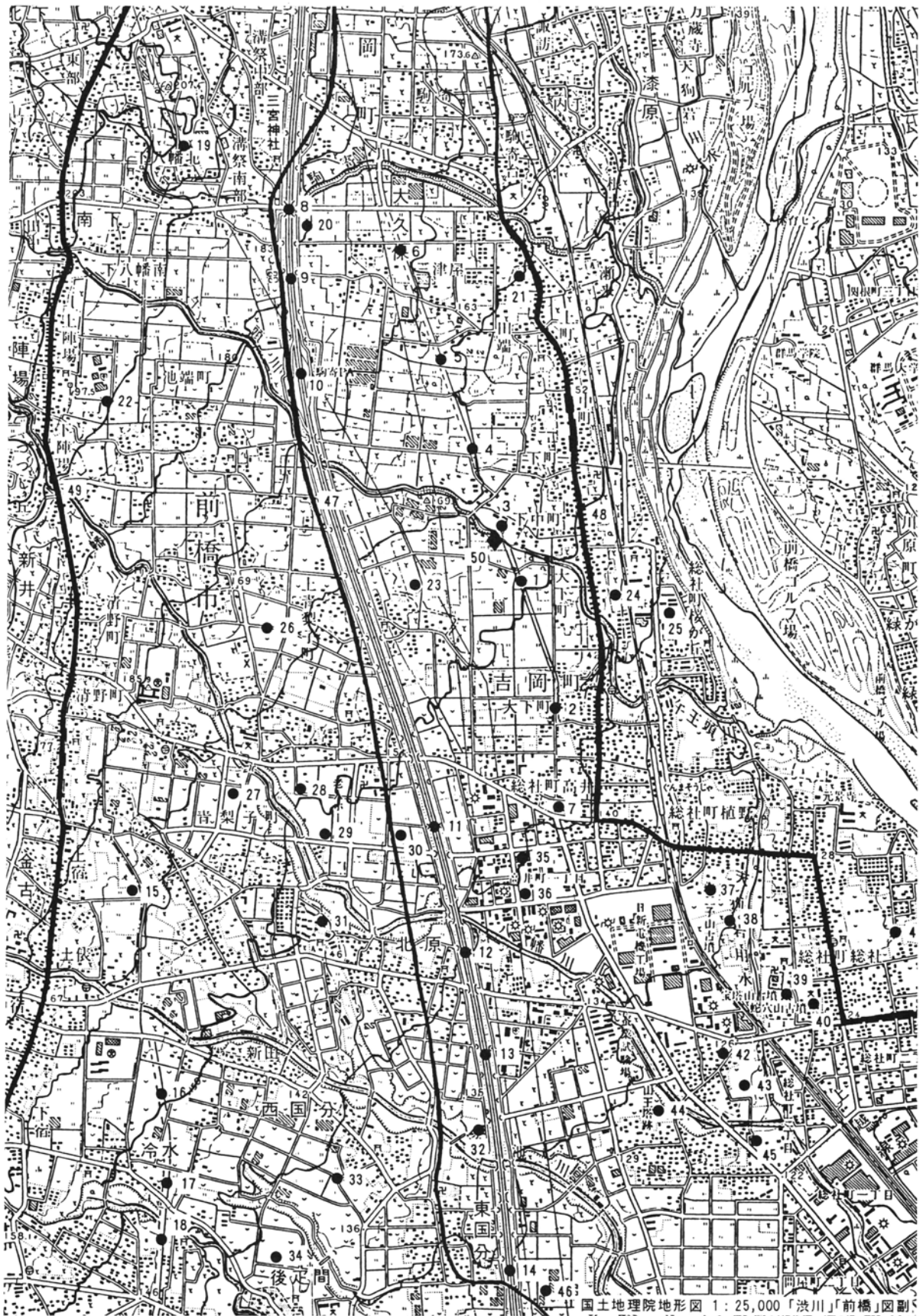
中世の遺構は、大久保A遺跡で11世紀の住居跡を切り込んで造られた道状遺構が検出し、鎌倉街道が想定された。鎌倉街道は、鎌倉から武蔵国を経て上野国に入る幾筋かの街道が考えられ、本地域を經由する街道は越後国に通じる「上道(かみつみち)」の一つとされる。現在の関越自動車道(新潟線)はこの街道に並行するようにある。開通前までは農道と

して利用されており、鎌倉街道の名も残っていた。また、この街道に沿うように女堀があったという。女堀は吉岡川の南岸から始まり、三宮神社の西を通り、前橋市植野・高井地区を通り、総社二子山古墳南から大屋敷に至る用水路であると言われる。女塚付近では周辺の田畑との段差が見られ、地元ではこの堀を「筭堀(こうがいほり)」と呼んでいる。なお、膏薬遺跡では女堀の一部と思われる堀が検出している。また、本遺跡北の午王頭川左岸には鎌倉街道の脇往還とする三宮神社に通じる三宮道が小道として残る。新田入口遺跡から検出した道跡、溝跡は鎌倉街道や女堀との関係が示唆される。また、本地域は群馬郡大窪郷に位置し、本遺跡長久保大畑遺跡の中世屋敷が検出している。水田・畠跡は本遺跡長久保大畑遺跡・新田入口遺跡、大屋敷遺跡、冷水村東遺跡等で確認された。

近世では、本遺跡東側に佐渡奉行街道の宿場町大久保宿がある。佐渡奉行街道は中山道を本庄宿から分かれ、玉村—総社—渋川を通り越後に通じる街道で三国街道の古道である。大久保宿は1601年に秋元長朝が総社城を築き総社の町造りをしてから鎌倉街道に変わる主街道の宿場として、七日市を大久保に移動したことに起因する。三国街道は、高崎—金古—渋川を通る街道で、元禄・正徳のころ整備された金古道であり、高崎城の繁栄により往来は金古道が主となった。しかし、佐渡奉行は後世まで総社を通る古道を通行していたためこの街道名となり、金古道が三国街道の本街道となった。この三国街道の名称は現在でも使われている。また、近世より午王頭川の水を水田に引くための水車が岸沿いにあり、調査区北では「中車」と呼ばれた水車跡が僅かな平坦面として確認されている。

参考文献

- ・吉岡村誌編纂室1980「吉岡村誌」吉岡村教育委員会
- ・吉岡町教育委員会1993「吉岡町の遺跡」吉岡町文化財調査報告書第3集、町内遺跡詳細分布調査報告書
- ・総社町誌編纂委員会1956「総社町誌」群馬県群馬郡総社町
- ・群馬県文化事業振興会昭和56年「上野国郡村誌6 群馬郡(3)」
- ・群馬町教育委員会1986「群馬町の遺跡—分布調査からみた地域のうつりかわり—」
- ・瀧野巧平成9年「吉岡町の遺跡」群馬歴史散歩第143号
- ・その他 第3表「周辺の遺跡」調査報告書



第3図 周辺の遺跡

第3表 周辺の遺跡(1)

No	遺跡名	所在地	遺跡の概要	文献	備考
1	長久保大畑	吉岡町大字大久保	本報告書		前伊
2	新田入口	吉岡町大字大久保	本報告書		前伊
3	沼南	吉岡町大字大久保	縄文時代中期中葉集落、平安時代集落	『沼南遺跡』群埋文1999	前伊
4	金竹西	吉岡町大字大久保	古墳時代後期・奈良・平安時代集落	『金竹西遺跡』吉岡町教委1994	前伊
5	熊野	吉岡町大字大久保	古墳時代～平安時代集落	『熊野・辺玉遺跡』吉岡町教委1995	前伊
6	辺玉	吉岡町大字大久保	古墳～平安集落	同上	前伊
7	高井桃ノ木	前橋市高井町	縄文前期包含層、古墳～平安時代集落	『高井桃ノ木遺跡』大友町西通線遺跡調査会1999	前伊
8	大久保A	吉岡町大字大久保	古墳～平安集落、中世道路状遺構	『大久保A遺跡』吉岡村1986	関越
9	女塚	吉岡町大字大久保	奈良平安集落	『七日市遺跡・滝沢古墳・女塚遺跡』吉岡町教委1986	関越
10	七日市	吉岡町大字大久保	縄文前期集落、奈良・平安時代集落	同上	関越
11	下東西	前橋市青梨子町、群馬町北原	縄文中期埋壘、弥生～平安時代集落跡、中世集落跡	『下東西遺跡』群埋文1987	関越
12	北原	群馬町北原	古墳時代水田、奈良・平安集落	『北原遺跡』群馬町教委1986	関越
13	国分境	群馬町北原	古墳～中世以降集落跡	『国分境遺跡』群埋文1990	関越
14	上野国分僧寺・国分尼寺中間地域	群馬町東国、前橋市元総社町	縄文中期・弥生～中世集落	『上野国分僧寺・国分尼寺中間地域』(1)(8)群埋文1986～1992	関越
15	金古北十三町	群馬町金古	古墳時代畠、奈良～中近世集落	『冷水村東遺跡・西国分新田遺跡・金古北十三町遺跡』群埋文1998	高渋
16	西国分新田	群馬町西国分	古墳時代畠、平安集落・水田	同上	高渋
17	冷水村東	群馬町冷水	古墳時代水田・畠、古墳～平安集落、中世畠・道	同上	高渋
18	諏訪西	群馬町引間	古墳～平安集落、古墳時代畠	『諏訪西遺跡』群馬町教委1995	高渋
19	南下古墳群	吉岡町大字南下	6C中～7C末の古墳4基を検出	『群馬県史研究11』1980	
20	道城	吉岡町大字大久保	奈良・平安時代集落	『道城遺跡』吉岡町教委1998	
21	三津屋古墳	吉岡町大字大久保	7C八角墳	『三津屋古墳』吉岡町教委1996	
22	清里・陣場	吉岡町大字陣場前橋市池端町	縄文土坑、奈良・平安時代集落、中世集落	『清里・陣場遺跡』群埋文1981	
23	清里・長久保	吉岡町大字大久保	縄文中期集落・集石、古墳、平安集落	『清里・長久保遺跡』群埋文1986	
24	大下	吉岡町大下町	縄文後期土坑、平安時代集落	『大下遺跡』吉岡町教委1993	
25	桜ヶ丘	前橋市総社桜ヶ丘	弥生包含層、平安時代集落、中世溝、近世以後の畝状遺構	『総社桜ヶ丘遺跡』山武考古学研究1985 『総社桜ヶ丘遺跡II』前橋市教委1985B	
26	清里・庚申塚	前橋市上青梨子町	弥生中期後半環濠集落	『清里・庚申塚遺跡』群埋文1981	
27	松ノ木	前橋市青梨子町	平安集落	『清里南部遺跡群III』前橋市教委1980	
28	薬師前	前橋市青梨子町	縄文～中世集落	『富田遺跡群・西大室遺跡・清里南部遺跡群』前橋市教委1980	
29	中島	前橋市青梨子町	奈良～中世集落	『中島遺跡発掘調査概報』前橋市教委1980	
30	下東西清水上	前橋市青梨子町	奈良～中世集落	『下東西清水上遺跡』群埋文	
31	熊野谷	前橋市青梨子町	縄文・平安集落	『熊野谷遺跡』前橋市埋文調査団1989	
32	国分境III	群馬町北原	縄文・弥生包含、古墳～平安集落	『国分境III遺跡』群馬町教委1993	
33	西国分	群馬町西国分	縄文・古墳～中世集落、古墳畠	『西国分I・II遺跡』群馬町教委1989～1990	
34	後疋間	群馬町後疋間	縄文・弥生包蔵地、古墳～平安集落製鉄遺構	『後疋間遺跡』I～III群馬県教委1986～1988	
35	柿木	前橋市高井町	縄文弥生土器、奈良平安集落	『柿木遺跡・II』前橋市教委1984・1988	
36	膏薬	前橋市高井町	住居跡、女堀?	『膏薬遺跡』前橋市教委1988	
37	総社二子山古墳	前橋市総社町植野	7C前方後円墳	A・B	
38	愛宕山古墳	前橋市総社町総社	7C初頭円墳	A・B	
39	宝塔山古墳	前橋市総社町総社	7C末方墳	A・B	
40	蛇穴山古墳	前橋市総社町総社	8C初頭方墳	A・B	
41	遠見山古墳	前橋市総社町総社	前方後円墳	A・B	
42	村東	前橋市総社町総社	平安集落	『村東遺跡』前橋市教委1988	
43	大屋敷遺跡	前橋市総社町総社	古墳～中世集落	『大屋敷遺跡I～IV』前橋市埋文調査会1993～1996	
44	山王麁寺	前橋市総社町総社		『山王麁寺跡発掘調査報告書』前橋市教委1975～1999、A・B	
45	昌楽寺廻向	前橋市総社町総社	平安集落	『昌楽寺廻向II遺跡』前橋市教委1988、A・B	

第3表 周辺の遺跡(2)

No	遺跡名	所在地	遺跡の概要	文献	備考
46	上野国分尼寺跡	前橋市元総社町 群馬町国分		『上野国分尼寺跡発掘調査報告』県教委 1970・1971 『上野国分尼寺跡・上野国分二寺中間地 域』県教委・群埋文1993	
47	鎌倉街道(推定)			『鎌倉街道』群馬県教委	
48	佐渡奉行街道			『佐渡奉行街道』群馬県教委1981	
49	三国街道			『三国街道』群馬県教委	
50	水車(中車)	吉岡町大久保		『吉岡村誌』吉岡村教委1980	

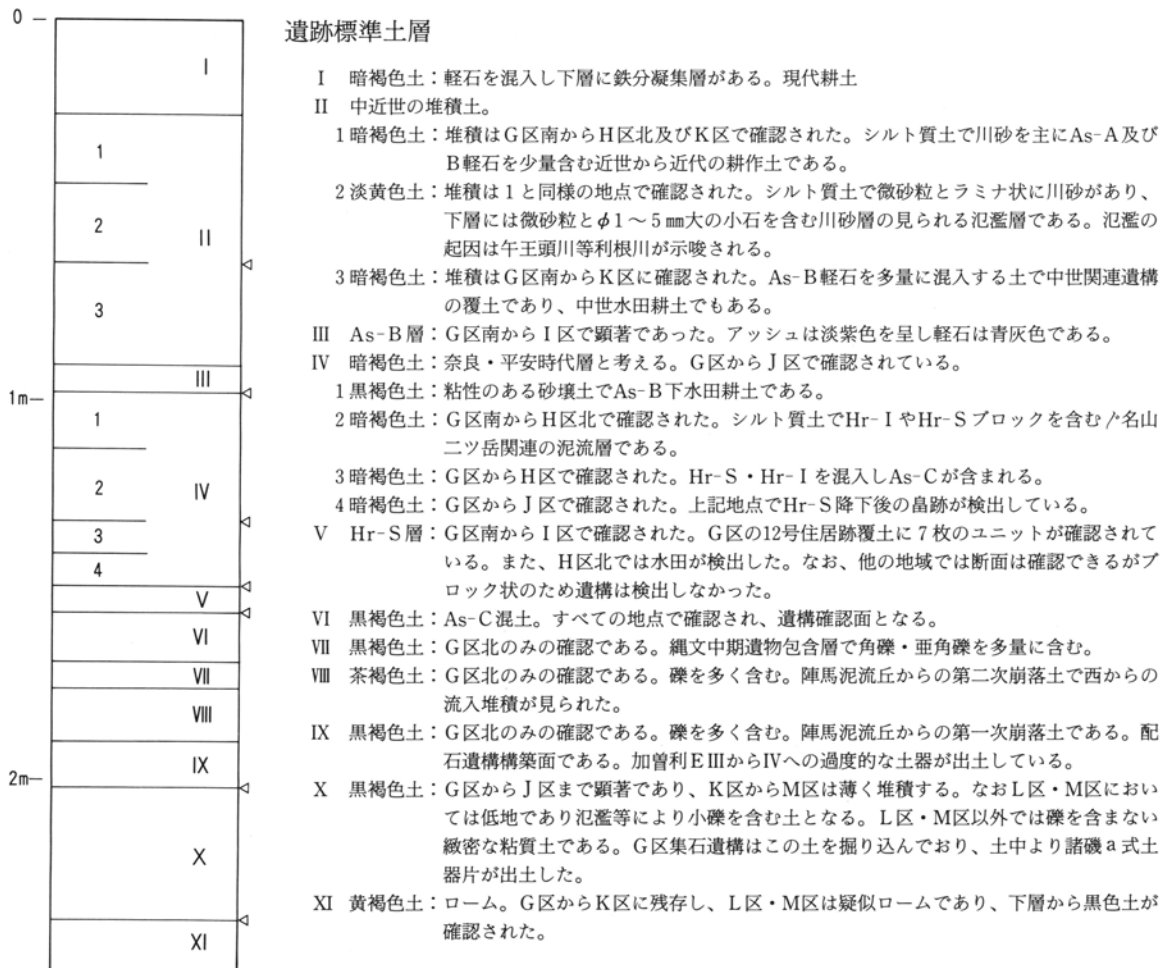
註) 文献：Aは『群馬県史』群馬県1981、Bは『前橋市史』前橋市教委1971

備考：前伊は(主)前橋・伊香保線、関越は関越自動車道(新潟線)、高渋は(主)高崎・渋川線である。

3. 標準土層説明

長久保大畑遺跡から新田入口遺跡は、北から南にかけて比高差10mを測り、地形は北西方向から南西方向に傾斜しておりこの勾配にあわせ堆積している。

下記の標準土層断面は各調査区において層序が捉えられた箇所をつなぎあわせたものである。作図にあたっては各調査区の平均堆積を基にした。次ページの各地点土層断面図では鍵層となる表土・As-B層・Hr-S層・As-C混黒色土層・ローム層について標高にあわせ記載した。本標準土層説明とあわせ参照されたい。なお、F区の断面調査記録は別に記載する。

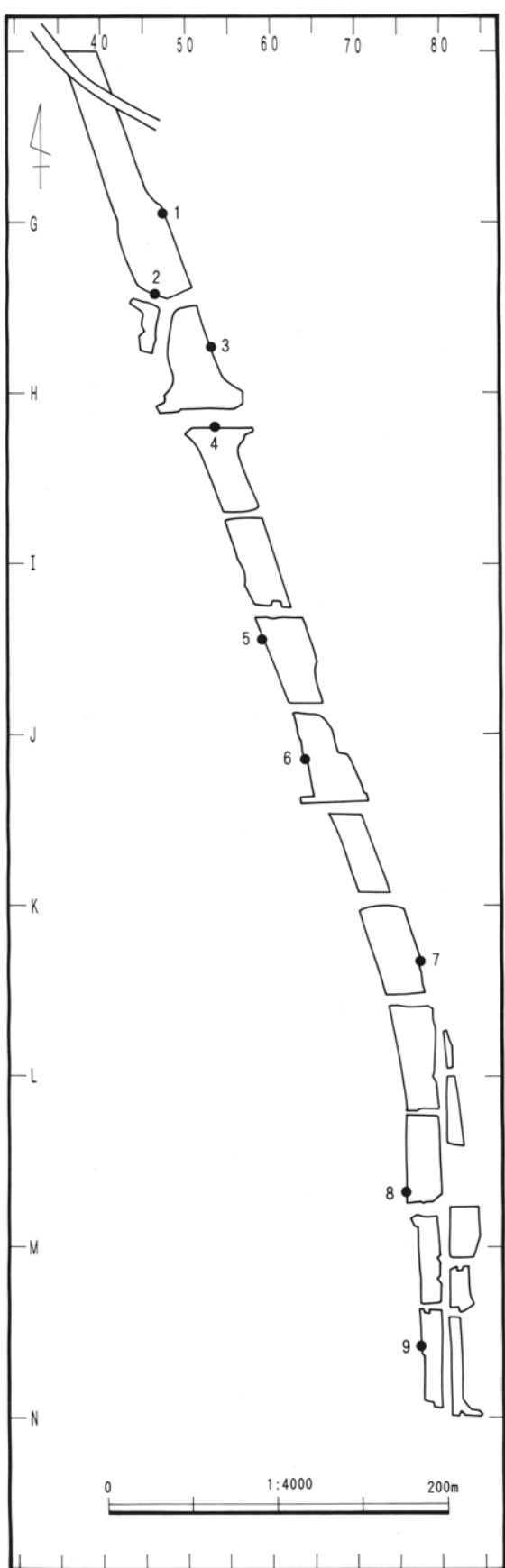


◁は遺構確認面

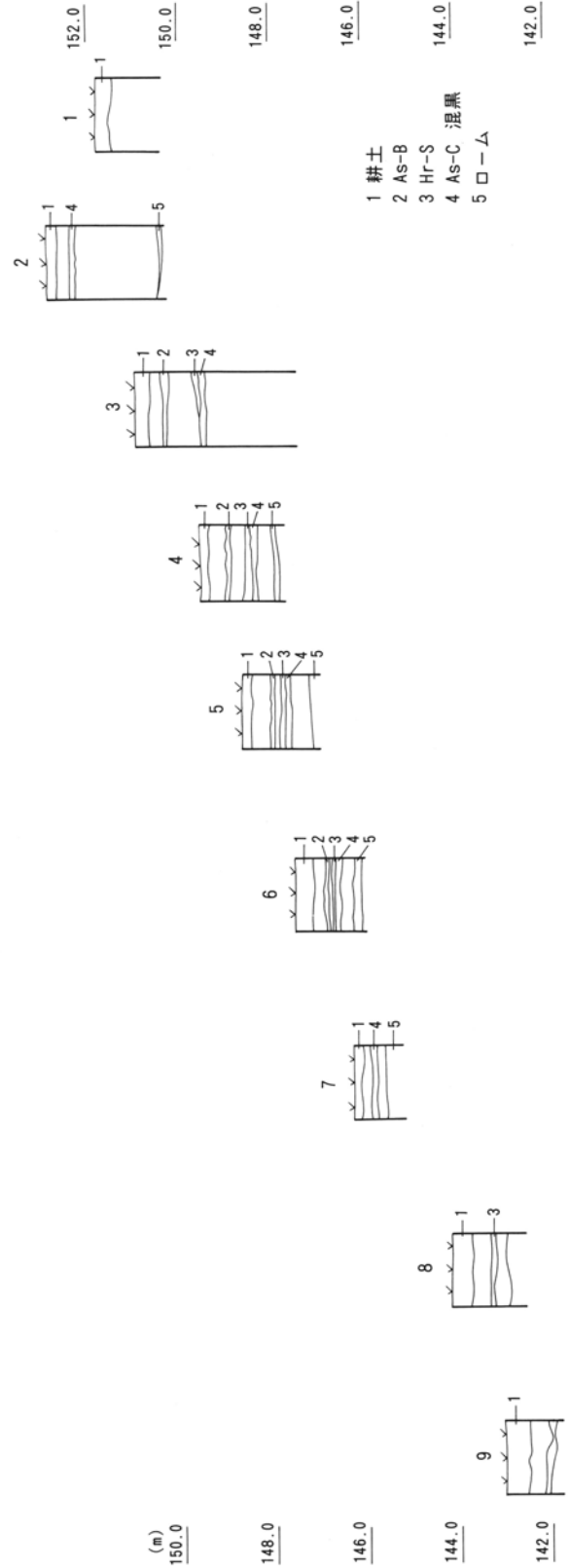
第4図 標準土層図

標準土層説明

- 1 耕土
- 2 As-B
- 3 Hr-S
- 4 As-C 混黒
- 5 □-△



第5図 調査区土層柱状図



第3章 検出した遺構・遺物

第1節 長久保大畑・新田入口遺跡の概要

本遺跡の地形は大きく4つに分けられる。調査区北から、午王頭川氾濫層堆積地、陣馬泥流丘付近、ローム平坦面、低地部である。

午王頭川氾濫層地点はこの氾濫層が現河道から87m程南まで続き、この地点でローム面を削り込むように旧河道が検出した。この河道は第2図小字図の沼の地境にあたる。陣馬泥流丘付近は、旧河道北のG区からH区西側である。この地点は約15,000年前に榛名山で発生した山体崩壊に由来する陣馬岩屑なだれの堆積面の東端に位置し、堆積地形に特徴的な「流れ山」と呼ばれる小丘陵（陣馬泥流丘）が認められる。その間は谷地形を成し、厚く堆積した黒色土が縄文時代の確認面となる。ローム平坦面は、G区からK区にかけてである。約10,000年前に形成されたローム層が確認され、上面に堆積したAs-C混土面では多くの遺構が検出した。低地部はL区・M区であり、氾濫による小礫混入黒褐色土に覆われ、下層は二次堆積のローム層が確認された。この地点は深い谷がある。

以下に長久保大畑・新田入口遺跡の概要を古い順に紹介する。

縄文時代の遺構はG区に集中する。本調査により発見された最も古い縄文土器は、約6,000年前ころのものである。前期後半の諸磯式期が、包含層としてG区の陣馬泥流丘の間にある谷に厚く堆積する黒色土として確認された。下層はローム層である。

中期後半の遺構は集石遺構16基・配石遺構8基・列石遺構2基・土坑3基である。

集石・配石・列石遺構は陣馬泥流丘に挟まれた谷地形を成す地点に検出した。厚く堆積した加曽利E III式期からIV式期における土器片を含む泥流丘崩落土下面で確認された。集石遺構には墓の可能性のあるものもあり、周辺に配石遺構がある。また、列石遺構はこれらの縁辺を成すように等高線に沿って構

築されていた。なお、住居跡は検出されておらず本地点は墓域あるいは祭祀跡と考えられ、当時の精神生活の一端が垣間見ることができる。

土坑はローム台地と低地部の変換点に10世紀代の住居跡床下に検出した。

遺物としては、3号集石から出土した石棒が11mも離れた11号集石出土の石棒と接合関係を示すなど本遺跡における遺構間の関連が伺えた。また、6号配石からは用途不明の三角柱状土製品が出土した。これは県内でも出土例が少なく8個程が確認されている稀少なものである。また、土坑内からは底面に置くように完形深鉢土器が出土した。

弥生時代の遺構は溝1条と土坑1基である。低地部の深い谷の縁辺部に検出した。周辺に土器片の散布がみられ周辺に遺跡が予想される。

古墳時代の遺構は住居跡2軒と水田1面が検出した。また、5世紀末頃に降灰したHr-Sをすき混む畝状遺構が3地点で確認された。この遺構に対し本遺跡では「畠」として調査した。住居跡は陣馬泥流丘に挟まれる緩斜面地にあり、水田・畠は緩斜面及び平坦部に検出した。住居跡は本地域では出土土器から最も古い4世紀代の所産である。また、Hr-Sの降灰堆積を埋土とする5世紀代の住居跡が検出した。この住居跡からは周堤帯も確認されている。

奈良・平安時代の遺構は調査区全域で確認され、住居跡37軒、掘立柱建物跡1棟、柵列3基、竪穴状遺構6基、溝14条、水田1面、畠4面が検出した。住居跡は8世紀から10世紀代にかけてである。大きく3つの地点に分けられ、北側は10世紀代の住居跡がAs-B下水田を取り囲むようにあり、周辺には9世紀代の住居跡がある。中央では9世紀代の住居跡が大きな弧状を呈し、中央に8世紀代の住居が2軒検出した。また、この弧状内には竪穴状遺構や掘立柱建物跡の可能性のあるピット群が検出した。南側

でも9世紀代の住居跡が弧状を呈し、周辺に8世紀、10世紀代の住居跡がある。

溝は居住域を区画するものと水田・畠を区画する2種類がある。水田は調査区北側の緩斜面地に段々田圃のように構築され、平坦面では畦を造り耕作されていた。当時の農地拡大に伴う土地利用のあり方の一端が伺えた。畠は平坦部で検出した。

遺物は、カマドの袖に使用されていた瓦や左鎌、耳皿、紡錘車の他に多くの土器片が出土した。

中世の遺構は調査区北と南側に検出した。掘立柱建物跡2棟、柵列2基、竪穴状遺構2基、溝7条、道1本、井戸4基、火葬跡3基、水田1面、畠3面である。北側で検出した掘立柱建物跡・柵列等は屋敷の一部である。この屋敷は北・西の傾斜地に囲まれるようにあり、溝と柵列で区画した内側には、掘立柱建物をはじめ井戸、火葬跡が検出した。また、この区画内には多くのピットが検出しており、主要建物の可能性が示唆される。

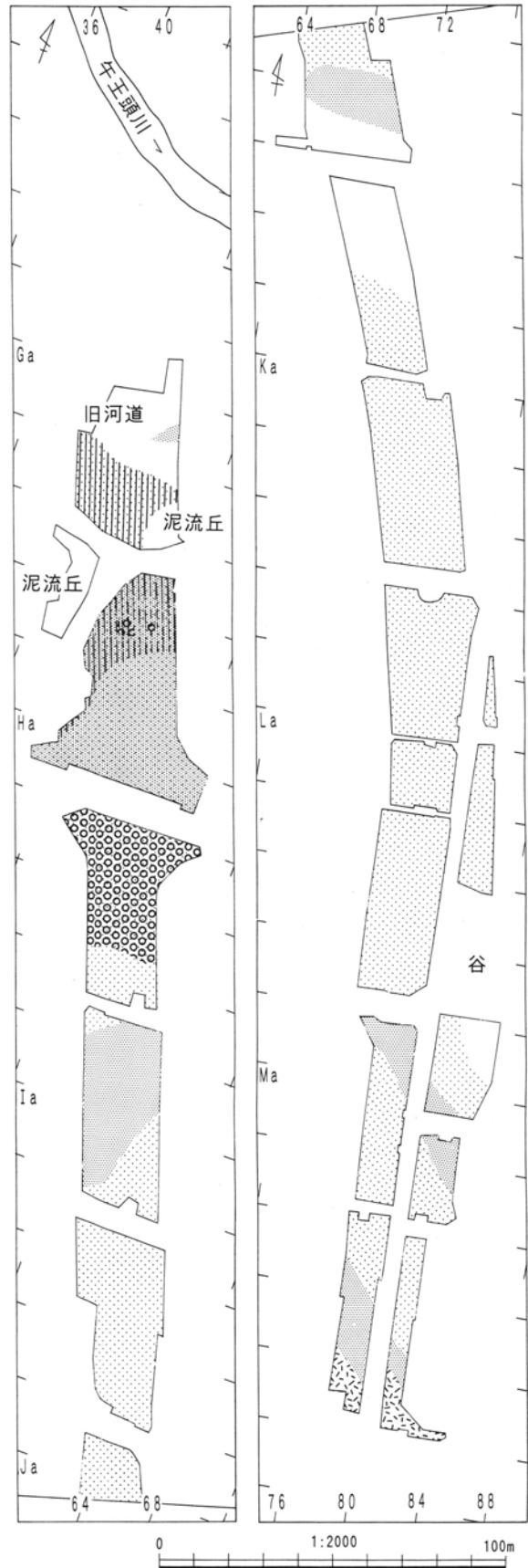
溝は水田・畠の区画のほかに、用水路と思われる幅広で深い溝が検出した。南側で検出した用水路と思われる溝は谷の縁辺部に数回にわたる改修の跡が見られた。また、この用水路に並行して道が検出しており、その端には畠跡が検出している。

この溝や道は周辺に想定される鎌倉街道や女堀との関係も示唆され、それらから分岐されたものではないかと推測される。

水田は平安時代から踏襲される調査区北側の緩斜面に段々田圃をつくり、平坦面で区画を整えた水田へと連なる。畠は道の端や溝の端で検出した。

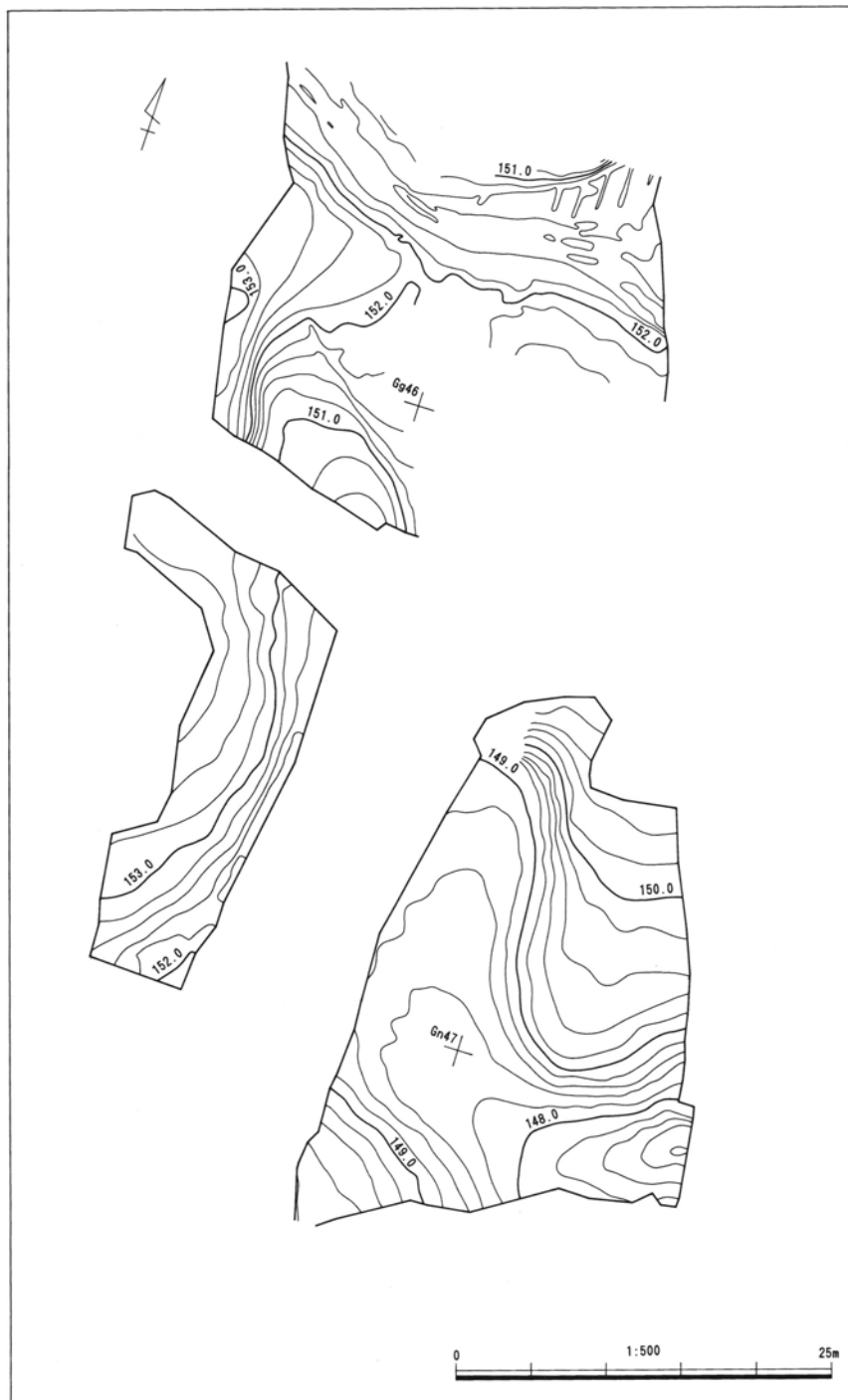
近世以降の遺構は畠の区画と思われる溝や土坑が多数検出した。

本調査区周辺は原始においては特別な地域であり、古代からは居住域として発展してきた。しかし、農耕の面においては水の確保が困難なところであり、水田よりも畠が中心となっていた。しかし昭和30年代の土地改良により本地域一帯は水田地帯となった。

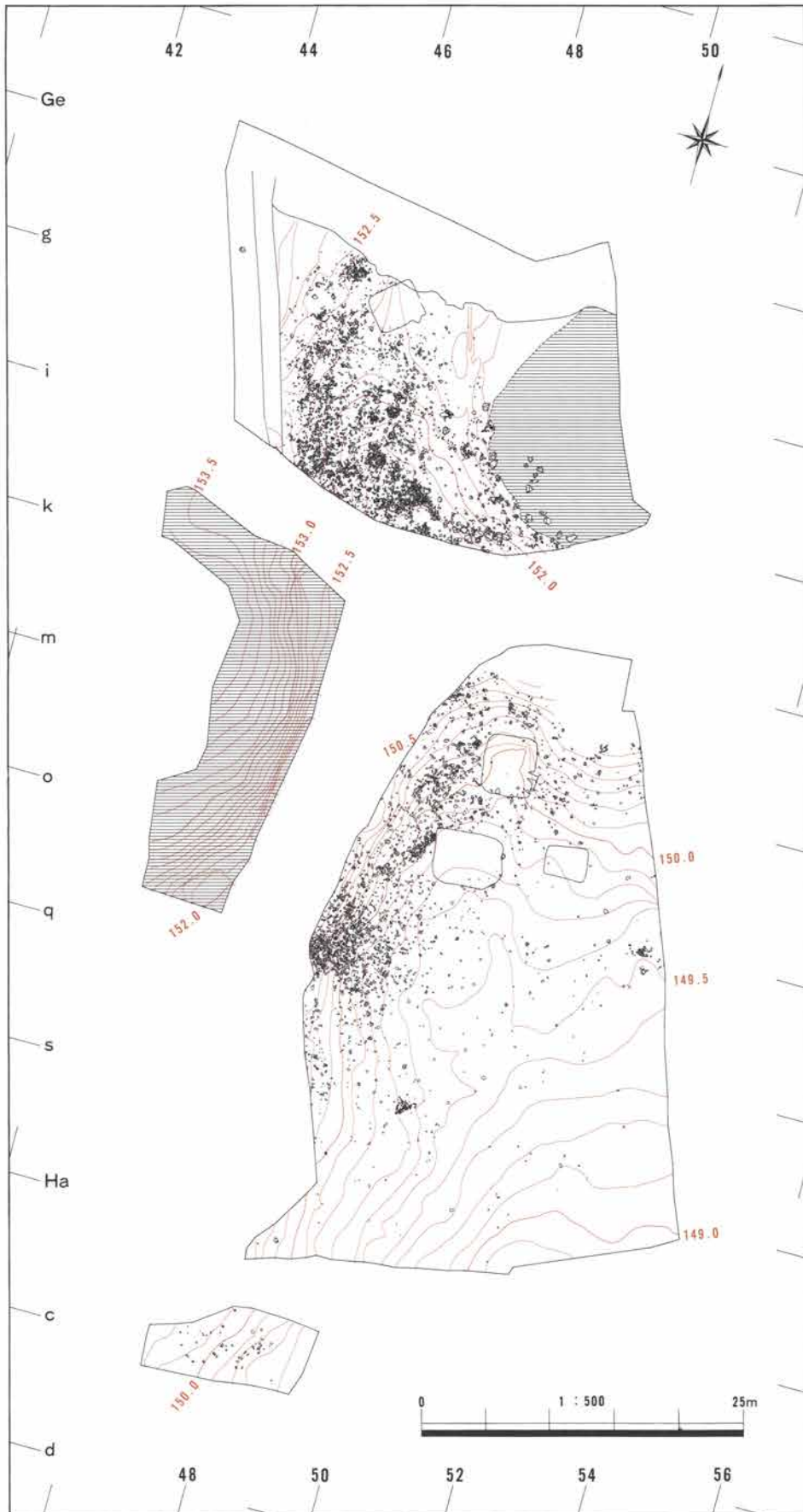


- | | | |
|--|---|--|
|  縄文 |  古墳 |  中世 |
|  弥生 |  奈良・平安 | |

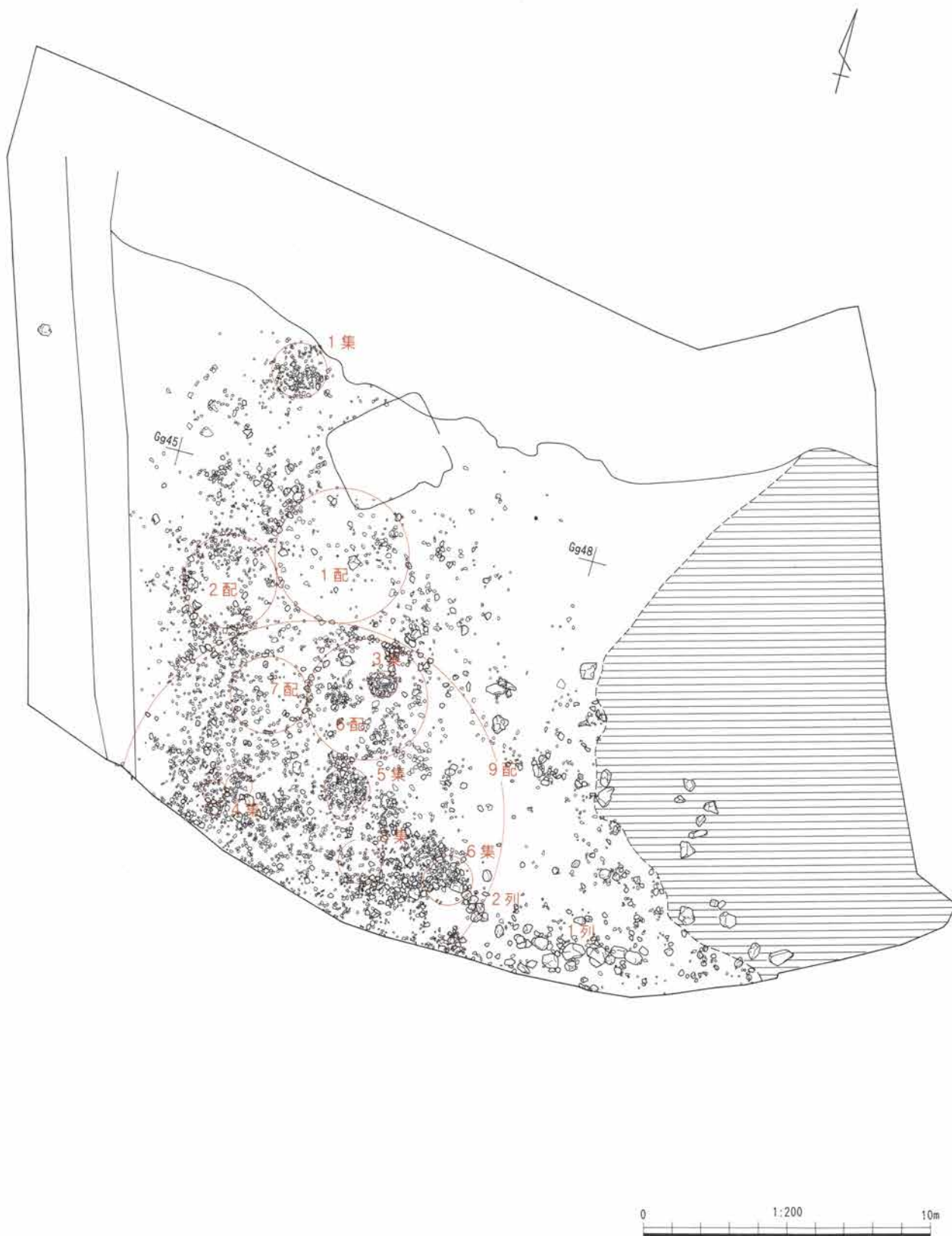
第6図 時代別遺構配置図



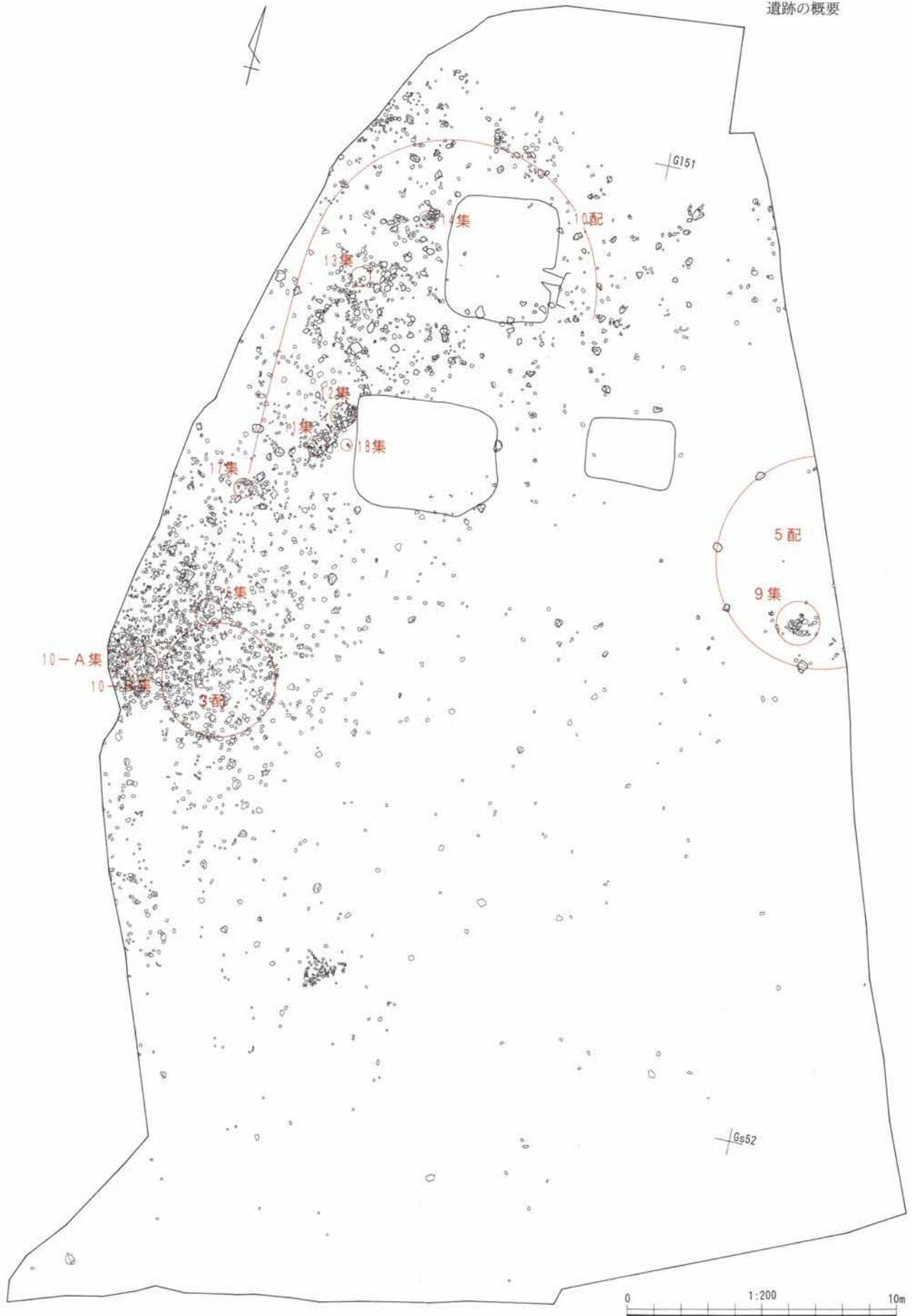
第7図 G区ローム面コンタ図



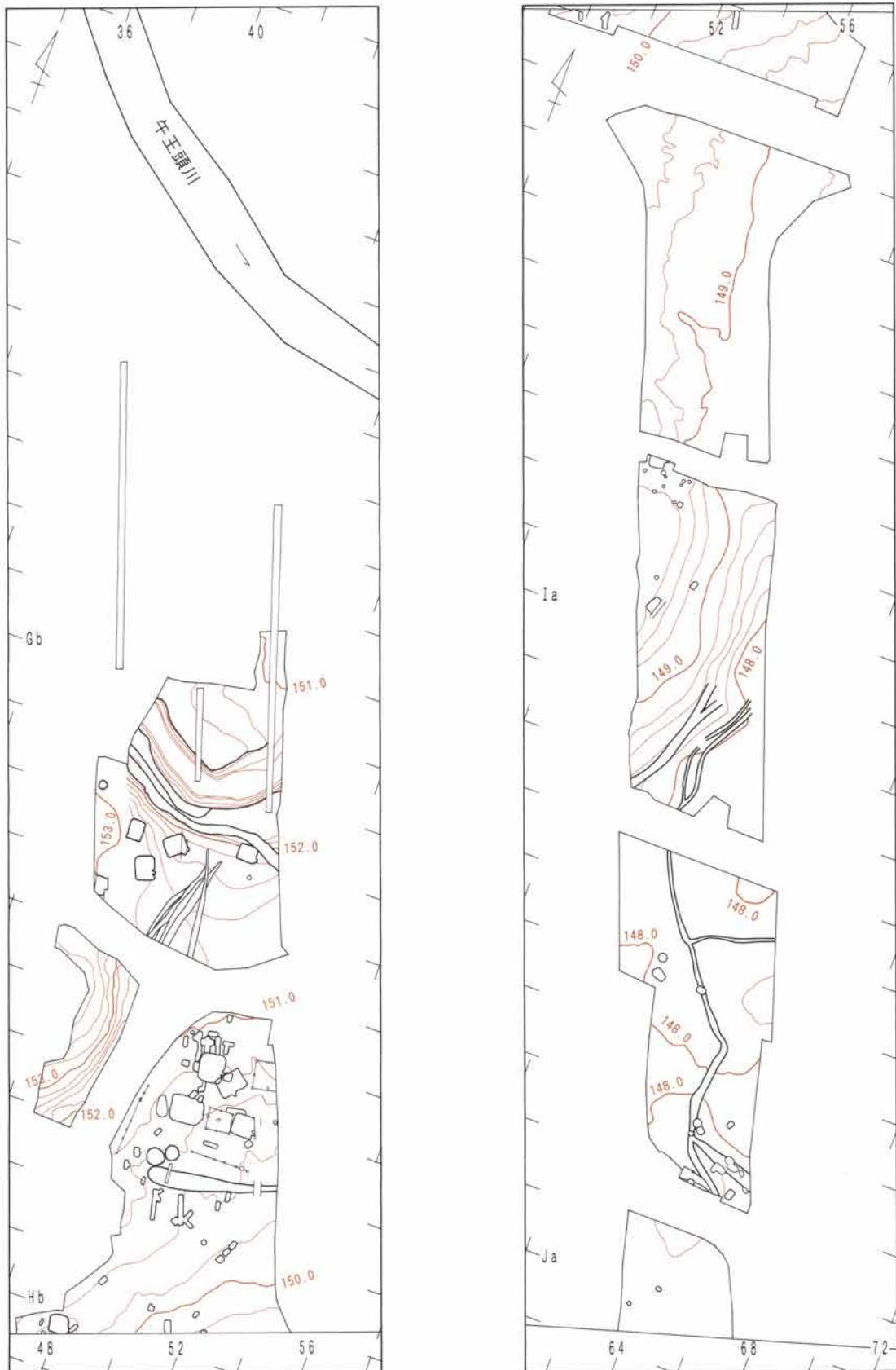
第8図 G区縄文礫出土状態及びコンタ図



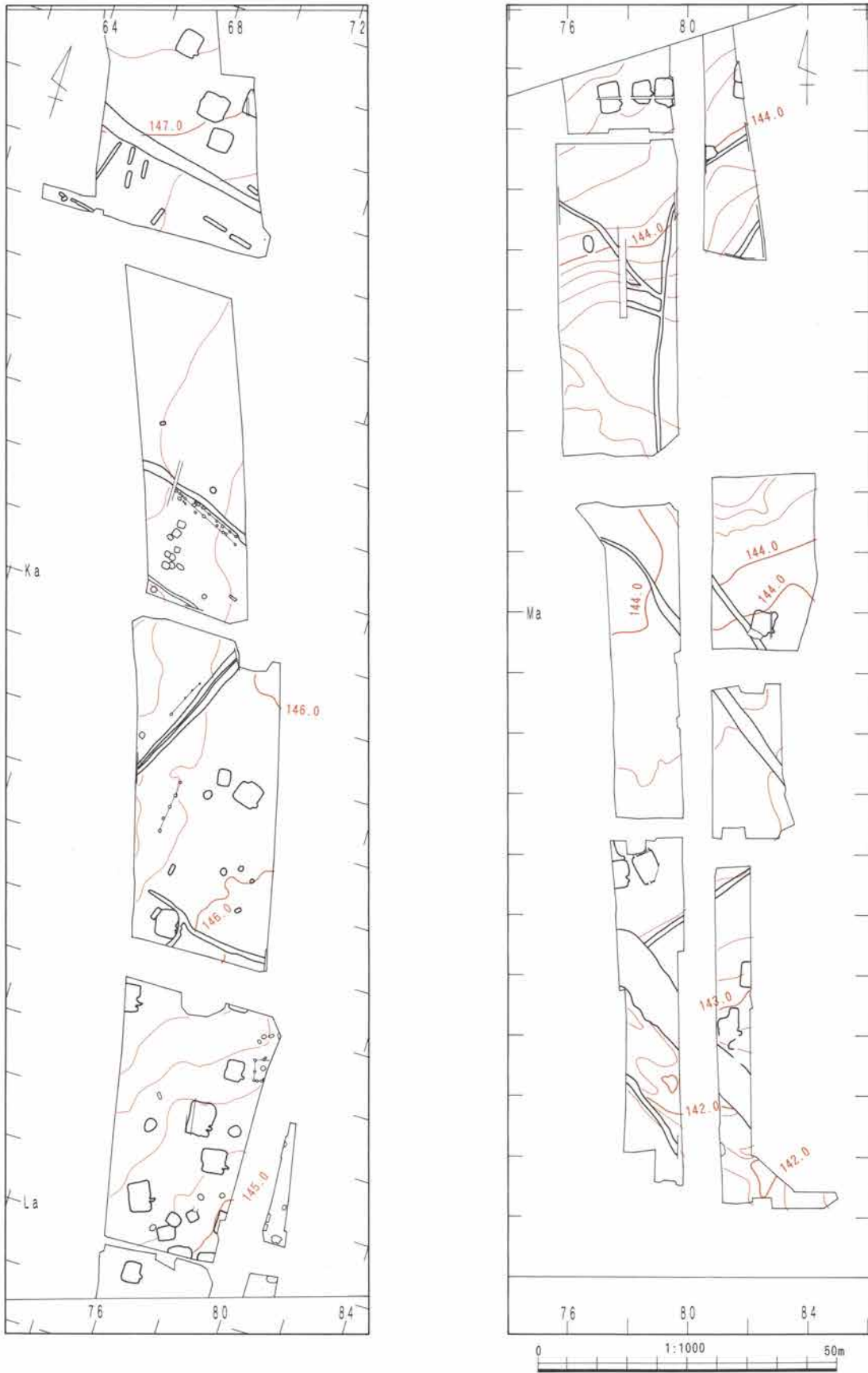
第9図 G区道北縄文遺構配置図



第10図 G区道南縄文遺構配置図



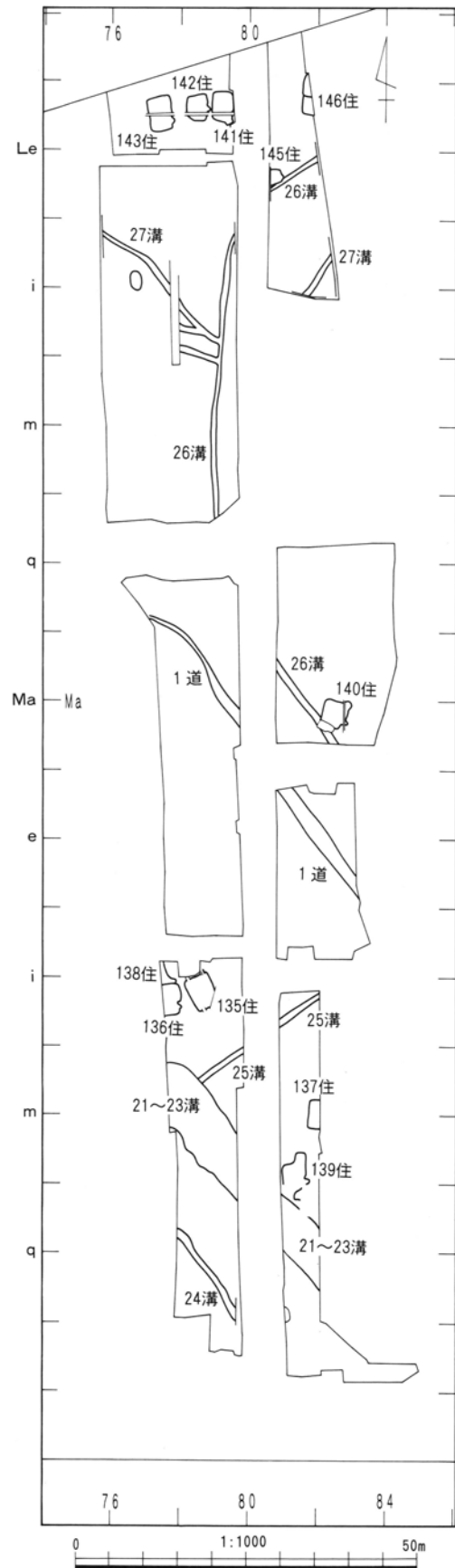
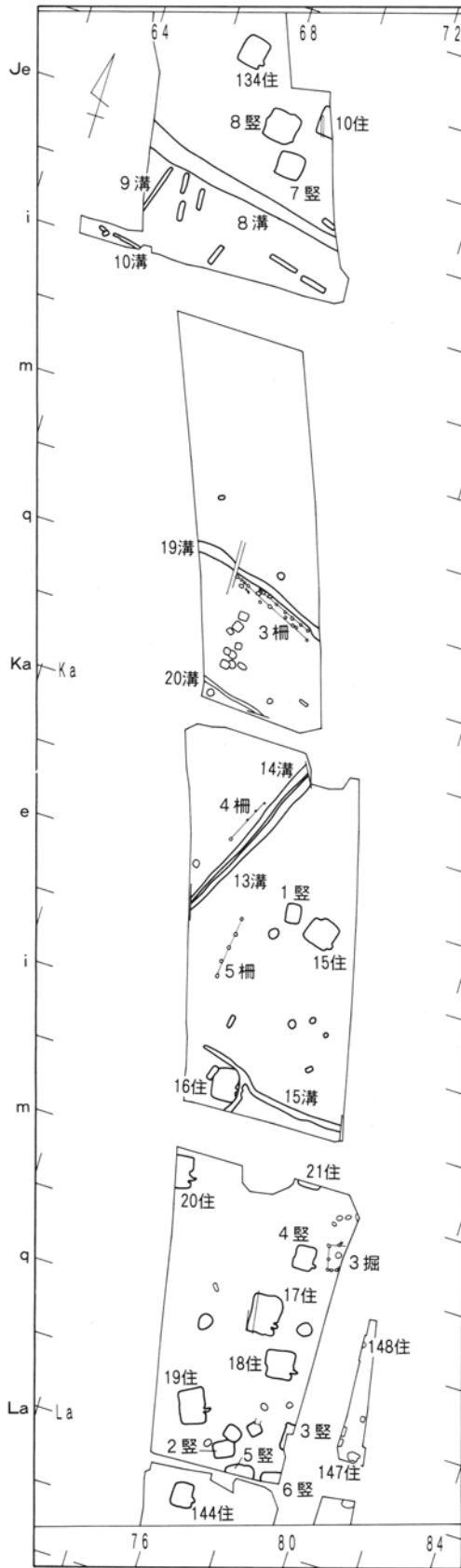
第11図 調査区遺構配置コンタ図(1)



第12図 調査区遺構配置コンタ図(2)



第13図 調査区遺構配置図(1)



第14図 調査区遺構配置図(2)

第2節 縄文時代

縄文時代の遺構は、G区で集石遺構16基、配石遺構8基、列石遺構2基、土坑1基、K区に土坑1基、L区に土坑1基が検出した。

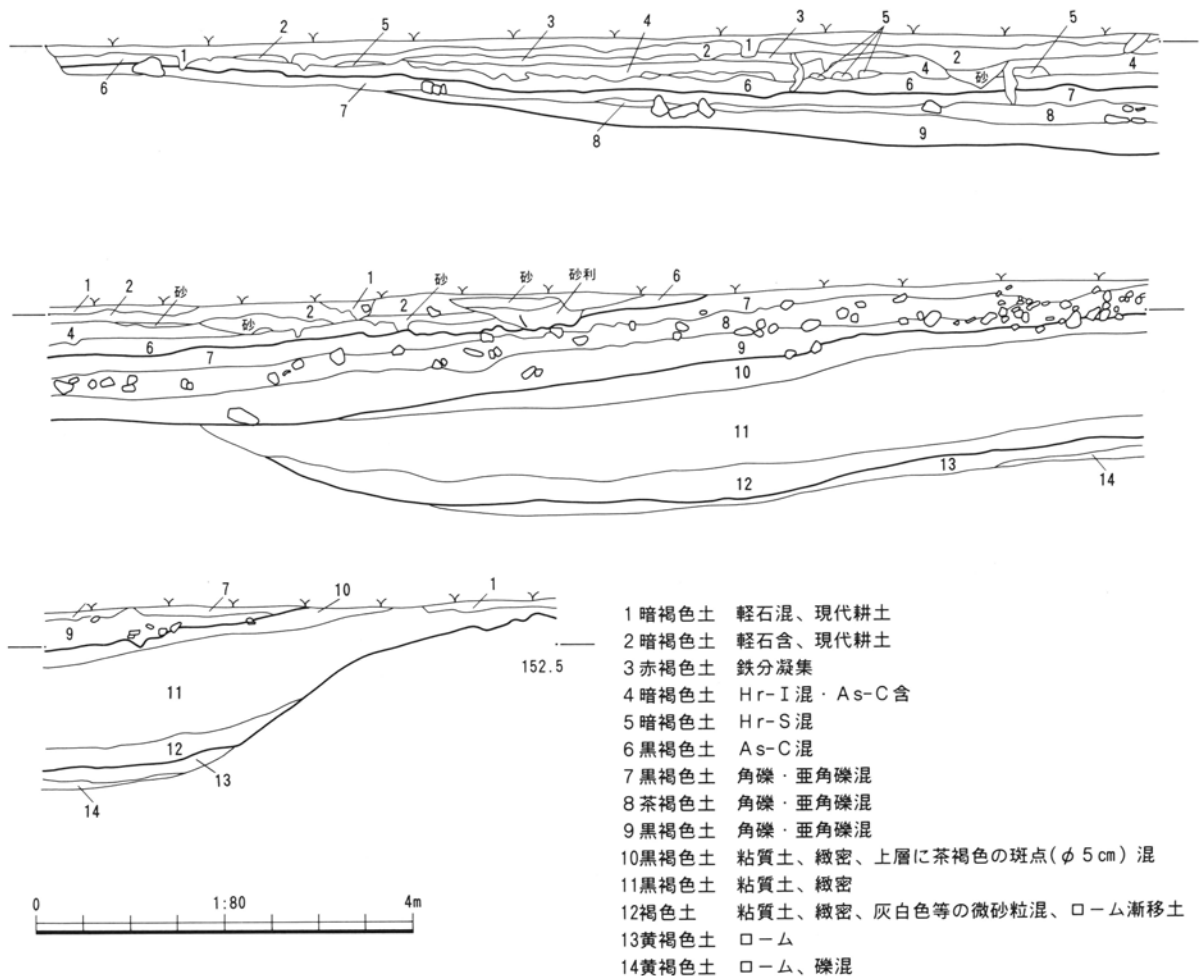
本遺跡で検出した「集石遺構」・「配石遺構」・「列石遺構」は全体的には「配石遺構」として総称されるが、礫の集中状況にあわせ本遺跡では以下の名称を用いた。「集石遺構」は礫の密集・集中する遺構、「配石遺構」は礫が整然と配置された遺構、「列石遺構」は礫が带状に連なる遺構に対して用いた。

主な遺構はG区を中心に検出した。他の調査区においてはローム層まで掘削した住居跡等の底面や壁面で確認し、遺構空白地域ではローム層までのトレンチを設けて確認した。その結果ローム漸移層中まで縄文土器・石器の出土が見られた。しかし土器は

前期から中期までと型式が安定せず、包含層と判断し全域におよぶ精査は実施しなかった。

配石遺構は、G区北側の陣馬泥流丘の間の谷地形を呈する地点に検出した。遺構は礫を多量に含む黒色土層中にあり、礫とともに多くの土器・石器が出土した。下層は礫を含まない黒色土が堆積する。このように遺構の確認は黒色土中に行うなど容易なものではなかった。調査は礫の検出作業から始まり、出土した遺物はすべて図化して取り上げた。また礫は近接する陣馬泥流丘からの礫を主としており、遺構に伴うものとの区別は困難であった。そのためすべての礫に標高等を附記し選別した。

この礫を多く含む土層内からは加曽利E II式期から加曽利E IV式期の土器と石器が多数出土した。そ



第15図 G区土層断面図

の量は遺物収納箱(60cm×38cm×15cm)に250箱程あり、その内土器が110箱程を占めた。

G区の様相については、第7図に掲載したローム面コンタ図と第8図のG区縄文礫出土状態及びコンタ図を参照されると2つの陣馬泥流丘の間は谷地形を成していることが伺える。ローム層上層は黒色土が厚く堆積している。この断面は第73・86～88図のグリッド出土遺物投影図に表しており、その図に礫を入れることにより配石遺構構築面との比較が行える。

第15図はG区道北のGjラインの断面図である。第6層As-C混黒褐色土下層に第7層黒褐色土があり、縄文時代遺物包含層で角礫・亜角礫を多く含んでいる。第8層は茶褐色土を呈し角礫を多量に含む陣馬泥流丘第二次崩落土で、加曾利EIVの時期を包括する層であると考えられる。第9層も礫を多量に含む陣馬泥流丘第一次崩落土である。礫の集中状態から西から流入堆積したことが伺える。出土土器は加曾利EIIIからEIVへの移行期と考えられる。第10層には礫が混入しない層になり、この層上面に多くの遺構が構築される。第11層上面には9号配石・10号配石が構築され、層中からはG149-11の諸磯a式の土器が出土した。

本遺構検出の集石・配石・列石遺構の石材について飯島静男氏より次の所見をいただいた。「遺構に用いられている石は、粗粒輝石安山岩と総称したなかの角閃石を含む輝石安山岩及び角閃石を含まない粗粒の輝石安山岩の主に2種類である。量的には、前者が圧倒的に多い。遺跡内に2つある小丘状の流山は、ほとんど角閃石を含む輝石安山岩(前者)の岩屑よりなり、まれに異質の安山岩を含む。集石の岩石の多くは、この流山を構成する安山岩と同質で、これらの小丘あるいは付近の同種のものから採取したものと推定される。しかし、同種のものであっても、多少円磨され亜角礫～亜円礫状の石は河川より運ばれたものであろう。粗粒輝石安山岩に同定された岩石は、流山にはほとんど含まれておらず、付近の河川その他より採取したものと考えられる。その形

状も亜円礫ないし亜角礫状のものが少なくないことも、そのことを支持する。」

以下に各遺構について述べる。

第1項 集石遺構

本調査区から礫の密集・集中する集石遺構はG区に集中し16基が検出した。遺構の分布は現道北側では2つの泥流丘に挟まれた谷地形の底面に沿うようにあり、現道南側では西側の泥流丘からの斜面が緩和される地点に等高線に沿うように並んで検出した。なお、9号集石は他の集石とは構築地点が異なり、礫の少ない平坦面に検出した。遺構確認面は礫多混黒褐色土面であり、掘り込み面は黒色土のため、遺構確認は困難であった。そこで崩落礫を除去したところで確認された礫の集中を集石遺構とした。形態は礫の分布状況から推測した。平面形は集石遺構構築後の泥流丘崩落に伴い、上部礫が地形に沿って流下されたことが考えられ、これらを考慮し最も集中する箇所から推測した。遺構底面は底部に敷かれた礫の底面とした。出土した土器は主に加曾利EIII期である。なお、7号集石、15号集石は調査時泥流丘の一部と判明し欠番とした。また、2号集石は6号配石内の一単位とした。

1号集石 (第16・17・107・108図、P L4)

Gf-45グリッドに位置する。調査区最北にあり、北側は旧流路により削平される。周辺には南9.9mに3号集石が位置する。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。

形状は礫の分布から平面形は円形を呈し、規模は礫外縁で189cm、深さは最深で19cmを測る。掘り方は平面円形を呈し、底面は瓢箪形で北側で9cmほど深く成る。確認時に直径2m程の範囲に20cm程の礫の集中が見られた。中央部から南側にかけて径20cm程の礫が集中し、北側では径4～10cm程の礫と深鉢土器口縁部が潰れるように一括集中し確認された。本遺構は底面付近の検出と考えられ、中央及び南側で検出した礫群は北側の小礫群の下面に連なる。この

第2節 縄文時代

このことから北側の小礫と土器の検出した部分が本遺構の中心と考えられた。中心部は10cm程の礫が5cm程の小礫及び土器を囲むようにあり、土器の下からは凹石が出土した。石材はすべて含角閃石輝石安山岩である。

本遺構は全体を僅かに掘り込み、中心部をさらに窪め、8cm程の礫で底面を構築し、凹石を置き土器を配し、上層に小礫で覆うものと考えられる。

石器は中心部の土器下部の凹石や敲石などを構築材とし、覆土中から石鏃や打製石斧が出土した。土器は中央北側で出土した深鉢口縁部一括と覆土中から深鉢土器片が出土した。出土土器は加曾利E III式期である。

本遺構は北西から南東に傾斜する地点にあり、礫及び遺物の分布は地形に沿って流されているようである。

3号集石 (第18・19・108・109・110図、P L 4・5)

Gh-46グリッドに位置する。6号配石内にあり、周辺には南2.6mに5号集石、南西5.2mに4号集石が位置する。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。

形状は礫の分布から平面形は円形を呈し、規模は礫外縁直径98cm、礫内縁直径70cm、深さは礫上面から底面礫直上まで24cm、掘り方底面まで29cmを測る。掘り方は平面円形を呈する。確認時径25～5cm程の礫が外縁を成すようにあり、中央に径10cm程の礫と石棒、深鉢底部が検出した。壁礫は上径21cmから7cm程の礫を楔状に縦長に巡らし、底部には径17～7cm程の礫を敷くように構築する。覆土内には24～4cm程の礫が充填されていた。壁面及び底面に使用された礫は最大7,400g、最小100gを測る。総数90個程の礫である。平均の大きさは重さ1,046gである。覆土内からは最大4,500g、最小は20gを測り、平均603gである。礫はすべて含角閃石輝石安山岩である。

構築方法は壁面に楔状に縦長の礫を配し、時計回りに底面に礫を敷いていき、壁面を2～3段積み上

げたように見られた。

本遺構の性格の手がかりとしてリン分析を中層・底面礫直上・底面礫直下の3点で実施した。その結果、底面礫直上における数値が高く、リンが富化するなんらかの動植物遺体の存在が示唆された。

これらのことから本遺構は墓として構築され遺体埋設後石積み等で上面を覆い、墓標としての石棒が置かれていたものとは考えられないだろうか。

遺物は磨石や凹石などを構築材とし、上層から下半欠損の石棒が検出した。この石棒の下半の一部は南32.7mに位置する11号集石から検出され接合関係を成す。土器は覆土中から深鉢の口縁部や底部が出土した。南側壁礫外側に出土した深鉢土器(3)はf-44、g-45,46、h-47、i-46グリッド周辺と広範囲の接合関係を持つ。出土土器は加曾利E III式期である。

4号集石 (第20・21・110・111図、P L 5)

Gh・i-45・46グリッドに位置する。周辺には東2.5mに5・8号集石が位置する。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。

形状は礫の分布から平面形は楕円形を呈し、規模は直径237cmを測る。掘り方は確認できなかった。確認時径45～2cm程の礫の集中が見られた。調査を進める中で、3つの単位であることが判明し、それぞれをA・B・Cとした。3つの単位の礫の分布についてエレベーションAで礫を投影した。A・B・C共に同レベルで平坦に礫を覆い、それぞれ掘り込む。Aは径15～5cm程の礫を縁石とし、中心部に土器と小礫を配する。24cm程掘り込む。Bは径22cmの比較的大きめの礫を中心に直径89cmに20～6cm程の礫を巡らし、深さ32cm程を掘り込む。CはAの南側にあり、直径28cm程の礫を中心に直径59.5cmを測り、20～7cm程の礫を配する。中心の礫下には遺物は検出なかった。使用された礫は総数140個程で最大4,000g、最小は20gを測り、平均638gである。礫は8個の粗粒輝石安山岩が認められた他は含角閃石輝石安山岩である。

本遺構は他の集石遺構に比べ集中の在り方が異なり、配石遺構の一部の可能性はある。

遺物は磨石や凹石などを構築材の一部とし、覆土中から打製石斧の刃部と削器などが検出した。土器はAの中心に深鉢（9）が一括で出土し、南西方向の土器片と接合した。この接合は地形に沿ったものである。その他覆土中から波状口縁部等が出土した。出土土器は加曾利EIV式期である。

5号集石（第22・23・112・113・114・115図、 P L 6）

Gh-46グリッドに位置する。周辺には南0.7mに8号集石、北0.4mに6号配石が位置する。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土下面である。

形状は礫の分布から平面形は円形を呈し、規模は礫外縁直径170cm、礫内縁直径137cm、深さは礫上面から底面礫直上まで32cm、掘り方底面まで39cmを測る。掘り方は南北に長い楕円形を呈し、長軸186cm、短軸158cmを測る。底面の直径は長軸120cm、短軸102cmである。確認時径27～4cm程の礫で外縁を成すようにあり、中央に径20cm程の礫が検出した。壁礫は径30～20cm程を掘り方底面縁から塊状に3～4段積み上げている。覆土内には10～4cm程の礫と上面の20～22cm程の大きめの礫で充填される。底面は中央には26cm程の礫があり、その礫上面にあわせるように10cm程の礫が敷かれていた。壁面及び底面に使用された礫の最大は12,700g、最小130gを測る。総数120個程の礫である。平均の大きさは重さ2,231gである。覆土内からは最大4,500g、最小は30g、平均520gを測る。総数280個程である。石材は壁面及び底面に10個程の粗粒輝石安山岩が認められ、他は含角閃石輝石安山岩である。覆土内はすべて含角閃石輝石安山岩である。

本遺構の性格の手がかりとしてリン分析を覆土中層・底面礫直上・底面礫直下・掘り方底面の4地点で実施した。その結果、覆土中層における数値が非常に高く、リンが富化するなんらかの動植物遺体の存在が示唆された。

これらのことから本遺構は墓として中心に大きめの礫を置き、底面から壁面にかけて3～4段積み上げて構築し、遺体埋設後は石積み等で上面を覆ったものとは考えられないだろうか。

遺物は石皿や凹石などを構築材の一部とし、覆土中から使用痕ある剥片や打製石斧が検出した。土器は覆土中から土製円盤や深鉢口縁部、底部が出土した。出土土器は加曾利EIII式期のものである。

6号集石（第24・26・115・116・117・118図、 P L 6）

Gi-47グリッドに位置する。周辺には西1.5mに8号集石、北西3.1mに5号集石がある。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。南東辺は2号列石と連なるように列石と同規模の礫で構築される。2号列石との新旧関係は不明である。

形状は礫の分布から平面形は円形を呈し、規模は直径162cm、深さ27cmを測り、深さは礫上面から底面礫直上まで24cm、礫直下まで30cmを測る。掘り方は確認できなかった。確認時径50cm程の礫と13cm程の礫が外縁を成すようにあり、中央に径30cm程の礫が検出した。壁礫は径50～10cm程の礫を円形に巡らし、底面には径30～5cm程の礫を敷くように構築する。覆土内には径37～4cm程の礫が南東側に厚く堆積する。石材はすべて含角閃石輝石安山岩である。

構築方法は外縁に大きめの礫を置き、内側の底面に扁平な礫や小礫を充填するようである。

石器は凹石や石皿などを壁面の構築材の一部として使用し、覆土中からは打製石斧や敲石などが出土した。土器は覆土中から深鉢の口縁部、胴部が出土した。出土土器は加曾利EIII式期である。

8号集石（第25・27・28図、P L 6）

Gi-46・47グリッドに位置する。周辺には東に接して6号集石、北0.7mに5号集石がある。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。

形状は礫の分布から平面形は円形を呈し、規模は直径150cm、深さは6号配石に接する東側で28cmを

第2節 縄文時代

測る。掘り方は確認できなかったが、底面付近の検出と考えられる。縁石は30cm間隔に径30～6cm程の礫を配する。この縁石はこの間隔で径80～50cm程の6つの単位が認められた。中央部に径20cmから7cm程の礫を散在して敷き構築する。石材はすべて含角閃石輝石安山岩である。

構築方法は底面の縁に6つの単位で礫を配し、中央に小礫群を成すように見られた。本遺構は東接する6号集石より低位に底面を構築し、6号集石同規模の集石遺構が予想された。

遺物は覆土中から深鉢の口縁部が出土した。(6)は底面近くに1片検出し、周辺のグリッドで接合関係を示す。出土土器は加曾利E III式期である。

10号集石 (第29・31・118・119・120・121・122図、P L 7)

Gp-47・48グリッドに位置する。周辺は北東2mに16号集石、南に接して3号配石がある。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。確認時1つの単位としていたが、調査段階で2つの単位が確認された。西側をA、東側をBとする。本遺構の構築面は西の泥流丘からの傾斜地を削平するように僅かな平坦面にある。遺構の掘り方は確認できなかった。

10-A集石

西側を調査区外で切られている。形状は礫の分布から平面形はほぼ円形を呈する。規模は直径90cm、深さは礫上面から底面礫上面まで21cmを測る。確認時58～5cm程の礫の集中が見られ、58cm×27cm×34cmの柱状の礫が縁を成すように検出した。壁礫は径10cm程や長軸58cm程の礫を巡らし、底面は20cm程の礫を敷くようにある。覆土内には径25～6cm程の礫が充填されていた。壁面に使用された礫の最大は3,050g、最小320gを測り、総数20個程の礫である。平均の大きさは重さ1,328gを測る。覆土内からは最大6,000g、最小は80g、平均1,060g総数85個程である。壁面の石材はすべて含角閃石輝石安山岩である。覆土内は2個の粗粒輝石安山岩と他は含角閃石輝石安山岩である。

構築方法は傾斜地を平坦にし、平坦面に小礫を配し、外縁に柱状の礫を配したものと看取られる。

遺物は凹石や石皿などを構築材の一部とし、覆土中からは凹石や石剣、三角錐形石器などが出土した。土器は少なく、深鉢の口縁部が出土した。

10-B集石

形状は礫の分布から平面形は円形を呈する。規模は直径111cm、深さは縁礫上面から底面礫上面まで22cmを測る。確認時縁礫に長軸18cmほどのほぼ一定の大きさの礫で円形を巡らし、中央に22～4cm程の礫の集中が見られた。壁礫は上記の縁礫で、底面は径10～5cm程の小さめの礫を敷いて構築する。覆土には径23～5cmの礫がある。壁面に使用された礫の最大は5,000g、最小100gを測る。総数25個程の礫である。平均の大きさは重さ1,094gを測る。覆土内からは最大7,500g、最小は80g、平均1,060gの総数85個程である。壁面の石材はすべて含角閃石輝石安山岩である。覆土内は2個の粗粒輝石安山岩と他は含角閃石輝石安山岩である。

構築方法はAと同様に底面に小礫と扁平な礫を置き、規模の一定な礫で壁を成すようである。

本遺構のある地形は東西方向に傾斜しており、本遺構構築は平坦面を構築し造築されている。

石器は凹石や敲石などを構築材の一部とし、覆土中からは削器が検出した。土器は覆土中から深鉢の胴部と底部が出土した。出土土器はA・B集石ともに加曾利E III式期である。

11号集石 (第30・32図、P L 7)

Gn-48・49グリッドに位置する。周辺には北東に接して12号集石、東0.5mに18号集石がある。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。確認は上層の礫群を除去し集石遺構を検出した。

形状は礫の分布から円形を呈し、規模は直径71cm、深さは壁礫上面から底面礫上面まで18cmを測る。掘り方は確認できなかった。縁礫は西側で明瞭で径15～3cm程の礫を巡らし、南に径15cm程の大きい礫を置く。底面は西側で南に空間が見られるが、径13cm

5 cm程の礫を全面に敷いて構築すると考えられる。壁面に使用された礫の最大は12,000 g、最小40 gを測る。総数15個程の礫である。平均の大きさは重さ734 gを測る。覆土内からは最大2,220 g、最小は40 g、平均447 gで、総数75個程である。石材は1個が粗粒輝石安山岩の他はすべて含角閃石輝石安山岩である。覆土内は8個の粗粒輝石安山岩と他は含角閃石輝石安山岩である。

遺物は3号集石と接合関係の石棒が北縁上面に出土した。土器は深鉢の胴部片が数点出土した。出土土器は加曾利E III式期である。

12号集石 (第33・122・123図、P L 7)

Gn-48・49グリッドに位置する。周辺には南西に接して11号集石、南0.4mに18号集石がある。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。遺構検出は11号集石と同様である。

形状は礫の分布から円形を呈し、規模は直径89cmを測る。掘り方は確認できなかったが、底面付近の検出と考えられる。縁礫は径21～8 cm程の礫を巡らす。北側の残存状態は不良である。中央に径12～6 cm程の礫がある。縁礫に使用された礫の最大は5,500 g、最小100 gを測る。総数11個程の礫である。平均の大きさは重さ1,215 gを測る。覆土内からは最大3,750 g、最小は30 g、平均360 gの、総数60個程である。石材は北側の縁礫1個が粗粒輝石安山岩の他はすべて含角閃石輝石安山岩である。覆土内は2個の粗粒輝石安山岩と他は含角閃石輝石安山岩である。

構築方法は長軸方向に縁礫を配し、中央に小礫を充填したように看取られる。

遺物は凹石を構築材の一部とし、覆土中(壁面・底面)からは石器の検出は見られなかった。土器は覆土中から深鉢の口縁部が出土した。出土土器は加曾利E III式期である。

13号集石 (第34・123図、P L 8)

Gm-49グリッドに位置する。周辺には北東2.6m

に14号集石、南4.4mに12号集石がある。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。確認は上層の礫群を除去し集石遺構を検出した。

形状は礫の分布から円形を呈する。規模は直径71 cm、深さ縁礫上面から底面礫上面まで18 cmを測る。掘り方は確認できなかった。縁礫は径45～20 cm大の4個の礫が中央の25～20 cm程の4個と拳大の礫を囲むようにある。使用された礫の最大は39,500 g、最小250 gを測り、平均7,760 gで総数15個程である。石材はすべて含角閃石輝石安山岩である。

構築方法は同規模の礫を配し、南西と北東に大きな礫を置くように見受けられた。

遺物は覆土中から敲石、土器は深鉢の口縁部と胴部片が数点出土した。出土土器は加曾利E III式期である。

14号集石 (第35・124図、P L 8)

G1-49グリッドに位置する。周辺には南西2.6mに13号集石がある。確認面は角礫・亜角礫混黒褐色土面である。確認は上層の礫群を除去し集石遺構を検出した。

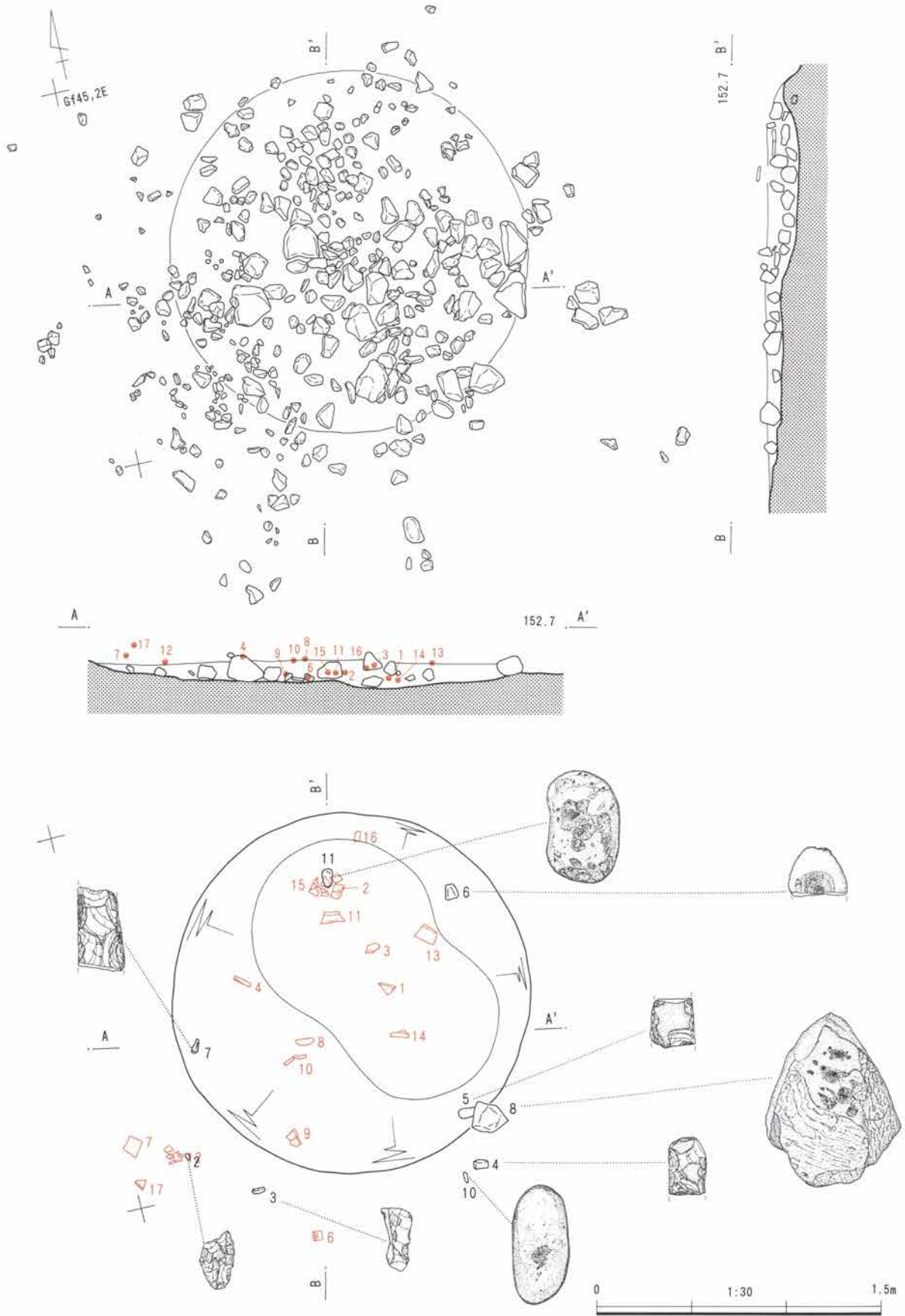
形状は礫の分布から平面形は円形を呈する。規模は直径59 cm、深さは下層礫上面まで16 cmを測る。掘り方は確認できなかった。縁礫は16～8 cm程の礫を東半分巡らし西側にも連なっていた可能性がある。底面は15～5 cm程の礫がある。

構築方法は窪地を作り、縁石を成し、土で埋没後礫で覆ったものと見受けられた。

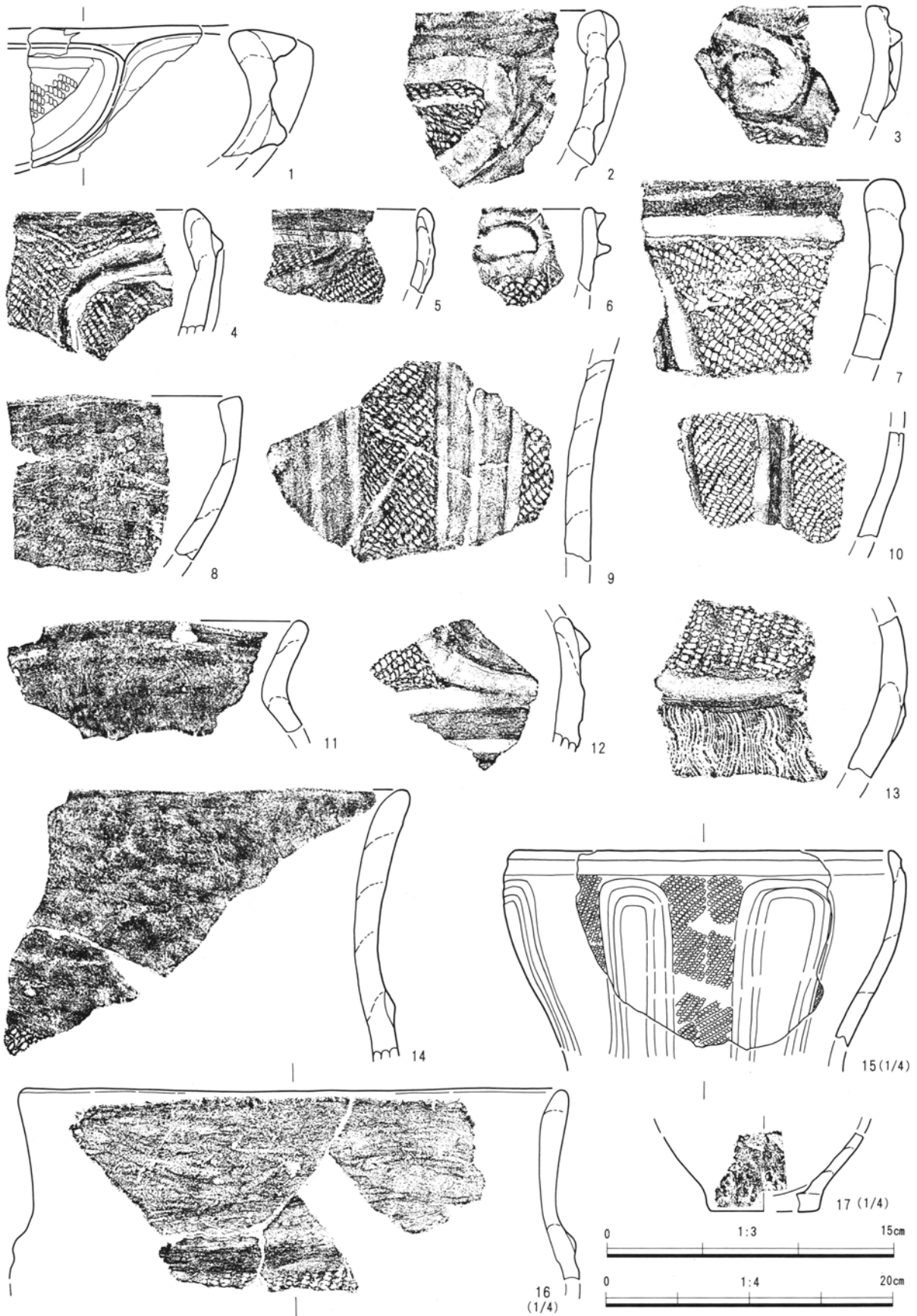
遺物は凹石を構築材の一部にし、覆土中から深鉢の口縁部と胴部片が出土した。出土土器は加曾利E III式期である。

16号集石 (第36・124図、P L 8)

Go・P-48グリッドに位置する。周辺には南西2.0 mに10号集石が、北3.9 mに17号集石がある。本遺構は南側の3号配石に接する位置にある。確認面は角礫・亜角礫混黒褐色土面である。確認は上層の礫群を除去し集石遺構を検出した。

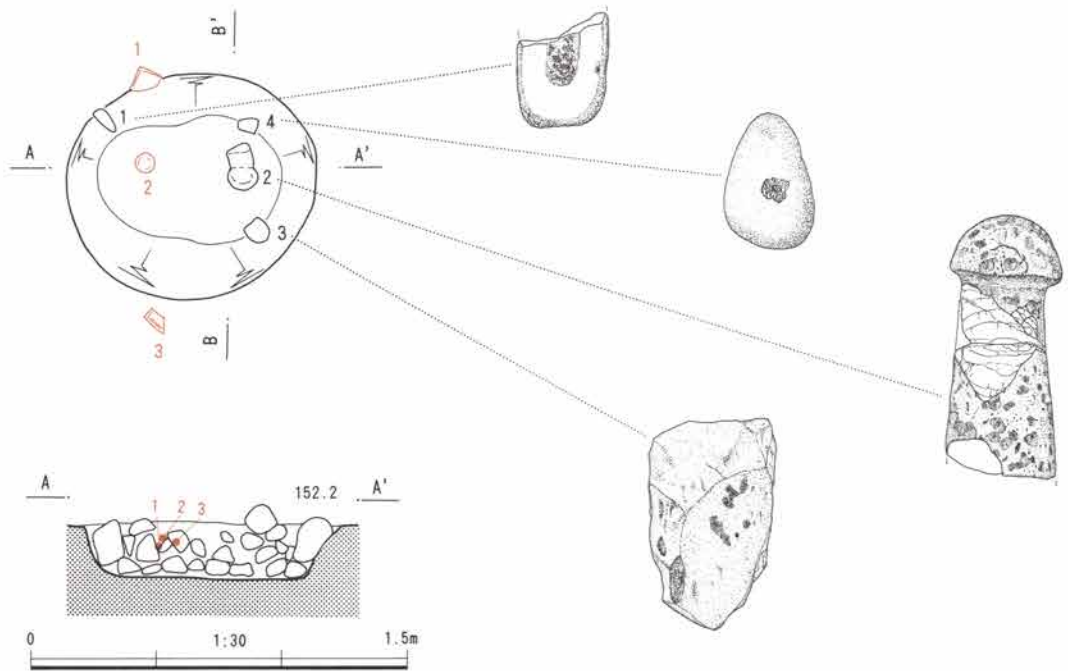
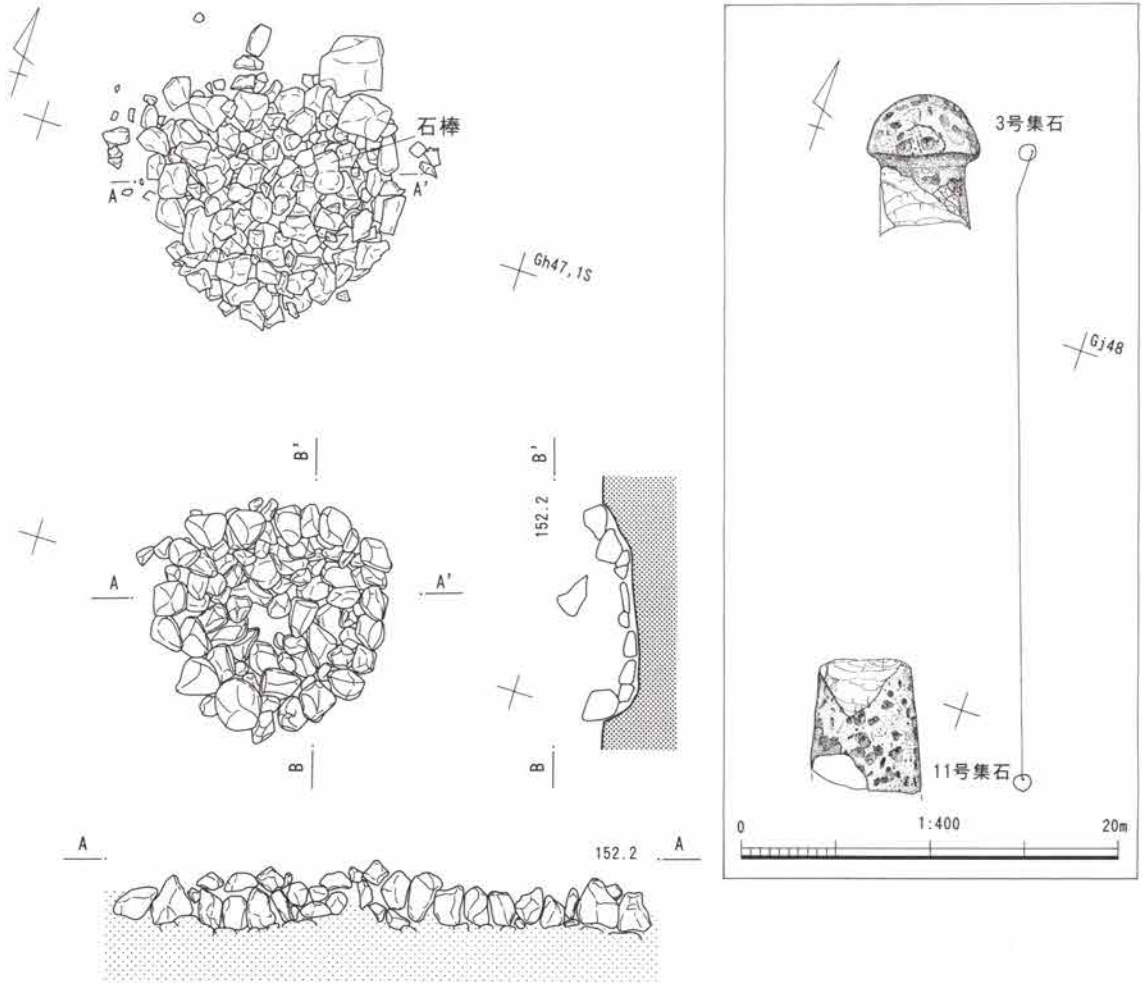


第16図 1号集石実測図

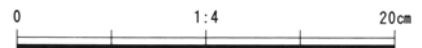
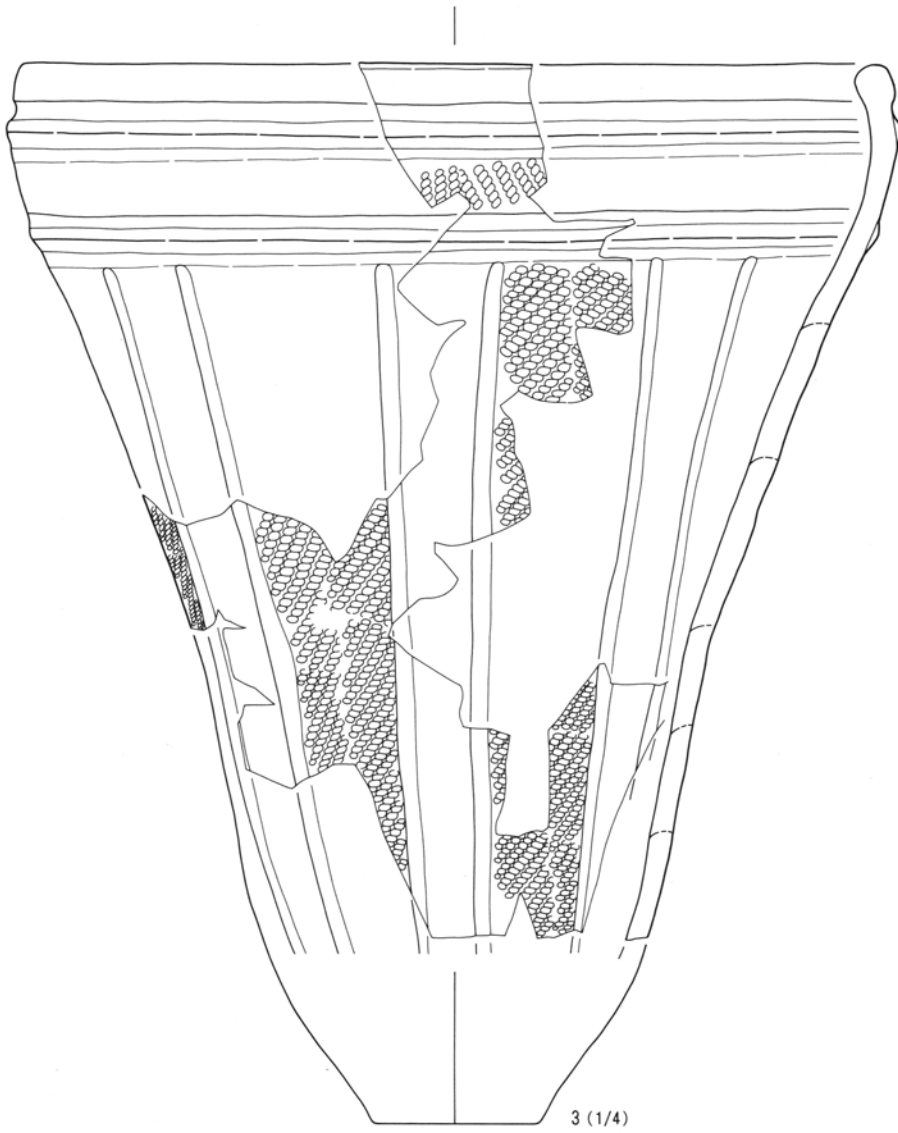
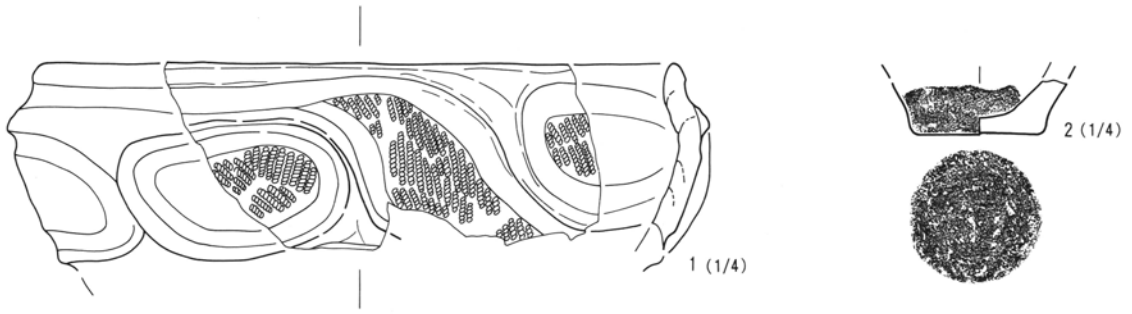


第17图 1号集石出土土器实测图

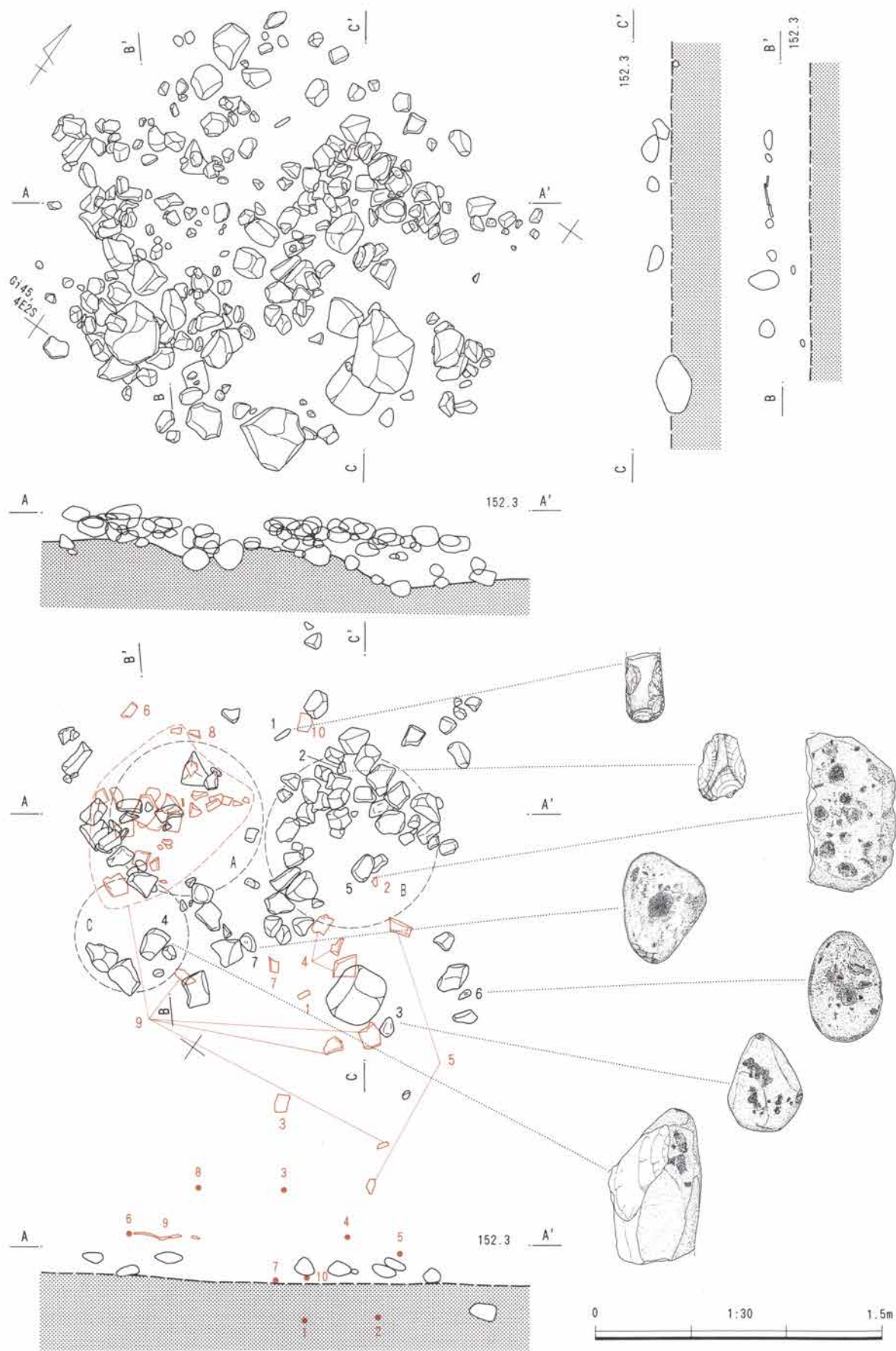
第2節 縄文時代



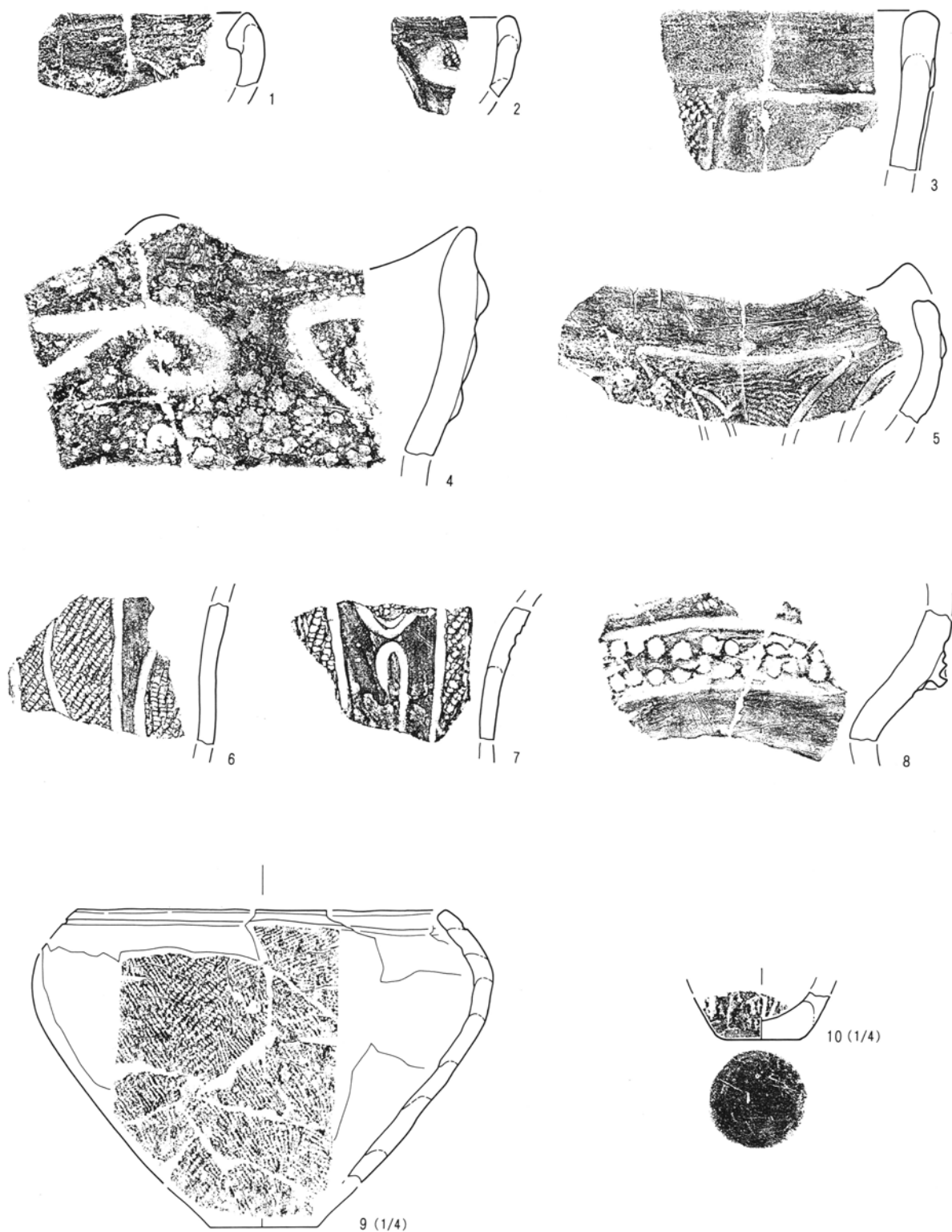
第18図 3号集石実測図



第19図 3号集石出土土器実測図



第20図 4号集石実測図

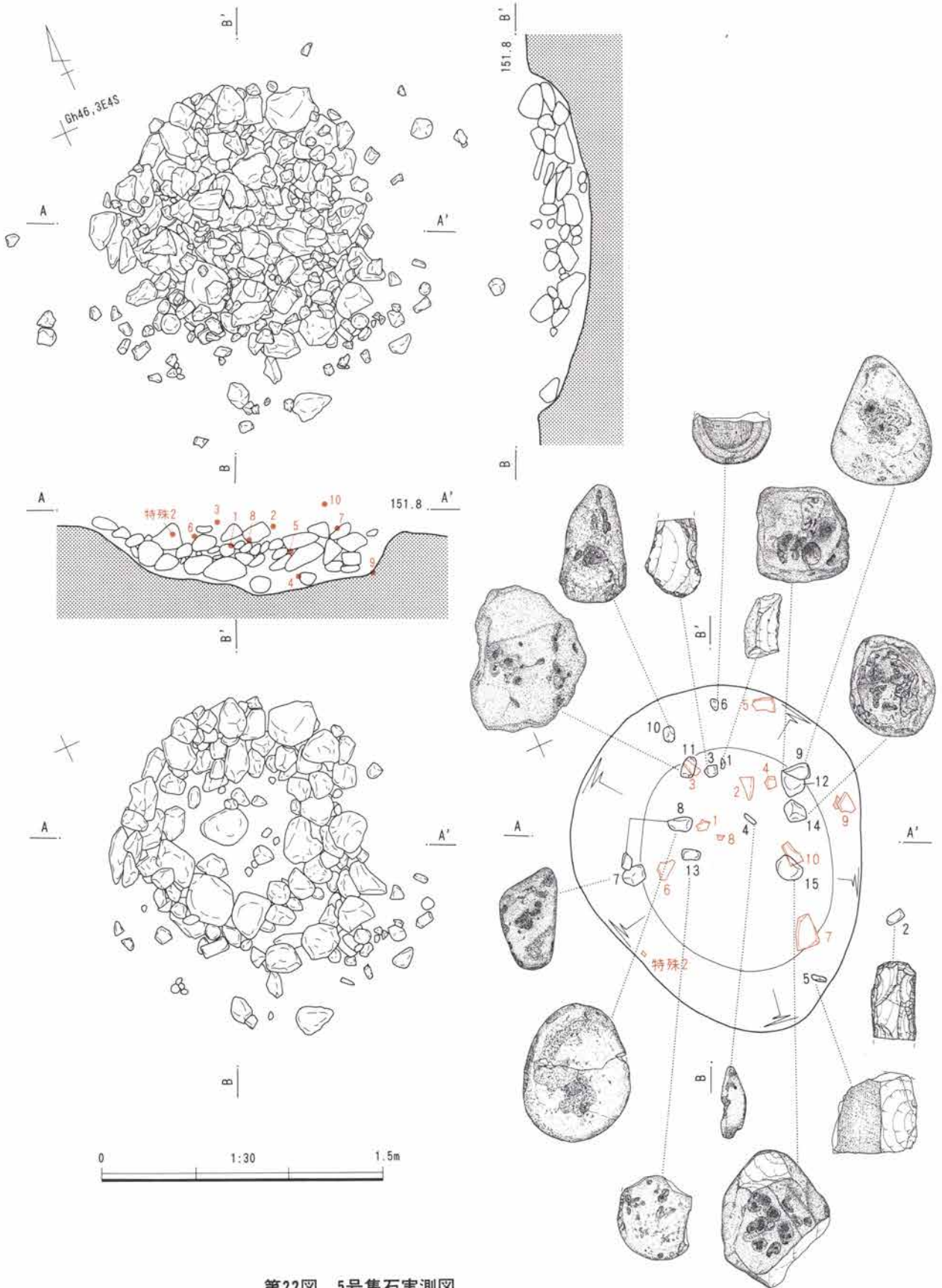


0 1:4 20cm

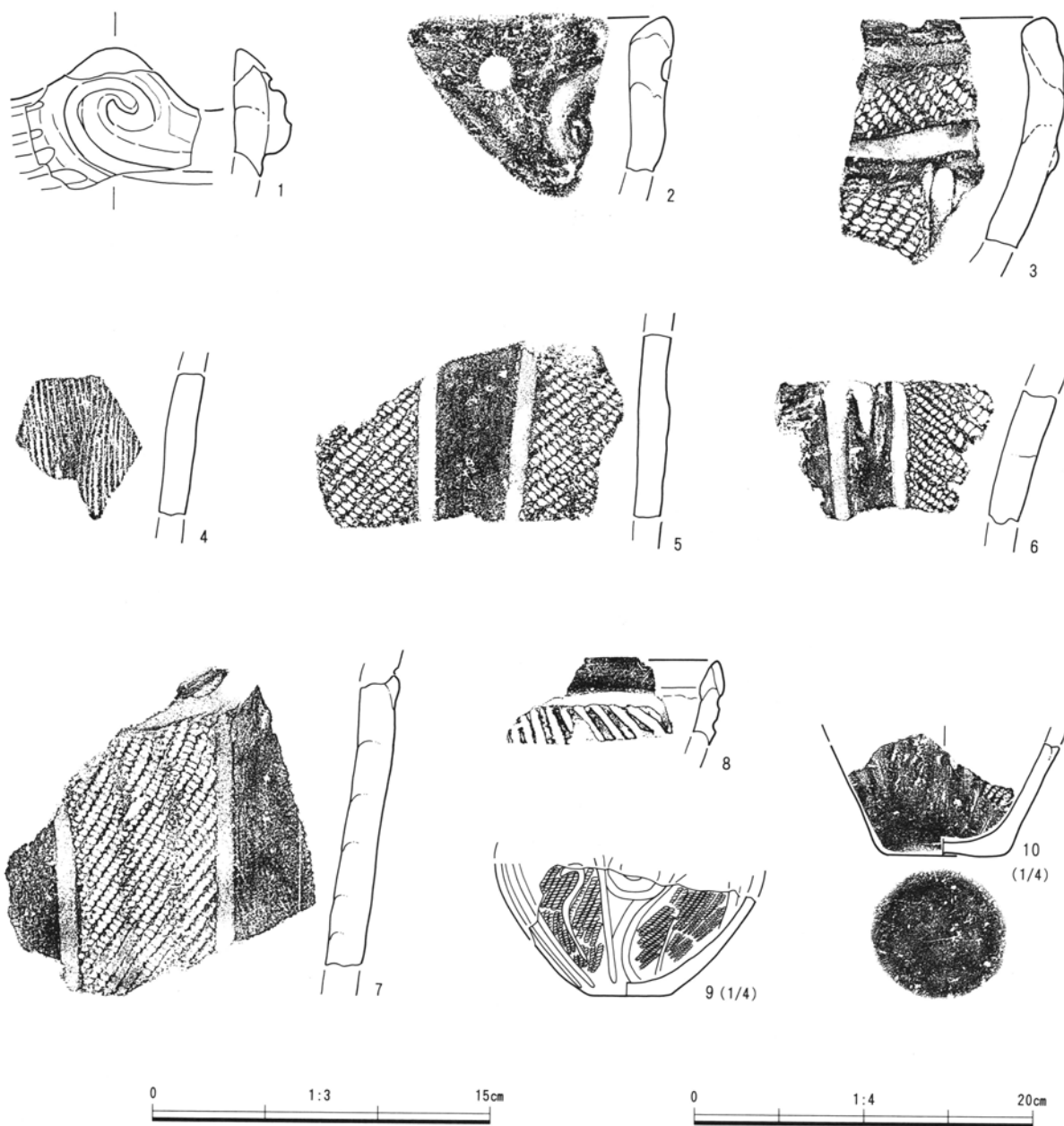
0 1:3 15cm

第21图 4号集石出土土器实测图

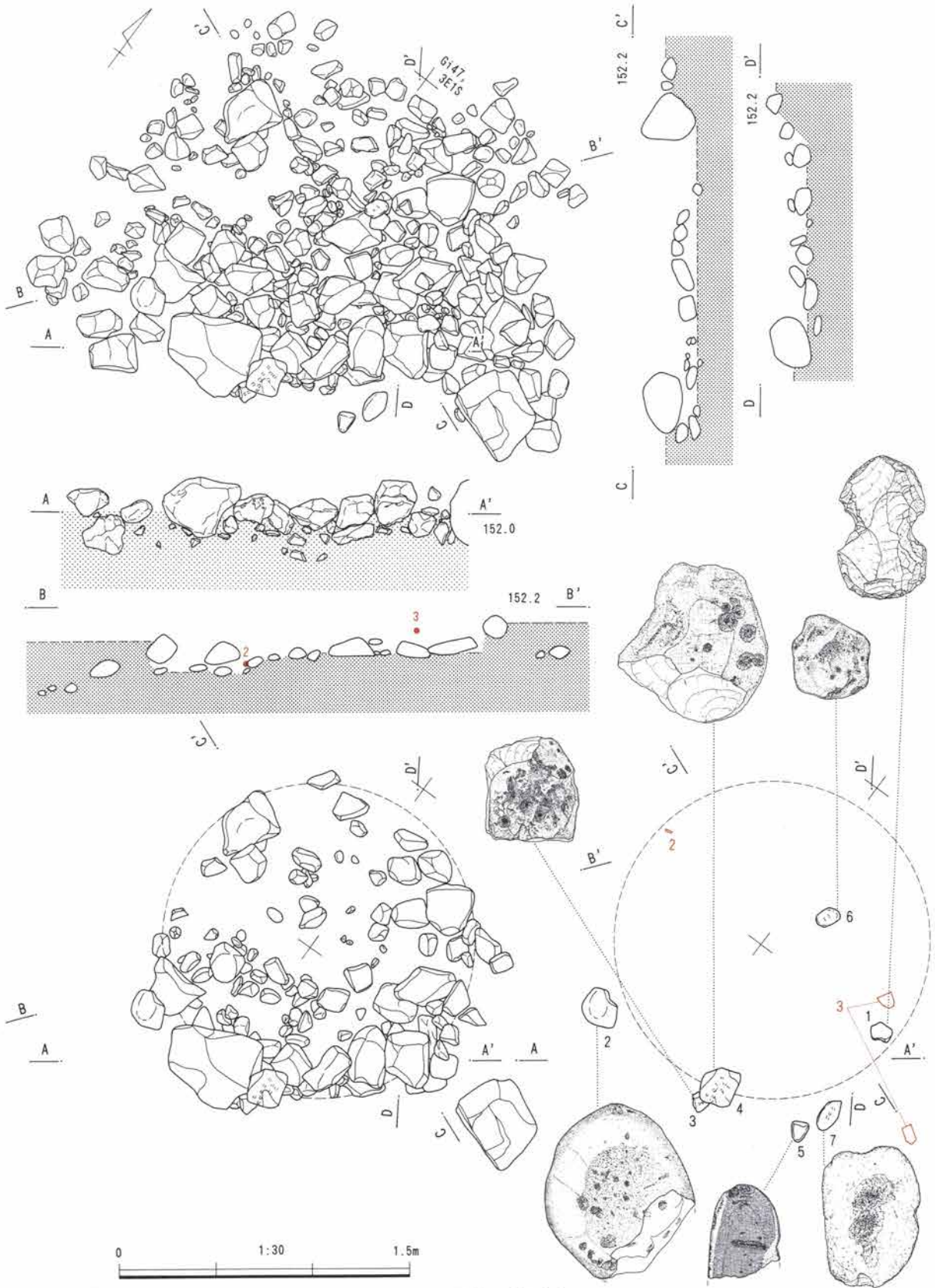
第2節 縄文時代



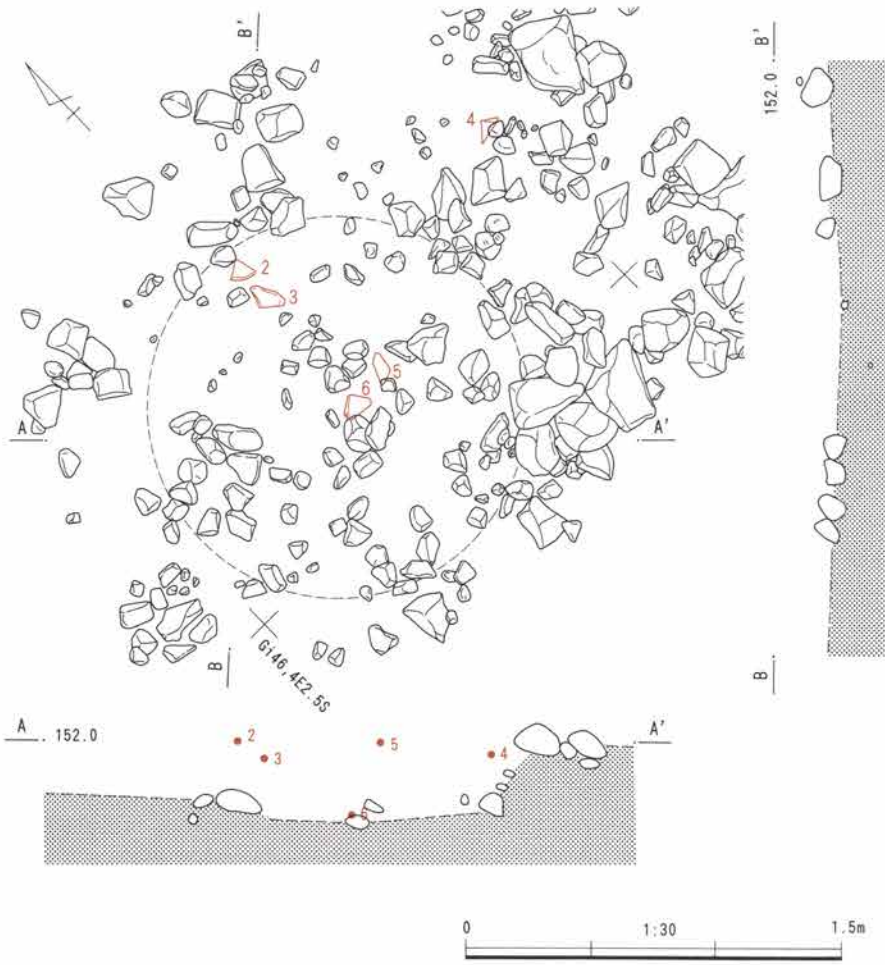
第22図 5号集石実測図



第23图 5号集石出土土器实测图

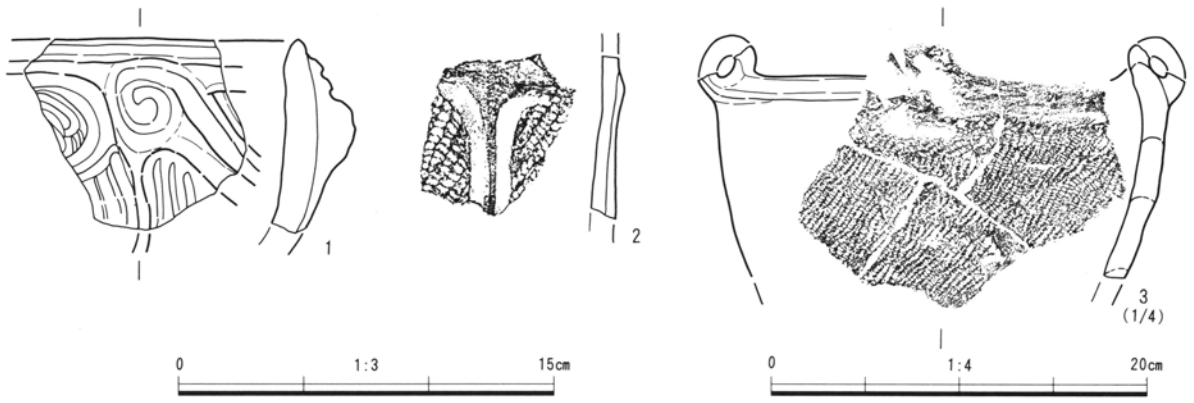


第24図 6号集石実測図

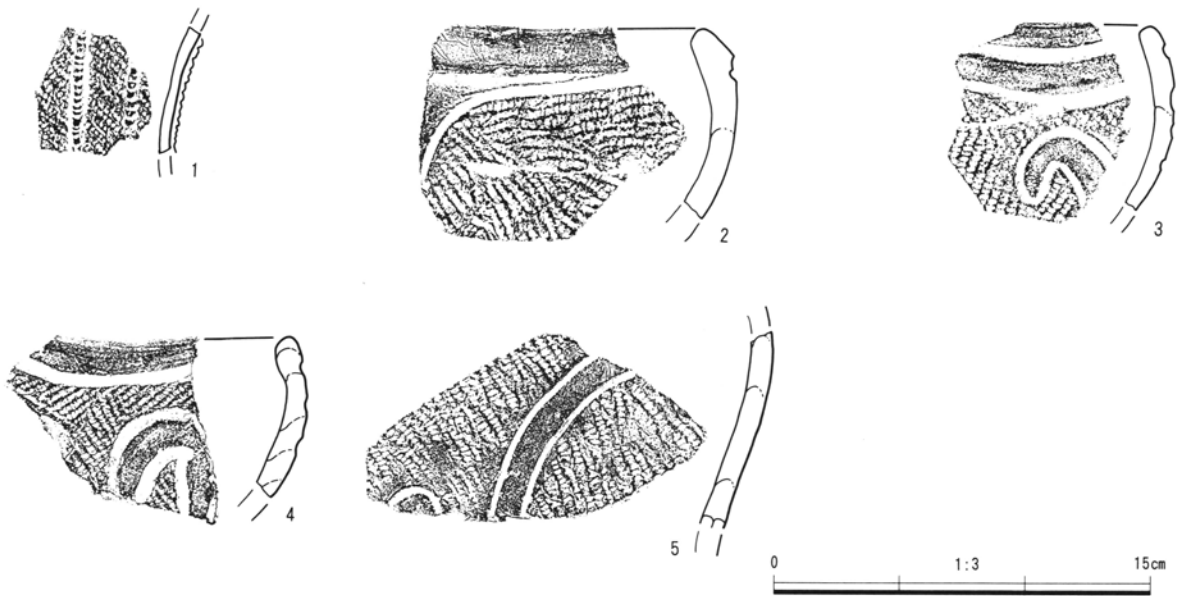


第25図 8号集石実測図

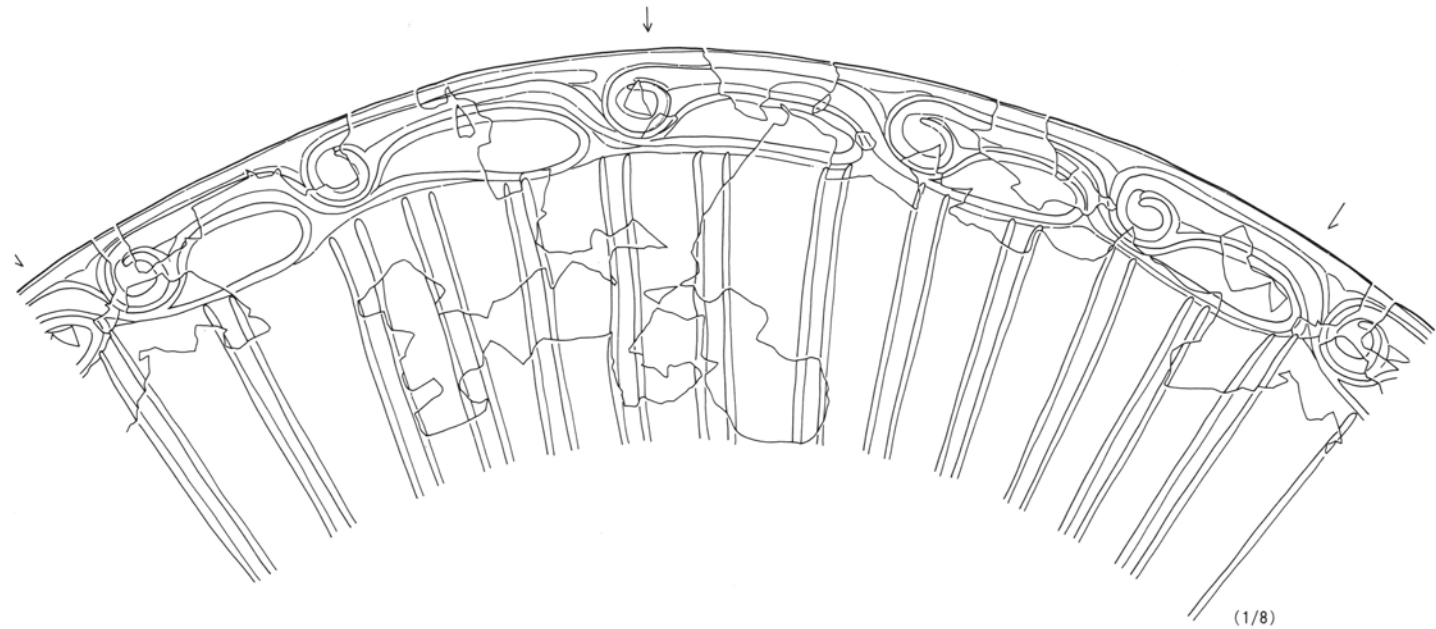
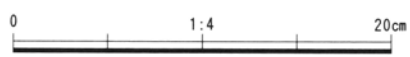
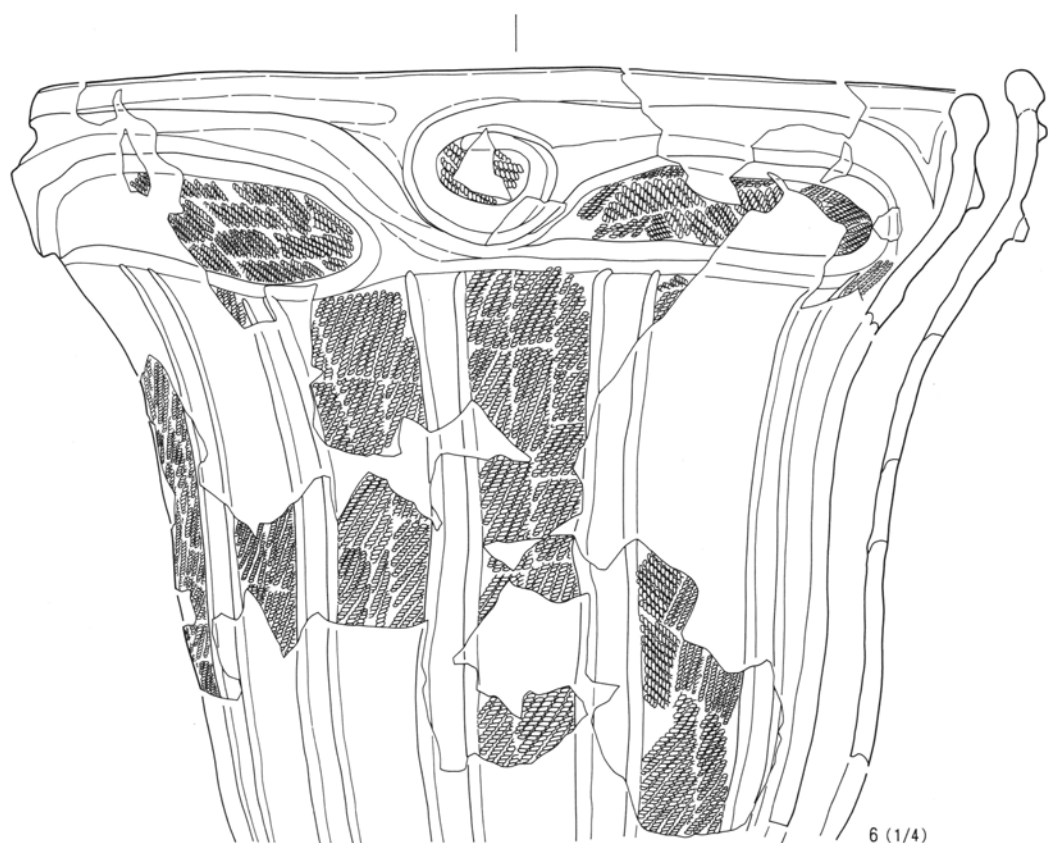
第2節 縄文時代



第26図 6号集石出土土器実測図

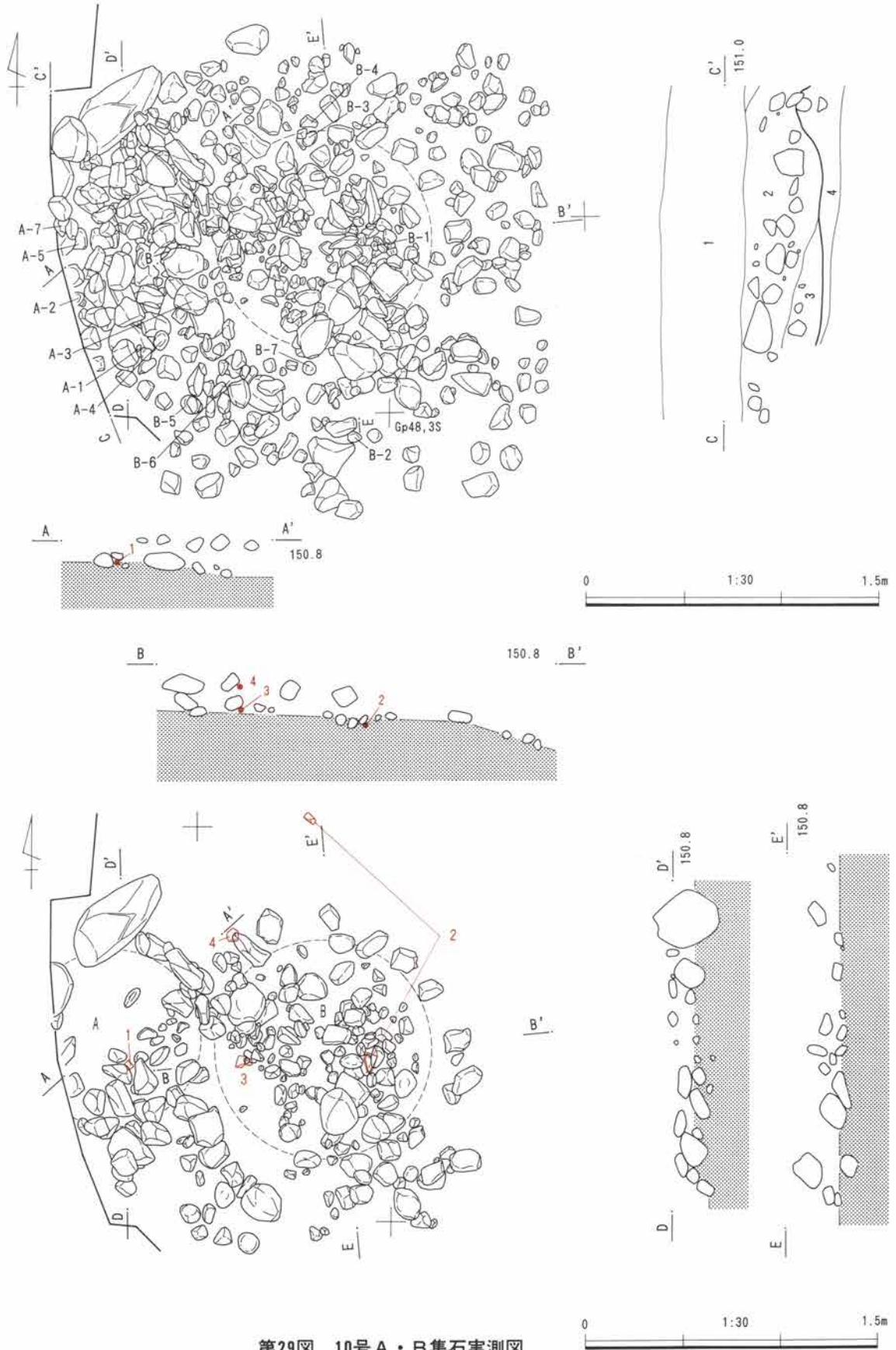


第27図 8号集石出土土器実測図(1)

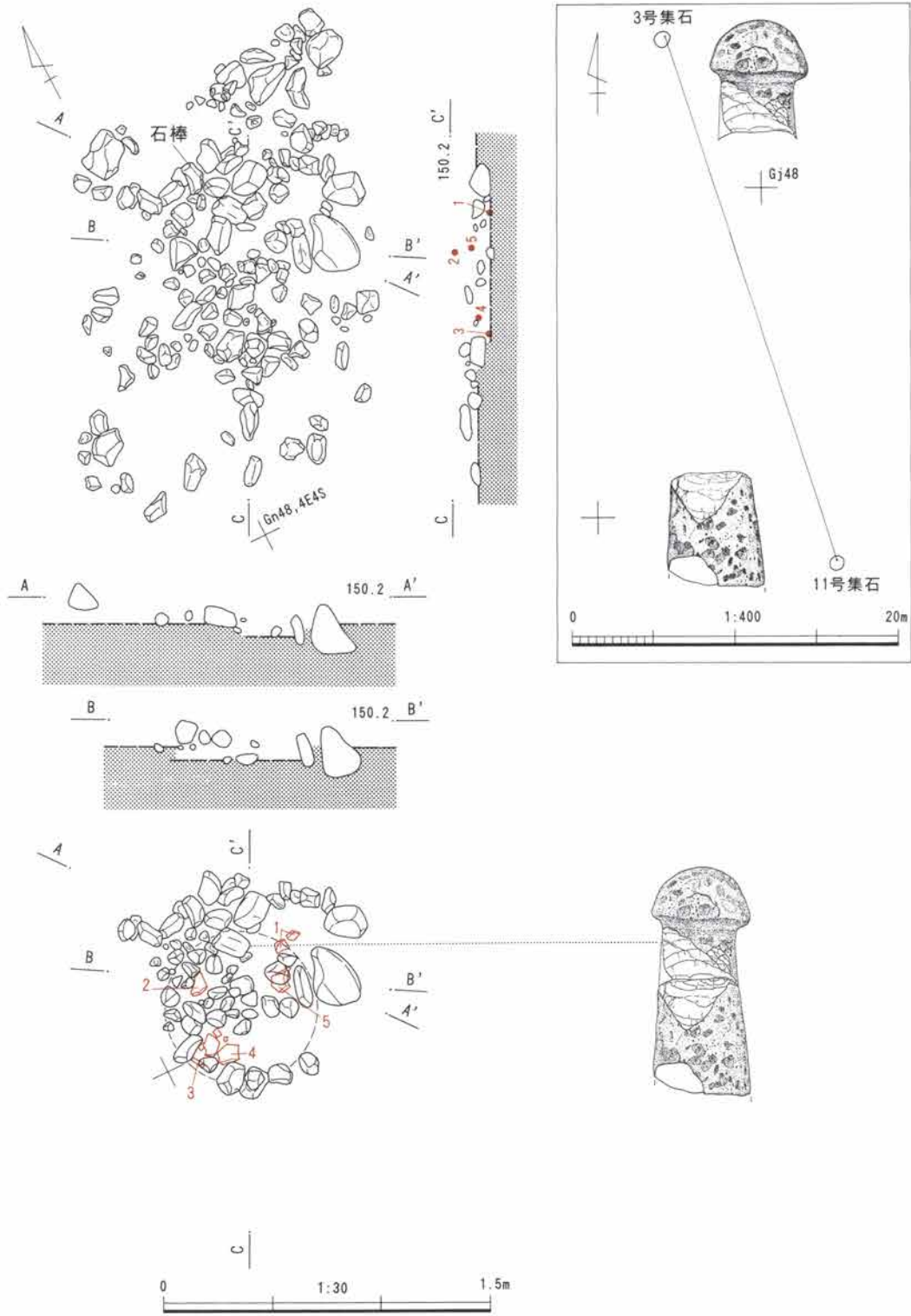


第28图 8号集石出土土器实测图(2)

第2節 縄文時代

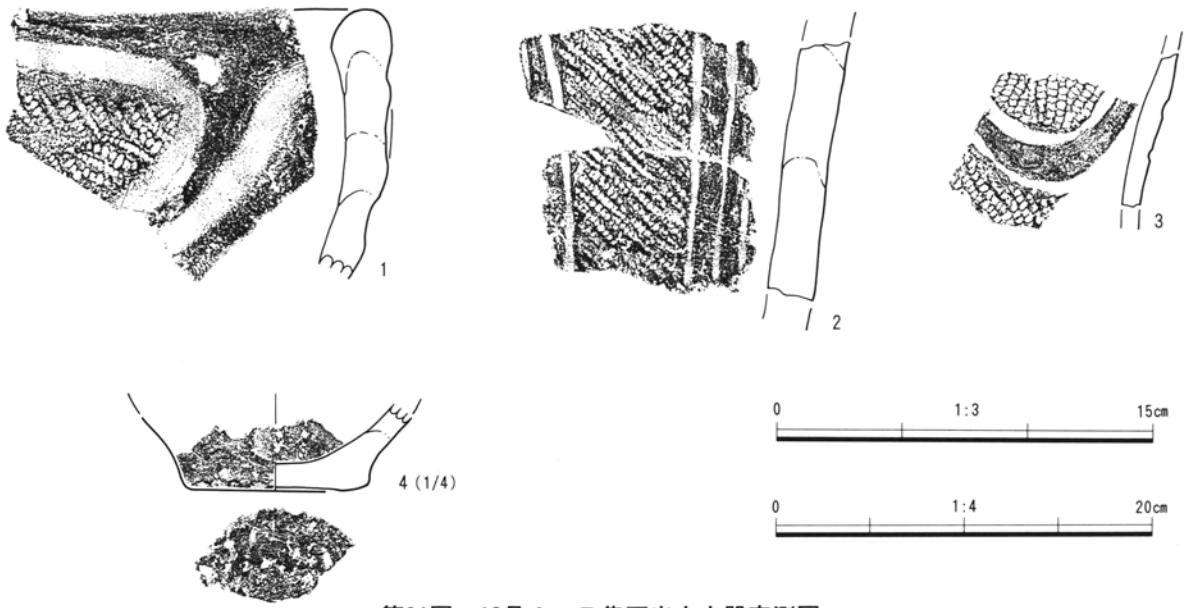


第29図 10号A・B集石実測図

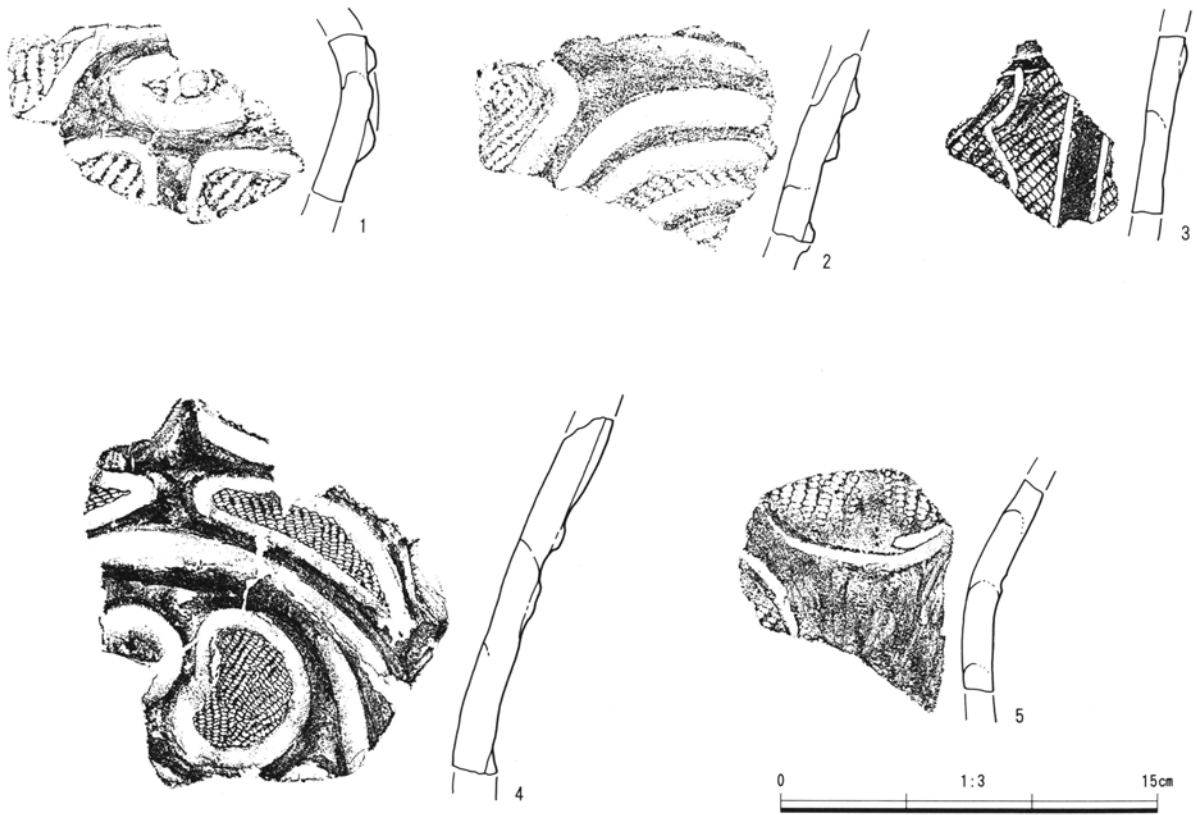


第30図 11号集石実測図

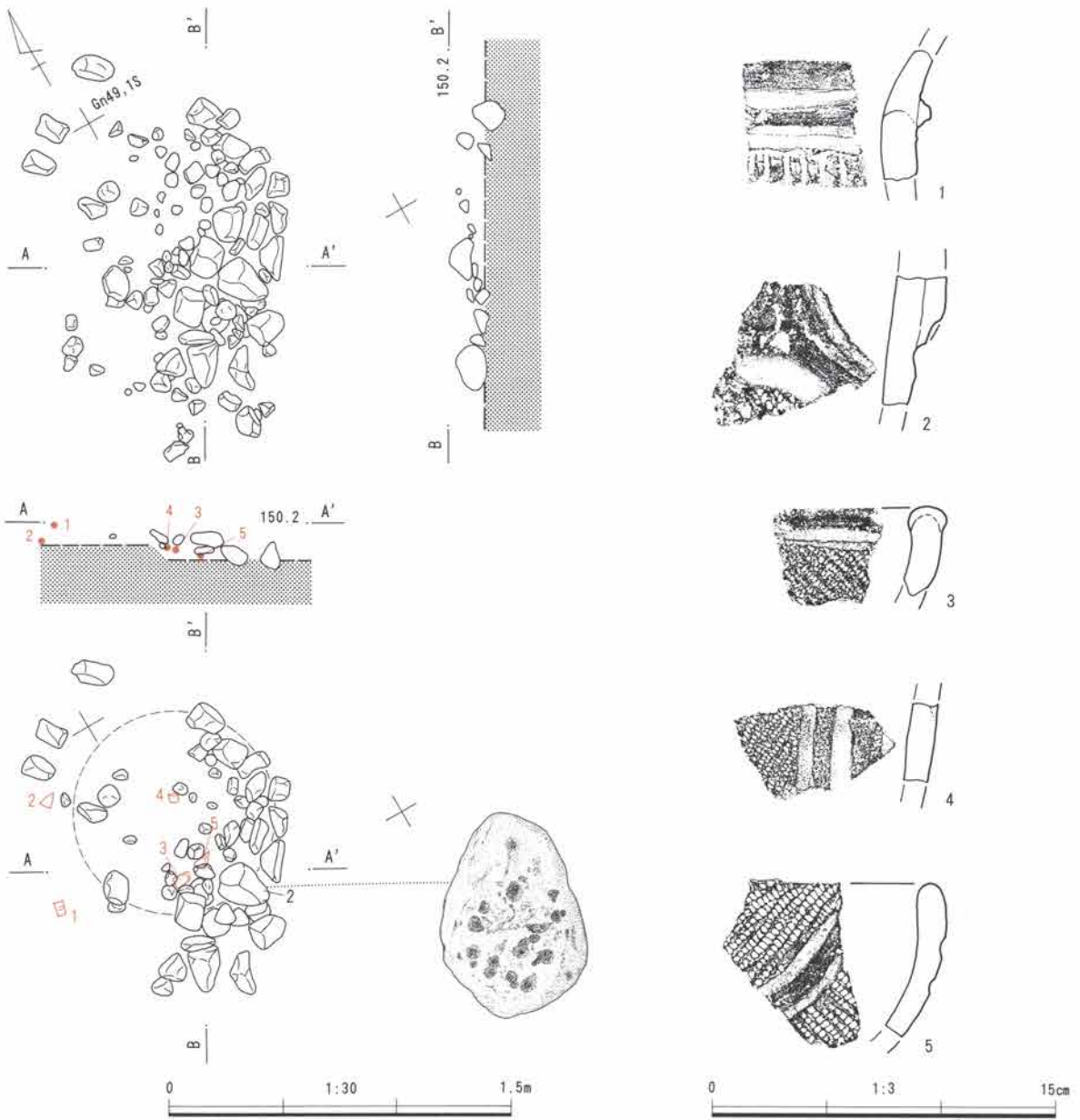
第2節 縄文時代



第31図 10号A・B集石出土土器実測図

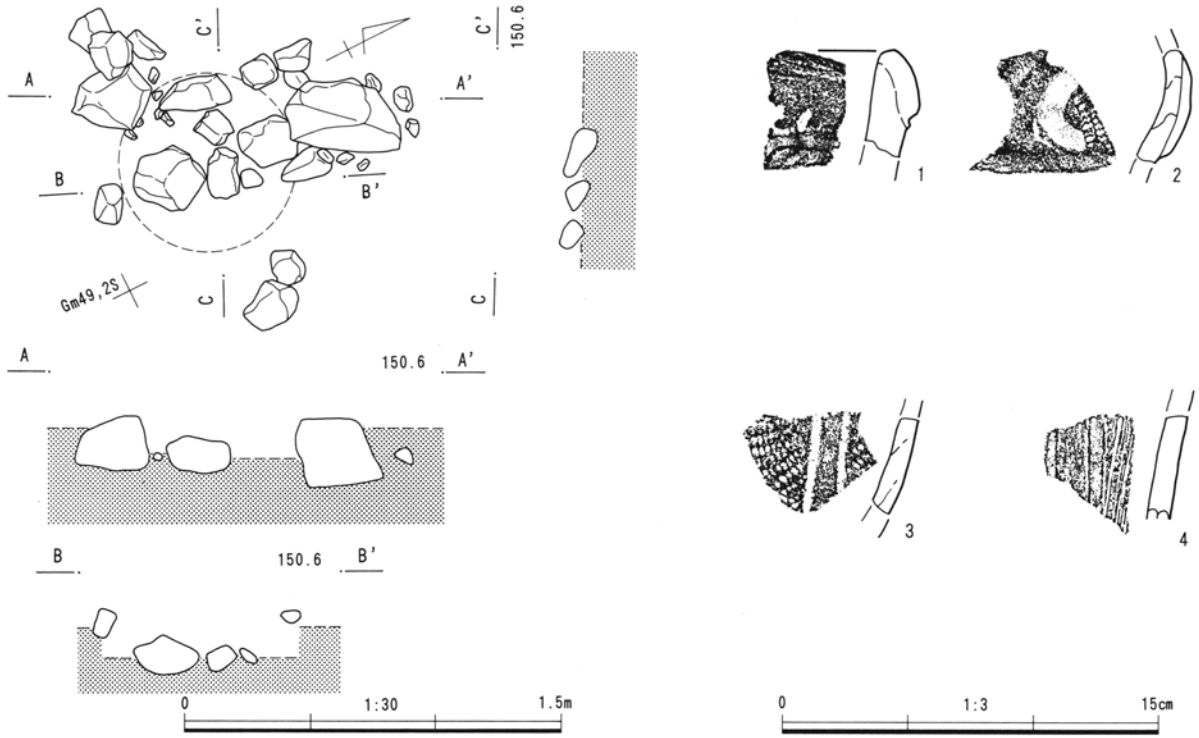


第32図 11号集石出土土器実測図

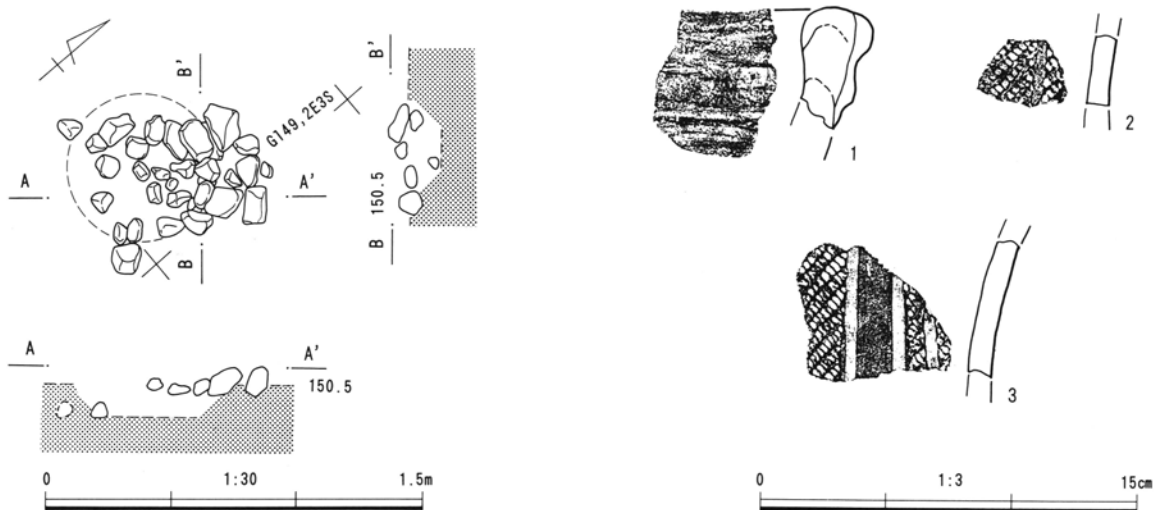


第33図 12号集石実測図・出土土器実測図

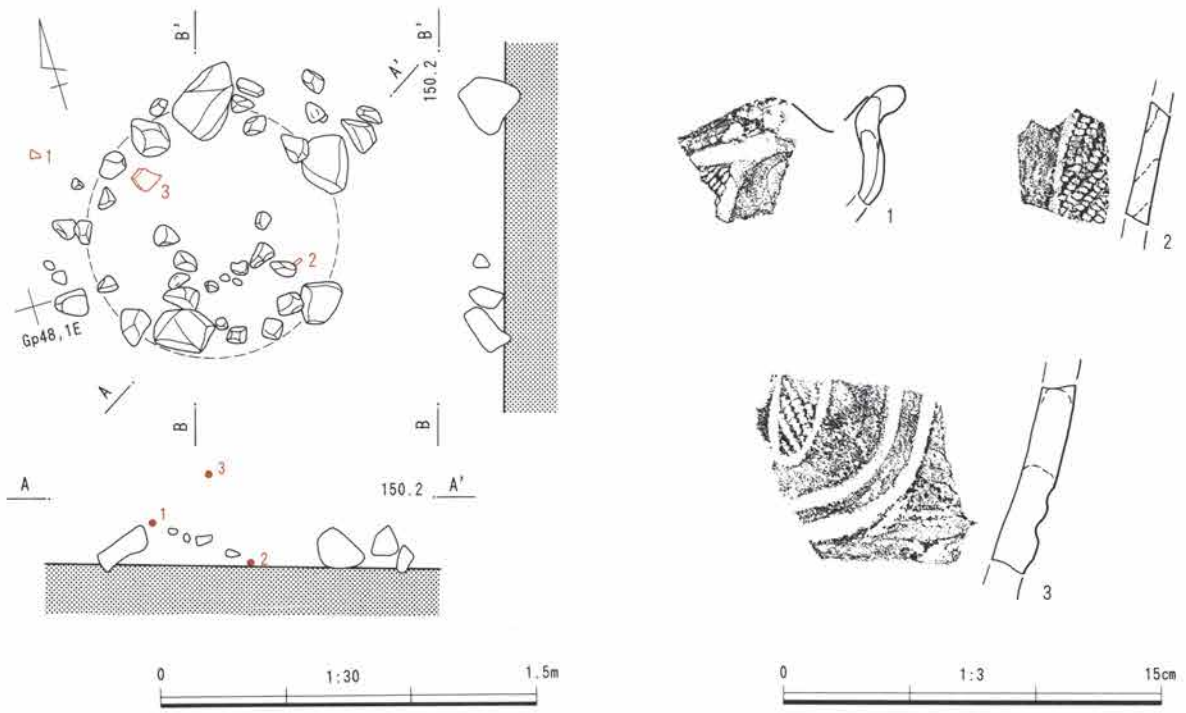
第2節 縄文時代



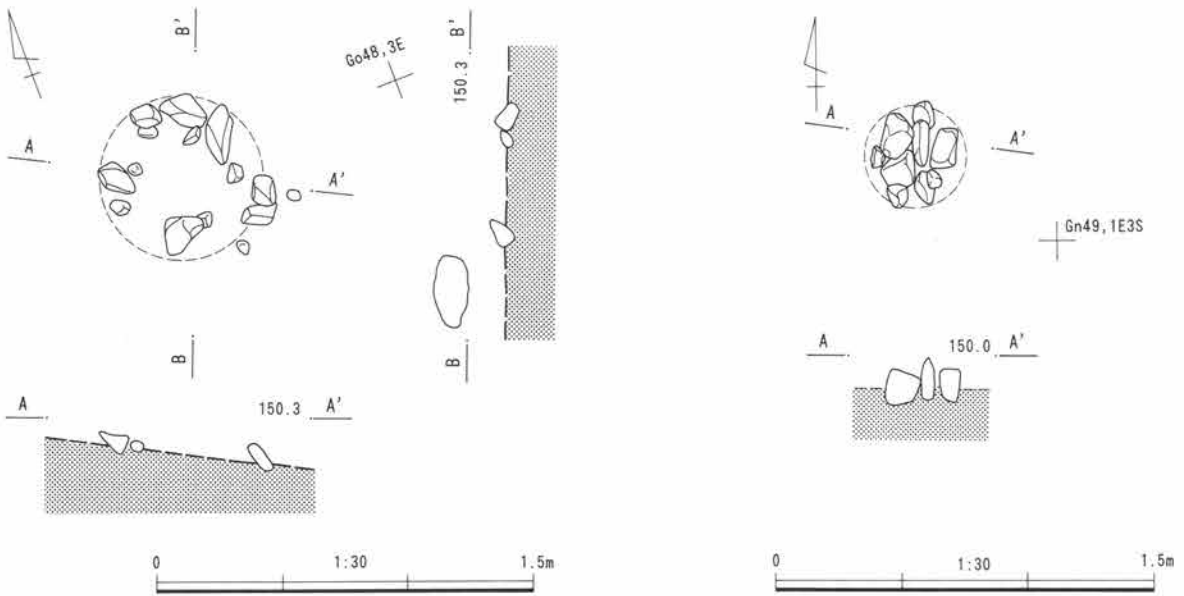
第34図 13号集石実測図・出土土器実測図



第35図 14号集石実測図・出土土器実測図



第36図 16号集石実測図・出土土器実測図



第37図 17号・18号集石実測図

第2節 縄文時代

形状は礫分布から平面形は円形を呈し、規模は直径100cm、深さは縁石底面まで16cmを測る。掘り方は確認できなかった。縁石は径30～8cm程の大小の礫を組み合わせるように巡らし、中央は径13～4cm程の小さめの礫が散在する。石材はすべて含角閃石輝石安山岩である。

本遺構は縁石を配し、礫混土で覆うように見受けられた。

遺物は凹石を構築材の一部とし、覆土中から深鉢の口縁部、胴部片が出土した。出土土器は加曾利E III式期である。

17号集石 (第37図、P L 8)

Gn・p-48グリッドに位置する。周辺には北東2.5mに11号集石、南3.9mに16号集石がある。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。確認は上層の礫群を除去し集石遺構を検出した。

形状は礫の分布から平面形は円形を呈し、規模は長径65cmを測る。掘り込みは確認出来なかった。縁石に径24～12cm程の礫を組み合わせ構築する。使用された礫の最大は2,200g、最小700gを測る。総数7個程の礫である。平均の大きさは重さ1,405gを測る。覆土内からは最大2,280g、最小は220g、平均535gで、総数6個程である。壁面の石材は北西の1個が粗粒輝石安山岩の他はすべて含角閃石輝石安山岩である。覆土内は含角閃石輝石安山岩である。

遺物の出土はない。

18号集石 (第37図、P L 8)

Gn-49グリッドに位置する。周辺には西0.5mに11号集石、北0.5mに12号集石がある。形状は礫の分布から平面形は円形を呈する。規模は長径40cmを測る。径18～8cm程の礫を充填し構築する。掘り込みは確認出来なかった。本遺跡の集石遺構の中で最も小さい規模である。使用された礫の最大は3,080g、最小300g、平均1,816gを測る。石材はすべて含角閃石輝石安山岩である。

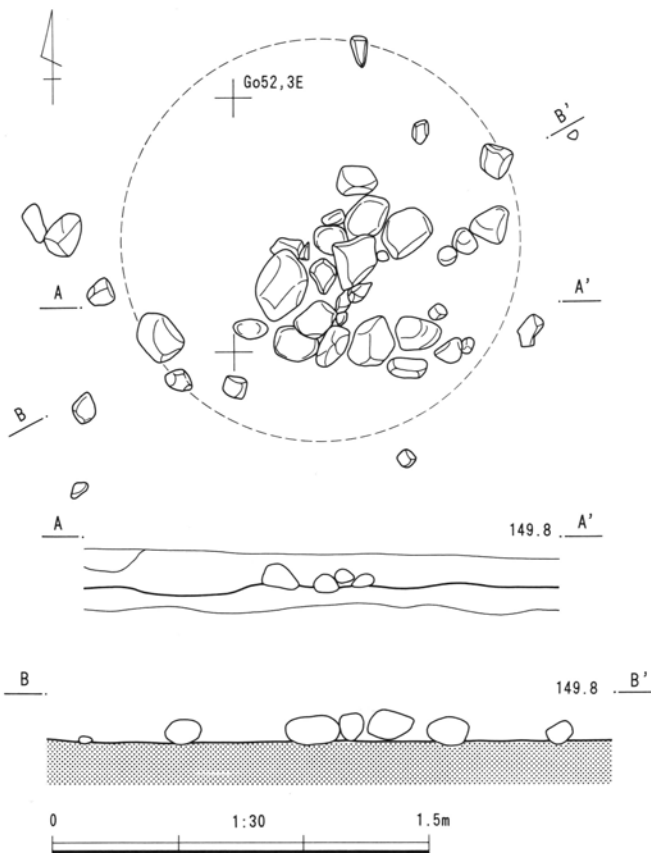
遺物の出土はない。

9号集石 (第38・118図、P L 8)

Gn・o-52グリッドに位置する。調査区西側に集中する集石遺構群から16m程離れて位置する5号配石内にある。本遺構は他の集石群とは異なる地点に検出したため番号は飛ぶがここで紹介する。

形状は礫の分布から平面形は円形を呈し、規模は直径160cmを測る。60cm間隔に径20～10cm程の礫を巡らし、中央には28～6cm程の礫を集中させる。掘り込みは確認出来なかった。石材はすべて含角閃石輝石安山岩である。

遺物は覆土中から三角錐形石器が出土した。



第38図 9号集石実測図

第4表 集石遺構出土土器観察表(1)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-1集 -1 第17図 P L 51	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.3)	G区1集石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y8/4 ③良好	内彎口縁。極めて高い隆帯による「ㄣ」 字状区画文、R L縄文横位充填。	V群
G-1集 -2 第17図 P L 51	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.9)	G区1集石 覆土	①中砂。白色粒子多量、石英 ・輝石・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	口唇部肥厚。「ㄣ」状区画内R L縄文充 填。	V群 外面黒斑 内外面粗れる
G-1集 -3 第17図 P L 51	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.0)	G区1集石 覆土	①中砂。赤褐色粒多量、白色 粒・輝石・石英少量。 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③やや悪い	逆「の」字状渦巻文。縦位沈線により胴 部分割、L R縄文充填。	V群 内面黒変
G-1集 -4 第17図 P L 51	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.4)	G区1集石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②にぶい黄2.5Y6/4 ③やや悪い	口縁内彎。弧状隆帯貼付、撚りの弱い L R縄文充填。	V群 内面口縁煤付着
G-1集 -5 第17図 P L 51	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.3)	G区1集石 覆土	①細砂。輝石・石英・白色粒 子少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや良し	「ㄣ」字状区画文、R L縄文充填。	V群 内外面黒変
G-1集 -6 第17図 P L 51	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.3)	G区1集石 覆土	①細砂。白色粒子・輝石・石 英少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや悪い	隆帯による横位小楕円文、脇に細い縦 位沈線施文。R L縄文施文。	V群 外面黒斑
G-1集 -7 第17図 P L 51	深鉢	口縁片 口一 底一 高(9.2)	G区1集石 覆土	①中砂。白色粒多量、輝石・ 石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや良し	口縁下に幅広横位沈線施文。R L縄文 横位充填。	V群 外面淡く黒変
G-1集 -8 第17図 P L 51	浅鉢	口縁片 口一 底一 高(8.4)	G区1集石 覆土	①中砂。石英・結晶片岩多量、 輝石・白色粒子少量 ②橙7.5Y R7/6 ③良好	内外面横位研磨。	V群 内外面黒変
G-1集 -9 第17図 P L 51	深鉢	胴部片 口一 底一 高(10.5)	G区1集石 覆土	①細砂。石英・白色粒子多量、 輝石・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③不良	縦位沈線3条一単位で胴部分割。R L 縄文充填。	V群
G-1集 -10 第17図 P L 51	深鉢	口辺部片 口一 底一 高(5.5)	G区1集石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒 少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好	「ㄣ」状沈線文、R L縄文充填。	V群 内面上端黒変
G-1集 -11 第17図 P L 51	両耳 壺	口縁片 口一 底一 高(5.7)	G区1集石 覆土	①中砂。白色粒多量、輝石・ 石英・赤褐色粒少量 ②明褐7.5Y R5/6 ③やや良し	口縁部外反、口辺部横位磨き。	V群
G-1集 -12 第17図 P L 51	浅鉢	胴部片 口一 底一 高(6.9)	G区1集石 覆土	①細砂。石英・白色粒子多量、 輝石・赤褐色粒子少量 ②灰黄2.5Y7/2 ③良好	弧線文、横位楕円文、L R縄文充填。	V群
G-1集 -13 第17図 P L 51	浅鉢	胴部片 口一 底一 高(8.3)	G区1集石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや良し	横位楕円区画文内R L縄文充填。体部 幅1cm6本櫛状工具による縦位波状沈 線文。	V群 外面一部黒変
G-1集 -14 第17図 P L 51	両耳 壺	口縁片 口一 底一 高(14.7)	G区1集石 覆土	①中砂。石英・輝石多量、白 色粒子・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③やや良し	部厚く、重いつくり。口辺部横位磨き。 胴部R L縄文施文。	V群 外面煤付着(黒変)
G-1集 -15 第17図 P L 51	深鉢	口縁片1/4 口(26.8) 底一 高(13.6)	G区1集石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒 ・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや良し	内彎口縁。口縁下に横位沈線、下に2 重沈線による「ㄣ」字状文、外側にR L 縄文縦位充填。	V群 外面口縁淡く黒変 内面一部淡く黒変

第2節 縄文時代

第4表 集石遺構出土土器観察表(2)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-1集 -16 第17図 P L 51	両耳 壺	口縁片1/4 口(37.6) 底— 高13.2	G区1集石 覆土	①中砂。輝石・白色粒多量、 石英少量 ②灰黄2.5Y 7/2 ③やや悪い	口縁無文部横撫で。頸部低隆帯巡り、 0段3条R L R複節縄文斜め縦位施 文。あるいは区画文を配すか？。両脇 に把手が付くものと思われるが欠失。	V群 内面口縁煤付着
G-1集 -17 第17図 P L 51	深鉢	胴～底部1/6 口— 底(8.0) 高(3.6)	G区1集石 覆土	①細砂。白色粒子・石英・赤 褐色粒・輝石少量 ②におい黄橙10Y R 6/3 ③やや悪い	内面篋状工具による撫で。外面指撫で。	V群
G-3集 -1 第19図 P L 52	深鉢	口縁片1/4 口(33.6) 底— 高(9.8)	G区3集石 覆土	①中砂。輝石・白色粒・石英 ・赤褐色粒少量 ②におい橙7.5Y R 7/4 ③良好	口縁部内彎。隆帯による楕円区画文。 R L縄文横・斜位充填。	V群
G-3集 -2 第19図 P L 52	深鉢	底部片 口— 底6.8 高(2.8)	G区3集石 覆土	①中砂。白色粒・石英多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②におい黄橙10Y R 7/4 ③良好	胴部隆帯と両脇の沈線により分割。底 部磨き、やや上底さみ。内面磨き。	V群 内面黒変
G-3集 -3 第19図 P L 52	深鉢	口～胴下部 口(46.0) 底— 高(46.2)	G区3集石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 多量、赤褐色粒少量 ②灰黄2.5Y 7/2 ③ややよし	口唇部肥厚、やや内傾。口縁下に隆帯 と沈線による横位区画内にR L縄文横 位充填。胴部は2条沈線による8単位 分割。	V群 内外面一部黒変
G-4集 -1 第21図 P L 52	深鉢	口縁片 口— 底— 高(3.9)	G区4集石 覆土	①中砂。白色粒・輝石多量、 石英・赤褐色粒少量 ②橙5Y R 6/6 ③やや悪い	口唇部内屈。内外面横位撫で。	V群 内外面一部黒変
G-4集 -2 第21図 P L 52	深鉢	口縁片 口— 底— 高(3.9)	G区4集石 覆土	①中砂。白色粒子・輝石・石 英少量 ②におい黄橙10Y R 6/4 ③ややよし	口縁やや内彎。横位楕円文もしくは渦 巻文、R L縄文充填。	V群
G-4集 -3 第21図 P L 52	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.8)	G区4集石 覆土	①中砂。輝石・白色粒多量、 赤褐色粒・石英少量 ②灰黄褐10Y R 6/2 ③ややよし	口縁から3.5cm下に横位微隆線、そこ から下に縦位微隆線貼付、R L縄文充 填。	V群
G-4集 -4 第21図 P L 52	深鉢	口縁片 口— 底— 高(11.3)	G区4集石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②におい黄橙10Y R 7/4 ③ややよし	波状口縁、突起先端一部欠損、逆の「 」字状渦巻文、楕円区画文。	V群 器面あばた状に剝 落内外面一部黒変
G-4集 -5 第21図 P L 52	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.0)	G区4集石 覆土	①中砂。赤褐色粒・白色粒・ 輝石・石英少量 ②明赤褐5Y R 5/6 ③やや悪い	波状口縁、3cm下に微隆線貼付、沈線 により弧線文もしくは渦巻文。L R縄 文充填。	V群 外面煤付着黒変、 赤変 器面粗れる
G-4集 -6 第21図 P L 53	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.7)	G区4集石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒 ・赤褐色粒少量 ②におい黄橙10Y R 7/4 ③良好	縦位沈線、R L縄文充填、波状懸垂文。	V群 内外面一部黒変
G-4集 -7 第21図 P L 53	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.6)	G区4集石 覆土	①中砂。白色粒多量、石英・ 輝石少量 ②浅黄2.5Y 7/3 ③良好	縦位沈線により分割、区画内弧線文、 蕨手文、R L R複節縄文充填。	V群 内外面剝落
G-4集 -8 第21図 P L 53	深鉢	頸部片 口— 底— 高(6.5)	G区4集石 覆土	①粗砂。赤褐色粒多量、白色 粒・輝石・石英少量 ②におい橙5Y R 7/4 ③やや悪い	口縁部L R縄文横位施文、その下に2 列に円形刺突を施す隆帯貼付。上下に 横位沈線施文。頸部横位磨き、無文。	V群
G-4集 -9 第21図 P L 53	浅鉢	口縁～胴下 口24.8 底— 高(18.0)	G区4集石 覆土	①中砂。赤褐色粒・白色粒子 多量、輝石少量 ②橙2.5Y R 6/8 ③やや悪い	口縁下に沈線が1条巡る。L Rの細か い縄を沈線下に横位、その下は縦位施 文。1ヶ所粗いR L縄文を縦位施文。	V群 内外面煤付着黒変
G-4集 -10 第21図 P L 53	深鉢	底部片 口— 底3.0 高(3.1)	G区4集石 覆土	①細砂。白色粒・輝石多量、 石英・赤褐色粒子少量 ②におい黄橙10Y R 7/4 ③良好	隆帯に縦位沈線施文。R L縄文充填。	V群 外面底黒変

第4表 集石遺構出土土器観察表(3)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-5集 -1 第23図 P L53	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.2)	G区5集石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒 子多量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③良好	波状口縁。突起部欠損。口縁はやや内 彎気味。隆帯による逆「の」字状渦巻文 は高いが角は明瞭ではない。隆帯左上 側には浅い沈線が認められる。	V群
G-5集 -2 第23図 P L53	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.7)	G区5集石 覆土	①中砂。白色粒・赤褐色粒多 量、石英・輝石少量 ②明黄褐10Y R6/6 ③不良	渦巻文と楕円文の間のφ1.5cmの円形 凹み施文。	V群
G-5集 -3 第23図 P L53	深鉢	口縁片 口一 底一 高(10.1)	G区5集石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②明赤褐2.5Y R5/8 ③やや良し	口縁部横位2条浅沈線区画、RL縄文 横位充填、胴部との境に微隆線貼付、 縦位2条沈線により胴部分割、RL縄 文縦位充填。	V群
G-5集 -4 第23図 P L53	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.1)	G区5集石 覆土	①細砂。石英粒子多量、赤褐 色粒・白色粒少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③やや悪い	幅1.2cm本櫛状工具による縦位沈線。	V群 外面赤変
G-5集 -5 第23図 P L53	深鉢	胴部片 口一 底一 高(8.0)	G区5集石 覆土	①中砂。石英粒子多量、輝石 ・白色粒・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R6/8 ③やや悪い	2条沈線により縦位分割、RL縄文縦 位充填。	V群 外面一部煤付着黒 変
G-5集 -6 第23図 P L53	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.7)	G区5集石 覆土	①粗砂。白色粒・輝石多量、 赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③やや良し	縦位沈線により分割、間に蕨手文、L R縄文縦位施文。	V群
G-5集 -7 第23図 P L53	深鉢	胴部片 口一 底一 高(12.6)	G区5集石 覆土	①中砂。石英粒子多量、白色 粒・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③やや良し	弧線文、2条沈線縦位施文分割、RL 縄文充填。	V群
G-5集 -8 第23図 P L53	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.7)	G区5集石 覆土	①中砂。白色粒・赤褐色粒・ 輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③良好(硬質)	口唇部両面から粘土貼付。口縁下に横 位沈線、その下に幅3mm竹管状工具に よる斜縦位沈線施文。	VI群 Gi-46-9に類似
G-5集 -9 第23図 P L53	深鉢	底部片 口一 底4.8 高(7.4)	G区5集石 覆土	①細砂。輝石・石英粒子多量、 白色粒少量 ②橙5Y R6/8 ③やや良し	低隆帯と両脇の浅い沈線により5単位 区画。区画内には弧線または蕨手文が 沈線により施文。隆帯の途中には渦巻 もしくは円形文施文。	V群 内面黒変 外面上部黒変 下部赤変
G-5集 -10 第23図 P L53	深鉢	底部片 口一 底7.2 高(6.6)	G区5集石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒 ・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③良好	比較的薄手。胴部は2条沈線により6 単位分割、RL縄文縦位充填。底部は やや上底気味。	V群
G-6集 -1 第26図 P L54	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.7)	G区6集石 覆土	①中砂。輝石・白色粒・石英 多量 ②橙5Y R6/6 ③やや良し	口縁わずかに内彎、口唇部は薄い。隆 帯による逆「の」字状渦巻文、横位楕円 区画文。沈線充填。	V群
G-6集 -2 第26図 P L54	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.3)	G区6集石 覆土	①中砂。結晶片岩・チャート ・石英多量 ②暗赤褐2.5Y R3/2 ③良好(硬質)	「U」字状沈線文、RLR複節縦文充填。	V群
G-6集 -3 第26図 P L54	深鉢	口縁～胴部 口(27.0) 底一 高12.3	G区6集石 覆土	①中砂。白色粒極多量、輝石 ・赤褐色粒・石英少量 ②明赤褐5Y R5/6 ③極めて悪い	口縁に橋状突起貼付、横位低隆帯によ り区画され、RL縄文縦位施文。	V群 外面口辺黒変
G-8集 -1 第27図 P L54	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.0)	G区8集石 覆土	①中砂。結晶片岩・雲母多量、 輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい赤褐5Y R4/3 ③良好(硬質)	かなり薄手。縦位2条隆帯上半截竹 管による結節沈線施文。地文はRL縄 文横位施文。	IV群
G-8集 -2 第27図 P L54	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.5)	G区8集石 覆土	①細砂。白色粒・石英・輝石 少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③やや良し	口縁部内彎。幅3mm竹管状工具による 弧線文。内部LR縄文充填。	V群 外面煤付着黒変、 赤変

第2節 縄文時代

第4表 集石遺構出土土器観察表(4)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-8集 -3 第27図 P L 54	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.3)	G区8集石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒 ・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや悪い	内彎口縁。口縁下に横位2条沈線、渦 巻文施文。R L縄文充填。	V群 外面煤付着黒変
G-8集 -4 第27図 P L 54	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.2)	G区8集石 覆土	①中砂。石英・白色粒子多量、 赤褐色粒・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③ややよし	波状口縁、口縁下に沈線が沿う。その 下に「∩」状沈線施文。L R縄文充填。	V群 外面黒変
G-8集 -5 第27図 P L 54	深鉢	胴部片 口— 底— 高(7.7)	G区8集石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好	細沈線による弧線文、L R縄文充填。	V群 外面上部黒変 下部赤変
G-8集 -6 第28図 P L 54	深鉢	口縁～胴下部 1/2 口50.8 底— 高(40.0)	G区8集石 覆土	①細砂。輝石・石英・白色粒 子少量 ②赤褐2.5Y R4/8 ③良好(硬質)	口縁部文様帯「の」字状渦巻文5単位施 文。隆帯は高くはっきりしており、断 面下側は角張る。胴部は2本1組の沈 線間、磨消6条施文。口縁部文様帯の 区画とずれる。0段多条R L縄文充填。	V群
G-10集 -1 第31図 P L 54	深鉢	口縁片 口— 底— 高(10.6)	G区10集石 覆土	①中砂。白色粒・赤褐色粒・ 輝石・石英少量 ②橙5Y R6/8 ③やや悪い	横位楕円区画、R L縄文横位充填。	V群
G-10集 -2 第31図 P L 54	深鉢	胴部片 口— 底— 高(10.1)	G区10集石 覆土	①中砂。白色粒・輝石多量、チ ャート・石英・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R7/6 ③不良	縦位3条以上1単位沈線により分割、 L R縄文充填。	V群 内面剥落
G-10集 -3 第31図 P L 54	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.7)	G区10集石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③ややよし	弧状沈線、L R縄文充填。	V群
G-10集 -4 第31図 P L 54	深鉢	底部片 口— 底(4.8) 高(4.6)	G区10集石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③やや悪い	内外面撫で。底部中心はやや薄い。	V群
G-11集 -1 第32図 P L 55	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.5)	G区11集石 覆土	①中砂。5mm礫、白色粒・石 英・海綿骨針多量、輝石・ 赤褐色粒・チャート少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③ややよし	逆「の」字状渦巻文、2条沈線により胴 部分割、R L縄文充填。	V群 外面黒変
G-11集 -2 第32図 P L 55	深鉢	胴部片 口— 底— 高(7.6)	G区11集石 覆土	①中砂。白色粒・赤褐色粒多 量、チャート・石英少量 ②明黄褐10Y R6/6 ③ややよし	渦巻文もしくは弧線文、R L縄文充填。	V群
G-11集 -3 第32図 P L 55	深鉢	胴部片 口— 底— 高(7.1)	G区11集石 覆土	①中砂。石英・水晶小結晶・ 白色粒多量、輝石少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③良好	縦位2条沈線により胴部分割、R L縄 文充填後沈線懸垂。	V群
G-11集 -4 第32図 P L 55	深鉢	胴部片 口— 底— 高(14.1)	G区11集石 覆土	①中砂。白色粒・輝石多量、 石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③ややよし	波状口縁? 双弧文、渦巻文、楕円文、 区画内R L縄文充填。	V群 外面一部黒変
G-11集 -5 第32図 P L 55	深鉢	胴部片 口— 底— 高(8.4)	G区11集石 覆土	①中砂。白色粒子・石英・輝 石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③良好	弧線文、R L縄文充填。	V群 内面一部赤変 外面一部黒変
G-12集 -1 第33図 P L 55	深鉢	頸部片 口— 底— 高(5.4)	G区12集石 覆土	①中砂。結晶片岩・石英多量、 輝石・チャート少量 ②橙7.5Y R6/6 ③ややよし	横位隆帯両脇に沈線、その下に縦位筧 刻み。	V群 内外面黒変

第4表 集石遺構出土土器観察表(5)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-12集 -2 第33図 P L 55	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.6)	G区12集石 覆土	①細砂。石英・白色粒・赤褐色粒・輝石少量 ②淡黄2.5Y 8/3 ③やや良し	3方向の弧状隆帯交点部、R L縄文充填。	V群
G-12集 -3 第33図 P L 55	深鉢	口縁片 口— 底— 高(3.8)	G区12集石 覆土	①中砂。石英・白色粒多量、輝石少量 ②明赤褐5Y R 5/6 ③不良	口縁やや内彎。口縁下に横位沈線。R L縄文充填。	V群
G-12集 -4 第33図 P L 55	深鉢	胴部片 口— 底— 高(3.5)	G区12集石 覆土	①細砂。石英粒子多量、輝石・白色粒少量 ②明赤褐2.5Y R 5/8 ③やや良し	3条沈線により分割、R L縄文縦位充填。	V群
G-12集 -5 第33図 P L 55	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.6)	G区12集石 覆土	①中砂。赤褐色粒多量、白色粒・輝石少量 ②にぶい橙5Y R 6/4 ③やや良し	2条沈線による弧線文。L R縄文充填。	V群
G-13集 -1 第34図 P L 55	深鉢	口縁片 口— 底— 高(4.2)	G区13集石 覆土	①中砂。赤褐色粒多量、白色粒子・輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R 7/4 ③不良	弧状沈線、R L縄文充填。	V群
G-13集 -2 第34図 P L 55	深鉢	胴部片 口— 底— 高(4.4)	G区13集石 覆土	①細砂。白色粒子・石英・チャート・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R 6/4 ③やや悪い	横位楕円区画文、L R縄文充填。	V群 外面風化
G-13集 -3 第34図 P L 55	深鉢	胴部片 口— 底— 高(3.8)	G区13集石 覆土	①中砂。白色粒子・石英多量、輝石少量 ②にぶい赤褐5Y R 4/4 ③不良	細沈線により区画、R L縄文充填。	V群 器面風化
G-13集 -4 第34図 P L 55	深鉢	胴部片 口— 底— 高(4.0)	G区13集石 覆土	①中砂。白色粒子・石英・輝石多量 ②にぶい黄橙10Y R 6/4 ③良好	縦位2条1単位沈線により縦位分割、櫛状工具による縦位沈線充填。	V群 内面黒斑
G-14集 -1 第35図 P L 55	深鉢	口縁片 口— 底— 高(4.7)	G区14集石 覆土	①中砂。白色粒多量、輝石・石英少量 ②橙5Y R 7/6 ③やや良し	口唇部肥厚。横位幅広浅沈線施文。	V群
G-14集 -2 第35図 P L 55	深鉢	胴部片 口— 底— 高(2.7)	G区14集石 覆土	①細砂。チャート・輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R 6/4 ③良好(硬質)	縦位沈線、R L縄文施文。	V群 14集石-3と同一個体?
G-14集 -3 第35図 P L 55	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.3)	G区14集石 覆土	①細砂。チャート・輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R 7/4 ③良好(硬質)	縦位沈線分割、R L縄文充填。	V群 14集石-2と同一個体?
G-16集 -1 第36図 P L 55	深鉢	口縁片 口— 底— 高(4.5)	G区16集石 覆土	①細砂。白色粒子・輝石・石英少量 ②明赤褐2.5Y R 5/6 ③良好	波状口縁。口縁下に横位沈線、弧線文、R L縄文充填。	V群
G-16集 -2 第36図 P L 55	深鉢	胴部片 口— 底— 高(4.8)	G区16集石 覆土	①細砂。白色粒子・石英・輝石少量 ②橙2.5Y R 6/6 ③やや良し	縦位沈線、R L縄文充填。	V群 内面黒変
G-16集 -3 第36図 P L 55	深鉢	胴部片 口— 底— 高(7.5)	G区16集石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R 7/4 ③やや良し	渦巻文、L R縄文充填。	V群

第2項 配石遺構

本調査区から礫が整然と配置された配石遺構はG区に8基検出した。1号・2号・6号・7号配石は現道北側全面に接するように検出した。なお4号配石・8号配石は調査段階において不明瞭なため欠番とした。

1号配石 (第39・40・41・42・43・44・45・124・125・126図、P L 9)

Gf-46～Gg-45・46に位置する。周辺には南西に2号配石が隣接し、南0.6mに6・7号配石がある。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。

形状は礫の分布から円形を呈すると考えられ、規模は直径4.6mを推測する。中央南東寄りに40cm×34cmの大きな礫と礫の南東に接するように深鉢土器が一括出土した。縁部は北西側で良好に残存し、径40cmから7cm程の礫を2m程の範囲で弧状に配する。

遺物は2号配石との接点に石棒茎部が出土し、縁石内からは石鏃・凹石・台石などが多数検出した。土器は下記に出土状態を図化した深鉢一括出土の他、両耳壺・浅鉢が縁石内外から出土した。出土土器は加曾利EIV式期である。

2号配石 (第39・40・41・47・48・49・50・51・127・128図、P L 9)

Gg・h-45グリッドに位置する。周辺には1号配石が隣接し、南西1.2mに6・7号配石がある。確認面は角礫・亜角礫混黒褐色土面である。

形状は礫の分布から円形を呈すると考えられ、規模は直径3.3mを推測する。縁部礫は南西半分で良好にあり、20×15cm程の礫を15cm程の間隔で4.6mを測る。北東側は不明瞭である。遺物は、東側の1号配石接点に石棒が、西側縁辺に凹石が検出し、中央に石皿、北寄りに深鉢土器が一括出土した。その他、縁石付近から削器、敲石、凹石が出土した。土器は深鉢土器の波状口縁部、底部上底片などが出土した。出土土器は加曾利EIV式期である。

6号配石 (第39・40・41・52・53・54・55・133・134・135図、P L 10)

Gg・h-46・47グリッドに位置する。西接して7号配石が位置する。本遺構内に3号集石があり、新旧関係は不明である。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。

形状は礫の分布から円形を呈すると考えられる。規模は直径4.1mを推測する。縁石は北側で凹石を伴い23×15cm程の礫を4.5mの範囲で密接に配し、西側は20cm程の礫を30cm間隔で配する。配石内には4つのユニットが見られた。これらは配石と同一面にあり、掘り込みもなく配石内の単位として考えた。単位は北西・東・南東側に50～30cm程の比較的大きな礫を中心に置き、周辺に15cm程の礫を配するものと、西側の5cm程の礫に囲まれた小礫群である。

石器は北側縁部の凹石の他、打製石斧や敲石が出土した。土器は西側小礫群単位下に三角柱状土製品が出土し、縁部南側に紐通し孔を有する蓋など多数出土した。出土土器は加曾利EIV式期である。

7号配石 (第39・40・41・56・57・58・136・137図、P L 10)

Gh-45・46グリッドに位置する。東接して6号配石が位置する。確認面は角礫・亜角礫混黒褐色土面である。

形状は礫の分布から円形を呈すると考えられる。規模は直径2.6mを推測する。縁石は不明瞭であるが、25～10cm程の礫を40cm程の等間隔で配する。

石器は縁石内外から打製石斧、敲石などが出土した。土器は南東隅に両耳壺が一括出土し、その他深鉢土器片が出土した。出土土器は加曾利EIV式期である。

3号配石 (第59・129・130・131・132図、P L 11)

Gp-48グリッドに位置する。現道の南側にあり、北西方向からの傾斜地点にある。周辺には西接して10号集石があり、調査区東端に5号配石が位置する。確認面は角礫・亜角礫混黒褐色土面である。泥流丘

崩落礫群の可能性も示唆されたが、東側の弧状を呈する礫の配置及びそれに連なる同規模の礫列から配石遺構とした。

形状は礫の分布から円形を呈すると考えられる。規模は直径4.2mを推測する。縁石には15～10cm程の礫を20cmの等間隔に配される傾斜地の西側を僅かに削平し、地形に沿って構築される。配石内に径25～6cm程の礫が散在する。

石器は北隅に小さな石棒が出土し、中央部には凹石が集中して検出した。その他打製石斧等が出土した。土器は深鉢土器片が出土した。出土土器は加曾利EIV式期である。

5号配石 (第60図)

Gm～o-51・52グリッドに位置する。東半分は調査区外となり、全貌は把握できなかった。本遺構中央に9号集石がある。新旧関係は不明である。現道南側における集石・配石遺構の集中する地点より東16mと離れている。確認面は黒褐色土面である。

形状は礫の分布から円形を呈すると考える。規模は直径約8.0m程が推測され、確認長は8.0×4.3mである。35～30cm程の礫を3m間隔に配置する。

出土遺物はない。

9号配石 (第61・62・63・64・65・66・137・138・139・140・141・142・143・144・145・146図、P L 11・12)

Gg～i-45～47グリッドに位置する。本遺構は6・7号配石下層の黒色土面で確認された。新旧関係は層位的に本遺構の方が古い。南西部は調査区外になり全貌は確認できなかったが、現道下で集約されるものと考えられる。

形状は礫の分布から円形を呈すると考える。規模は直径約13.6mを推測する。縁石に20cm程の礫を3.3mの間隔で配し、中央南東に10cm程の小礫群を成す。本遺構は2つの泥流丘の谷地形内に、等高線に沿って縁石を配し、南東隅が最も低くなり、小礫が集中したように見られた。

遺物は本遺構面から上層にある6号・7号配石の間層にあるものを集約した。石器はほとんどが小型である。土器は加曾利EIII式期の深鉢土器片を中心に出土したが、配石礫面には加曾利EII式期の土器片も見られた。

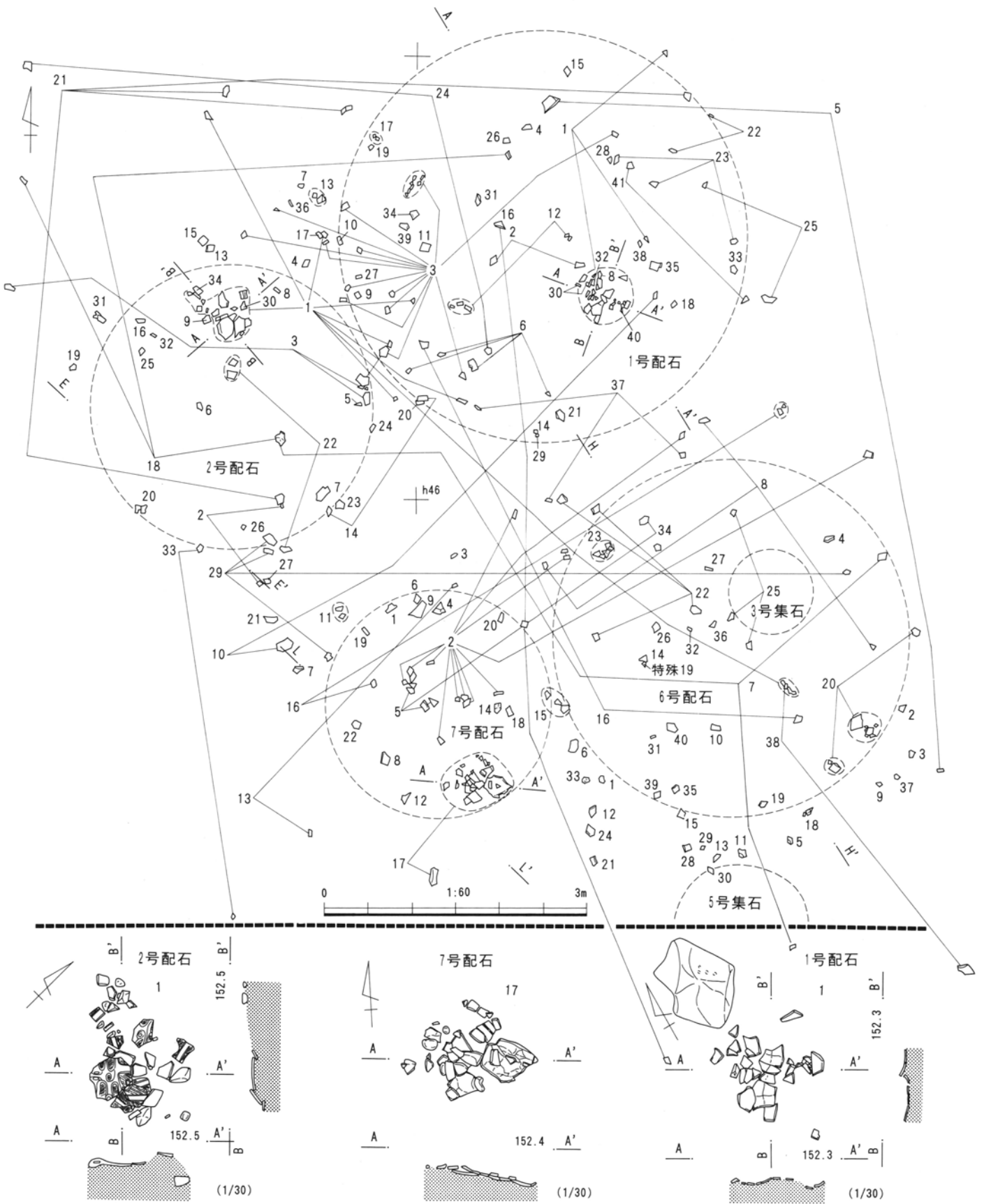
10号配石 (第67図)

Gl～n-48～50グリッドに位置する。周辺には南5.6mに3号配石、南東8.5mに5号配石がある。確認面は角礫多混黒褐色土下の黒色土面である。現道北から続く谷地形上にあり、等高線に沿うように礫が点在した。形状は礫の分布から北側は半円を成し、西側は9.3m程直線的にある。規模は北側部分は地形に沿って直径10.8m程の半円を推測する。礫は径30cmから20cmの礫を3.1m間隔に配する。

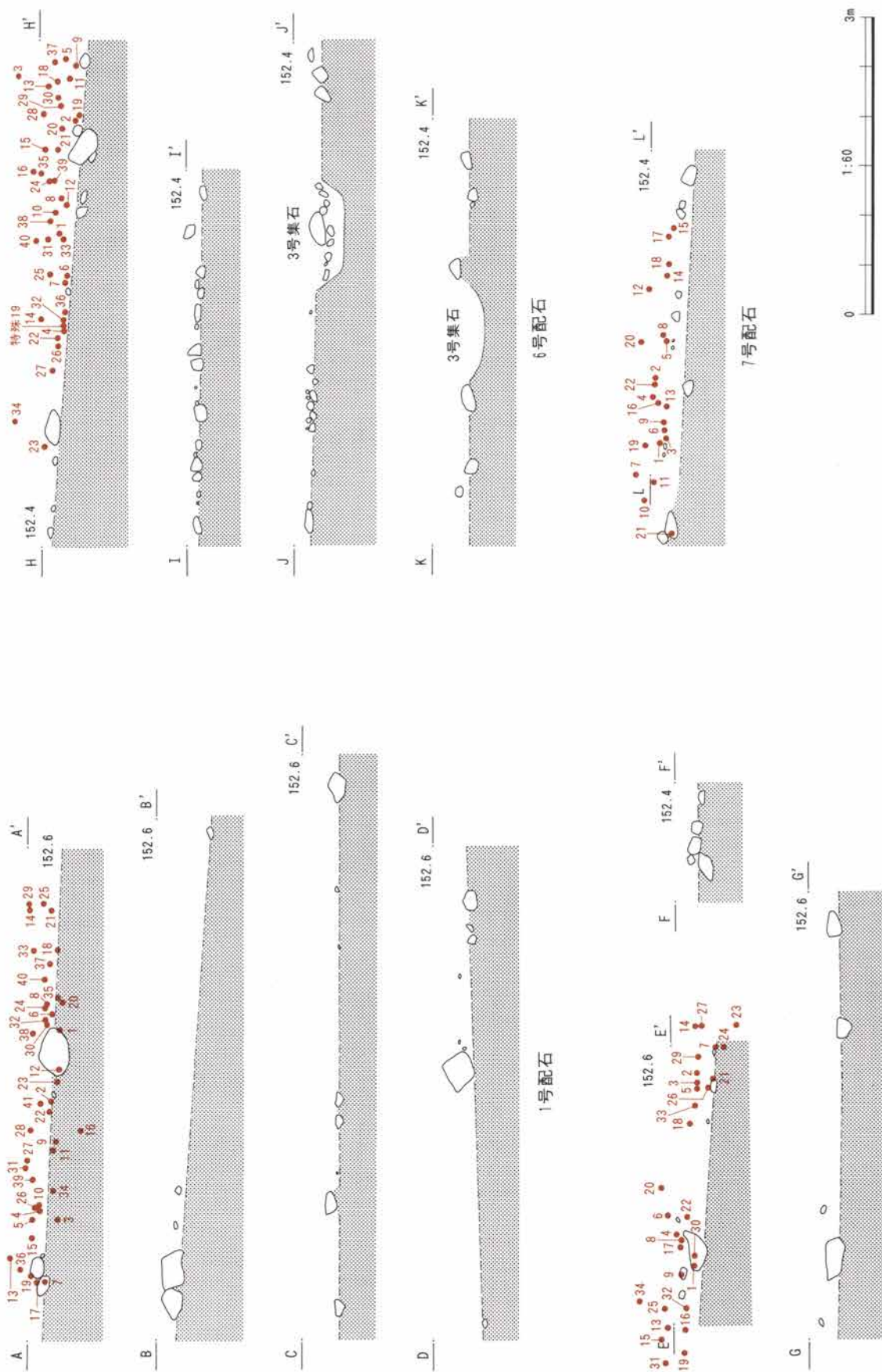
遺物の出土はない。



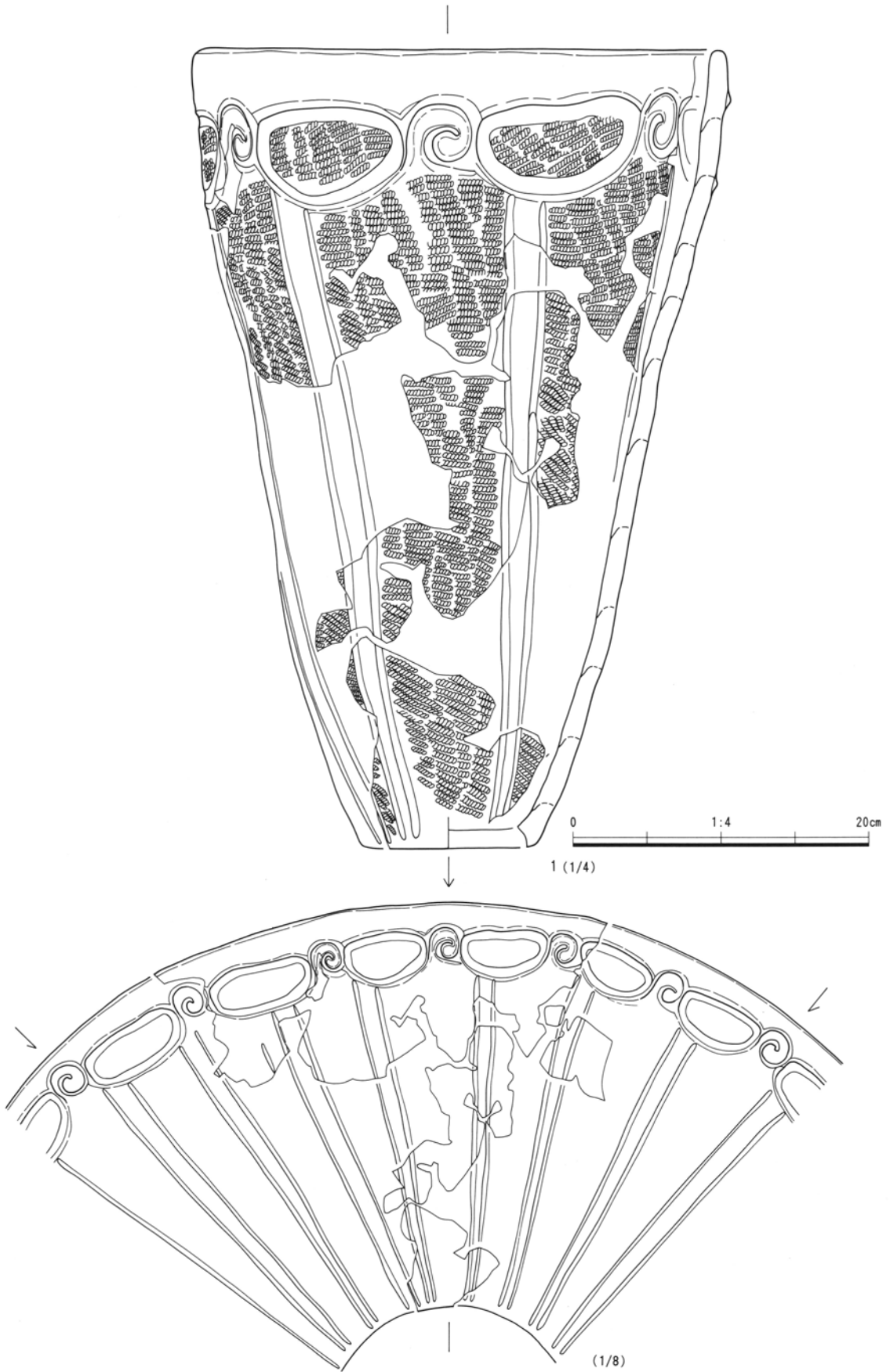
第39図 1号・2号・6号・7号配石実測図



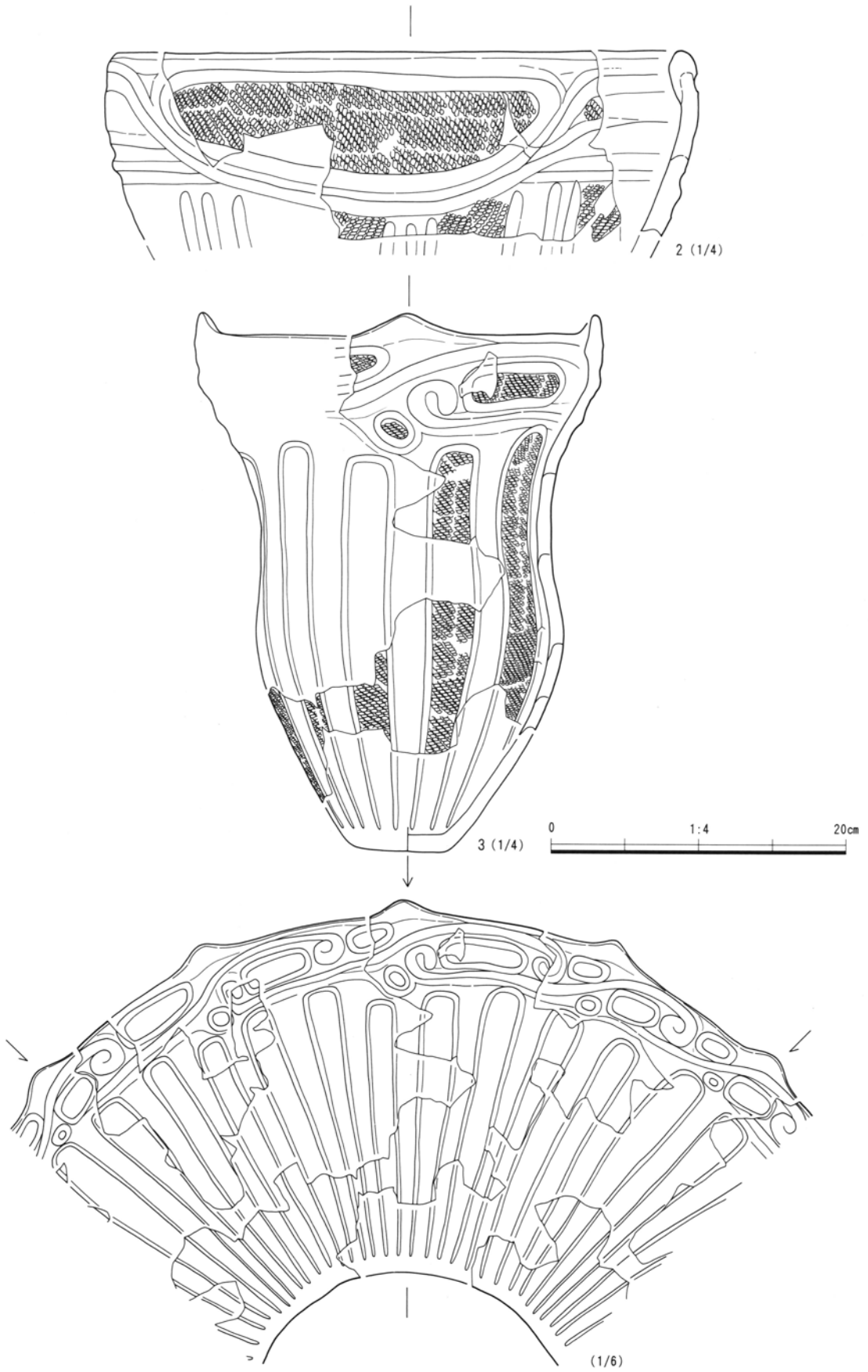
第40图 1号·2号·6号·7号配石出土土器分布图



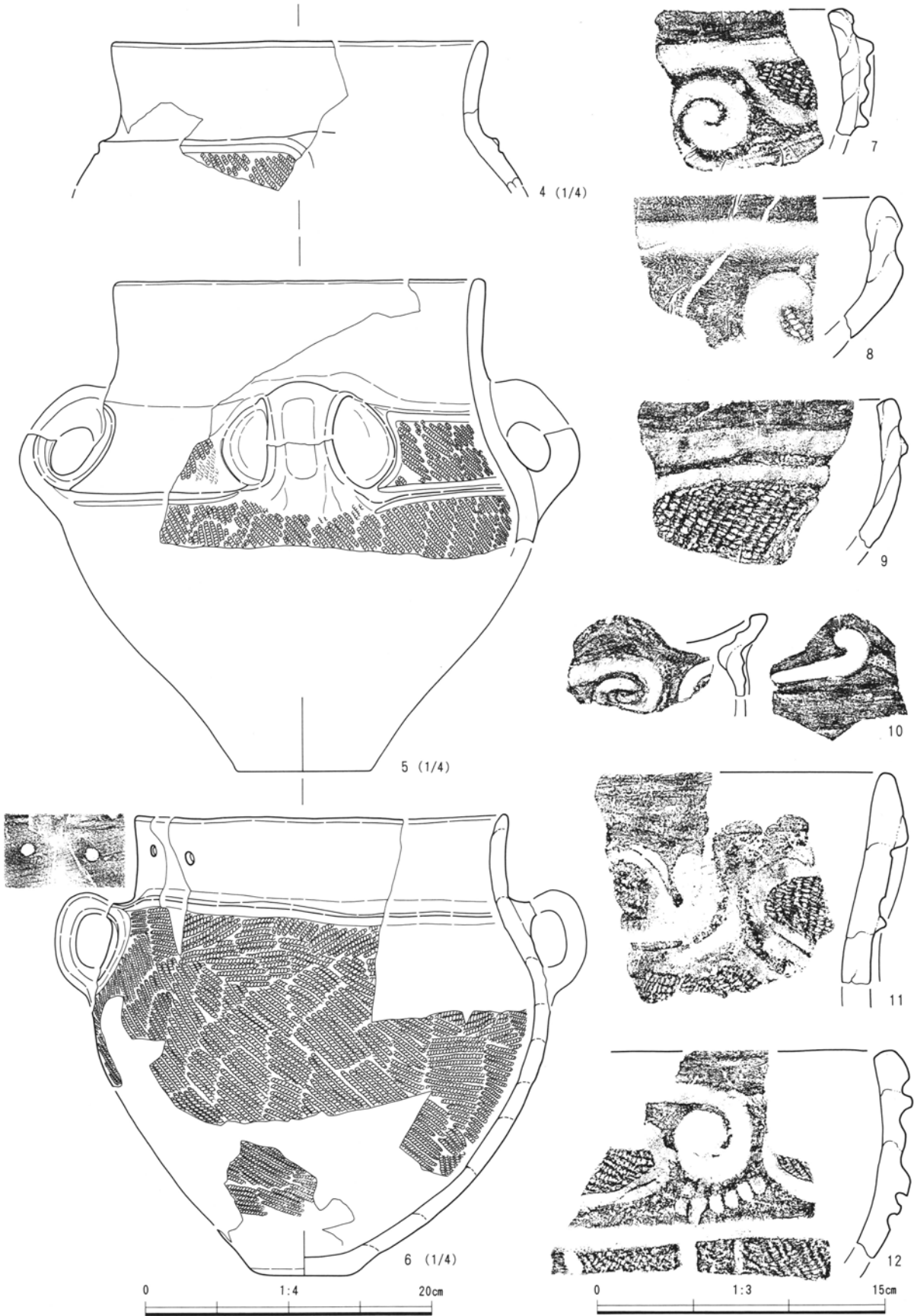
第41図 1号・2号・6号・7号配石出土器投影図



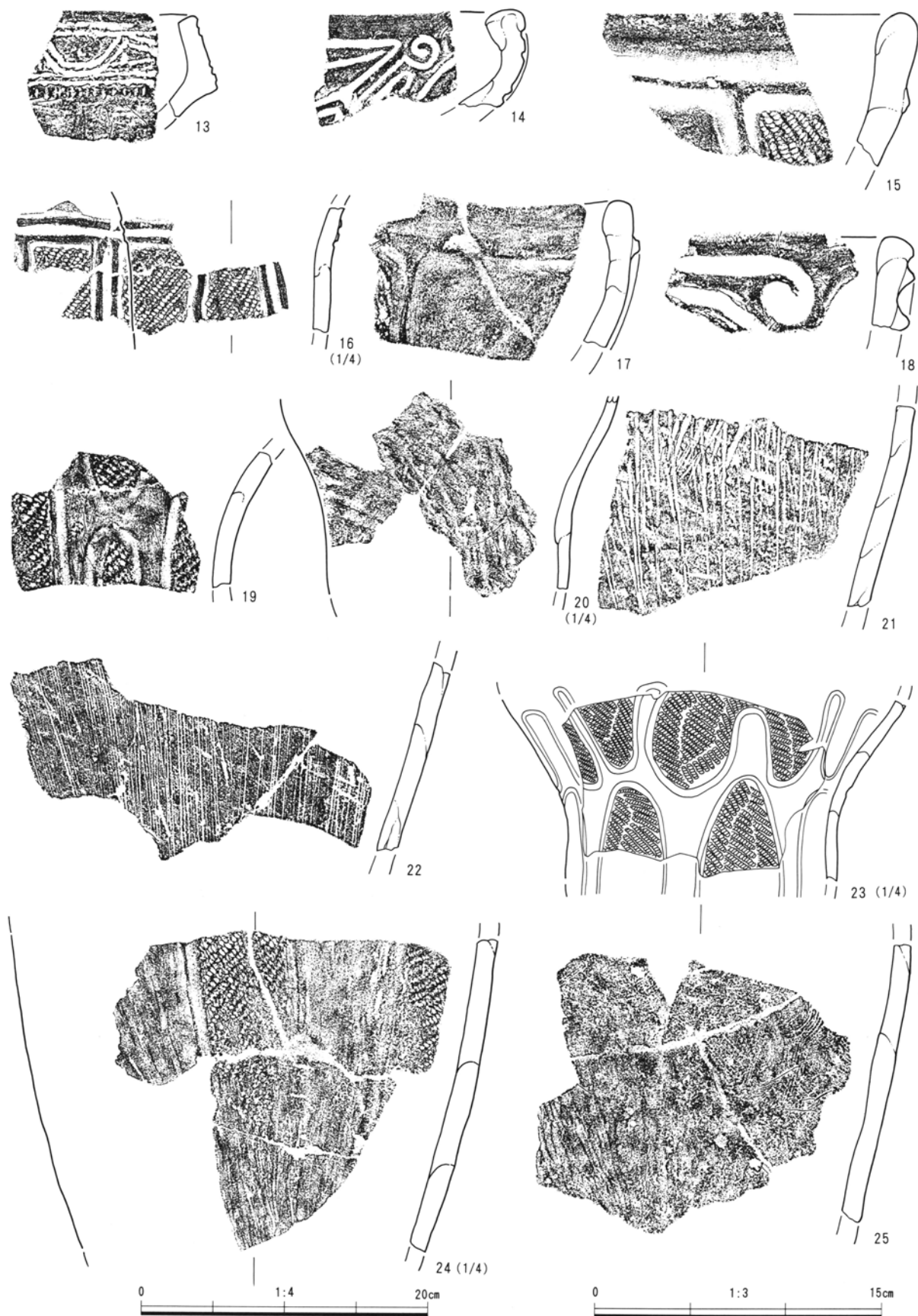
第42図 1号配石出土土器実測図(1)



第43図 1号配石出土土器実測図(2)

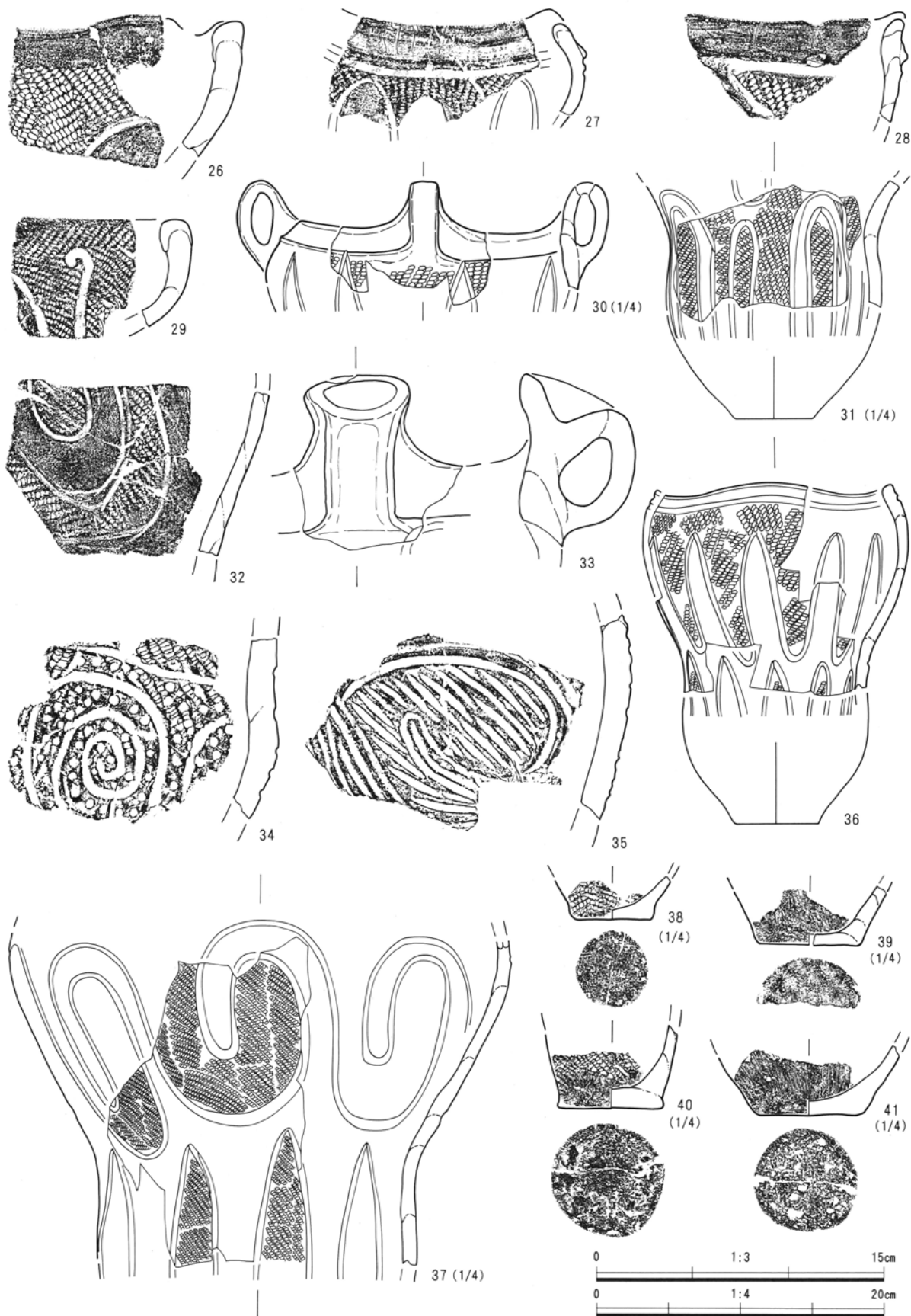


第44図 1号配石出土土器実測図(3)

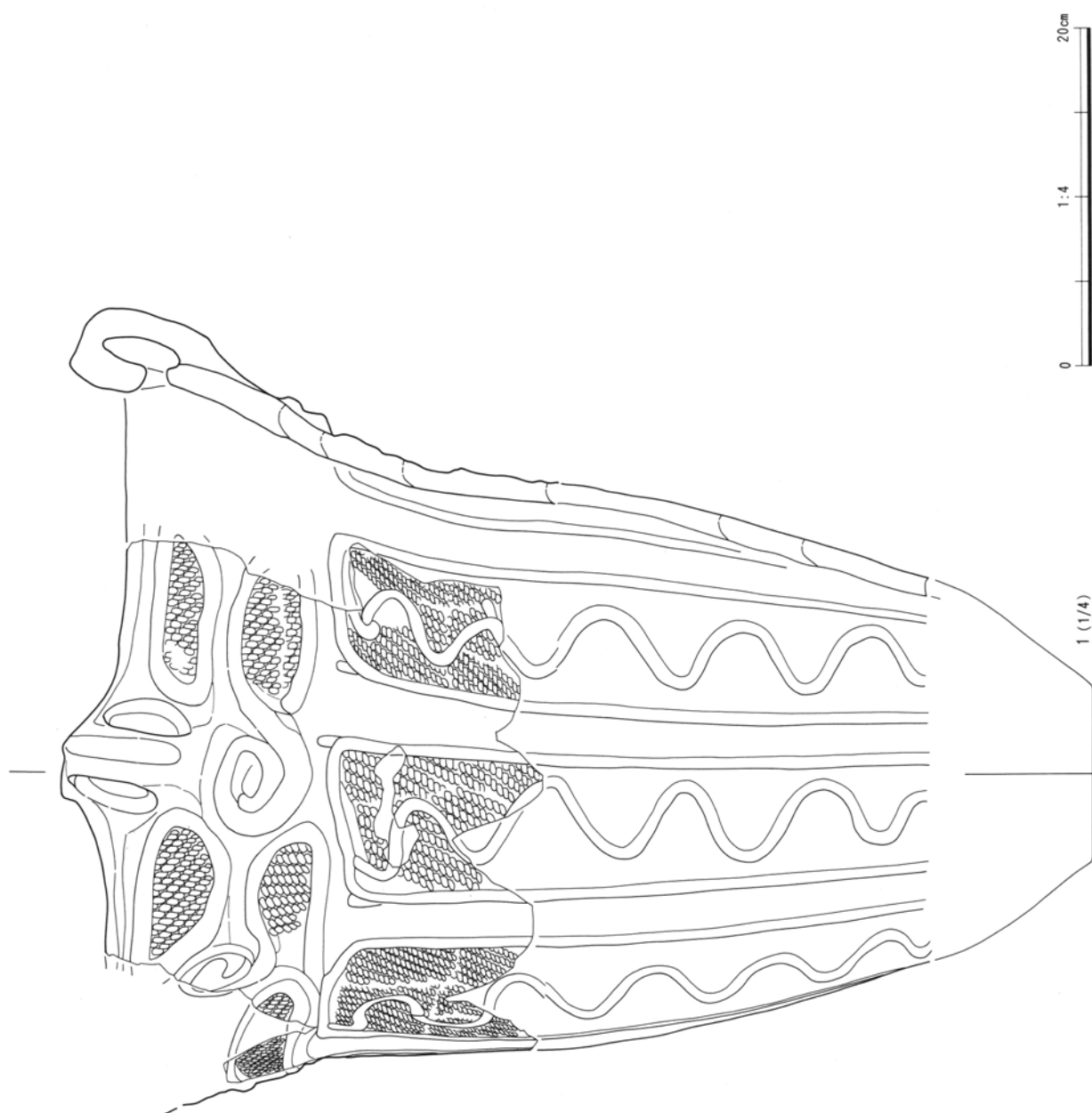


第45図 1号配石出土土器実測図(4)

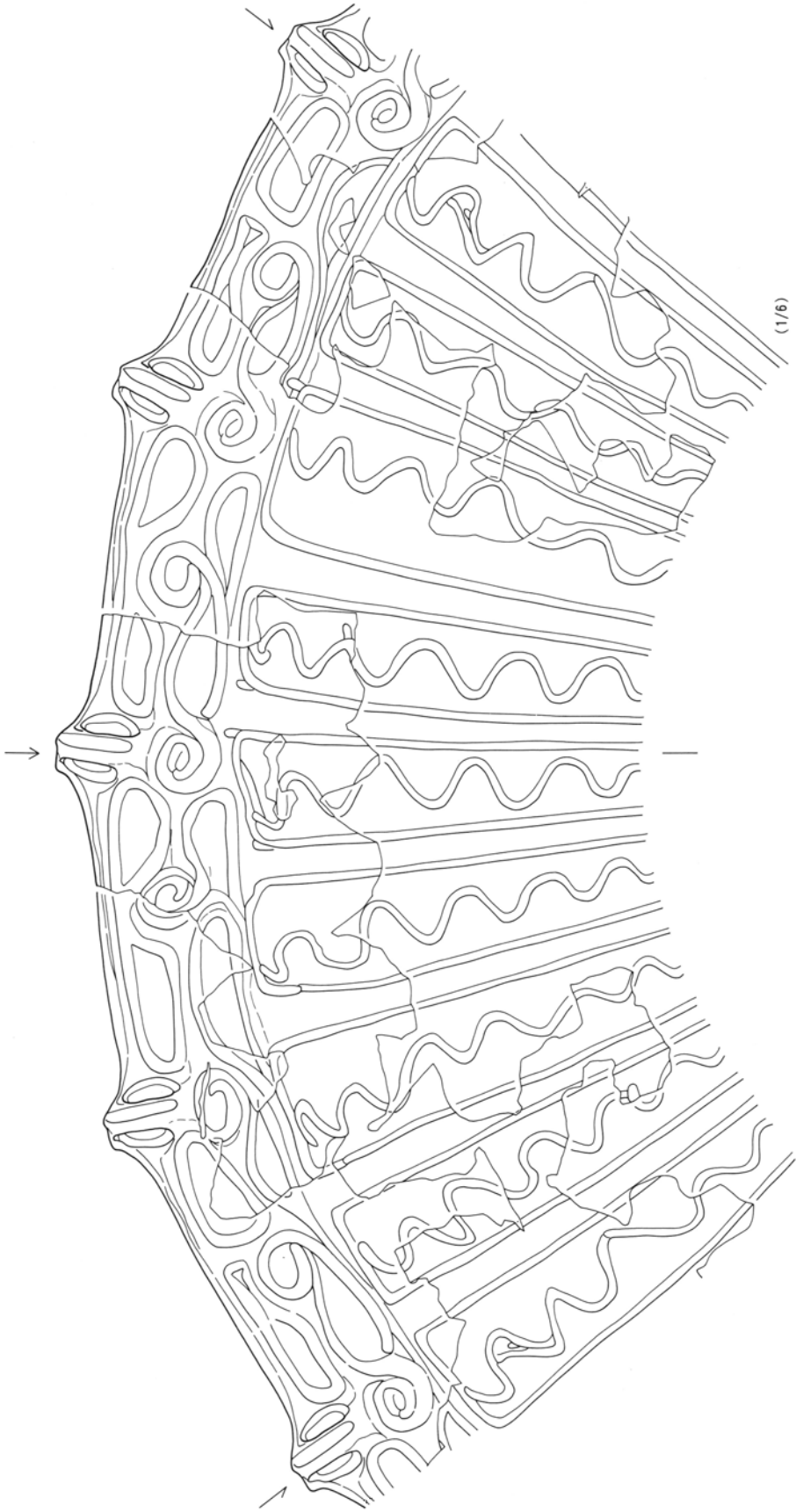
配石遺構



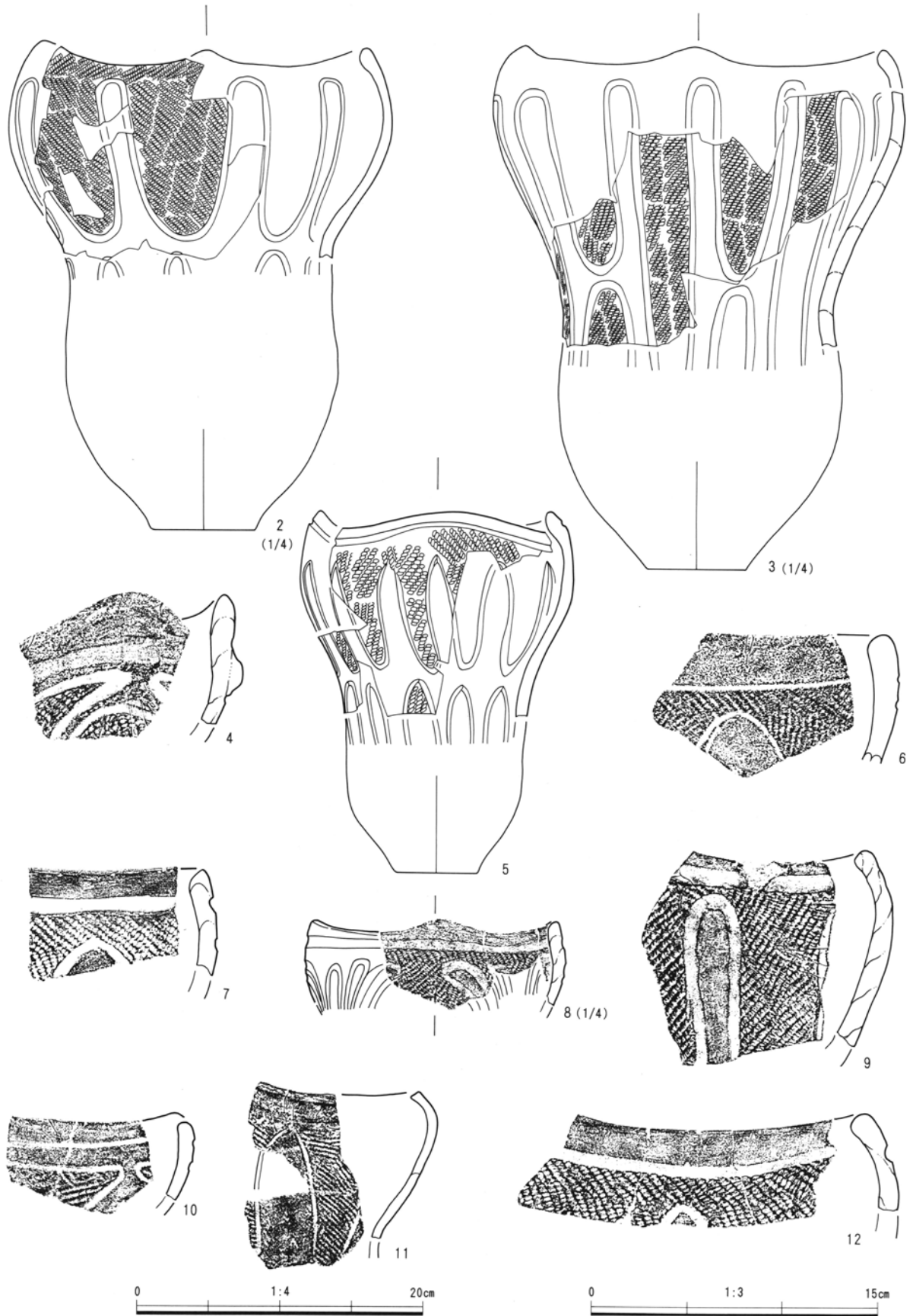
第46図 1号配石出土土器実測図(5)



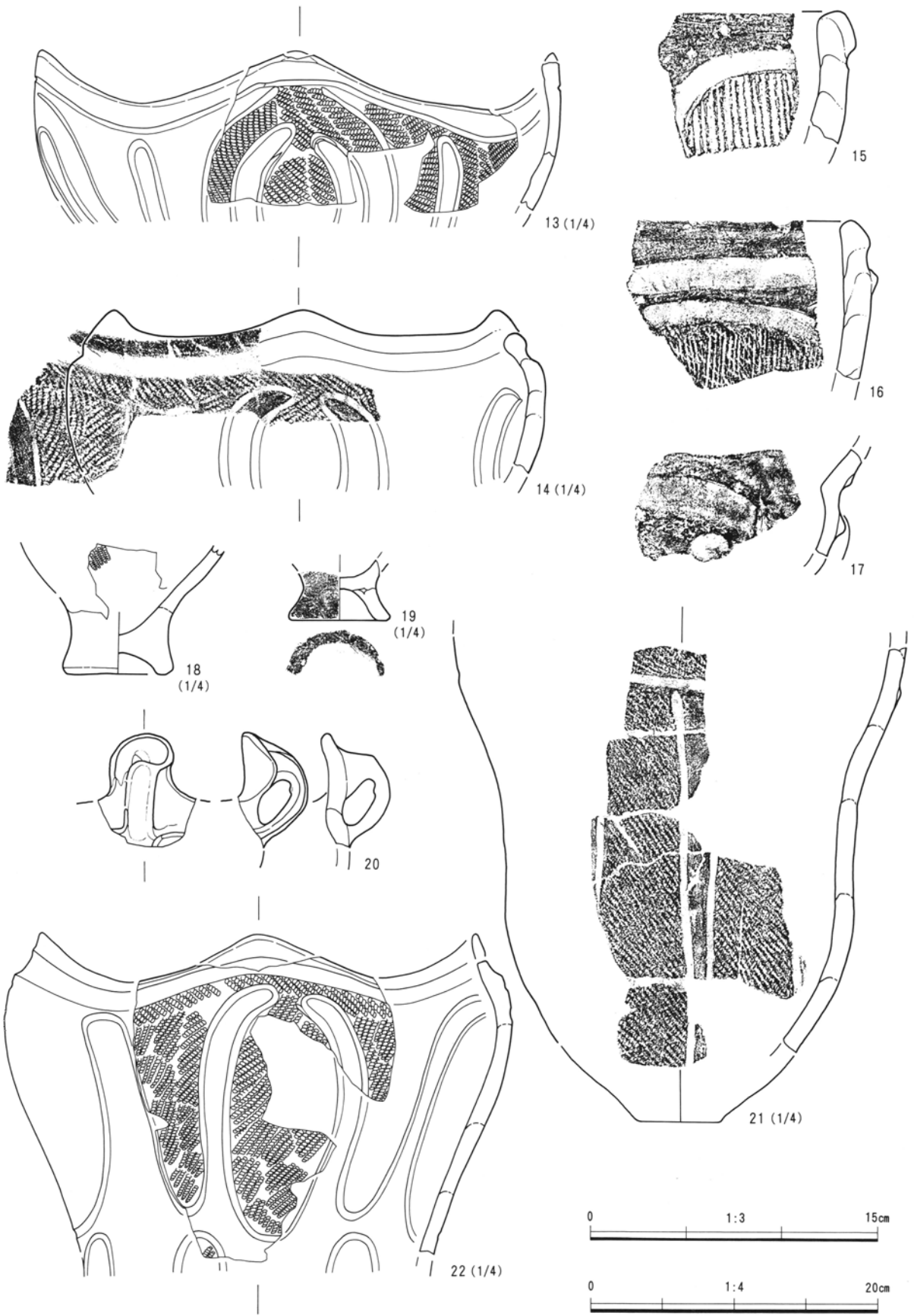
第47図 2号配石出土器美測図(1)



第48図 2号配石出土土器展開図(2)

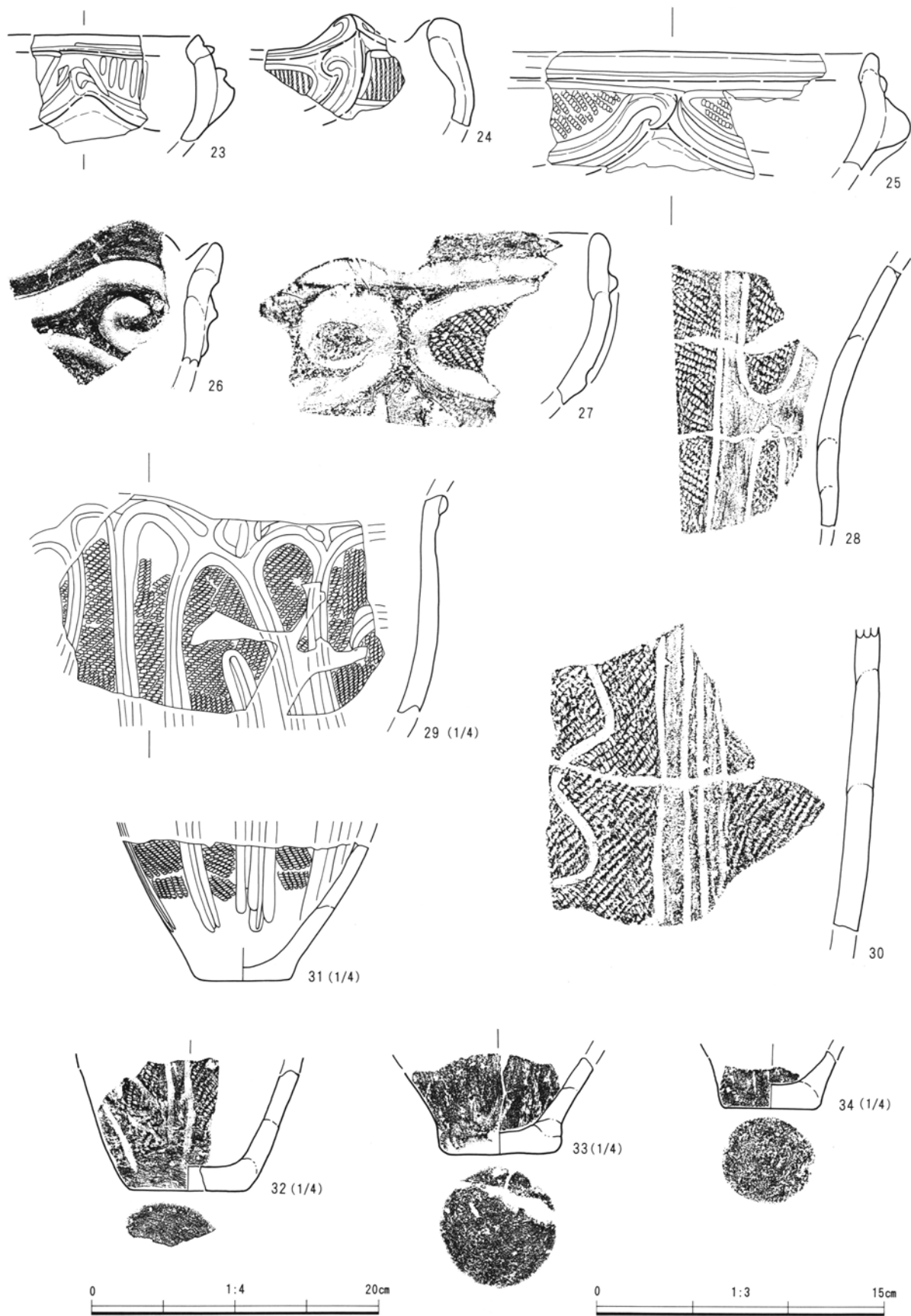


第49図 2号配石出土土器実測図(3)

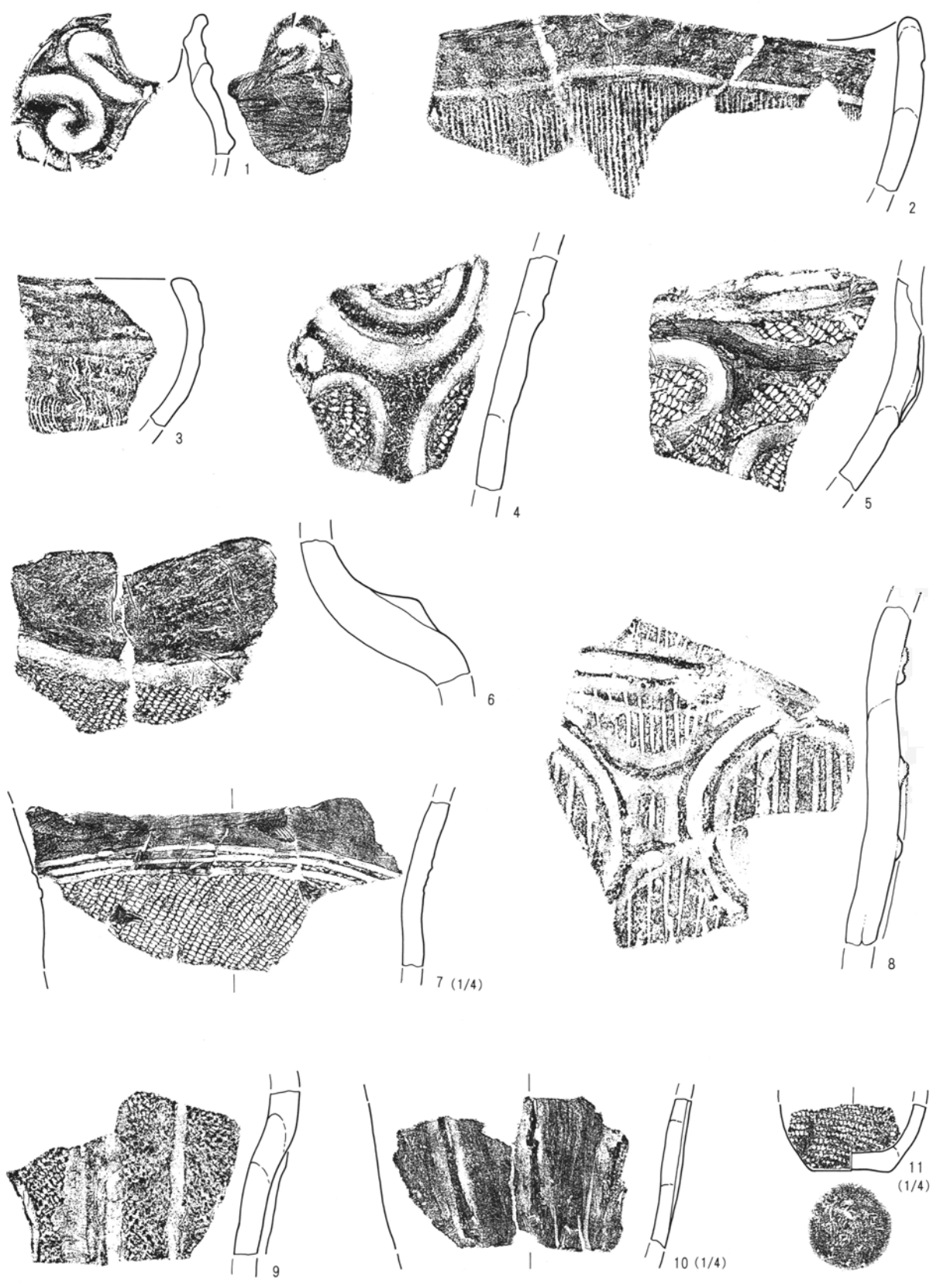


第50図 2号配石出土土器実測図(4)

第2節 縄文時代



第51図 2号配石出土土器実測図(5)

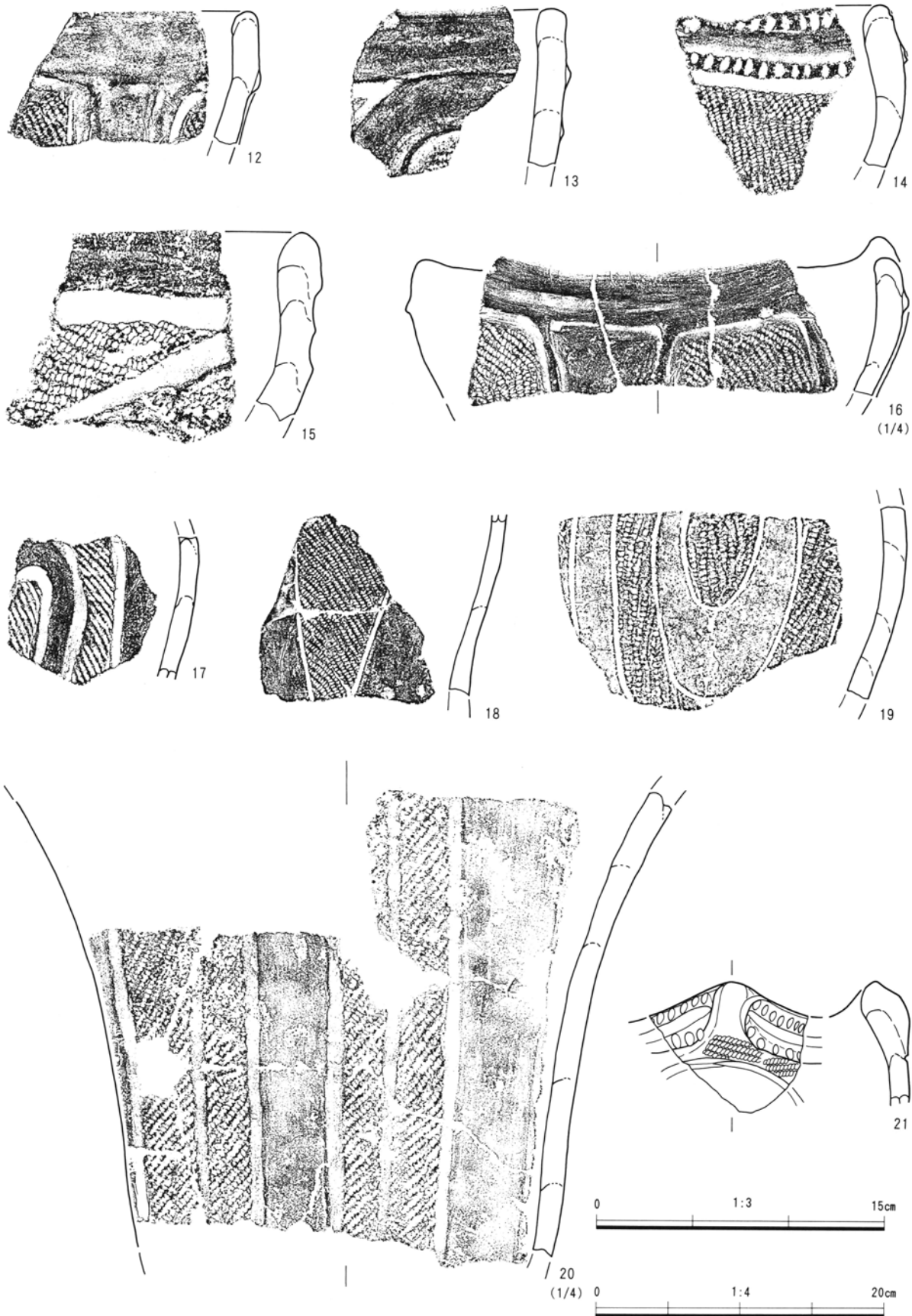


0 1:3 15cm

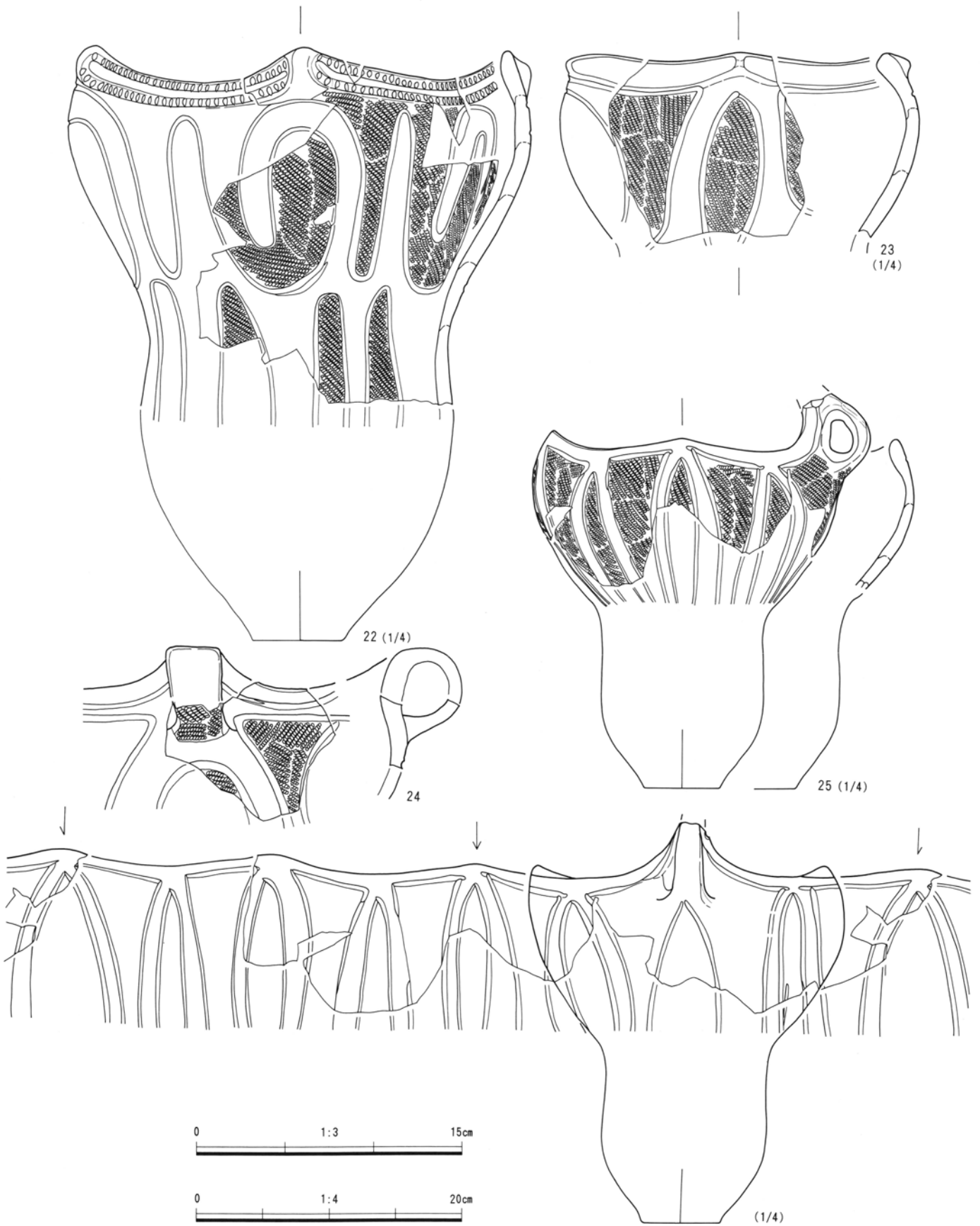
0 1:4 20cm

第52図 6号配石出土土器実測図(1)

第2節 縄文時代

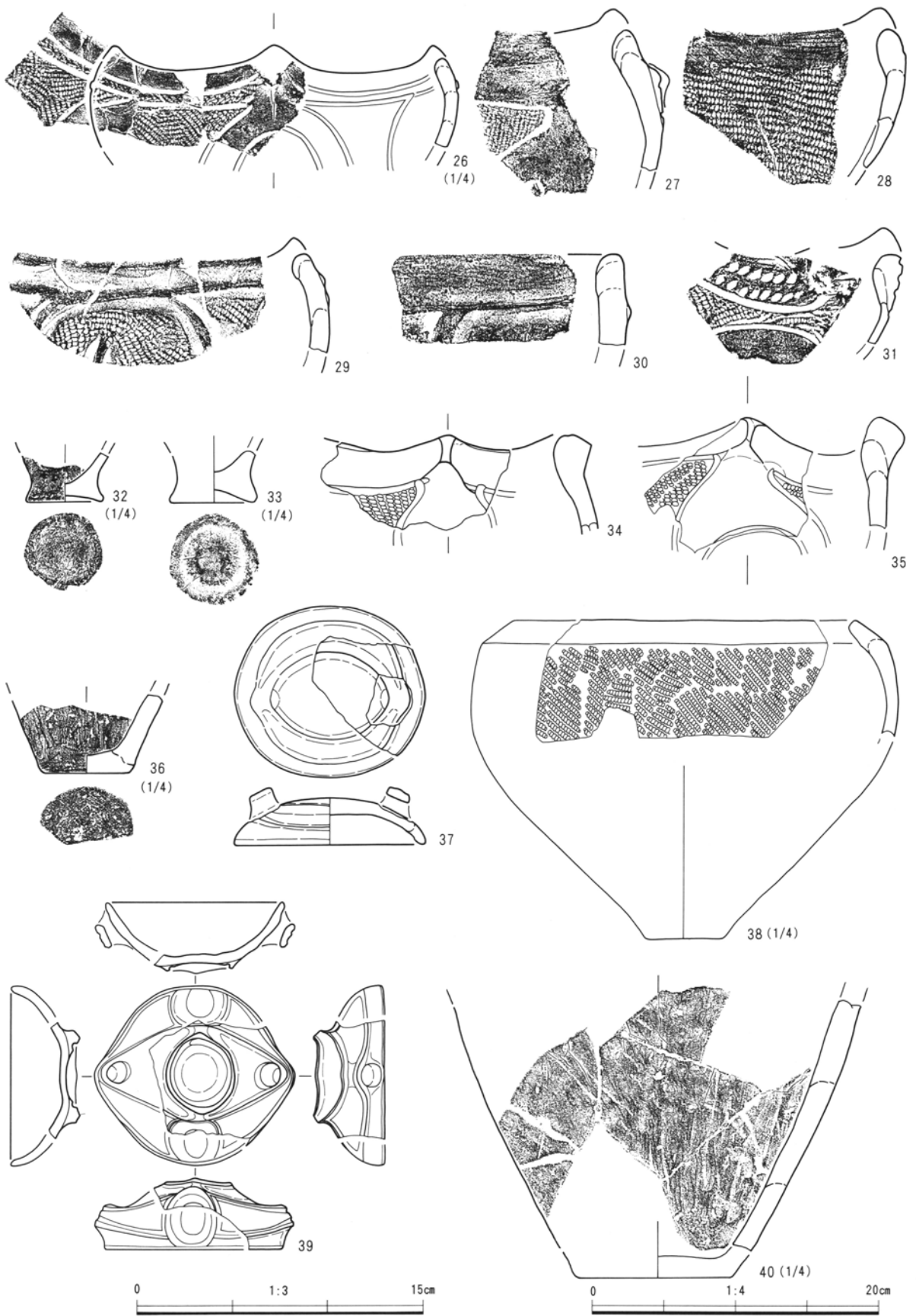


第53図 6号配石出土土器実測図(2)

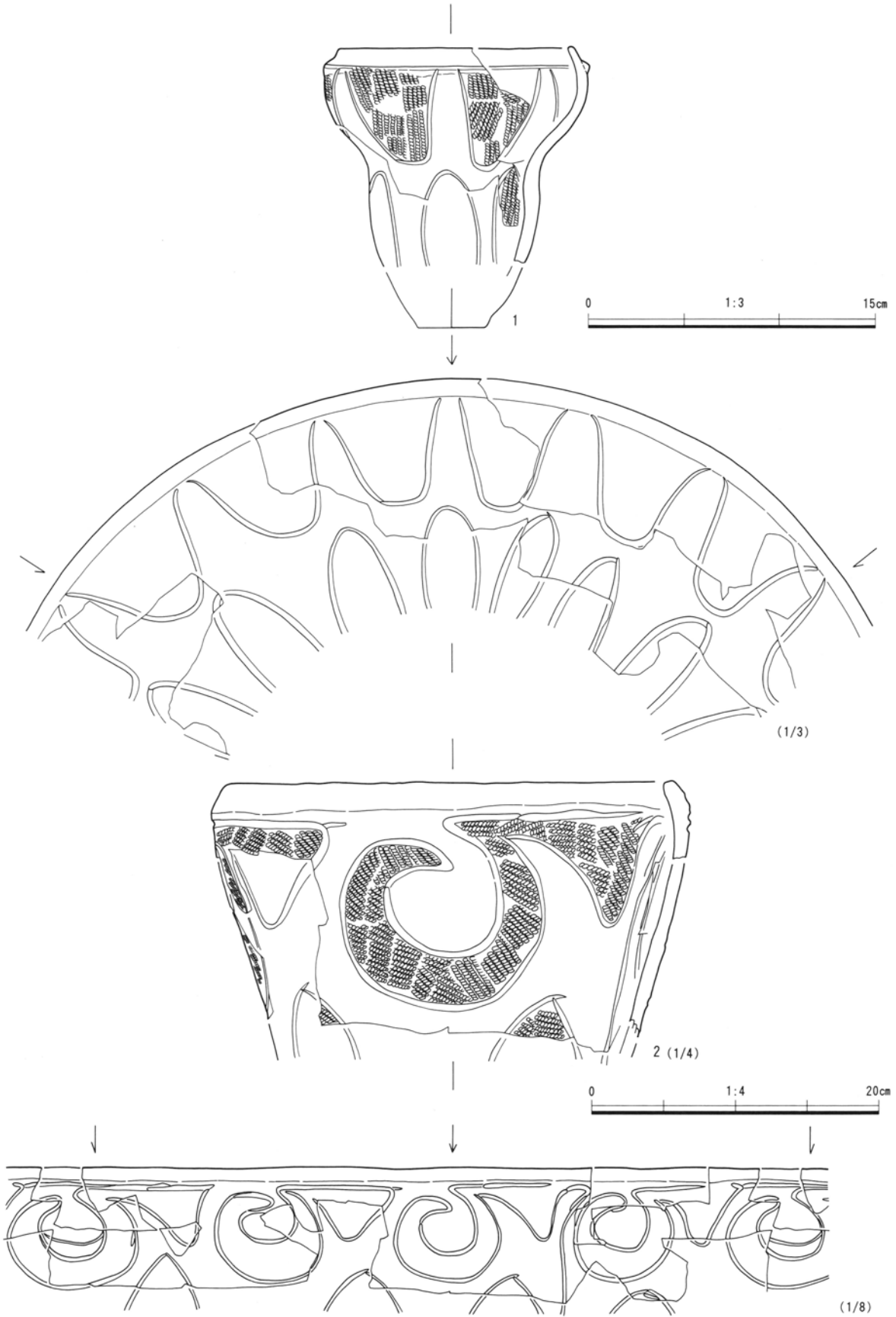


第54図 6号配石出土土器実測図(3)

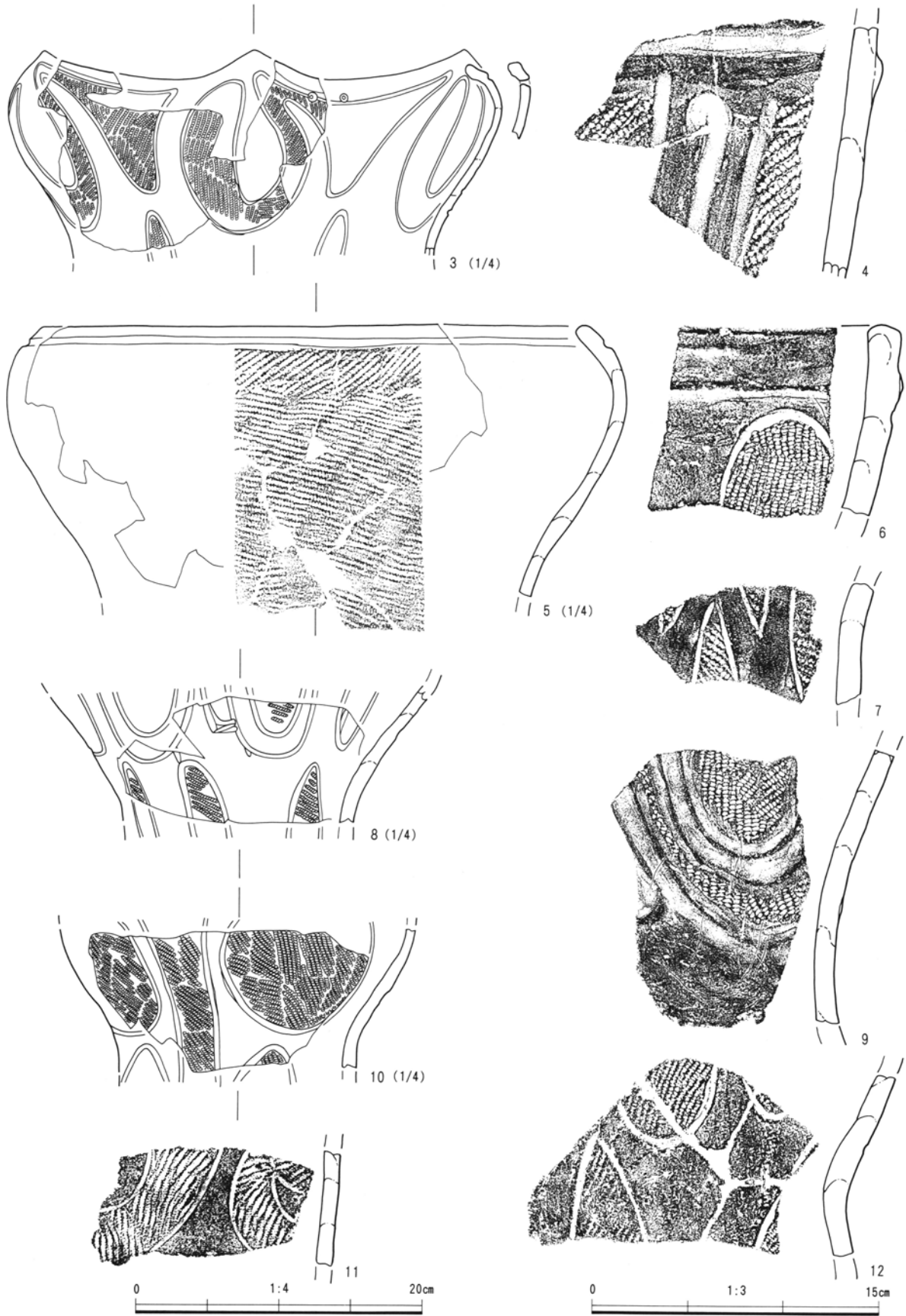
第2節 縄文時代



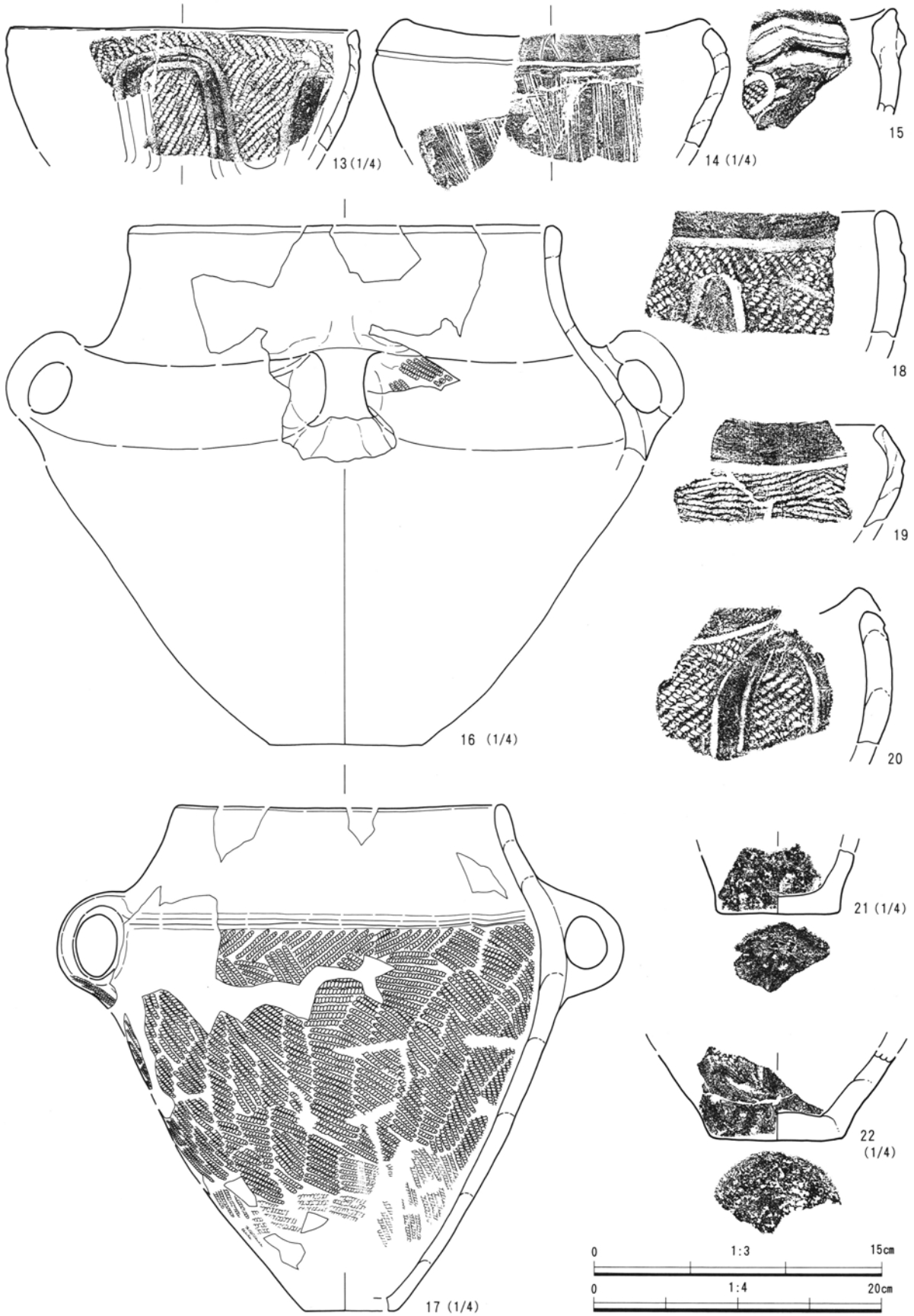
第55図 6号配石出土土器実測図(4)



第56図 7号配石出土土器実測図(1)

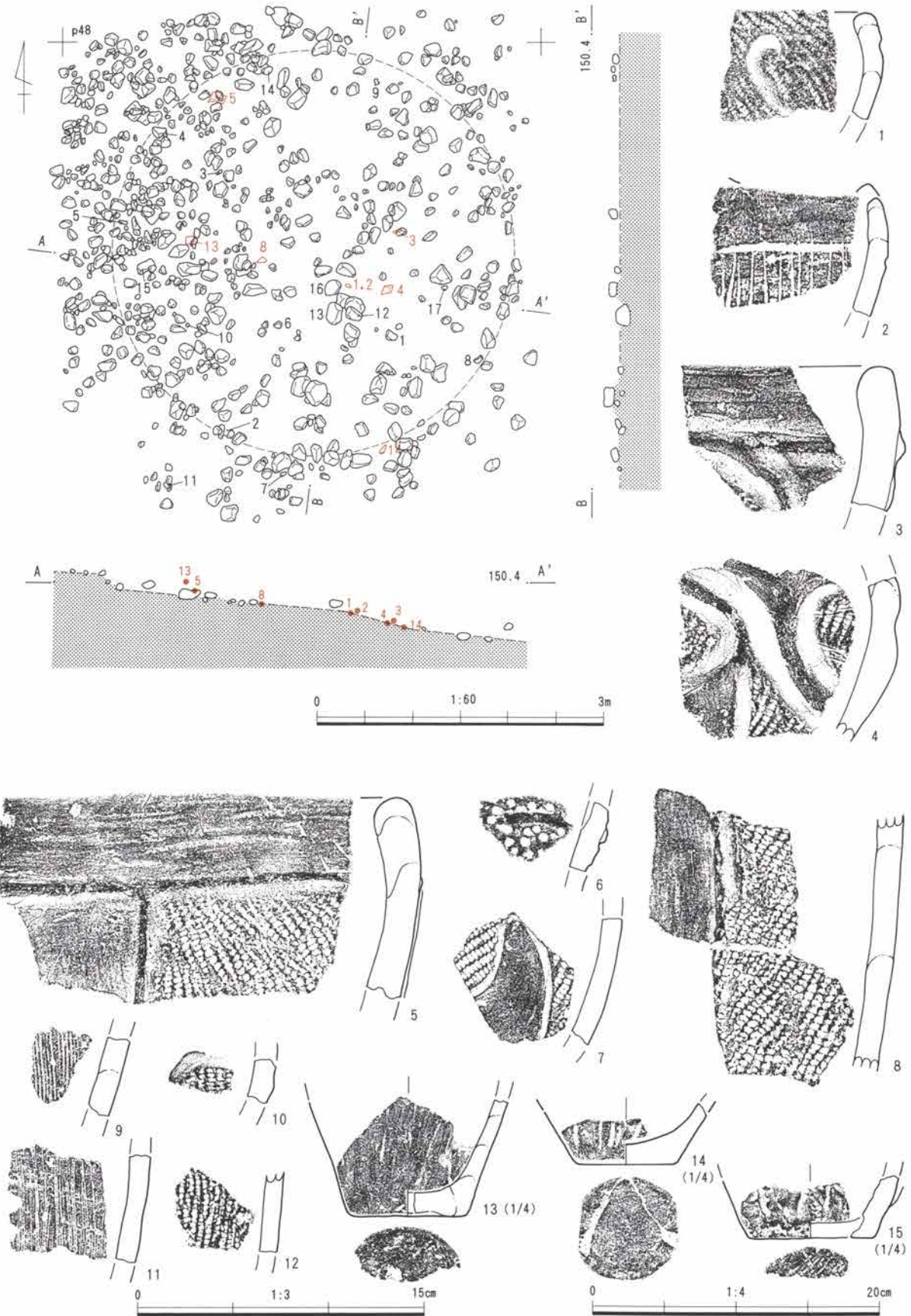


第57図 7号配石出土土器実測図(2)

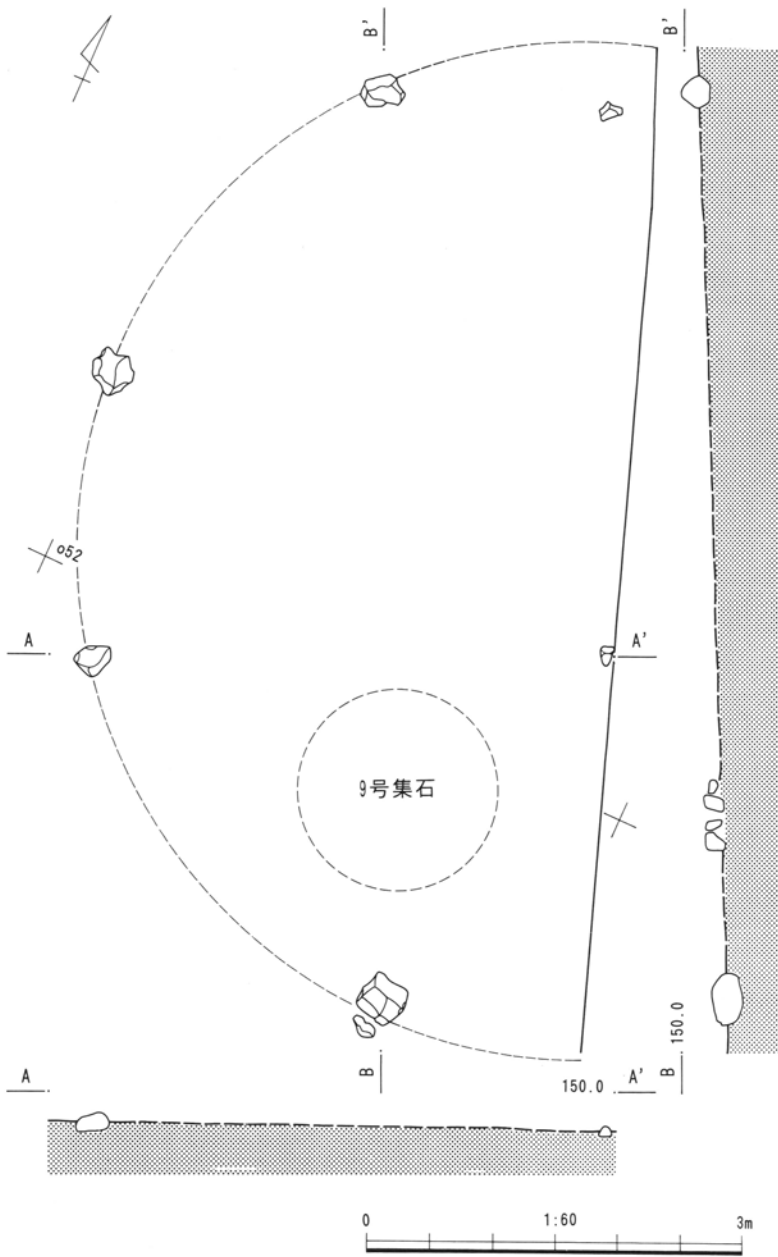


第58图 7号配石出土土器实测图(3)

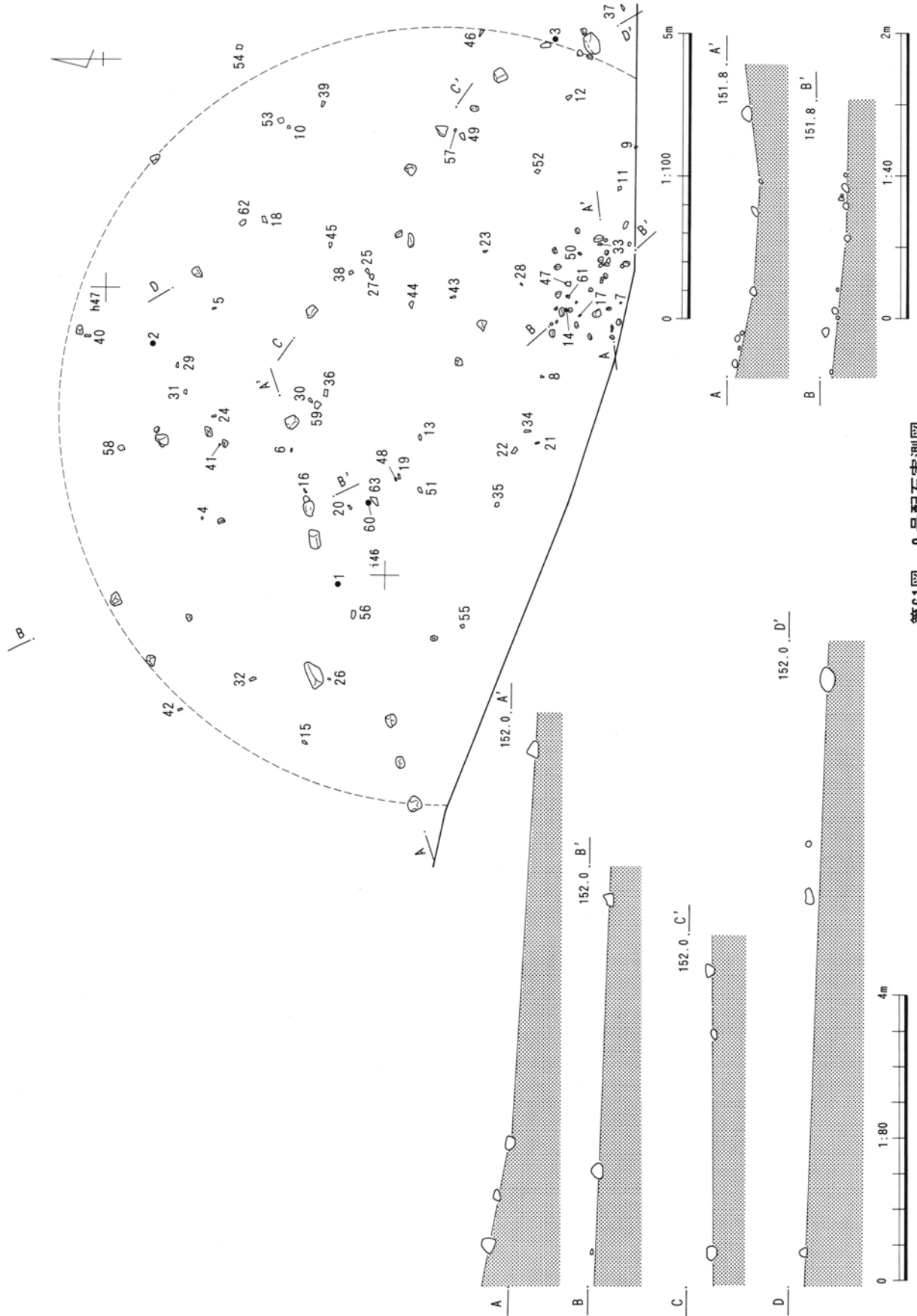
第2節 縄文時代



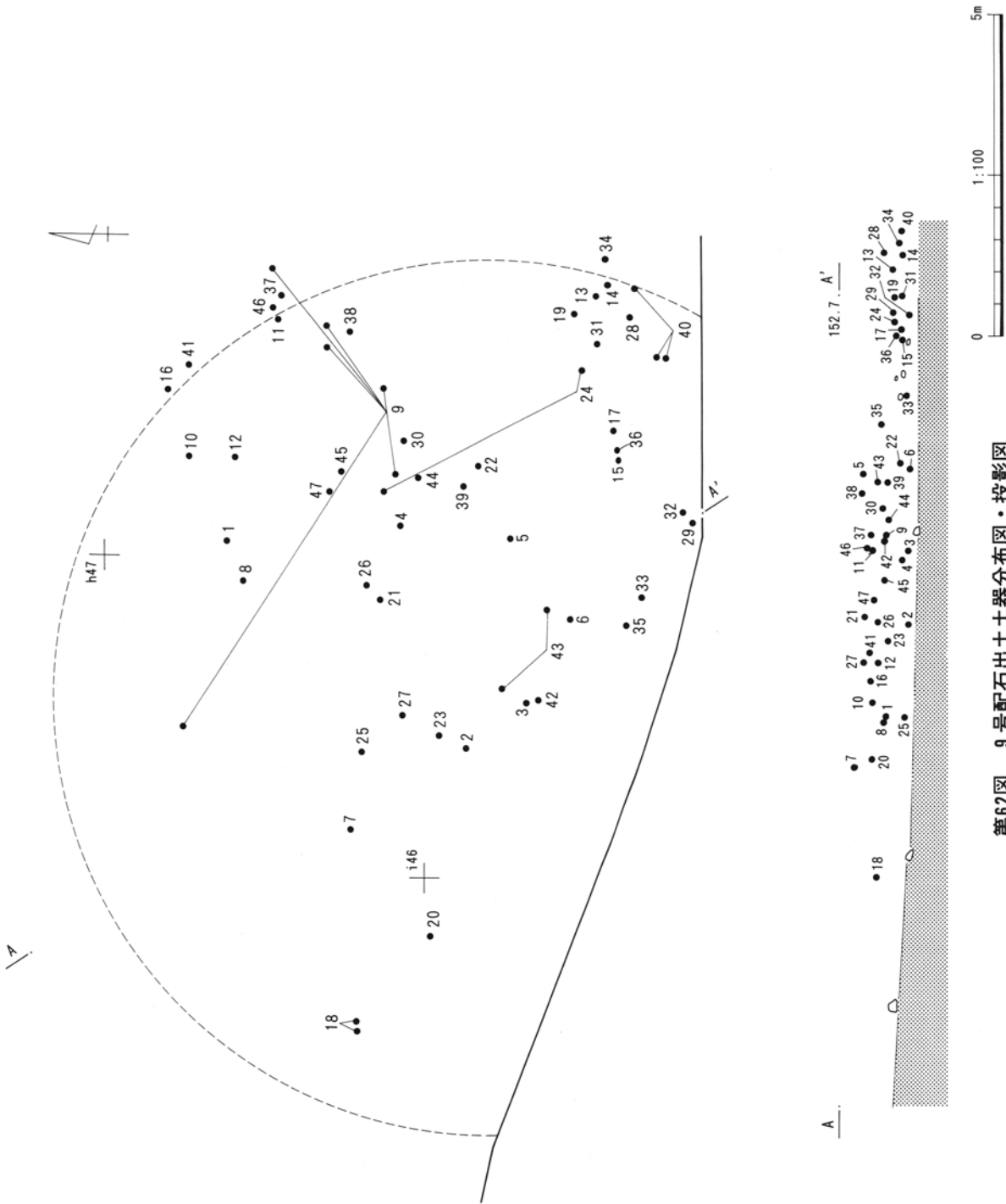
第59図 3号配石実測図・出土土器実測図



第60図 5号配石実測図

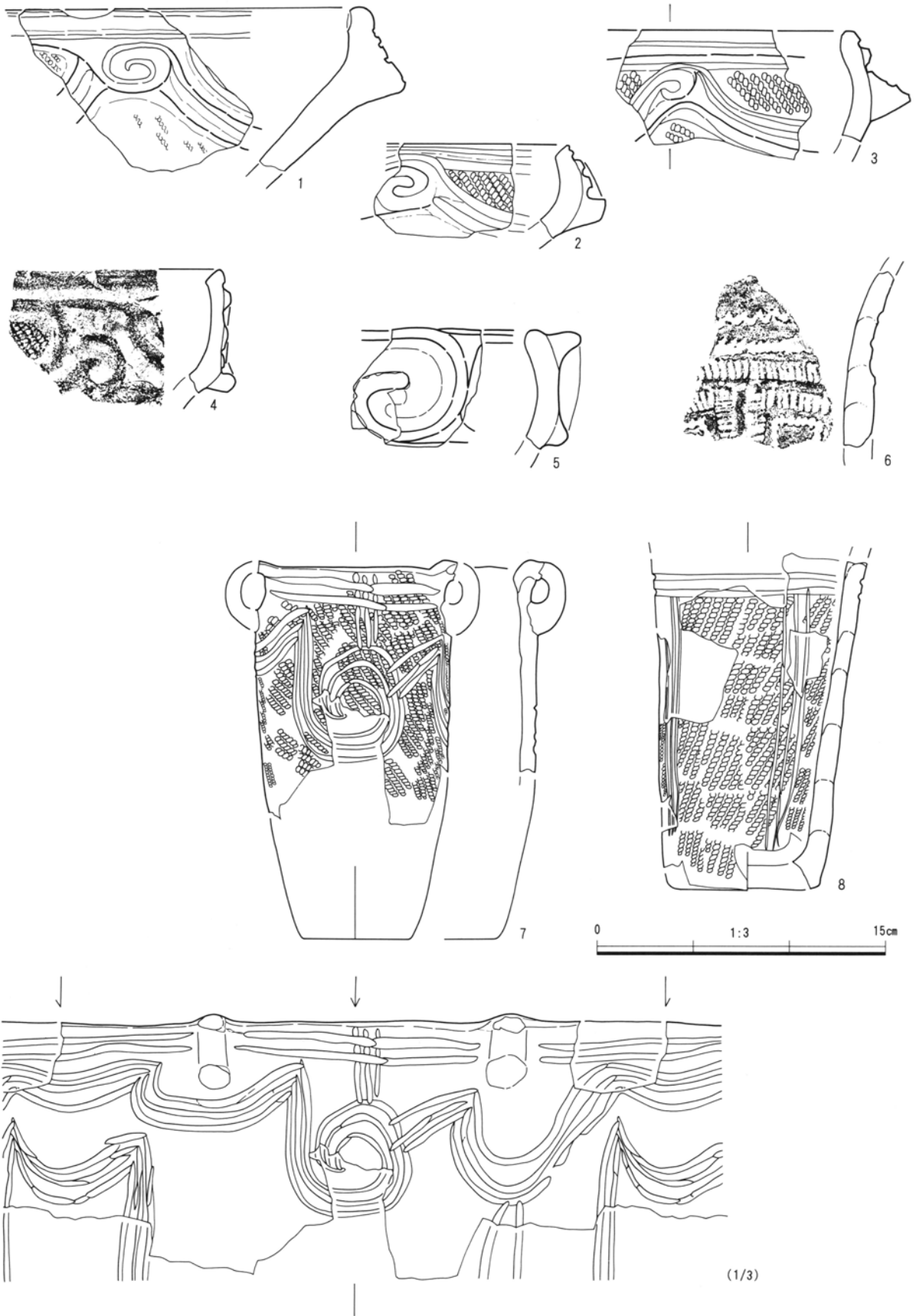


第61図 9号配石実測図



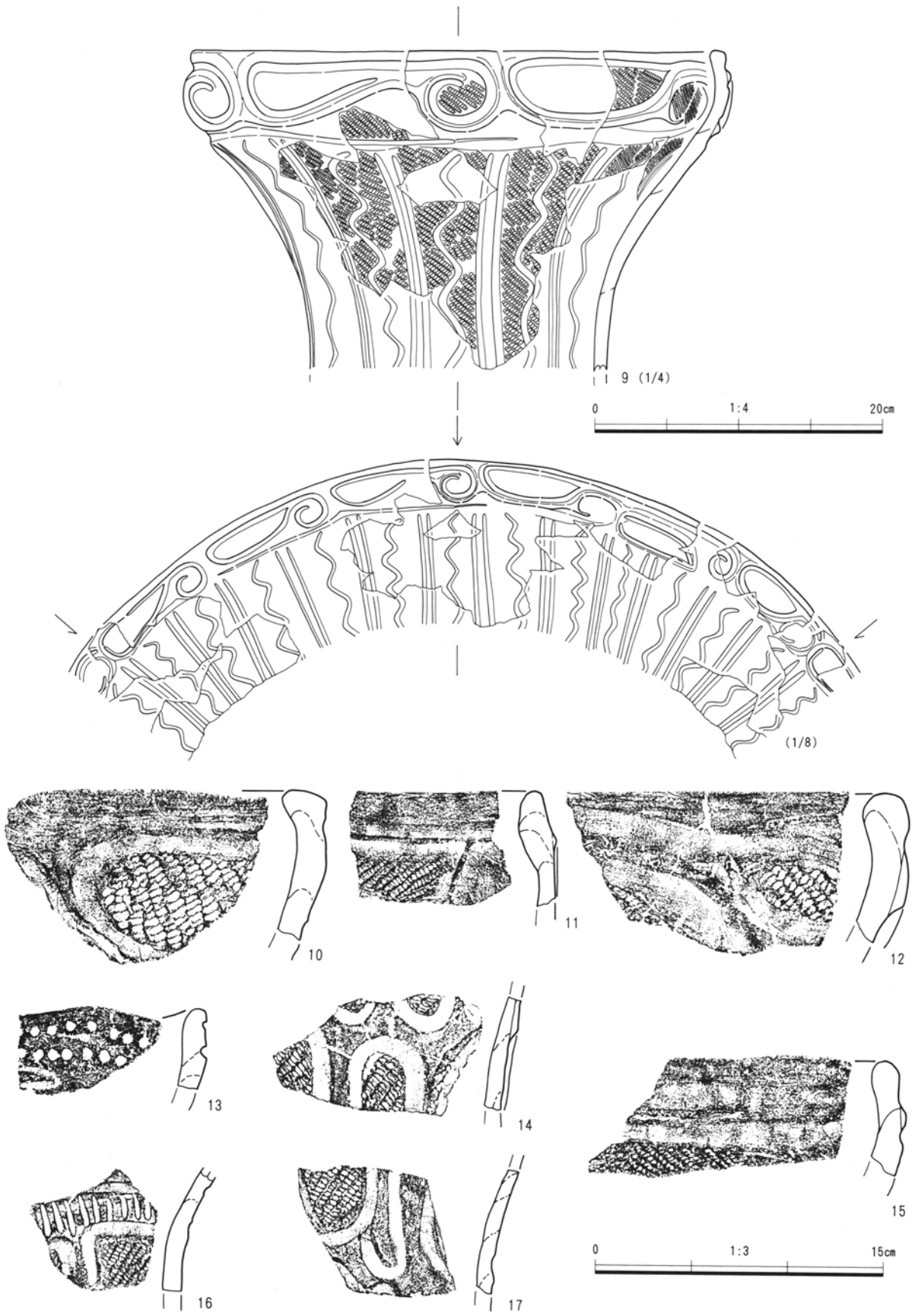
第62図 9号配石出土器分布図・投影図

第2節 縄文時代



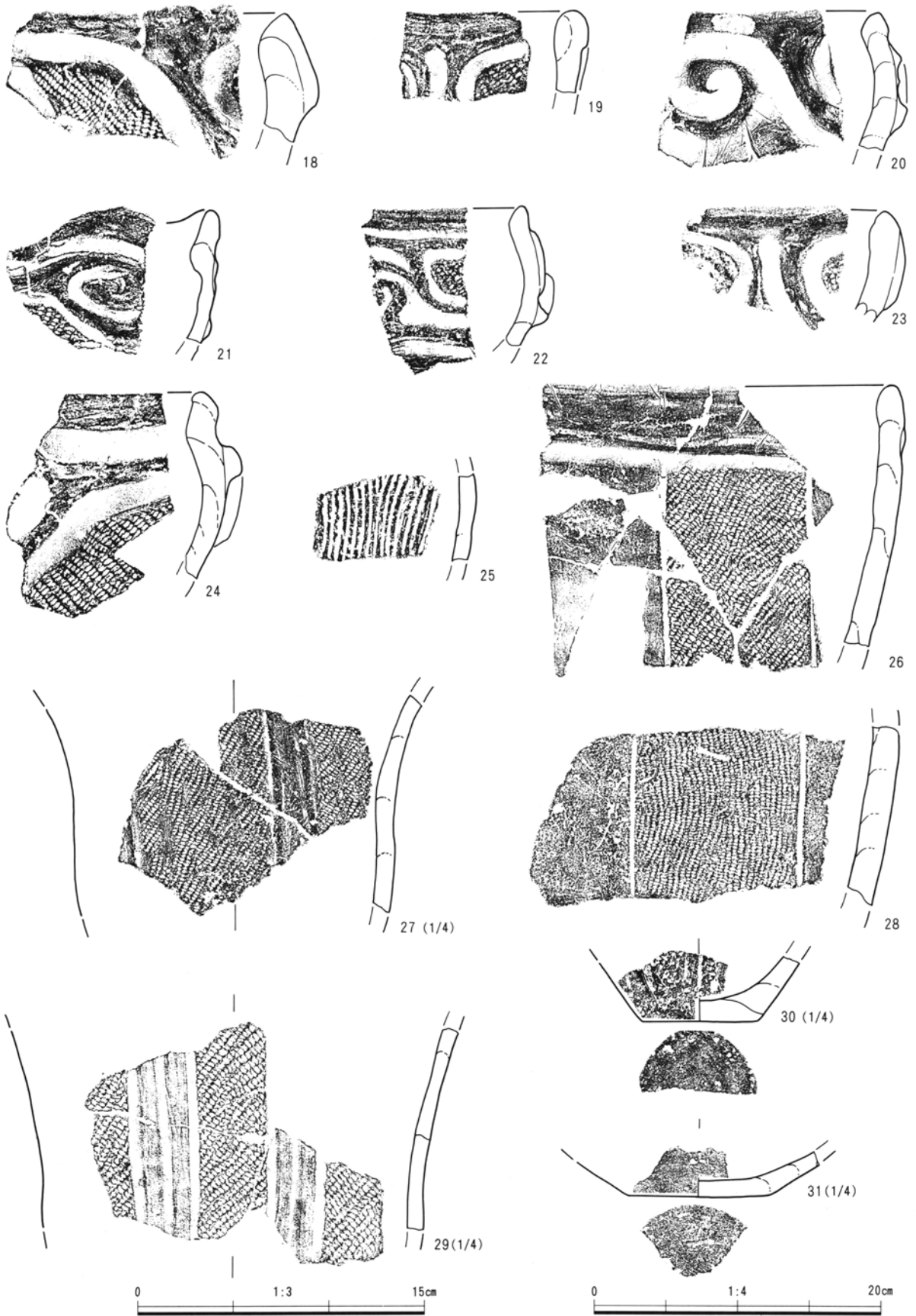
(1/3)

第63図 9号配石出土土器実測図(1)

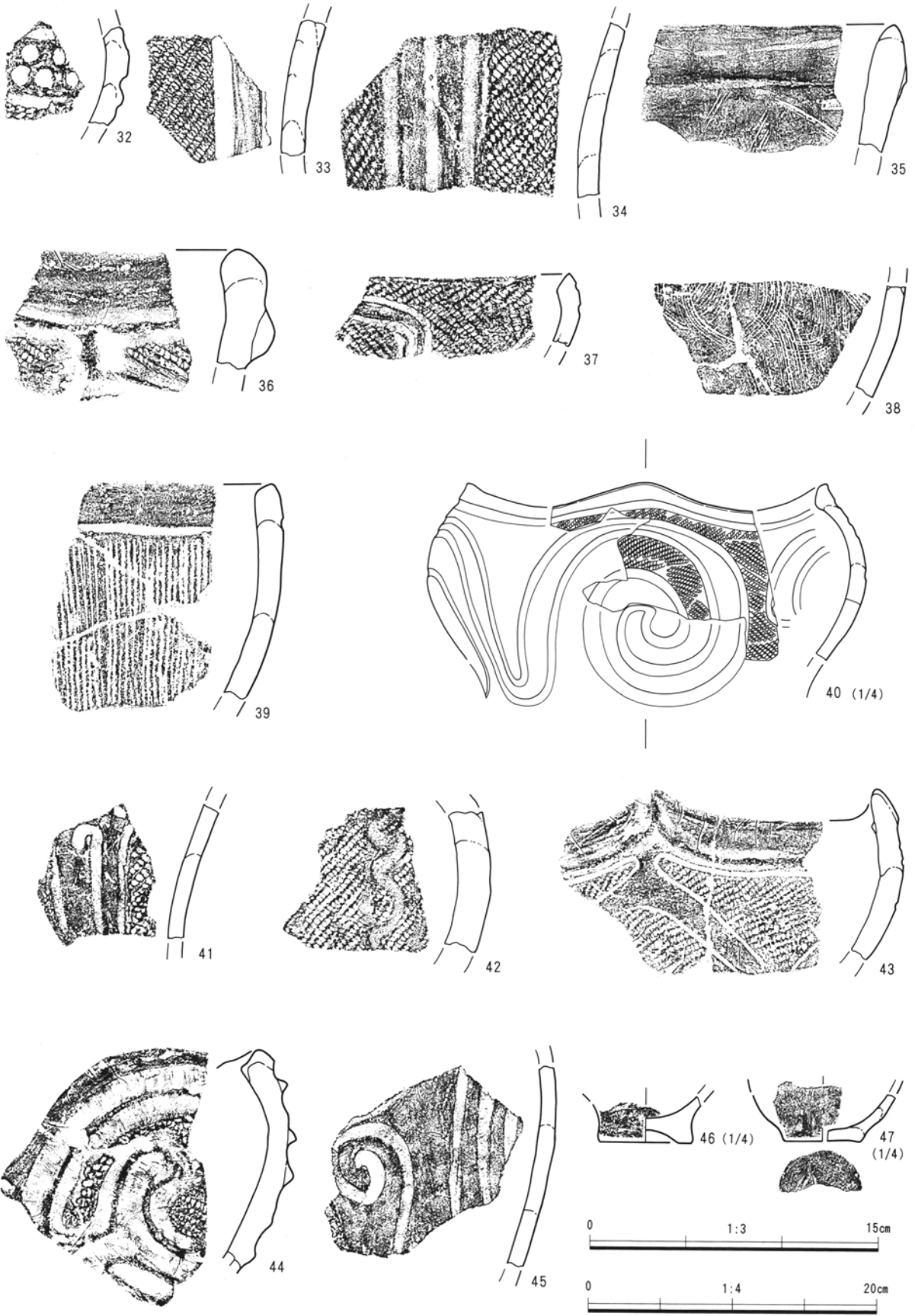


第64図 9号配石出土土器実測図(2)

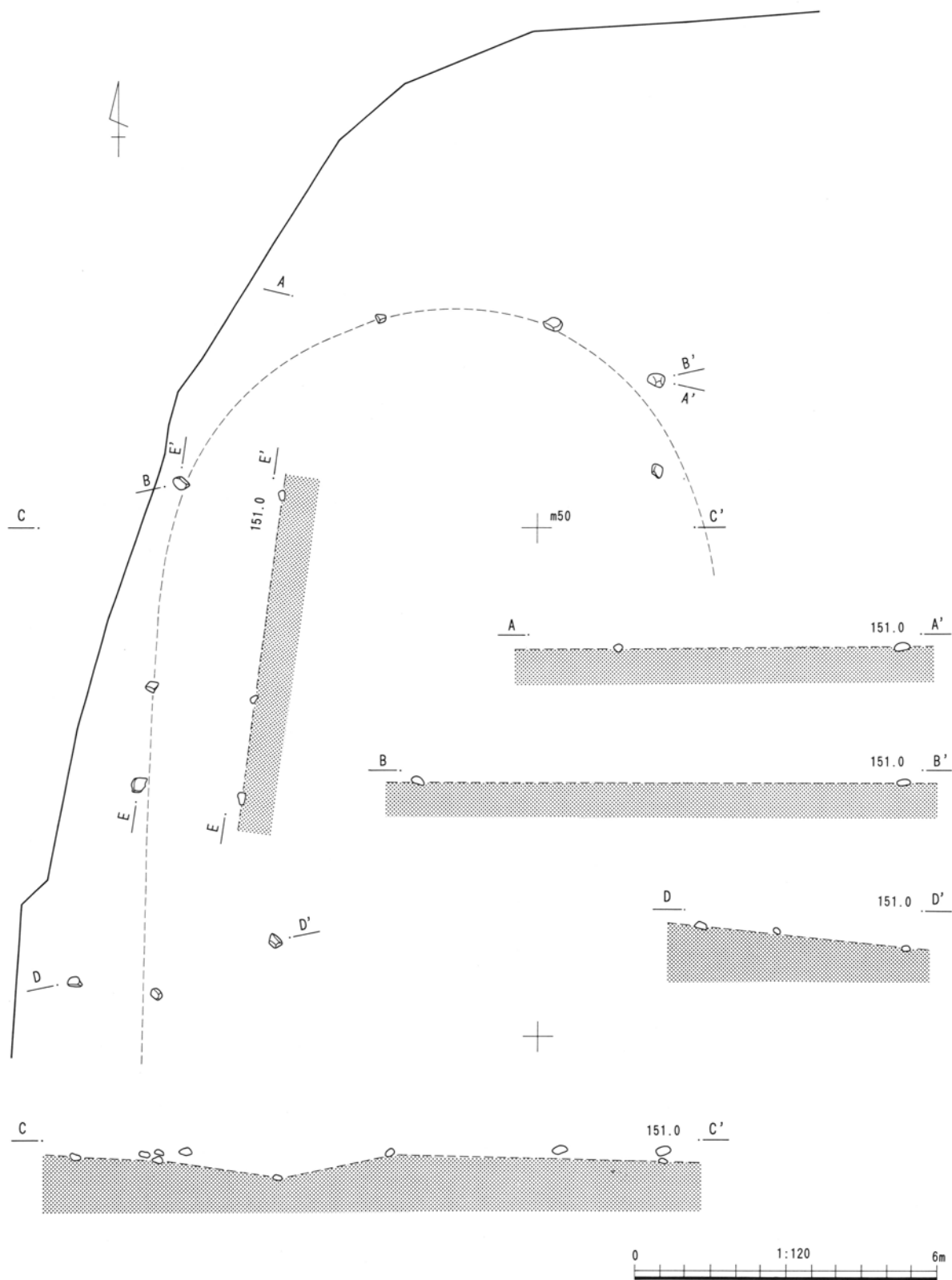
第2節 縄文時代



第65図 9号配石出土土器実測図(3)



第66図 9号配石出土土器実測図(4)



第67図 10号配石実測図

第5表 配石遺構出土土器観察表(1)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-1配 -1 第42図 P L 56	深鉢	口縁～底1/4 口36.2 底(6.0) 高53.6	G区1配石 覆土	①中砂。赤褐色粒多量、輝石・ 白色粒子少量 ②橙5Y R7/6 ③良好	口縁部は逆「の」字状渦巻文と「ㄣ」字状 区画文を6単位施文。胴部沈線間磨消 による懸垂文6単位施文。LR縄文斜 め縦位施文。	V群 外面口縁～胴部の 対峙する部分に黒 斑あり
G-1配 -2 第43図 P L 56	深鉢	口縁部1/3 口(38.4) 底一 高(12.6)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒多量、輝石・ 石英・赤褐色粒子少量 ②橙5Y R7/6 ③やや良し	口縁部隆帯と両脇沈線による「ㄣ」字状 文。胴部は縦位3条沈線による分割。 RL縄文充填。	V群 内外面一部黒斑
G-1配 -3 第43図 P L 56	深鉢	口～底部1/2 口27.6 底6.8 高36.3	G区1配石 覆土	①細砂。赤褐色粒多量、チャー ト・石英・輝石・白色粒子少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③やや良し	口縁4単位波状。口縁部文様帯波状の 下に渦巻と円形文が施文。胴部は「ㄣ」 に懸垂文施文。LR縄文を縦位充填。	V群 内面底部(下から 1/3程)黒変
G-1配 -4 第44図 P L 57	両耳 壺	口縁部1/4 口(26.4) 底一 高(10.5)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒・赤褐色粒・ 輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③やや良し	口縁部無文部横位磨き。頸部隆帯以下 楕円?状区画文、区画内はRL縄文横 位充填。	V群 外面淡く黒変
G-1配 -5 第44図 P L 57	両耳 壺	口～体部1/4 口(25.8) 底一 高(19.3)	G区1配石 覆土	①粗砂。白色粒多量、石英・ 輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい赤褐5Y R4/3 ③良好	口縁部はほぼ直立し、体部は短い。口 縁部横位磨き、頸部は微隆線で区画さ れ、途中に橋状把手貼付、4単位の可 能性あり。頸部・体部RL縄文施文。	V群 内外面一部黒変
G-1配 -6 第44図 P L 57	両耳 壺	口～底部2/3 口26.0 底7.6 高31.8	G区1配石 覆土	①中砂。赤褐色粒多量、白色 粒・輝石・石英少量 ②淡黄2.5Y 8/4 ③やや悪い	口縁は若干開くがほぼ直立、口縁部横 位磨き、体部との境に横位微隆線貼付、 体部はかなり丸味を持つ。LR縄文施 文。	V群 外面上半黒変、一 部黒斑、内面上半 黒変補修孔あり
G-1配 -7 第44図 P L 57	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.4)	G区1配石 覆土	①中砂。輝石・白色粒子・石 英・赤褐色粒子少量 ②橙5Y R6/6 ③やや良し	逆「の」字状渦巻文、LR縄文縦位施文。 隆帯は高くしっぺりしている。	V群 外面風化
G-1配 -8 第44図 P L 57	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.2)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒子多量、輝石 ・赤褐色粒子少量 ②明黄褐10Y R7/6 ③やや悪い	口縁下に幅広沈線施文。逆「の」字状渦 巻文、LR縄文充填。	V群 内外面風化
G-1配 -9 第44図 P L 57	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.7)	G区1配石 覆土	①細砂。輝石・白色粒子多量、 石英・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③良好(硬質)	横位楕円文施文。LR縄文充填。	V群 外面黒斑
G-1配 -10 第44図 P L 57	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.3)	G区1配石 覆土	①細砂。白色粒子・石英・輝 石少量 ②橙2.5Y R6/8 ③良好(硬質)	波状口縁、突起部分は外に反り返る。 その下に逆「の」字状渦巻文施文。内面 には「の」字状渦巻沈線施文。	V群 内面一部黒変
G-1配 -11 第44図 P L 57	深鉢	口縁片 口一 底一 高(10.8)	G区1配石 覆土	①粗砂。赤褐色粒多量、輝石 ・白色粒子少量 ②にぶい黄褐10Y R4/3 ③やや悪い	隆帯による「の」字状渦巻文。0段多条 LR縄文充填。	V群
G-1配 -12 第44図 P L 57	深鉢	口縁片 口一 底一 高(10.6)	G区1配石 覆土	①中砂。赤褐色粒・白色粒・ 石英・輝石少量 ②浅黄2.5Y 8/4 ③やや不良	逆「の」字状渦巻文、その下に連続刺突 文施文。胴部との境は横位沈線により 区画される。胴部は縦位2条沈線によ り分割される。LR縄文充填。	V群
G-1配 -13 第45図 P L 58	浅鉢	口縁片 口一 底一 高(5.2)	G区1配石 覆土	①中砂。雲母・石英多量、赤 褐色粒・輝石少量 ②にぶい橙5Y R7/4 ③良好	幅7mm半載竹管による結節沈線で弧状 施文。肩部に縦位刻み。	IV群
G-1配 -14 第45図 P L 58	浅鉢	口縁片 口一 底一 高(5.0)	G区1配石 覆土	①中砂。石英・雲母・結晶片 岩・輝石少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③良好	口唇部は角張る。半載竹管による平行 沈線で「の」字状渦巻文と斜行文施文。	V群 口唇～外面赤色塗 彩内面黒色塗彩
G-1配 -15 第45図 P L 58	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.8)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒子多量、石英 ・輝石・赤褐色粒子少量 ②明黄褐10Y R7/6 ③やや悪い	細隆線による区画文。LR縄文充填。	V群
G-1配 -16 第45図 P L 58	深鉢	胴部片 口一 底一 高(15.0)	G区1配石 覆土	①中砂。石英・チャート・白 色粒・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい橙5Y R6/3 ③やや良し	横位2条隆帯により胴部と区画。頸部 無文帯あり。胴部は縦位2条隆帯によ り4単位分割、RL縄文充填。間に縦 位波状隆帯懸垂。	V群 内面黒変

第2節 縄文時代

第5表 配石遺構出土土器観察表(2)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-1配 -17 第45図 P L 58	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.6)	G区1配石 覆土	①細砂。白色粒子多量、輝石・石英・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R 7/4 ③やや不良	緩い波状口縁。口縁下に横位細隆帯貼付、そこから下に縦位細隆帯貼付分割。	V群 外面煤付着黒変 内面黒斑
G-1配 -18 第45図 P L 58	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.5)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒多量、赤褐色粒・石英・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R 7/4 ③やや悪い	横位逆「の」字状渦巻文。R L縄文充填。沈線は深く明瞭。	V群
G-1配 -19 第45図 P L 58	深鉢	胴部片 口一 底一 高(7.1)	G区1配石 覆土	①中砂。5mm礫、白色粒多量、輝石・石英少量 ②淡黄2.5Y 8/4 ③やや良し	縦位沈線で胴部分割、間に「U」「n」字状沈線文、R L縄文縦位充填。	V群 外面黒斑黒変
G-1配 -20 第45図 P L 58	深鉢	胴部片 口一 底一 高(13.5)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R 7/4 ③良好	外面撫で、無文。内面磨き。	V群 内面黒変
G-1配 -21 第45図 P L 58	深鉢	胴部片 口一 底一 高(10.2)	G区1配石 覆土	①粗砂。白色粒子・赤褐色粒子多量、輝石・石英少量 ②灰黄褐10Y R 4/2 ③良好	1cm~1.2cm間隔で縦位又は斜縦位沈線施文。内面横位撫で。	V群 外面煤付着(黒変)
G-1配 -22 第45図 P L 58	深鉢	胴部1/4 口一 底一 高(9.8)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒子・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R 7/4 ③良好	幅1.8cm10本の細かい櫛状工具による縦位沈線。内面横位磨き。	V群 外面黒変
G-1配 -23 第45図 P L 58	深鉢	頸部1/3 口一 底一 高(12.8)	G区1配石 覆土	①細砂。白色粒・輝石・石英少量 ②橙7.5Y R 6/6 ③良好	沈線による波状文。口縁部の方がやや間隔が乱れる。内部にL R縄文充填。	V群 内外面口縁の胴部煤付着黒変
G-1配 -24 第45図 P L 58	深鉢	胴部片1/4 口一 底一 高(21.6)	G区1配石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒・チャート少量 ②黄橙7.5Y R 7/8 ③悪い	縦位2条微隆線により胴部分割、R L縄文縦位充填。	V群 外面一部淡く黒変
G-1配 -25 第45図 P L 58	深鉢	胴部片 口一 底一 高(14.3)	G区1配石 覆土	①粗砂。赤褐色粒・白色粒子多量、輝石・石英少量 ②明黄褐10Y R 7/6 ③やや良し	細かい櫛状工具による弧線文。下半は縦位磨き。内面横位磨き。	V群 外面黒斑、赤変あり内面一部黒変
G-1配 -26 第46図 P L 59	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.1)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒子多量、石英・赤褐色粒子・輝石少量 ②灰黄褐10Y R 5/2 ③不良	緩い波状口縁、弧線文、外にR L縄文充填。	V群 口唇部炭化物付着
G-1配 -27 第46図 P L 59	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.6)	G区1配石 覆土	①中砂。石英・白色粒・赤褐色粒多量、輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R 6/3 ③やや良し	緩い波状、内彎口縁。口縁より1.5cm下に横位微隆帯・沈線施文。下の区画には「n」字状細沈線文、R L縄文充填。	V群 内外面炭化物付着 黒変
G-1配 -28 第46図 P L 59	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.1)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒多量、輝石・石英・チャート・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R 7/4 ③やや良し	口縁下に横位細隆帯貼付、下に「ㄣ」字状区画、R L縄文充填。	V群 内外面炭化物付着
G-1配 -29 第46図 P L 59	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.4)	G区1配石 覆土	①中砂。8mm礫、白色粒子・輝石・赤褐色粒・石英少量 ②明黄褐10Y R 7/6 ③悪い	沈線による弧線文、蕨手文施文。L R縄文口縁部横位、胴部縦位施文。	V群 外面最大径前後帯状に黒変
G-1配 -30 第46図 P L 59	深鉢	口縁把手 口(19.0) 底一 高(8.5)	G区1配石 覆土	①中砂。石英・輝石・白色粒子多量 ②にぶい橙7.5Y R 6/4 ③やや良し	波状、内彎口縁。橋状把手貼付、口縁より2cm下に微隆帯貼付、胴部以下には「八」の字形波状細沈線文施文。粗粒のL R縄文充填。	V群
G-1配 -31 第46図 P L 59	深鉢	胴部1/3 口一 底一 高(9.3)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石多量、石英少量 ②にぶい橙7.5Y R 7/4 ③やや良し	沈線による「n」字状懸垂文、R L縄文充填。	V群 外面胴下部黒変 内面黒変
G-1配 -32 第46図 P L 59	深鉢	胴部片 口一 底一 高(8.4)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒子・石英・輝石・赤褐色粒子少量 ②明黄褐10Y R 7/6 ③やや悪い	細沈線による「の」字状渦巻文施文、L R縄文充填。	V群 器面風化

第5表 配石遺構出土土器観察表(3)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-1配 -33 第46図 P L 59	深鉢	口縁部把手 口一 底一 高(8.8)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 多量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③ややよし	波状、内彎口縁。橋状把手頂部はラッ パ状に開く。把手上に明瞭な沈線はな い。把手右下に弧状沈線文あり。	V群 外面煤付着黒変
G-1配 -34 第46図 P L 59	深鉢	胴部片 口一 底一 高(9.3)	G区1配石 覆土	①粗砂。赤褐色粒多量、白色 粒・輝石・石英少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③良好(硬質)	頸部横位沈線で胴部と区画。胴部に沈 線による逆「の」字状渦巻文、渦巻の 間に刺突文施文。地文はRL縄文。	V群 外面上半黒変
G-1配 -35 第46図 P L 59	深鉢	胴部片 口一 底一 高(10.2)	G区1配石 覆土	①粗砂。チャート・石英・結晶片 岩多量、輝石・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R7/2 ③良好(硬質)	沈線による横位逆「の」字状渦巻文、斜 行沈線充填。	V群 外面一部黒変
G-1配 -36 第46図 P L 59	深鉢	口縁～胴1/3 口(12.3) 底一 高(10.9)	G区1配石 覆土	①細砂。輝石・石英・白色粒 少量 ②橙5Y R6/6 ③ややよし	口縁下に横位沈線1条、沈線による波 状文上下2段施文、その中にRL縄文 充填。	V群 内外面口縁黒変
G-1配 -37 第46図 P L 59	深鉢	頸部1/4 口一 底一 高(22.4)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒多量、輝石・ 石英少量 ②橙7.5Y R7/6 ③不良	口辺部は沈線による「の」字状渦巻文、 胴部は山形懸垂文、区画内にLR細か い縄文充填。	V群 口辺煤付着黒変
G-1配 -38 第46図 P L 59	深鉢	底部片 口一 底5.1 高(3.0)	G区1配石 覆土	①中砂。石英・白色粒多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②灰黄褐10Y R6/2 ③ややよし	胴下端までLR縄文縦位又は斜め縦位 施文。底部はやや上底気味。内面磨き。	V群 外面黒斑あり
G-1配 -39 第46図 P L 59	深鉢	底部1/2 口一 底(7.0) 高(4.1)	G区1配石 覆土	①中砂。石英・チャート結晶 片岩多量、輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③良好	底部は胴部に比べやや薄手。内外面磨 き。	V群 内面黒変、外面一 部淡く黒変
G-1配 -40 第46図 P L 59	深鉢	底部片 口一 底7.0 高(5.8)	G区1配石 覆土	①細砂。白色粒子多量、輝石 ・石英・赤褐色粒子少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③ややよし	胴部LR縄文縦位施文。底部はやや上 底気味。	V群 内面炭化物付着 (黒変)
G-1配 -41 第46図 P L 59	深鉢	底部片 口一 底7.2 高(4.8)	G区1配石 覆土	①中砂。赤褐色粒・石英・輝 石・白色粒少量 ②橙7.5Y R7/6 ③ややよし	無文。外面に縦位研磨の際の条線がみ られる。内面横位磨き。底部中央はや や上底気味。	V群
G-2配 -1 第47・48 図 P L 60	深鉢	口～胴部2/3 口45.0 底一 高(52.0)	G区2配石 覆土	①中砂。赤褐色粒・白色粒子 ・輝石多量 ②明赤褐2.5Y R5/8 ③やや悪い	口縁突起4個貼付、内面に有孔。口縁 2段分割、突起下に逆「の」字状渦巻文、 間に「の」字又は逆「の」字状渦巻文、胴 部「n」状沈線内波状懸垂8単位施文。	V群
G-2配 -2 第49図 P L 60	深鉢	口縁部1/3 口(22.8) 底一 高(14.6)	G区2配石 覆土	①中砂。白色粒多量、輝石・ 石英・赤褐色粒子少量 ②黄橙7.5Y R7/8 ③やや悪い	口縁に無文帯及び横位沈線を施文しな い。沈線による波状文。口縁はLR縄 文横位、波状文内は縦位充填。	V群 外面口辺煤付着黒 変頸部黒斑、内面 黒変
G-2配 -3 第49図 P L 60	深鉢	頸部1/3 口一 底一 高(17.4)	G区2配石 覆土	①細砂。白色粒・輝石・石英 少量 ②橙5Y R7/6 ③やや悪い	波状沈線文2段施文。RL縄文縦位充 填施文。	V群 外面一部黒変
G-2配 -4 第49図 P L 60	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.6)	G区2配石 覆土	①中砂。白色粒子・輝石・赤 褐色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや悪い	波状口縁。突起下には双弧状沈線文施 文。RL縄文充填。	V群
G-2配 -5 第49図 P L 60	深鉢	口～胴部1/2 口(12.4) 底一 高(10.8)	G区2配石 覆土	①細砂。輝石・白色粒子・石 英粒子少量 ②橙7.5Y R6/8 ③良好	口縁は緩い波状口縁、口縁下に沈線1 条施文。波状沈線を上下2段にずらし て施文。RL縄文充填。	V群 内面胴上部～外面 口縁黒変
G-2配 -6 第49図 P L 60	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.6)	G区2配石 覆土	①中砂。白色粒子・石英・輝 石・赤褐色粒少量 ②明黄褐10Y R6/6 ③やや不良	口縁下に横位細沈線施文。その下に波 状沈線文？RL縄文充填。	V群 内外面風化
G-2配 -7 第49図 P L 60	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.5)	G区2配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英 少量 ②灰黄褐10Y R5/2 ③良好(硬質)	口縁下に横位沈線、「n」状沈線文、R L縄文充填。	V群 外面黒変

第2節 縄文時代

第5表 配石遺構出土土器観察表(4)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-2配 -8 第49図 P L60	深鉢	口縁片 口(18.0) 底一 高(5.7)	G区2配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③ややよし	4単位波状口縁、波状の下には双弧状 文施文、それらには縦位沈線2条 1単位のを2単位垂下。R L縄文 充填。	V群 外面煤付着黒変
G-2配 -9 第49図 P L60	深鉢	口縁片 口一 底一 高(10.1)	G区2配石 覆土	①細砂。白色粒子・赤褐色粒 子・輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③良好(硬質)	口縁下に緩い横位沈線、胴部に波状文。 R L縄文充填。	V群 外面淡く黒変
G-2配 -10 第49図 P L61	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.0)	G区2配石 覆土	①中砂。石英・白色粒多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③やや悪い	緩い波状、内彎口縁。口縁下に横位細 沈線、途中に双弧文、0段多条R L細 縄文充填。	V群 内外面淡く黒変
G-2配 -11 第49図 P L61	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.5)	G区2配石 覆土	①細砂。白色粒子・石英・輝 石少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③良好(硬質)	薄手。波状口縁。細沈線による波状文、 L R縄文充填。	内外面炭化物付着
G-2配 -12 第49図 P L61	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.8)	G区2配石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒 子少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③良好	口縁部は緩い波状口縁。口縁下に深い 横位沈線、その下に波状文。L R縄文 充填。	V群 外面淡く黒変
G-2配 -13 第50図 P L61	深鉢	口縁部1/4 口(35.4) 底一 高(10.5)	G区2配石 覆土	①中砂。結晶片岩多量、輝石 ・石英・白色粒子少量 ②橙5Y R6/6 ③ややよし	4単位波状口縁。口縁下に横位沈線施 文。波状口縁下に2重双弧文、波状の 間に縦位沈線による懸垂文。L R縄文 充填。	V群 内面口縁一部煤付 着(黒変) 内面器面が粗れる
G-2配 -14 第50図 P L61	深鉢	口縁片 口(30.0) 底一 高(9.7)	G区2配石 覆土	①中砂。白色粒多量、輝石・ 赤褐色粒子・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③不良	4単位波状口縁、突起下に双弧文、R L縄文充填。	V群 外面黒変
G-2配 -15 第50図 P L61	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.7)	G区2配石 覆土	①中砂。白色粒子・石英・輝 石・チャート少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③ややよし	横位楕円区画内に幅2.2cm 6本楕状 工具による縦位沈線充填。	V群 外面黒変
G-2配 -16 第50図 P L61	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.6)	G区2配石 覆土	①中砂。白色粒・赤褐色粒多 量、輝石・石英少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	横位楕円区画内に幅1.2cm 7本楕状工 具による縦位または斜位沈線充填。	V群 外面黒斑
G-2配 -17 第50図 P L61	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.5)	G区2配石 覆土	①中砂。白色粒多量、輝石・ 石英・赤褐色粒少量 ②褐灰10Y R4/1 ③悪い	太沈線による逆「の」字状渦巻文、内外 面に部分的に赤色塗彩残る。	V群 内外面赤色塗彩 器面粗れる
G-2配 -18 第50図 P L61	深鉢	胴下～底部 口一 底7.6 高(9.1)	G区2配石 覆土	①中砂。白色粒多量、輝石・ 石英少量 ②橙2.5Y R6/6 ③ややよし	上底、胴部に比べやや厚い。外面胴部 L R細縄文縦位施文。	V群 外面底部一部炭化 物付着 内面炭化物付着
G-2配 -19 第50図 P L61	深鉢	底部1/2 口一 底(6.8) 高(4.2)	G区2配石 覆土	①中砂。チャート・石英多量、 輝石・白色粒・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③良好	高い上底。内外面磨き。	V群
G-2配 -20 第50図 P L61	深鉢	口縁部把手 口一 底一 高(5.9)	G区2配石 覆土	①中砂。石英多量、赤褐色粒 ・白色粒・輝石少量 ②橙7.5Y R6/6 ③良好	波状、内彎口縁。頂部に浅沈線による 逆「の」字状渦巻文、橋状把手中央は僅 かに窪む。下には双弧状沈線文が配置 されるものと思われる。	V群
G-2配 -21 第50図 P L61	深鉢	頸～胴下1/8 口一 底一 高(28.1)	G区2配石 覆土	①中砂。赤褐色粒・白色粒多 量、石英・輝石少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③ややよし	胴部との境に横位隆帯貼付、沈線によ る楕円区画文。胴部は縦位2条沈線に より分割、L R縄文縦位充填。	V群 外面胴部煤付着黒 変
G-2配 -22 第50図 P L61	深鉢	口縁部1/4 口(30.6) 底一 高(20.3)	G区2配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石多量、 石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③ややよし	波状、内彎口縁。口縁下に幅広沈線が 沿う。その下に双弧状沈線文、胴部に 「∩」字状沈線文。R L縄文充填。	V群 外面大きい黒斑あ り
G-2配 -23 第51図 P L61	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.9)	G区2配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石多量、 石英少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	口縁下に横位隆帯。隆帯による「∩」字 状区画内縦位沈線充填。隆帯の交点に は省略渦巻文、頸部は磨き、無文帯あ り。	V群 内面～口唇部黒変

第5表 配石遺構出土土器観察表(5)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-2配 -24 第51図 P L 61	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.5)	G区2配石 覆土	①細砂。白色粒子・石英粒子 多量、輝石少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③ややよし	波状、内彎口縁。口唇部沈線、頂部左 側は「の」字状蕨手文。隆帯と沈線による 楕円区画と「の」字状蕨手文。区画内 擦糸文R縦位施文。	V群 口唇部炭化物付着 黒変
G-2配 -25 第51図 P L 62	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.0)	G区2配石 覆土	①中砂。チャート・石英多量、 輝石・白色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③やや悪い	内彎口縁。口縁1.5cm下に横位隆帯貼 付区画、連弧状2重隆帯頂部に逆「の」 字状渦巻文。RL縄文充填。	V群 外面口縁煤付着淡 く黒変
G-2配 -26 第51図 P L 62	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.5)	G区2配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・赤褐 色粒・石英少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	波状口縁。突起下に逆「の」字状渦巻文。 沈線は深く明瞭。	V群 内面口縁黒変
G-2配 -27 第51図 P L 62	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.8)	G区2配石 覆土	①粗砂。白色粒・赤褐色粒多 量、輝石・石英・チャート少量 ②にぶい黄褐10Y R/5/4 ③やや不良	口縁部「の」字状渦巻文、横位楕円文施 文。胴部はその下に2条1単位沈線に より縦位分割、RL縄文充填。	V群 外面頂部黒変
G-2配 -28 第51図 P L 62	深鉢	胴部片 口一 底一 高(13.4)	G区2配石 覆土	①中砂。結晶片岩多量、白色粒 ・輝石・赤褐色粒・チャート少量 ②橙7.5Y R6/6 ③良好	縦位沈線により分割、間に「U」「∩」字 状沈線文施文、LR縄文充填。	V群 外面上部黒変 内面下部黒変
G-2配 -29 第51図 P L 62	深鉢	胴上部1/4 口一 底一 高(15.0)	G区2配石 覆土	①粗砂。白色粒・赤褐色粒・ 石英・輝石少量 ②橙5Y R7/6 ③やや悪い	縦位「∩」字状隆帯とその両脇に沿う沈 線により区画され、内部にRL縄文を 充填する。	V群 外面上部一部黒変
G-2配 -30 第51図 P L 62	深鉢	胴部片 口一 底一 高(15.6)	G区2配石 覆土	①粗砂。輝石・白色粒多量、 石英・赤褐色粒子少量 ②橙7.5Y R6/6 ③良好	縦位4条沈線による分割。間にRL縄 文充填、その後波状沈線垂下。	V群 内面煤付着黒変
G-2配 -31 第51図 P L 62	深鉢	胴～底部2/3 口一 底6.6 高(9.8)	G区2配石 覆土	①中砂。輝石・白色粒子多量、 赤褐色粒子少量 ②明赤褐2.5Y R5/8 ③やや悪い	胴部低隆帯と隆帯脇沈線2条～3条を 1単位とし、7単位施文。RL縄文と LR縄文を縦位充填。	V群 内面黒変
G-2配 -32 第51図 P L 62	深鉢	底部1/4 口一 底(8.2) 高(8.3)	G区2配石 覆土	①中砂。赤褐色粒多量、白色 粒・輝石少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③やや悪い	縦位2条沈線により分割、間にRL縄 文縦位充填後、縦位波状沈線施文。	V群 外面上端一部黒変
G-2配 -33 第51図 P L 62	深鉢	底部片 口一 底8.6 高(7.5)	G区2配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英 少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや悪い	底部は厚手であるが中心はやや薄い。	V群 内面黒変 外面底部黒斑あり
G-2配 -34 第51図 P L 62	深鉢	底部片 口一 底6.4 高(4.1)	G区2配石 覆土	①粗砂。石英・白色粒多量、 赤褐色粒・輝石少量 ②明黄褐10Y R7/6 ③やや悪い	底部はかなり厚手。縦位2条沈線施文。	V群 内面淡く黒変 外面被熱、器面粗 れる
G-6配 -1 第52図 P L 62	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.1)	G区6配石 覆土	①細砂。白色粒子・石英粒子 多量、赤褐色粒・輝石少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好	波状口縁、外面突起下に逆「の」字状渦 巻文、蕨手状渦巻文、内面「の」字状渦 巻文。	V群 内外面炭化物付着 黒変
G-6配 -2 第52図 P L 62	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.7)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒多量、石英・ 輝石・赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③やや悪い	緩い波状口縁、口唇部に指頭圧痕あり。 口縁下に横位沈線、下に幅9mm4本櫛 状工具による縦位沈線施文。	V群 外面一部黒変
G-6配 -3 第52図 P L 62	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.5)	G区6配石 覆土	①細砂。石英・白色粒子多量、 輝石少量 ②にぶい黄2.5Y 6/3 ③ややよし	内彎口縁。口縁より3.5cm下に横位浅 沈線、幅1.6cm9本櫛状工具による縦 位波状沈線文。	V群
G-6配 -4 第52図 P L 63	深鉢	胴部片 口一 底一 高(12.0)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②明黄褐10Y R7/6 ③不良	渦巻文又は楕円文、RL縄文充填。	V群
G-6配 -5 第52図 P L 63	深鉢	胴部片 口一 底一 高(10.8)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒・赤褐色粒・ 輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③ややよし	横位楕円区画又は渦巻文、胴部「∩」字 状沈線、RL縄文充填。	V群

第5表 配石遺構出土土器観察表(6)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-6配 -6 第52図 P L63	両耳 壺	胴部片 口一 底一 高(7.1)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒・石英多量、 結晶片岩・赤褐色粒少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③悪い	口縁部磨き、体部との境に微隆帯貼付、 R L縄文縦位施文。	V群 外面黒変あり
G-6配 -7 第52図 P L63	深鉢	胴部片 口一 底一 高(11.1)	G区6配石 覆土	①中砂。輝石多量、白色粒・ 石英少量 ②灰黄褐10Y R5/2 ③やや良し	頸部無文帯横位磨き。幅4mm3条横位 沈線により胴部と区画、胴部R L縄文 縦位施文。	V群 外面黒変あり
G-6配 -8 第52図 P L63	深鉢	胴部片 口一 底一 高(17.0)	G区6配石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒 子多量、赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや良し	頸部に横位2条1単位隆帯貼付、胴部 と区画。胴部に2条弧状隆帯貼付、そ の間を上下1条隆帯で「x」状に連結す る。縦位沈線充填。	V群 外面一部黒変
G-6配 -9 第52図 P L63	深鉢	胴部片 口一 底一 高(8.3)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英 少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや悪い	脇に沈線を伴う縦位隆帯により分割、 間に沈線懸垂。R L R複節縄文縦位充 填。	V群 外面淡く黒変
G-6配 -10 第52図 P L63	深鉢	胴部片 口一 底一 高10.2	G区6配石 覆土	①中砂。赤褐色粒・石英・輝 石・白色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや悪い	縦位微隆線貼付により胴部分割。縦位 磨き。内面横撫で。	V群
G-6配 -11 第52図 P L63	深鉢	底部片 口一 底5.5 高(4.6)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒・石英多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③良好	外面胴部R L縄文縦位斜位施文。底部 撫で、やや上底気味。内面撫で。	V群 外面黒変
G-6配 -12 第53図 P L63	深鉢	口縁～胴部 口一 底一 高(6.8)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英 少量 ②浅黄2.5Y7/4 ③やや悪い	口縁部横位磨き、4cm下に横位微隆線、 下に縦位、弧状微隆線L R縄文充填。	V群 口縁内外面黒変
G-6配 -13 第53図 P L63	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.1)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒・石英多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②灰黄2.5Y7/2 ③やや良し	口唇部～外面良く研磨。微隆線による 弧線文。内面横位撫で。	V群
G-6配 -14 第53図 P L63	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.2)	G区6配石 覆土	①中砂。石英・輝石・赤褐色 粒・白色粒少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③やや良し	内彎口縁。口縁沿いに連続刻み、口縁 3cm下に刻み付き隆帯貼付、その下に 幅広横位浅沈線施文。R L縄文横位施 文。	V群 外面一部黒変
G-6配 -15 第53図 P L63	深鉢	口縁片 口一 底一 高(9.8)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒多量、輝石・ 石英・赤褐色粒子少量 ②淡黄2.5Y8/4 ③やや良し	口縁より3cm下に幅広横位沈線、そこ から斜め下に斜位沈線、R L縄文充填。	V群
G-6配 -16 第53図 P L63	深鉢	口縁片 口(33.6) 底一 高(9.6)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや良し	波状口縁、口縁下に幅広浅沈線、その 下に隆帯「T」字状に貼付。R L縄文充 填。	V群 外面一部黒変
G-6配 -17 第53図 P L64	深鉢	胴部片 口一 底一 高(7.3)	G区6配石 覆土	①中砂。石英・白色粒子多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③良好	沈線による渦巻文、L R縄文充填。	V群 外面煤付着黒変
G-6配 -18 第53図 P L64	深鉢	胴部片 口一 底一 高(9.2)	G区6配石 覆土	①中砂。赤褐色粒・白色粒・ 石英・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③良好	薄手。波状細沈線、L R縄文縦位充填。	V群
G-6配 -19 第53図 P L64	深鉢	胴部片 口一 底一 高(9.9)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③不良	2条細沈線による「J」字状渦巻文。R L縄文充填。	V群 外面一部煤付着 内面黒変
G-6配 -20 第53図 P L64	深鉢	胴部片1/3 口一 底一 高(32.1)	G区6配石 覆土	①中砂。輝石・白色粒・赤褐 色粒多量、石英少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③良好	胴部は2条1単位沈線により8単位分 割、R L縄文縦位充填後沈線懸垂。	V群 外面淡く黒変 黒変部器面粗れる
G-6配 -21 第53図 P L64	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.7)	G区6配石 覆土	①中砂。赤褐色粒・白色粒・ 輝石少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	緩い波状、内彎口縁。口縁沿いに2条 連続刺突文、間に浅い沈線施文。突起 部には縦位貼付文、下に沈線による弧 線文、間にL R縄文充填。	V群 内面炭化物付着 (黒変) 6配-22と同一個体?

第5表 配石遺構出土土器観察表(7)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-6配 -22 第54図 P L64	深鉢	口~胴上1/3 口(34.0) 底— 高26.6	G区6配石 覆土	①中砂。φ6mm礫・輝石・石英・白色粒子少量 ②黄橙7.5Y R7/8 ③やや良し	4単位波状口縁。口縁に2条連続刺突文、間に沈線施文。波状部突起は橋状把手の省略形。口縁下に「の」字状渦巻文、胴部に波状文施文。LR縄文充填。	V群 内面上部煤付着(黒変) 6配-21と同一個体?
G-6配 -23 第54図 P L64	深鉢	口縁片1/4 口(25.6) 底— 高(13.4)	G区6配石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③やや良し	口縁4単位波状口縁。頂部下に弧状沈線文、LR細縄文充填。	V群 内面炭化物付着(黒変) 外面煤付着(黒変)
G-6配 -24 第54図 P L64	深鉢	口縁部把手 口— 底— 高(9.6)	G区6配石 覆土	①中砂。石英多量、輝石・白色粒少量 ②灰黄褐10Y R4/2 ③良好(硬質)	波状、内彎口縁。橋状把手1/2欠、口縁より1.5cm下に沈線が沿う。把手下に沈線による弧線文、左右は三角形文となり、LR縄文充填。	V群 内外面黒色(黒し?)
G-6配 -25 第54図 P L64	深鉢	口縁部3/4 口19.0 底— 高(14.7)	G区6配石 覆土	①中砂。輝石多量、石英・白色粒子少量 ②明黄褐2.5Y 7/6 ③やや良し	口縁部は4単位波状口縁、1カ所に橋状突起貼付。双弧状沈線文8単位施文。LR縄文充填。	V群 内外面黒斑(黒しの可能性あり)
G-6配 -26 第55図 P L65	深鉢	口縁片1/3 口(24.2) 底— 高(6.1)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒多量、輝石・赤褐色粒・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③悪い	波状口縁。口縁より1.5cm下に横位隆帯その両脇に沈線文。口縁頂部下に弧線文。LR縄文充填。	V群 外面炭化物付着(黒変)内面下端一部煤付着(黒変)
G-6配 -27 第55図 P L65	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.1)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒・石英多量、輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄2.5Y 6/3 ③やや良し	波状口縁、口縁部内彎。口縁より3cm下に横位隆帯貼付。その下に双弧文又は渦巻文沈線施文。LR縄文「コ」部分に充填。	V群 外面煤付着(黒変)
G-6配 -28 第55図 P L65	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.1)	G区6配石 覆土	①細砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③やや良し	外面口縁磨き、LR縄文斜位施文。内面撫で。	V群 口縁から4.5cm間帯状に煤付着黒変
G-6配 -29 第55図 P L65	深鉢	口縁片1/4 口(19.0) 底— 高(5.1)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③やや良し	緩い波状口縁?口縁下に微隆線、そこから下に微隆線による逆「の」字状渦巻文。LR縄文充填。	V群 外面煤付着黒変
G-6配 -30 第55図 P L65	深鉢	口縁片 口— 底— 高(4.6)	G区6配石 覆土	①中砂。石英・輝石・白色粒・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや良し	口縁より3cm下に横位微隆線、そこから下に弧状隆帯貼付。外面磨き、内面横位撫で。	V群 外面淡く黒変
G-6配 -31 第55図 P L65	深鉢	口縁片 口— 底— 高(4.7)	G区6配石 覆土	①中砂。石英・白色粒・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい橙5Y R7/4 ③良好	薄手。波状口縁。口縁沿いに横位2条連続刺突文、その下に横位沈線、弧状沈線文。	V群 外面煤付着(黒変)
G-6配 -32 第55図 P L65	深鉢	底部片 口— 底5.3 高(3.3)	G区6配石 覆土	①中砂。結晶片岩・チャート・石英・輝石少量 ②橙7.5Y R7/6 ③良好	内外面磨き、底部上底。	V群 外面黒変
G-6配 -33 第55図 P L65	深鉢	底部片 口— 底6.2 高(3.6)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・赤褐色粒少量 ②浅黄2.5Y 7/3 ③不良	胴部縦位撫で、底部上底。	V群 内面黒変
G-6配 -34 第55図 P L65	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.1)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・赤褐色粒・石英少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③良好	内彎、波状口縁。頂部に摘み出し状の突起貼付、下に双弧状沈線施文。LR縄文充填。	V群 外面黒斑あり
G-6配 -35 第55図 P L65	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.0)	G区6配石 覆土	①中砂。赤褐色粒多量、輝石・石英・白色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③良好	波状口縁、やや内彎気味。頂部に摘み出し状の小突起貼付。下に双弧状沈線文施文。LR縄文充填。	V群 外面下淡く黒変
G-6配 -36 第55図 P L65	深鉢	底部片 口— 底6.6 高(5.4)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③やや良し	外面胴部磨き、底部削り後磨き、中央わずかに凹む。内面撫で。	V群 内面黒変
G-6配 -37 第55図 P L65	蓋	口縁片 口(10.0) 摘— 高(2.5)	G区6配石 覆土	①細砂。輝石・石英・白色粒少量 ②にぶい黄褐10Y R5/4 ③良好	内外面磨き。やや楕円形。紐通し孔は左右2カ所には付くものと考えられるが上下については不明。	V群 外面黒斑

第5表 配石遺構出土土器観察表(8)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-6配 -38 第55図 P L 65	鉢	口縁1/4 口(23.6) 底— 高(8.0)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③良好	口縁部内彎。無文部を設け、体部縄文 はLR縦位施文。	V群
G-6配 -39 第55図 P L 65	蓋	1/2 口(9.2) 摘3.5 高3.5	G区6配石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒 子少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③良好(硬質)	表・裏とも研磨。外面は特に良く研磨。 上から見ると微隆線により人の目状に なっており、両側にφ1cm程の紐通し 孔があく。微隆線脇に沈線が沿う。	V群 燻し後外面赤色塗 彩
G-6配 -40 第55図 P L 65	深鉢	胴下部1/3 口— 底— 高(17.3)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英 少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	外面縦位撫で後磨き。幅6mm4本櫛状 工具による斜位沈線を一部に残す。内 面横位撫で。	V群 外面淡く赤変 内面淡く黒変
G-7配 -1 第56図 P L 65	深鉢	口縁~胴1/2 口(12.4) 底— 高(11.1)	G区7配石 覆土	①細砂。輝石・白色粒子・赤 褐色粒子・石英少量 ②橙2.5Y R6/8 ③良好	口縁下に横位微隆線貼付、細沈線によ る三角形に近い波状文、胴部に「ㇿ」 沈線懸垂。LR縄文充填。	V群 内外面黒変
G-7配 -2 第56図 P L 66	深鉢	口~胴上3/4 口31.4 底— 高19.0	G区7配石 覆土	①細砂。輝石・赤褐色粒多量 、白色粒子少量 ②明黄褐10Y R6/6 ③やや悪い	沈線による渦巻文4単位、その間に三 角形に近い波状文、胴部にやや対峙す る位置よりずれて「ㇿ」状沈線懸垂。 LR縄文充填。	V群 口縁内外面煤付着 黒変
G-7配 -3 第57図 P L 65	深鉢	口縁片1/4 口(30.0) 底— 高(12.3)	G区7配石 覆土	①細砂。石英・白色粒子多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや良し	口縁内彎、波状口縁。上半は細沈線に よる「J」字状渦巻きモチーフと逆三角 形意匠の連接。下半は「ㇿ」字状沈線懸 垂、縄文RL縦・斜め充填。	V群 補修孔あり 外面煤付着黒変
G-7配 -4 第57図 P L 66	深鉢	胴部片 口— 底— 高(12.9)	G区7配石 覆土	①中砂。白色粒多量、輝石・ 石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	横位幅広低隆帯により胴部と分割、胴 部は2条沈線により縦位分割、その間 に蕨手状沈線文、外にRL縄文縦位充 填。	V群
G-7配 -5 第57図 P L 66	深鉢	口縁~頸1/3 口(37.8) 底— 高(18.8)	G区7配石 覆土	①中砂。石英・白色粒子多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R7/6 ③やや良し	口縁部横位磨き、横位沈線1条、その 下はLR縄文横位、頸部から胴部は縦 位施文。	V群 内面口縁部煤付着 (黒変)
G-7配 -6 第57図 P L 66	深鉢	口縁片 口— 底— 高(9.7)	G区7配石 覆土	①中砂。赤褐色粒・石英・輝 石・白色粒少量 ②橙7.5Y R7/6 ③良好	口縁より3cm下に横位微隆線貼付、そ の下に「ㇿ」字状沈線内RL縄文充填。	V群 外面黒斑
G-7配 -7 第57図 P L 66	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.3)	G区7配石 覆土	①粗砂。赤褐色粒多量、石英 ・輝石・白色粒子少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③やや悪い	弧線文、山形波状沈線文、LR縄文充 填。	V群
G-7配 -8 第57図 P L 66	深鉢	頸部1/3 口— 底— 高(9.5)	G区7配石 覆土	①細砂。白色粒・輝石・石英 少量 ②橙7.5Y R7/6 ③やや良し	沈線による波状文、「ㇿ」LR縄文縦 位充填。各所に沈線の引き直しがみら れる。	V群 内面一部黒変
G-7配 -9 第57図 P L 66	深鉢	胴部片 口— 底— 高18.8	G区7配石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③やや悪い	微隆線と脇幅広浅沈線による渦巻文、 RL縄文充填。	V群 外面黒斑 内面一部黒変
G-7配 -10 第57図 P L 66	深鉢	頸部1/3 口— 底— 高(9.7)	G区7配石 覆土	①細砂。白色粒・輝石・石英 少量 ②橙5Y R7/6 ③やや良し	沈線による双弧状文、間の縦位沈線と 山形沈線は下に懸垂。LR細縄文充填。	V群 内面一部黒変
G-7配 -11 第57図 P L 66	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.9)	G区7配石 覆土	①中砂。白色粒子・輝石・石 英少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや良し	細沈線による弧線文、0段多条RL縄 文充填。	V群
G-7配 -12 第57図 P L 66	深鉢	胴部片 口— 底— 高(9.4)	G区7配石 覆土	①細砂。白色粒子・赤褐色粒 子多量、輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	細沈線文による波状、山形文RL縄文 充填。	V群 外面一部黒変
G-7配 -13 第58図 P L 67	深鉢	口縁片 口(24.4) 底— 高(8.3)	G区7配石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒 子少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③良好(硬質)	「ㇿ」字状沈線施文。RL縄文口縁横位、 その他縦位充填。	V群 内外面黒変 Gh-45-6に類似

第5表 配石遺構出土土器観察表(9)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-7配 -14 第58図 P L 67	深鉢	口縁片1/4 口(22.8) 底— 高(8.2)	G区7配石 覆土	①細砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好	口縁部内彎。緩い波状口縁、口縁より 2cm下に幅3mm竹管状工具による横位 沈線、その下に幅9mm8本櫛状工具に よる縦位沈線間隔施文。	V群 外面胴部煤付着 (黒変)
G-7配 -15 第58図 P L 67	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.5)	G区7配石 覆土	①細砂。白色粒・石英・輝石 少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③やや良し	波状、内彎口縁。口縁より2cm下に微 隆線、その間は浅い沈線、頂部下に双 弧状沈線文。RL縄文充填。	V群 外面煤付着(黒変)
G-7配 -16 第58図 P L 67	両耳 壺	口縁部1/5 口(29.0) 底— 高(16.2)	G区7配石 覆土	①中砂。白色粒・石英・赤褐 色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや悪い	橋状把手を頸部に付す。4単位?口縁 部磨き無文、頸部の縄文はLR縦位、 斜位施文。	V群 外面口縁淡く黒変
G-7配 -17 第58図 P L 67	両耳 壺	口~胴下3/4 口22.6 底(6.5) 高35.0	G区7配石 覆土	①中砂。石英・白色粒多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③悪い	口縁やや内傾。口縁部磨き無文、胴部 との境に横位微隆線貼付し区画。両側 に橋状把手貼付。胴部は細長い樽形の 器形を呈する。	V群 外面胴部上半と下 端に黒変あり 内面胴部黒斑
G-7配 -18 第58図 P L 67	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.4)	G区7配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②黄橙7.5Y R7/8 ③やや良し	口縁より2cm下に横位沈線、「 \cap 」字状 沈線文、外側にRL縄文充填。	V群 外面下端煤付着 (黒変) 内面煤付着(黒変)
G-7配 -19 第58図 P L 67	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.2)	G区7配石 覆土	①細砂。石英・輝石・白色粒 少量 ②灰黄褐10Y R5/2 ③良好(硬質)	口縁内傾、横位沈線下に無節L縄文斜 縦位施文。	V群 外面煤付着(黒変)
G-7配 -20 第58図 P L 67	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.9)	G区7配石 覆土	①細砂。輝石・石英・白色粒 子少量 ②淡黄2.5Y 8/4 ③やや良し	緩い波状口縁。口縁沿いに細沈線1条、 波状の頂部下に「 \cap 」字状沈線文、RL 縄文充填。	V群
G-7配 -21 第58図 P L 67	深鉢	底部片 口— 底(8.8) 高(4.0)	G区7配石 覆土	①中砂。白色粒多量、輝石・ 石英・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや悪い	外面底は研磨、光沢をもつ。	V群
G-7配 -22 第58図 P L 67	深鉢	底部片 口— 底(9.6) 高(6.2)	G区7配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石多量、 赤褐色粒・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③やや悪い	底部中心は肥厚。胴部RL縄文充填。	V群
G-3配 -1 第59図 P L 68	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.4)	G区3配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐10Y R5/4 ③不良	蕨手状沈線施文。RL縄文口縁横位、 その他縦位充填。	V群 外面被熱風化
G-3配 -2 第59図 P L 68	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.1)	G区3配石 覆土	①中砂。赤褐色粒・チャート ・石英・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③やや良し	緩い波状口縁、竹管状工具による横位 沈線下に篋状工具による縦位沈線施 文。	V群
G-3配 -3 第59図 P L 68	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.5)	G区3配石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③やや悪い	口縁やや内傾。横位隆帯下に楕円又は 渦巻き隆帯貼付区画。	V群
G-3配 -4 第59図 P L 68	深鉢	口辺部片 口— 底— 高(8.4)	G区3配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石多量、 石英・赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③やや良し	沈線による楕円区画もしくは渦巻文。 胴部2条沈線により分割、RL縄文充 填。	V群
G-3配 -5 第59図 P L 68	深鉢	口縁片 口— 底— 高(10.4)	G区3配石 覆土	①中砂。石英・白色粒多量、 輝石・角閃石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	口縁横位磨き、その下に横位微隆線、 そこから縦位微隆線貼付。RL縄文充 填。	V群
G-3配 -6 第59図 P L 68	深鉢	胴部片 口— 底— 高(3.5)	G区3配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・赤褐 色粒少量 ②浅黄橙7.5Y R8/6 ③不良	横位隆帯区画内 ϕ 4mm棒状工具による 刺突文。	V群
G-3配 -7 第59図 P L 68	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.5)	G区3配石 覆土	①細砂。白色粒子・石英・輝 石少量 ②黄灰2.5Y 4/1 ③やや良し	逆「J」字状渦巻文、RL縄文充填。	V群

第2節 縄文時代

第5表 配石遺構出土土器観察表(10)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-3配 -8 第59図 P L 68	深鉢	胴部片 口— 底— 高(13.1)	G区3配石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③不良	縦位微隆線により分割、R L縄文縦位 充填。	V群 外面上部淡く黒変
G-3配 -9 第59図 P L 68	深鉢	胴部片 口— 底— 高(4.1)	G区3配石 覆土	①中砂。5mm礫・輝石多量、白 色粒子・石英・チャート少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③やや悪い	櫛状工具による縦位沈線文。	V群
G-3配 -10 第59図 P L 68	深鉢	胴部片 口— 底— 高(2.3)	G区3配石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③やや悪い	浅沈線による弧線文、L R縄文充填。	V群
G-3配 -11 第59図 P L 68	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.4)	G区3配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒・チャート少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③良好	内面横位磨き、外面幅1cm8本櫛状工 具による縦位沈線文。	V群 外面一部黒変
G-3配 -12 第59図 P L 68	深鉢	胴部片 口— 底— 高(4.1)	G区3配石 覆土	①中砂。白色粒子・石英多量、 輝石・チャート少量 ②明赤褐5Y R5/6 ③やや悪い	R L縄文施文。	V群
G-3配 -13 第59図 P L 68	深鉢	底部片 口— 底(8.4) 高(8.1)	G区3配石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや悪い	胴部縦位磨き。底面撫で。内面磨き。	V群 外面底部黒斑
G-3配 -14 第59図 P L 68	深鉢	底部片 口— 底7.0 高(4.1)	G区3配石 覆土	①細砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/6 ③やや悪い	3条沈線により8単位分割。底部厚手。	V群 内面淡く黒変外面 赤変
G-3配 -15 第59図 P L 68	深鉢	底部片 口— 底9.0 高(4.3)	G区3配石 覆土	①中砂。白色粒・石英多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③やや悪い	縦位隆帯及び脇沈線により区画、L R 縄文充填。	V群 底部網代痕
G-9配 -1 第63図 P L 68	深鉢	口縁片 口— 底— 高(8.4)	G区9配石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒 子多量 ②橙5Y R6/6 ③やや悪い	口縁下に横位隆帯、途中に逆「の」字状 渦巻文、そこから両側に「八」字状に2 重隆帯貼付、両側は「ㄣ」字状区画。体 部磨消。地文R L縄文。	V群
G-9配 -2 第63図 P L 68	深鉢	口縁片 口— 底— 高(4.7)	G区9配石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒 子多量、赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③やや良し	口縁やや内彎。口縁下に横位沈線、高 い隆帯による逆「の」字状渦巻文と「ㄣ」 字状区画文、R L縄文横位施文。頸部 無文帯あり。	V群 内外面黒変
G-9配 -3 第63図 P L 68	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.9)	G区9配石 覆土	①中砂。結晶片岩・石英多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③やや悪い	口縁やや内彎。口縁下に横位隆帯、そ の上下に沈線、隆帯による逆「の」字状 渦巻文、間に沈線施文。両側に「ㄣ」字 状区画、R L縄文充填。頸部縄文施文。	V群 外面口縁淡く黒変
G-9配 -4 第63図 P L 68	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.3)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③良好	口縁より1.0cm下に横位沈線、隆帯に よる横位楕円文、逆「の」字状渦巻文、 R L縄文充填。頸部無文帯あり。	V群
G-9配 -5 第63図 P L 68	深鉢	口縁部突起 口— 底— 高(6.1)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石多量、 赤褐色粒・石英少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③やや良し	口縁内彎。高い隆帯による逆「の」字状 渦巻文。	V群
G-9配 -6 第63図 P L 68	深鉢	胴部片 口— 底— 高(8.9)	G区9配石 覆土	①粗砂。結晶片岩・微細雲母 多量、輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい赤褐2.5Y R5/4 ③やや良し	キャタピラ文を「T」字状施文、区画内 ペン先状刺突文。	IV群
G-9配 -7 第63図 P L 69	深鉢	口~胴部3/4 口9.6 底— 高(13.6)	G区9配石 覆土	①細砂。輝石・白色粒子・赤 褐色粒子やや多く含む。 ②明赤褐2.5Y R5/8 ③良好	口縁部に橋状把手2単位貼付。口縁下 に横沈線2条、胴部に沈線による渦巻 文・弧線・直線文、渦巻文の上に縦沈 線3条施文。地文はL R縄文縦位施文。	V群 内面及び外面口縁 部黒変
G-9配 -8 第63図 P L 69	深鉢	口縁~底2/3 口— 底7.4 高(17.3)	G区9配石 覆土	①中砂。赤褐色粒多量、白色 粒子・輝石少量 ②橙5Y R6/8 ③やや良し	頸部に横位2条沈線施文。胴部は縦位 3条沈線により4単位分割。底部はわ ずかに上底。地文は条間があくR L縄 文縦位施文。	V群 外面胴上部及び内 面黒変

第5表 配石遺構出土土器観察表(1)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-9配 -9 第64図 P L 69	深鉢	口~胴上1/2 口37.4 底一 高(22.1)	G区9配石 覆土	①中砂。赤褐色粒多量、輝石・石英・白色粒少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③良好	口縁部に渦巻文と横位楕円区画文、胴部は2条沈線より分割、L R縄文縦位充填後波状沈線懸垂。頸部に幅狭の無文部を設ける場所あり。	V群 内面口縁を除き淡く黒変
G-9配 -10 第64図 P L 69	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.7)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒・石英多量、赤褐色粒・輝石少量 ②にぶい黄褐10Y R5/3 ③やや良し	口唇部肥厚、内彎口縁。渦巻文と横位楕円区画文、R L R縄文充填。	V群
G-9配 -11 第64図 P L 69	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.0)	G区9配石 覆土	①中砂。石英・白色粒多量、輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③良好	口縁やや内彎。3cm下に横位微隆線、斜位微隆線、L R縄文充填。	V群 内面煤付着黒変 外面黒斑
G-9配 -12 第64図 P L 69	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.6)	G区9配石 覆土	①中砂。石英・白色粒多量、雲母・チャート・輝石少量 ②灰黄褐10Y R5/2 ③良好	口唇部肥厚、口縁やや内彎。横位楕円区画内0段多条R L縄文横位充填。	V群
G-9配 -13 第64図 P L 69	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.2)	G区9配石 覆土	①中砂。赤褐色粒子極多量、輝石・白色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③不良	波状口縁、口縁下に刺突文が2列沿う。波状突出部下に双弧文施文。	V群 外面黒変
G-9配 -14 第64図 P L 69	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.8)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒子多量、輝石・赤褐色粒子・石英少量 ②明赤褐5Y R5/6 ③やや良し	「U」「n」字状沈線文、R L縄文充填。	V群 内面黒変
G-9配 -15 第64図 P L 69	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.9)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒子多量、石英・輝石・赤褐色粒少量 ②明黄褐10Y R7/6 ③やや悪い	口縁下に横位微隆帯貼付、両脇に幅広横位沈線が沿う。その下にR L縄文横位施文。	V群 外面黒斑
G-9配 -16 第64図 P L 69	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.4)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・赤褐色粒・石英少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③良好	横位沈線及び「Γ」状沈線、渦巻沈線文、R L縄文縦位充填。	V群 内面一部黒変
G-9配 -17 第64図 P L 69	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.4)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒子・石英・輝石少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③やや良し	「U」字状沈線間に蕨手状沈線？R L縄文充填。	V群 外面煤付着
G-9配 -18 第65図 P L 69	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.6)	G区9配石 覆土	①中砂。赤褐色粒・白色粒・輝石・植物繊維少量 ②浅黄橙7.5Y R8/4 ③やや良し	口唇部突起貼付。沈線と低隆帯による渦巻文、R L縄文充填。	V群
G-9配 -19 第65図 P L 69	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.2)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒子・輝石・石英多量、赤褐色粒少量 ②明赤褐5Y R5/6 ③やや悪い	沈線と低隆帯による横位楕円文、中央に沈線、R L縄文充填。	V群
G-9配 -20 第65図 P L 69	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.1)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや良し	明瞭な沈線による「の」字状渦巻文。	V群 外面一部黒変
G-9配 -21 第65図 P L 69	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.9)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒・赤褐色粒・石英・輝石少量 ②にぶい橙7.5Y R5/4 ③やや悪い	薄手。波状口縁、頂部下に低隆帯と沈線による逆「の」字状渦巻文、R L縄文縦位施文。	V群 外面淡く黒変
G-9配 -22 第65図 P L 70	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.1)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③やや良し	比較的薄手。隆帯による「∩」字状区画文と「の」字状渦巻文。R L縄文充填。頸部無文帯あり。	V群 外面一部黒変
G-9配 -23 第65図 P L 70	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.7)	G区9配石 覆土	①粗砂。白色粒・輝石多量、石英・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③やや悪い	口縁やや内彎。渦巻文、横位楕円文、R L縄文充填。	V群 外面淡く黒変
G-9配 -24 第65図 P L 70	深鉢	口縁片 口一 底一 高(9.7)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒子・輝石・赤褐色粒子・石英少量 ②橙7.5Y R7/6 ③やや良し	「∩」字状区画又は渦巻文、L R縄文施文。	V群

第2節 縄文時代

第5表 配石遺構出土土器観察表(12)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-9配 -25 第65図 P L 70	深鉢	胴部片 口— 底— 高(4.4)	G区9配石 覆土	①粗砂。結晶片岩・微細雲母 多量、石英・輝石少量 ②にぶい褐7.5Y R6/3 ③やや悪い	比較的薄手。幅2cm6本櫛状工具による縦位弧状沈線。	V群
G-9配 -26 第65図 P L 70	深鉢	口縁片 口— 底— 高(13.4)	G区9配石 覆土	①中砂。石英・白色粒・輝石 少量 ②灰黄褐10Y R4/2 ③ややよし	口縁部やや内彎。口縁部横位磨き。口縁より3cm下に横位微隆帯、縦位2条細沈線により胴部分割、RL縄文縦位充填。	V群 内外面煤付着 (黒変)
G-9配 -27 第65図 P L 70	深鉢	胴部片 口— 底— 高(15.1)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒・石英・赤褐色粒・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③やや悪い	胴部縦位2条微隆線により分割、RL縄文縦位充填。	V群 内面黒変 外面胴下半赤変
G-9配 -28 第65図 P L 70	深鉢	胴部片 口— 底— 高(9.2)	G区9配石 覆土	①中砂。石英・長石・白色粒・輝石・赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③ややよし	縦位細沈線で分割、RL縄文斜め縦位充填。	V群 外面赤斑
G-9配 -29 第65図 P L 70	深鉢	胴部片 口— 底— 高(13.9)	G区9配石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③ややよし	縦位3条沈線により胴部分割、RL縄文縦位充填。	V群 内面上部赤変
G-9配 -30 第65図 P L 70	深鉢	底部片 口— 底8.0 高(4.5)	G区9配石 覆土	①中砂。輝石・白色粒・石英多量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③ややよし	縦位2～3条沈線により8単位分割、RL縄文充填後磨き。内面撫で	V群 外面煤付着黒変
G-9配 -31 第65図 P L 70	浅鉢	底部片 口— 底(10.0) 高(3.3)	G区9配石 覆土	①粗砂。赤褐色粒多量、白色粒・輝石・石英少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③良好	外面底はややザラつく。それ以外はよく研磨。	V群 外面一部黒変
G-9配 -32 第66図 P L 70	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.0)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒極多量、輝石・石英少量 ②灰黄褐10Y R6/2 ③ややよし	横位沈線間にφ1cm程の棒状工具による円形刺突文2列充填。	V群
G-9配 -33 第66図 P L 70	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.8)	G区9配石 覆土	①中砂。赤褐色粒・白色粒・石英・輝石少量 ②にぶい黄褐10Y R5/3 ③良好	縦位2条以上の沈線により胴部分割。RL縄文充填。	V群 外面煤付着(黒変)
G-9配 -34 第66図 P L 70	深鉢	胴部片 口— 底— 高(9.0)	G区9配石 覆土	①粗砂。白色粒子・輝石多量、赤褐色粒子・石英少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや悪い	縦位3条1単位沈線により胴部分割。RL縄文充填。	V群 内外面一部黒変
G-9配 -35 第66図 P L 70	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.6)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y 8/4 ③ややよし	口縁部横位磨き、口縁から3cm下に横位微隆線貼付、幅1.6cm8本櫛状工具による斜行沈線文。	V群 外面一部黒変
G-9配 -36 第66図 P L 71	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.2)	G区9配石 覆土	①中砂。石英・白色粒子多量、輝石・赤褐色粒少量 ②明黄褐10Y R7/6 ③悪い	口縁横位磨き、下に小突起貼付、その下に双弧文?RL縄文充填。	V群 外面黒斑
G-9配 -37 第66図 P L 71	深鉢	口縁片 口— 底— 高(3.8)	G区9配石 覆土	①中砂。石英・白色粒多量、赤褐色粒・輝石少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③良好	内彎口縁。「∩」字状沈線文、LR縄文口縁のみ横位、他は縦位施文。	V群 外面黒変
G-9配 -38 第66図 P L 71	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.2)	G区9配石 覆土	①中砂。赤褐色粒・白色粒・石英・輝石少量 ②橙5Y R6/6 ③ややよし	幅1.4cm8本櫛状工具による弧線文。	V群 外面黒斑
G-9配 -39 第66図 P L 71	深鉢	口縁片 口— 底— 高(11.2)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒子多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③やや不良	口縁下に横位沈線、幅1.5cm6本櫛状工具による縦位沈線施文。	V群 外面炭化物付着 (黒変)
G-9配 -40 第66図 P L 71	深鉢	口縁部1/4 口(25.2) 底— 高(12.3)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石少量 ②灰黄褐10Y R6/2 ③ややよし	緩い波状、内彎口縁。口縁沿いに沈線、頂部下に渦巻状沈線文。LR縄文充填。	V群 外面煤付着黒変

第5表 配石遺構出土土器観察表(13)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-9配 -41 第66図 P L 71	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.8)	G区9配石 覆土	①細砂。白色粒・石英・輝石 少量 ②にぶい橙10Y R7/4 ③やや良し	縦位沈線により分割、蕨手状沈線施文。 R L縄文充填。	V群 外面赤変 内面黒変
G-9配 -42 第66図 P L 71	深鉢	胴部片 口— 底— 高(7.2)	G区9配石 覆土	①中砂。石英・白色粒多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③やや良し	器形は内彎する。R L縄文縦位施文後、 縦位波状沈線懸垂。	V群
G-9配 -43 第66図 P L 71	深鉢	口縁片 口— 底— 高(8.8)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/6 ③やや悪い	波状口縁、突起下両口縁から2cm下に 微隆線貼付。細沈線による弧線文及び 三角形文。L R縄文充填。	V群 内外面煤付着 (黒変)
G-9配 -44 第66図 P L 71	深鉢	口縁片 口— 底— 高(11.6)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒・赤褐色粒・ 輝石・石英少量 ②明黄褐10Y R7/6 ③やや悪い	口唇部浅沈線、内彎口縁。弧状又は渦 巻状2重隆帯貼付。R L縄文充填。	V群
G-9配 -45 第66図 P L 71	深鉢	胴部片 口— 底— 高(10.4)	G区9配石 覆土	①中砂。4mm礫、白色粒・輝 石・石英少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③やや良し	薄手。「の」字状渦巻及び縦位沈線文。 内外面ともよく研磨。沈線間の低隆帯 上に赤色塗彩残る。	V群 赤色塗彩
G-9配 -46 第66図 P L 71	深鉢	底部片 口— 底6.6 高(3.3)	G区9配石 覆土	①中砂。石英・白色粒多量、 赤褐色粒・輝石少量 ②橙2.5Y R6/8 ③やや良し	外面磨き。底部上底。内面撫で。	V群
G-9配 -47 第66図 P L 71	瓢形 土器	胴下～底1/2 口— 底5.4 高(3.3)	G区9配石 覆土	①細砂。石英・白色粒・輝石 少量 ②灰褐7.5Y R4/2 ③良好(硬質)	内外面よく研磨。	V群 赤色塗彩?

第3項 列石遺構

本遺跡から礫を帯状に連ねた列石遺構は2基検出した。

1号列石 (第68・69図、P L 9)

Gi-48・49グリッドに位置する。西接して2号列石がある。確認面は角礫・亜角礫混黒褐色土面である。東側に泥流丘があり、75cm×50cm×35cmの礫を等高線に沿うように5.45mにわたり帯状に構築される。遺物は列石に伴うか不明であるが、礫間に3個の土器片が出土した。

2号列石 (第68図、P L 9)

Gi-47グリッドに位置する。東接して1号列石、西接して6号集石がある。確認面は角礫・亜角礫混黒褐色土面である。25cm×15cm×12cmの礫を傾斜地を囲むように1.85mにわたり弧状を呈する。西側は6号集石の縁石に連なるものとみられる。6号集石は列石遺構を利用し構築したものとも考えられる。

遺物の出土はない。

第6表 集石遺構一覧表

番号	位置 グリッド	平面形	規模 (cm)	深さ (cm)	断面形	時代	備考
1	Gf-45	円形	径 189	19	2	E III	
3	Gh-46	円形	径 98	24	1	E III	
4	Gh・i-45	(全体)	237X79.5			E IV	
4A		楕円形		24			
4B		(A・B・C)	89	32			
4C		円形	59.5	26			
5	Gh・i-46	楕円形		39	2'	E III	
6	Gi-47	円形	径 162	27		E III	
8	Gi-46・47	円形	径 150	11		E III	
9	Gn・o-52	円形	径 160	18		E III	

番号	位置 グリッド	平面形	規模 (cm)	深さ (cm)	断面形	時代	備考
10A	Gp-47・48	円形	径 90	21		E III	
10B			径 111	22		E III	
11	Gn-48・49	円形	径 71	18		E III	
12	Gn-48・49	円形	径 89	16		E III	
13	Gm-49	円形	径 71	19		E III	
14	Gl-49	円形	径 59	21		E III	
16	Go・p-48	円形	径 100	16		E III	
17	Gn・o-48	円形	径 65	-		E III	
18	Gn-49	円形	径 40	-		E III	

第7表 配石遺構一覧表

番号	位置 グリッド	平面形	直径 (cm)	時代	備考
1	Gf-46 g-45・46	円形	461	E IV	
2	Gg・h-45	円形	325	E IV	
3	Gp-48	円形	420	E IV	
5	Gm・o-52 n-51・52	円形	801	E IV	

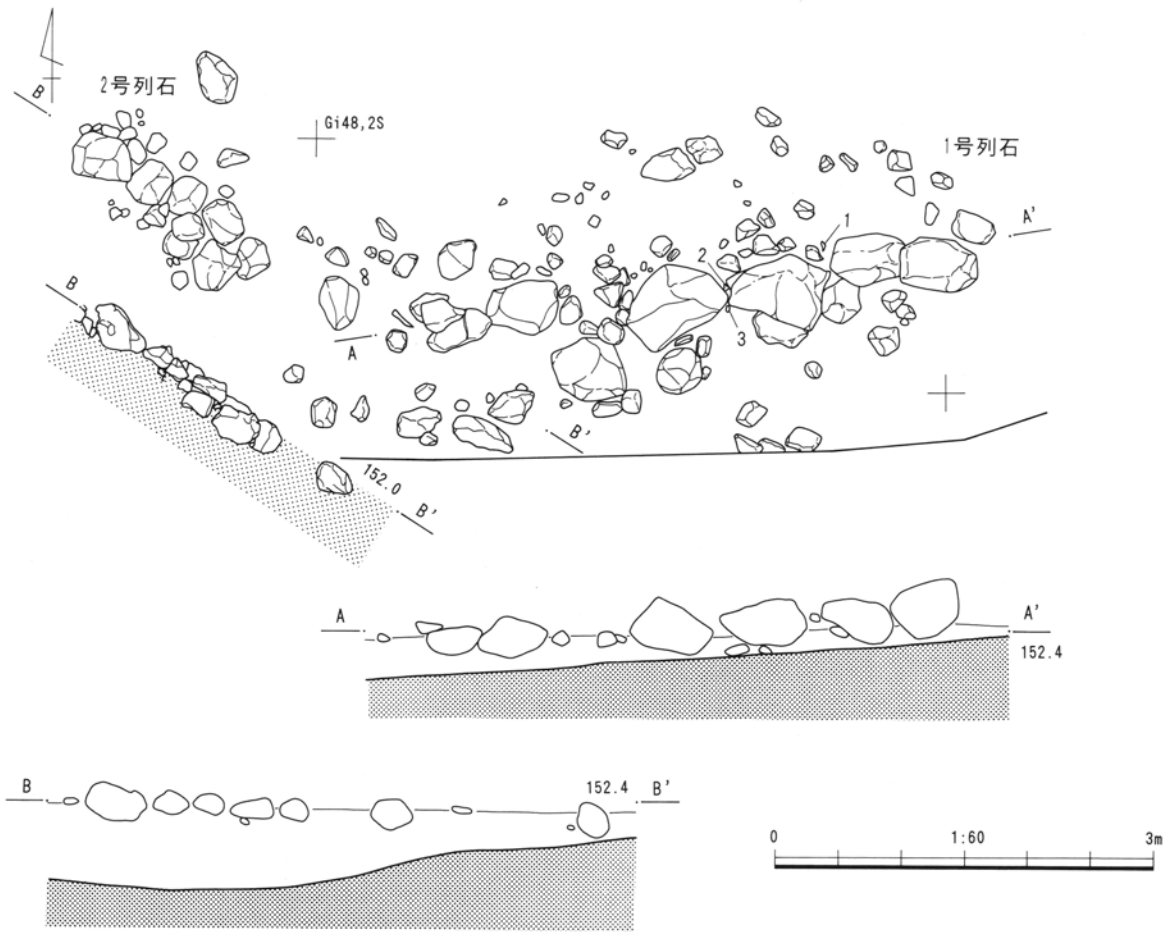
番号	位置 グリッド	平面形	直径 (cm)	時代	備考
6	Gg-46 h-46・47	円形	406	E IV	
7	Gh-45・46	円形	257	E IV	
9	Gg・h・i- 45・46・47	円形	1,360	E III	
10	Gl・m・n- 48・49・50	円形	1,082	E III	

第8表 列石遺構一覧表

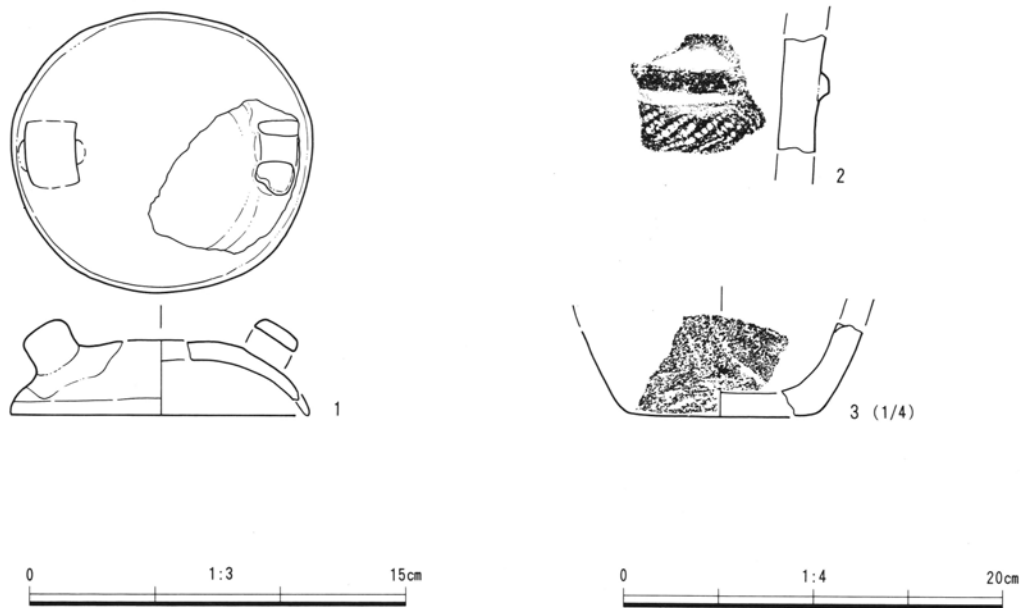
番号	位置 グリッド	長さ(m)	主軸方位	出土遺物	時代	備考
1	Gi-48・49	5.45	W-174.5° -N			
2	Gi-47	1.85	W- 44.5° -N			

第9表 列石遺構出土土器観察表

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-1列 -1 第69図 P L 71	蓋	1/4 □— 摘— 高(2.9)	G区1列石 覆土	①中砂。赤褐色粒多量、輝石・石英・白色粒少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③ややよし	内外面研磨。かなり丸味を持つ。紐通し孔φ1cm。	V群
G-1列 -2 第69図 P L 71	深鉢	口辺部片 □— 底— 高(4.7)	G区1列石 覆土	①中砂。石英・白色粒多量、輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	横位隆帯貼付、LR縄文施文。	V群
G-1列 -3 第69図 P L 71	深鉢	底部片 □— 底(5.2) 高(4.9)	G区1列石 覆土	①中砂。輝石・白色粒子多量、赤褐色粒・石英少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③ややよし	胴部撫で、底部磨き。	V群 外面一部煤付着



第68图 1号・2号列石实测图



第69图 1号列石出土土器实测图

第4項 土坑

本遺跡から検出した縄文時代と認定された土坑は3基である。分布は各調査地点にわたり、G区に1基、K区に1基、L区に1基である。

J1号土坑 (第70図、P L13)

Gg-44グリッドに位置する。確認面はローム面である。県教委試掘時に確認された遺構である。周辺には配石遺構群が存在する。平面形は円形を呈し、規模は直径113cm、深さ44cmを測る。底面は丸底状を呈し、壁面は垂直気味に立ち上がる。壁面にはローム層中の礫が突出していた。出土遺物はない。

J2号土坑 (第70・147図、P L13)

K1-78グリッドに位置する。周辺には縄文時代

の遺構はない。北壁際試掘により確認された。平面形は南北にやや長い楕円形を呈し、底面は平坦で、壁面は斜めに立ち上がる。遺物は石皿が土坑中位に出土した。

J3号土坑 (第70・71図、P L13)

Lc-78・79グリッドに位置する。141号住居跡床面下に検出した。平面形は円形を呈し、規模は直径170cm、深さ109.5cmを測る。底面は平坦で、壁面は垂直気味に立ち上がる。遺物は底面に2個体の完形土器が出土した。中央部の深鉢土器は正位に置かれていたものが圧力により割れたように出土した。胴部に1孔を穿つ土器である。南壁際の橋状把手を有する鉢形土器半分が横位に出土した。

出土土器は加曾利EIV式期である。

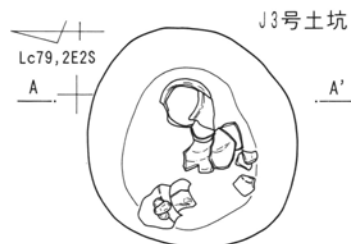
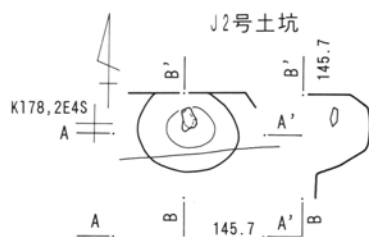
第10表 縄文時代土坑一覧表

番号	位置グリッド	規模(cm)		平面形	深さ(cm)	断面形	出土遺物	時代	備考
		南北	東西						
1	Gg-44	108	118	円形	44	1			
2	K1-78	(61.5)	77	楕円形	44	1			
3	Lc-78・79	166	173.5	円形	109.5	1		EIV	

第11表 J3号土坑出土土器観察表

番号	器種	量目(cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
J3土坑-1 第70図 P L72	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.0)	J3土坑 覆土	①中砂。白色粒・輝石・赤褐色粒・石英少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③良好	内面～口唇部横位撫で。体部磨き。	V群 内面黒斑
J3土坑-2 第70図 P L72	深鉢	口縁片 口一 底一 高(2.5)	J3土坑 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒・チャート少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好(硬質)	内彎、波状口縁。内面横位撫で。口唇部～口縁磨き、弧状沈線文。LR縄文施文。	V群
J3土坑-3 第70図 P L72	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.6)	J3土坑 覆土	①細砂。石英・輝石・赤褐色粒・白色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③ややよし	内外面横位磨き。	V群 内外面黒斑
J3土坑-4 第70図 P L72	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.6)	J3土坑 覆土	①中砂。チャート・輝石・石英・白色粒多量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③良好	横位沈線区画内に幅1.0cm半截竹管による斜行沈線文充填。地文はLR縄文横位施文。	V群 外面黒変あり
J3土坑-5 第70図 P L72	浅鉢	口縁～体部 1/2 口(26.6) 底一 高(27.2)	J3土坑 覆土	①中砂。石英・輝石・赤褐色粒子多量、白色粒少量 ②橙5Y R6/8 ③良好	口縁磨き。肩部に橋状把手2単位貼付、間に突起及び逆「の」字状渦巻文貼付。両脇に沈線施文。把手の左右に逆「の」字状渦巻文と「の」字状渦巻文が交互に施文。LR縄文充填。	V群 外面胴部炭化物付着一部黒変
J3土坑-6 第71図 P L72	深鉢	ほぼ完形 口34.2 底9.6 高52.8	J3土坑 覆土	①中砂。Φ7mm礫白色粒子・輝石多量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや悪い	口縁下に横位沈線、その部分から下に「U」字状区画文、その中に粗いLR縄文充填。胴部中ほどに外面からの打撃によるΦ1.5cmの孔あり。	V群 外面黒・赤変あり、胴部対峙する部分に黒斑。内面上半黒変、下半器面粗れる

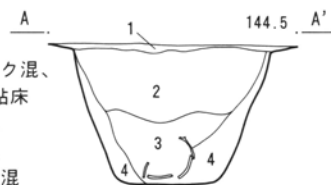
土坑



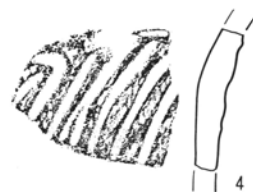
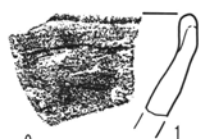
1 暗褐色土 粘性有、
ローム粒混
2 黄褐色土 ローム粒多混



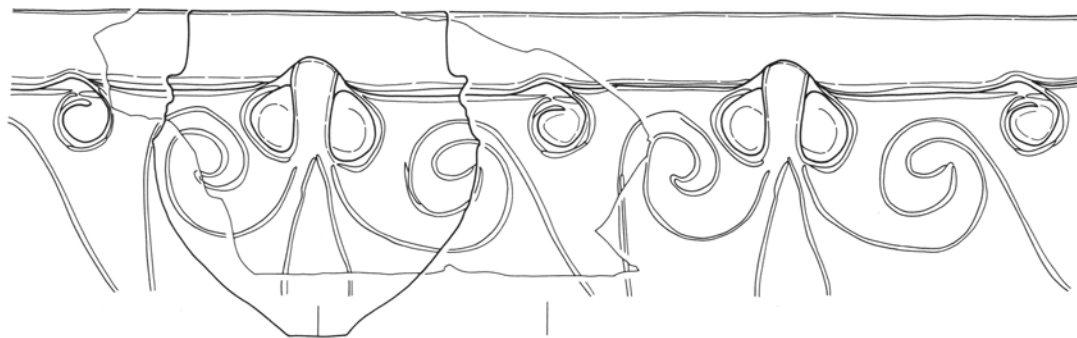
1 褐灰色土 ロームブロック混、
141号住居跡貼床
2 褐灰色土 黑色粘質土混
3 黒褐色土 黑色粘質土混
4 暗黄褐色土 ローム粒多混



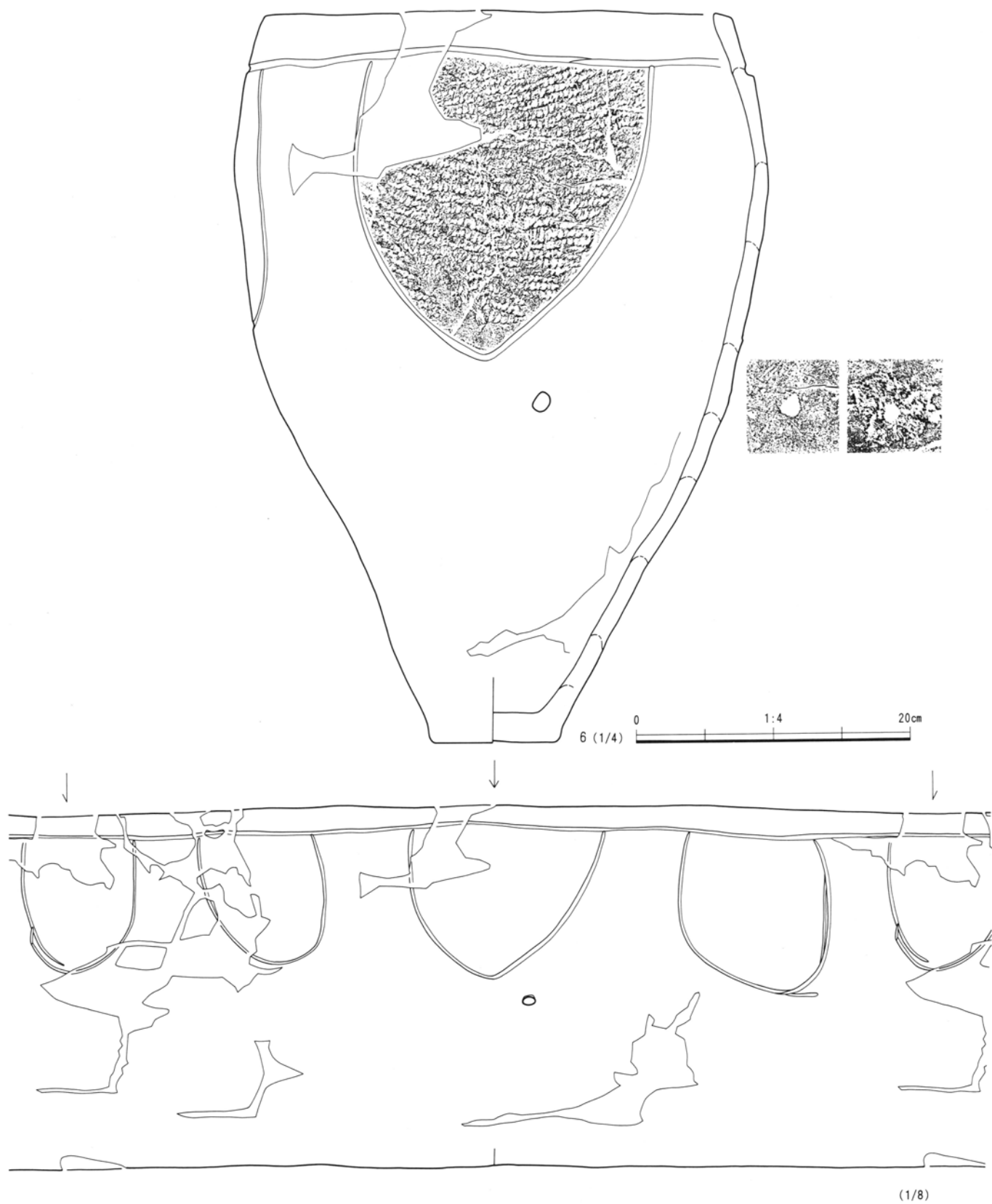
0 1:60 3m



0 1:3 15cm



第70図 J1号・2号・3号土坑実測図・J3号土坑出土土器実測図



第71図 J 3号土坑出土土器実測図

第5項 遺構外出土土器・土製品

G区グリッド出土土器

(第73～97図、P L 14・73～93)

遺跡全体のほとんどの土器がG区から出土したものであった。集石・配石遺構も全てG区にあり、そうした関係からも土器に限らず石器もG区のもものがほとんどである。ここにはⅢ群（前期後半）～Ⅵ群（後・晩期）までの土器があるが、そのほとんどをⅤ群（中期後半）土器が占める。Ⅲ群土器は小形破片からかなり大形で復原実測すると完形品に近い状態になるものまである。午王頭川左岸の台地上の沼南遺跡ではⅠ群（早期撚糸文）土器が残されていたが、右岸の本遺跡ではⅢ群土器がこの場所に残された最初の段階のものと考えられる。Ⅲ群土器では大形破片には諸磯式期の深鉢（g47-2）や浅鉢（i48-1、149-11）があり、小破片まで含めるとa、b、cの各段階のものがある。

Ⅳ群土器は中期前葉の五領ヶ台式土器と中葉の勝坂式・阿玉台式土器に大別される。五領ヶ台式土器にはあまり大形の破片はないが、勝坂式土器にはh45-17のように比較的大形の破片もあった。この土器は胴部のキャピラ文の曲隆帯やペン先状刺突文と胴下部の三角区画文の特徴的な深鉢である。

主体を占めるⅤ群土器は何段階かに分けることができる。

第1段階 器形はキャリパー形であり、横位隆帯により口縁部文様帯と頸部無文帯、胴部文様帯に明瞭に区分するものである（150-2、h46-2・27）。この段階の口縁部文様は高い明瞭な隆帯によって区画される。地文には撚糸文と縄文がある。集石・配石遺構以前のものと考えられる。

第2段階 器形はキャリパー形を呈するものが主であるが、筒形を呈するものもある。h46-17は頸部に横位沈線を施し胴部と区画するものであり、胴部も3条沈線により分割される。頸部には波状沈線が施され、下に胴部沈線を施す部分では渦巻きとなる。地文は縄文である。g45-3は口縁部の文様帯は高い隆帯により渦巻き文を施す点は第1段階のh46-2や

同27に類似するが、頸部に無文部分は存在するものの隆帯による区画は無い。胴部は縄文のみであり、沈線で何単位かに分割されることはない。口縁部文様帯に充填されるのは縦位沈線である。隆帯の付け方を見るとh46-2や同27に類似するが、隆帯の下端のみを捉えれば連弧文のように見えなくもない。第1段階のものよりも新しい要素を持ちながら、第2段階の他のものともやや違う要素を持つ個体であるといえることができる。

第3段階 器形はキャリパー形を呈し、口縁がかなり内彎するものと底部から口縁部にかけてやや直線的に開くもの、口縁に突起を有し、波状口縁となるもの（o50-1）がある。頸部無文帯は消滅し、口縁部文様帯と胴部文様帯は直接接合する。口縁部文様帯と胴部文様帯が明確に区分されるものとその区分が不明瞭なものがある。平縁と突起を有するものの大形品は集石・配石遺構からのものが多い。口縁部文様帯では隆帯による渦巻き文と横位楕円区画文が明確であり、胴部沈線間に磨消が入り、縄文は充填となる。後半では口縁部文様帯は沈線により区画されるものが多くなり、胴部の沈線による懸垂文も上端で「∩」字状に繋がるものも出てくる。

第4段階 器形はバラエティに富み、今までの深鉢に加え、鉢や両耳壺、蓋など様々なものが出現する。深鉢形土器ではキャリパー形の平縁もあるが、波状口縁となるものが多くなる。口縁部文様帯を区画するものは無くなる。口縁沿いに沈線や連続刺突文を施したり、口唇部を磨く程度である。口縁部文様帯が口縁部までせり上がるものが出てくる。沈線による「∩」字状文が連結する波状文であり、縄文充填後蕨手状沈線を施すものとそうでないものがある。g45-1のように縦位2条微隆帯により胴部が何単位かに分割されるものもある。胴部文様帯が上下二段に分かれるものも多く認められ、沈線による渦巻き文と波状文が組み合わせられるものと渦巻き文のみものがある。波状文の上端が「∩」字状文のように丸くならず百合花びらのように「∧」状に尖るものがある。口縁部に沈線が1条巡るのみで縄文を施

第2節 縄文時代

すものがある。h48-2やg46-1のように上端が付いて一つの下向き弧線文となっており、その脇は三角区画文となる。

h45-4は瓢形を呈する小形の深鉢形土器であり、口縁下の横位微隆帯に紐ずれがある小さい孔が8個開く。文様も2条微隆帯による弧線文であり、内外面を赤色塗彩している点でも他のものと趣を異にする。蓋はグリッドからはi45-19の1点のみであるが、これは比較的浅い作りとなっており、紐通し孔は2単位もしくは4単位付くものと考えられる。h45-4の蓋はこうしたものではなく、6配石-37のように微隆帯で文様を付け、丁寧に磨いた上に赤色塗彩した作りのものと思われる。実際にはこの2点は径が合わないで別のものであるが、これに近いものがあったと考えられる。

VI群土器は注口土器の注口破片が2点出土している。いずれもその作りや焼きの状態からV群ではなくVI群と考えた。他にわずかに称名寺式の深鉢や加曾利B式と思われる土器片も出土した。

H・I区グリッド出土土器 (第99図、P L 93)

H区ではIII群・V群・VI群土器が検出されたが、その点数は少なかった。晩期の壺形土器の口縁部と思われる破片もあった。

I区ではIV群～VI群土器が検出されたが、その点数は少なかった。木葉痕がある底部が1点あった。

J区グリッド出土土器

(第100・101・102図、P L 14・94・95・137・138)

III群～VI群土器が検出されたが、Jr-72からJs-72グリッドにかけて比較的まとまってIV群とVI群土器が出土した。IV群とVI群の土器が多く、V群の土器は比較的少なかった。VI群中の称名寺式土器の口縁は同一個体の可能性もある。底部に網代痕のある破片も2点あった。

K区・L区・M区グリッド出土土器

(第103・105図、P L 96)

K区ではIII群～VI群までの土器が検出された。V群がやや多いものの、III群からVI群まで数量的には比較的均等に出土した。周辺では比較的数の少ない

IV群の中には五領ヶ台式土器の破片も含まれていた。

L区ではV群とVI群土器がわずかに出土しただけであった。

M区ではIII群とVI群土器が検出されたが、V群土器はほとんど出土しなかった。底部に木葉痕のある底部も1点あった。

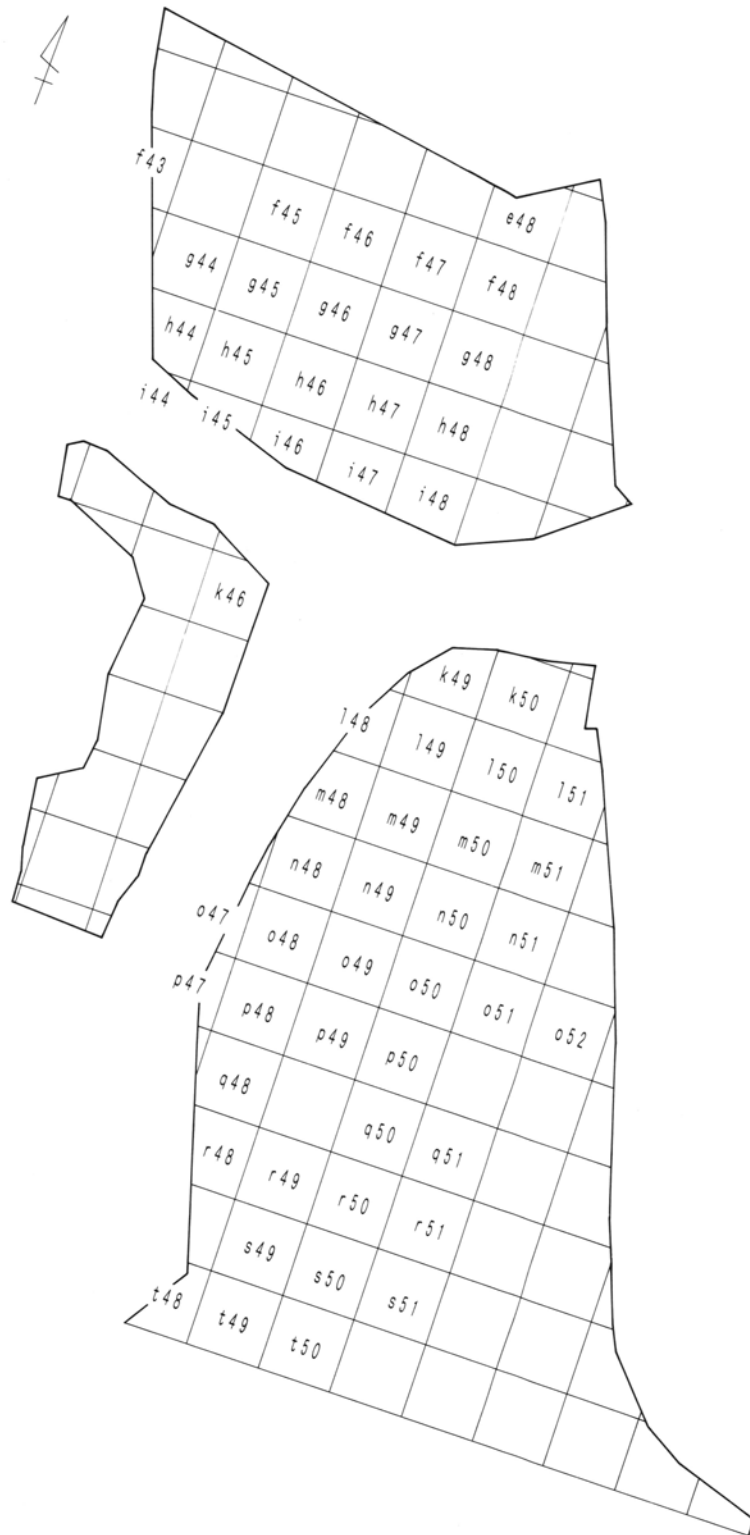
特殊土製品 (第106図、P L 97)

現在、土製円板もしくは土製円盤と呼称されているものについては、本来土器片を打ち欠いたり、磨って円形に仕上げたものであり、土製品ではない。円形土器片と呼ぶべきであるという意見も前々からあり、筆者もその方が適切であると思われるが、本報告書の中では従来の「土製円板」を用いた。土製円板は14点出土したが、径2cm程の小形のものから径5.5cm程の大形のものまで様々であるが、小形のものが多い。ほとんどが完形品であるが、半分に欠損しているものも1点ある。調整加工からは打ち欠きだけのものと打ち欠き後磨いたものに2分できる。この点については他の遺跡と同様である。なお、タール状の付着物のあるものは確認できなかった。

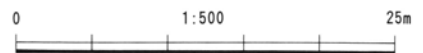
他に厚さ5cm以上もある土製品の破片が4点程ある。完形品であればかなり大形になるものと思われるが、部分破片であるため全体の形は不明である。表面は指撫でによって調整されている。胎土も焼きもおよその他の縄文土器とはかけ離れており、縄文土器よりも奈良・平安時代の新しいものに近い。出土位置や検出状況から縄文時代のものとしたが、検討の余地はあるものと思われる。

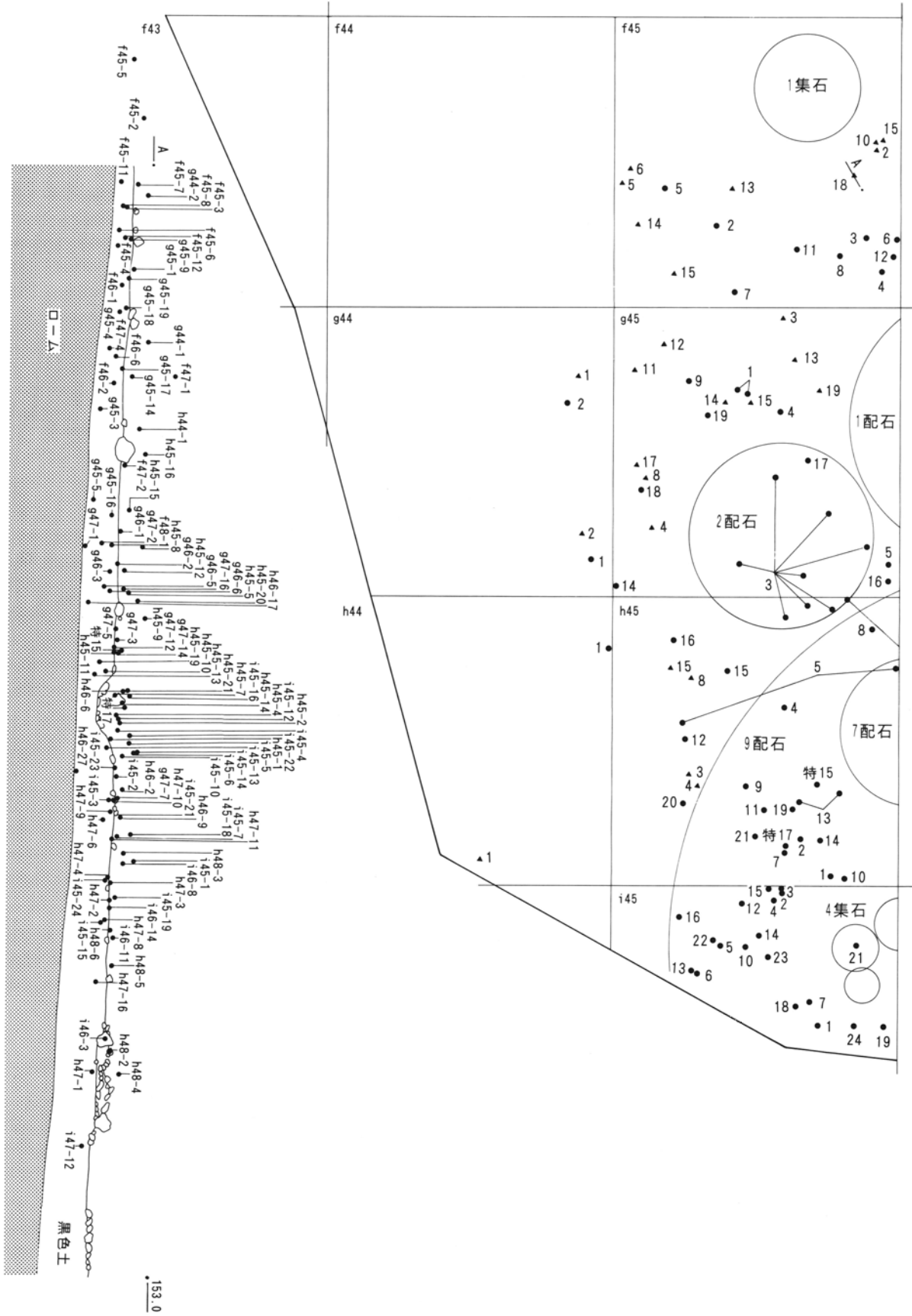
三角柱形土製品については県内でも出土例は少なく、三角の頂部が磨れていたり欠けているものが多い。本例も2頂部に連続する剝離痕が認められる。表面には指撫で痕が残る。下部1/3程が残存しているものと思われる。

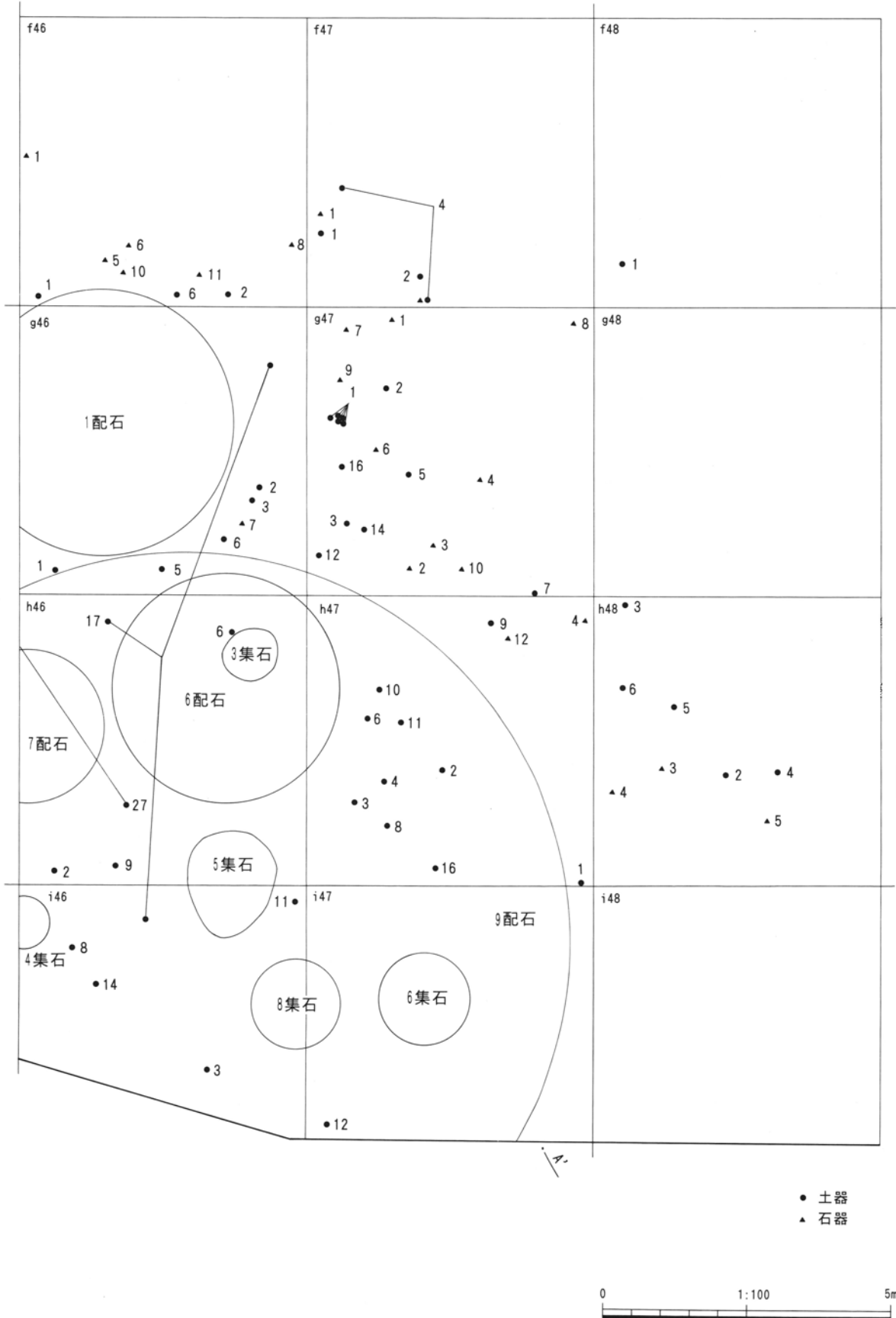
土製耳飾りについては1点が検出されたが、中期には比較的少ない環状を呈するものであった。中期に一般的な耳栓タイプのものはなかった。



第12図 G区グリッド配置図

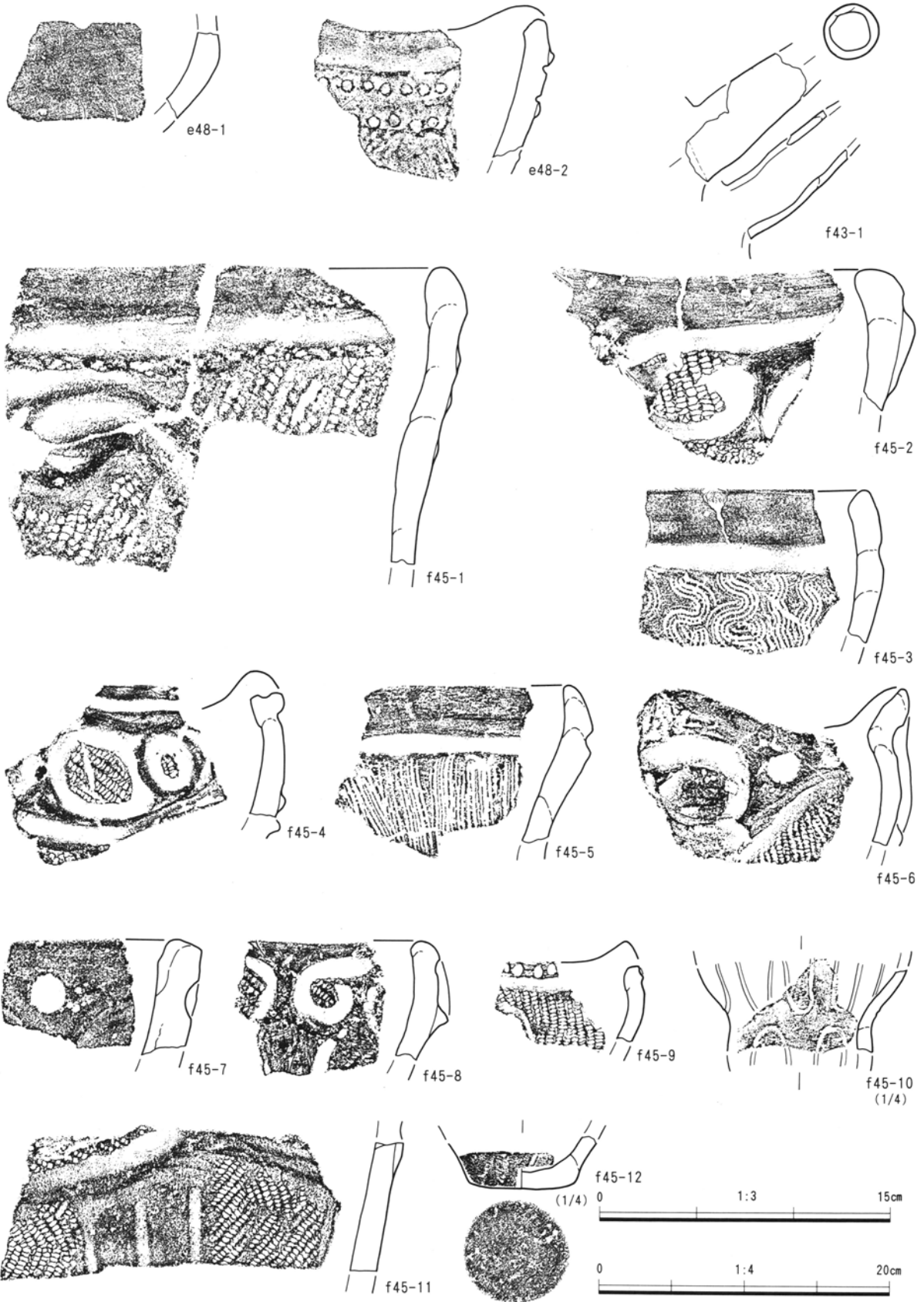




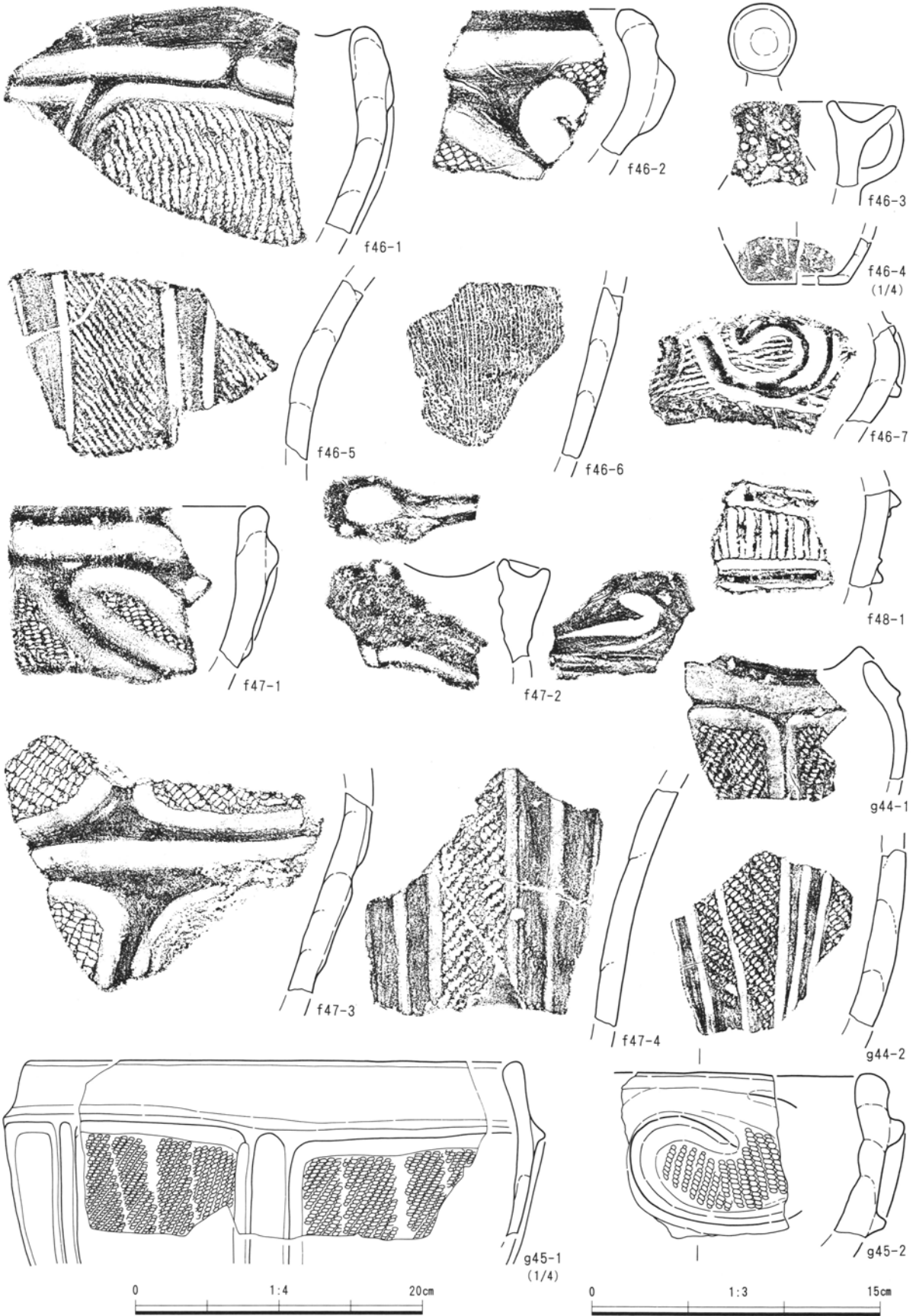


第73図 G区グリッド出土土器分布図(1)

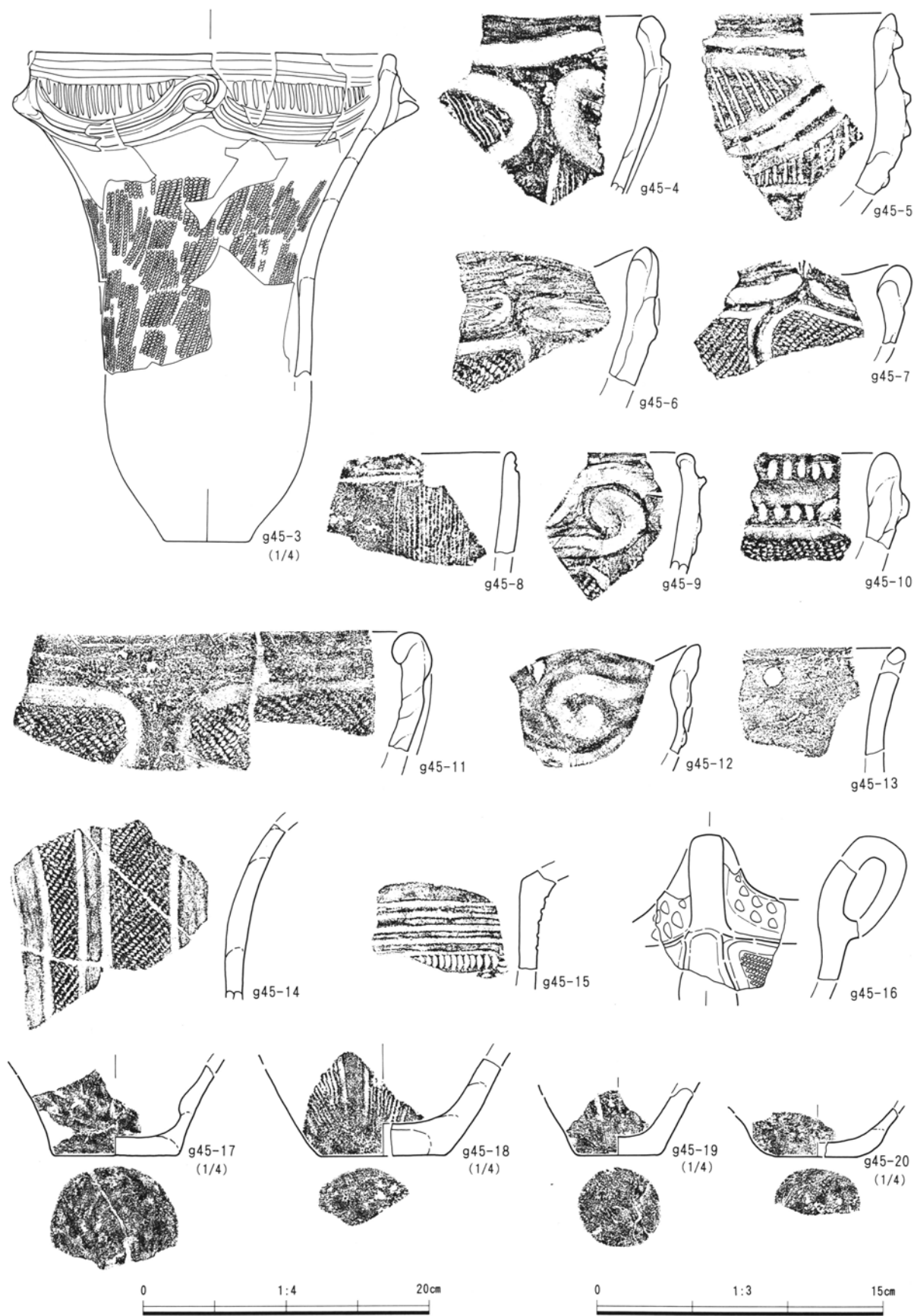
第2節 縄文時代



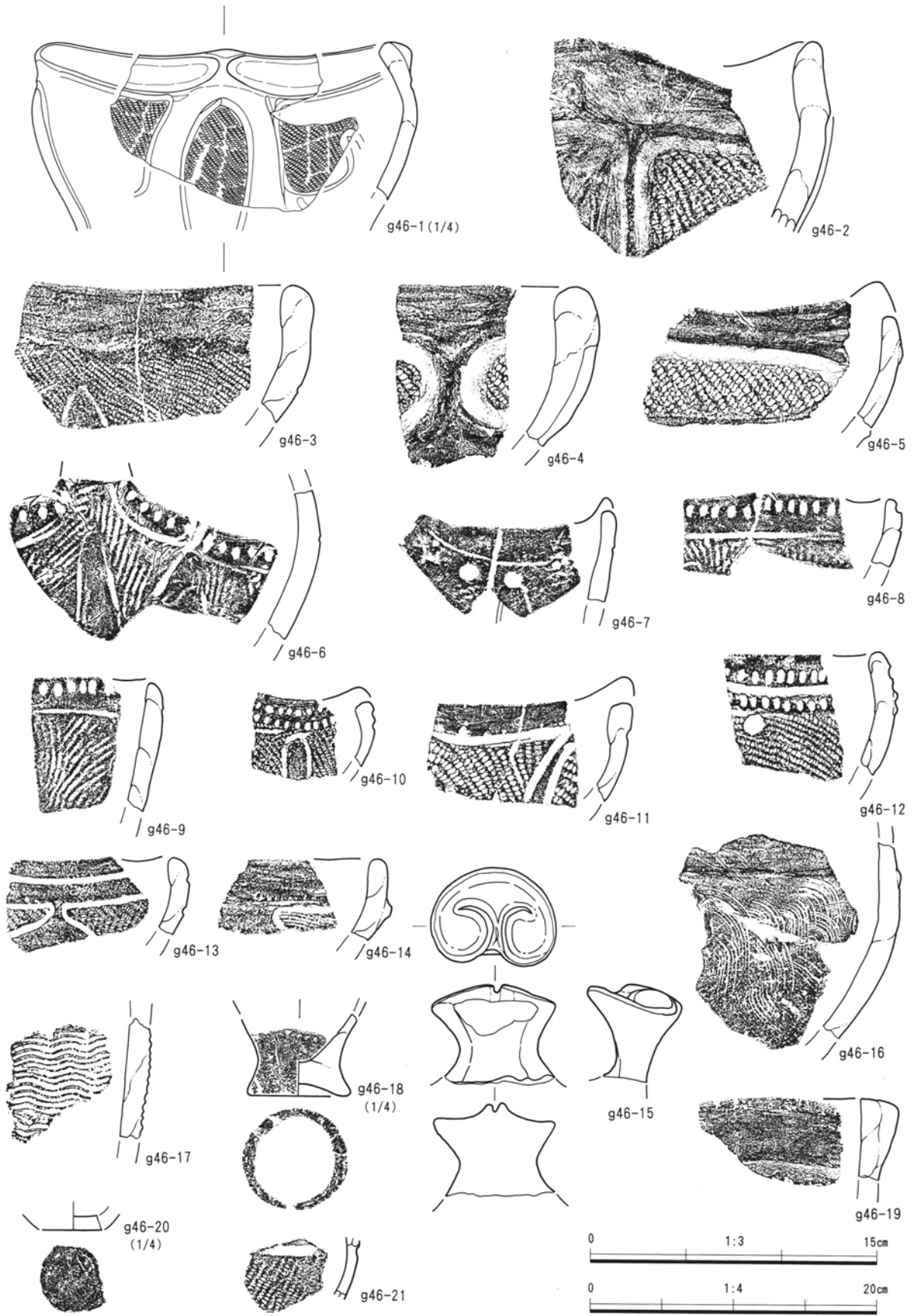
第74図 G区グリッド出土土器実測図(1)



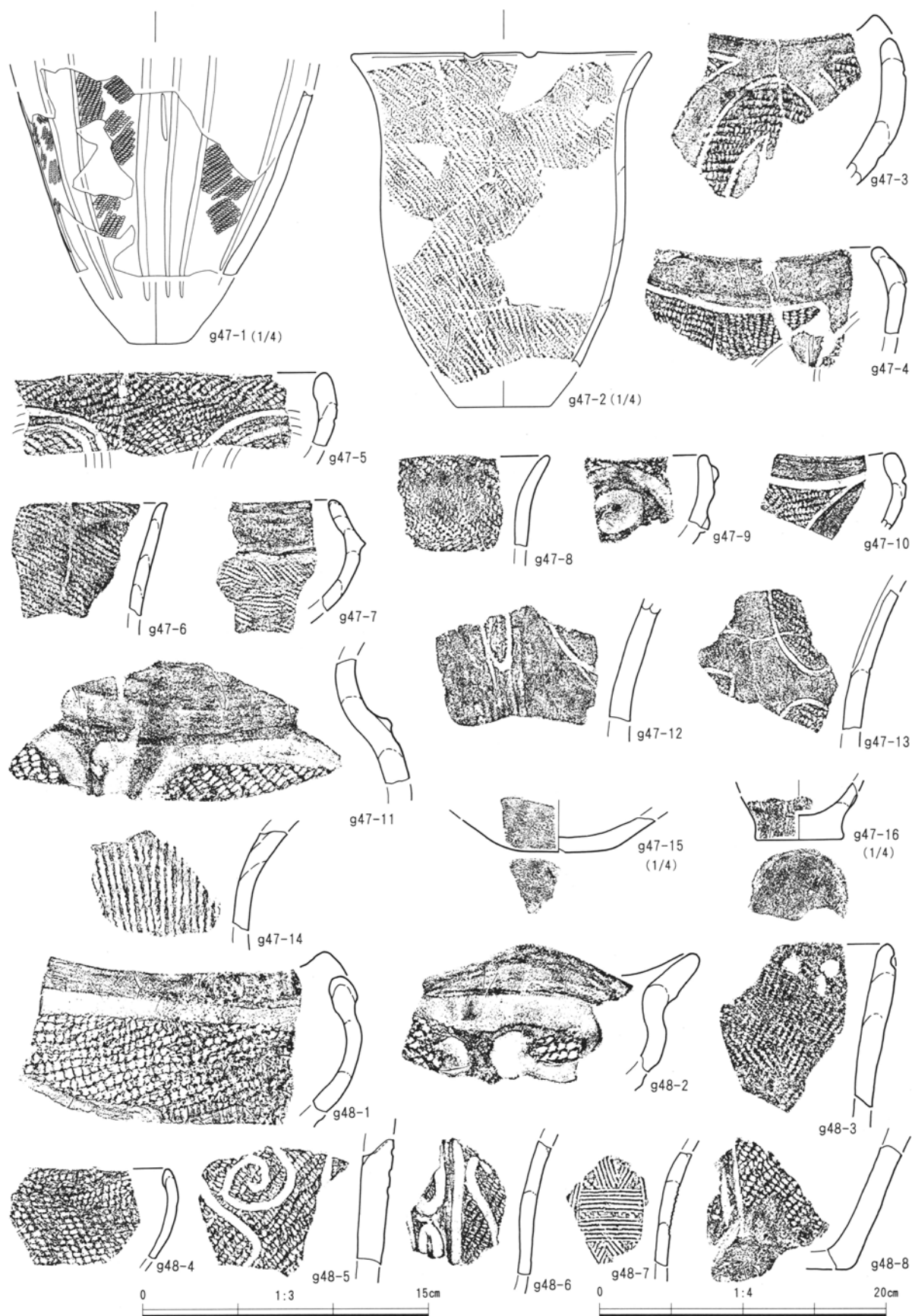
第75図 G区グリッド出土土器実測図(2)



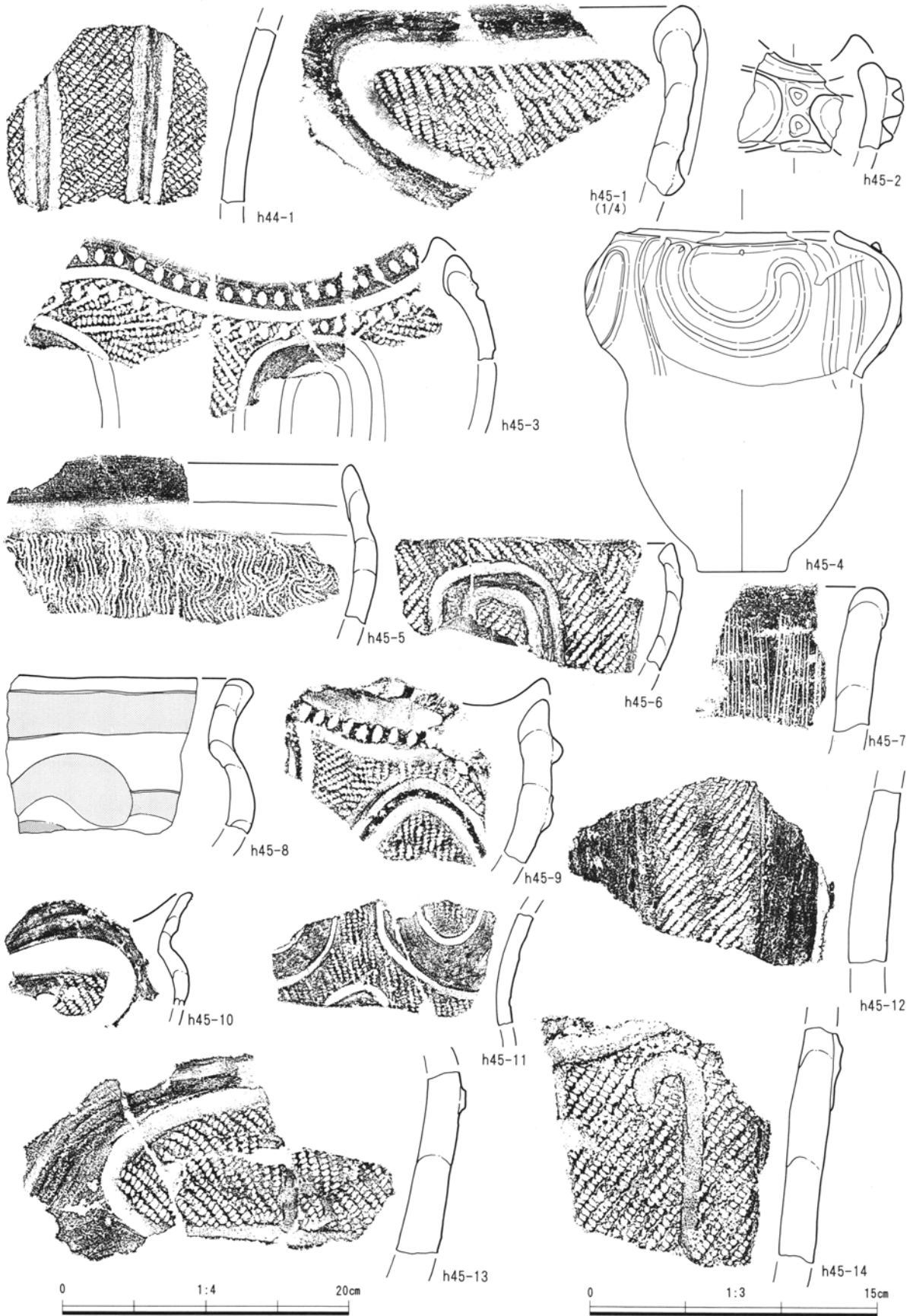
第76図 G区グリッド出土土器実測図(3)



第77図 G区グリッド出土土器実測図(4)

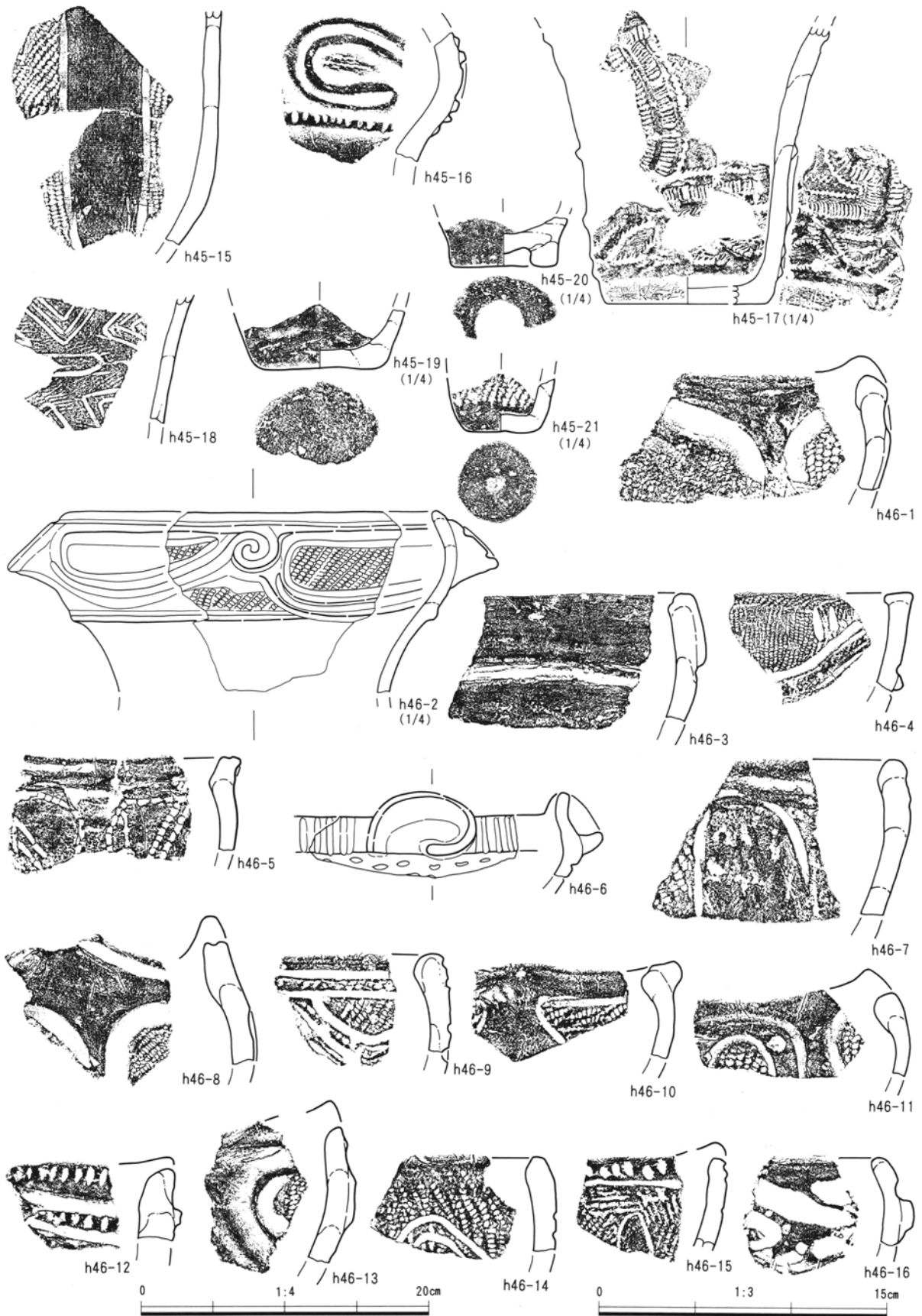


第78図 G区グリッド出土土器実測図(5)

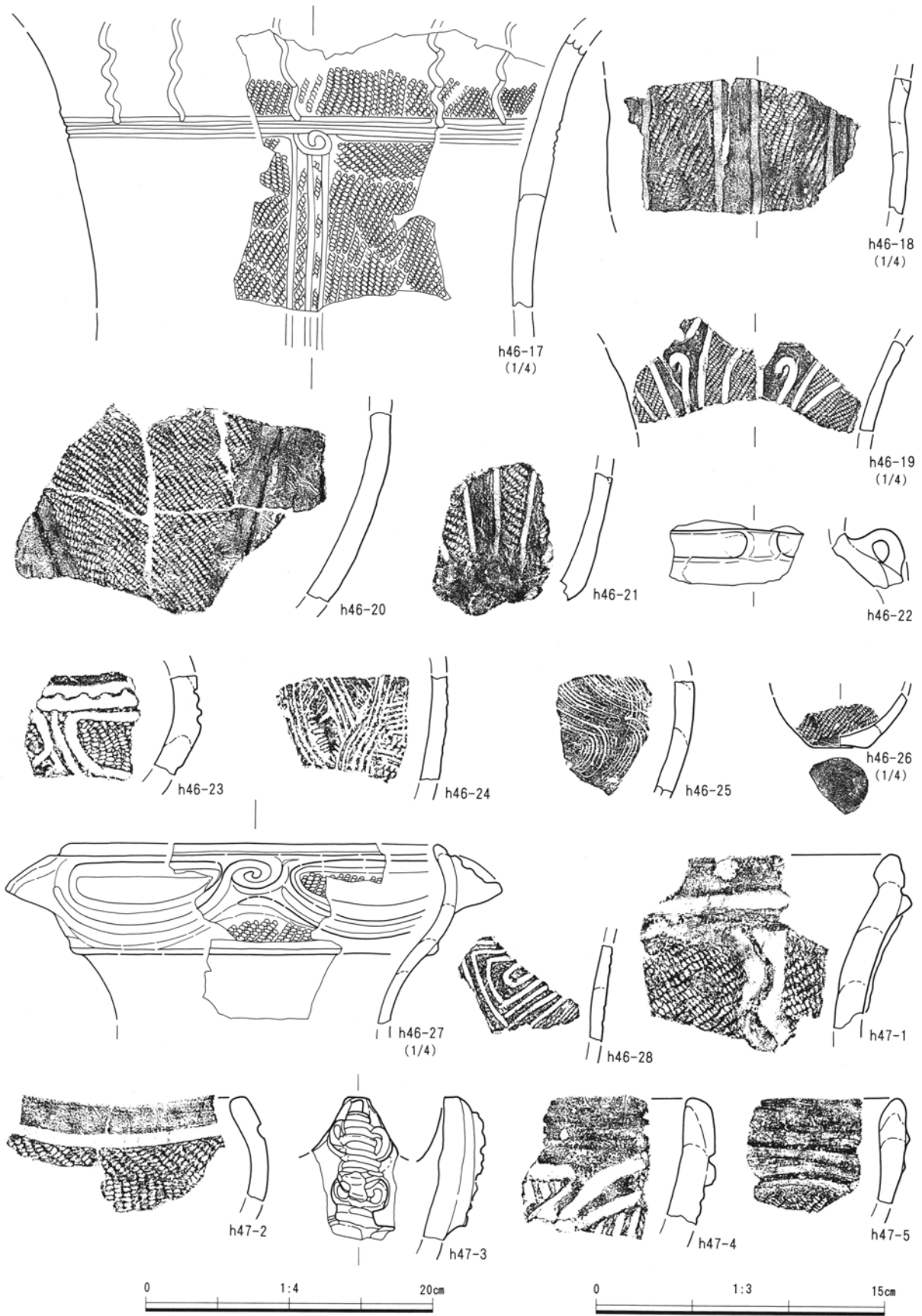


第79図 G区グリッド出土土器実測図(6)

第2節 縄文時代

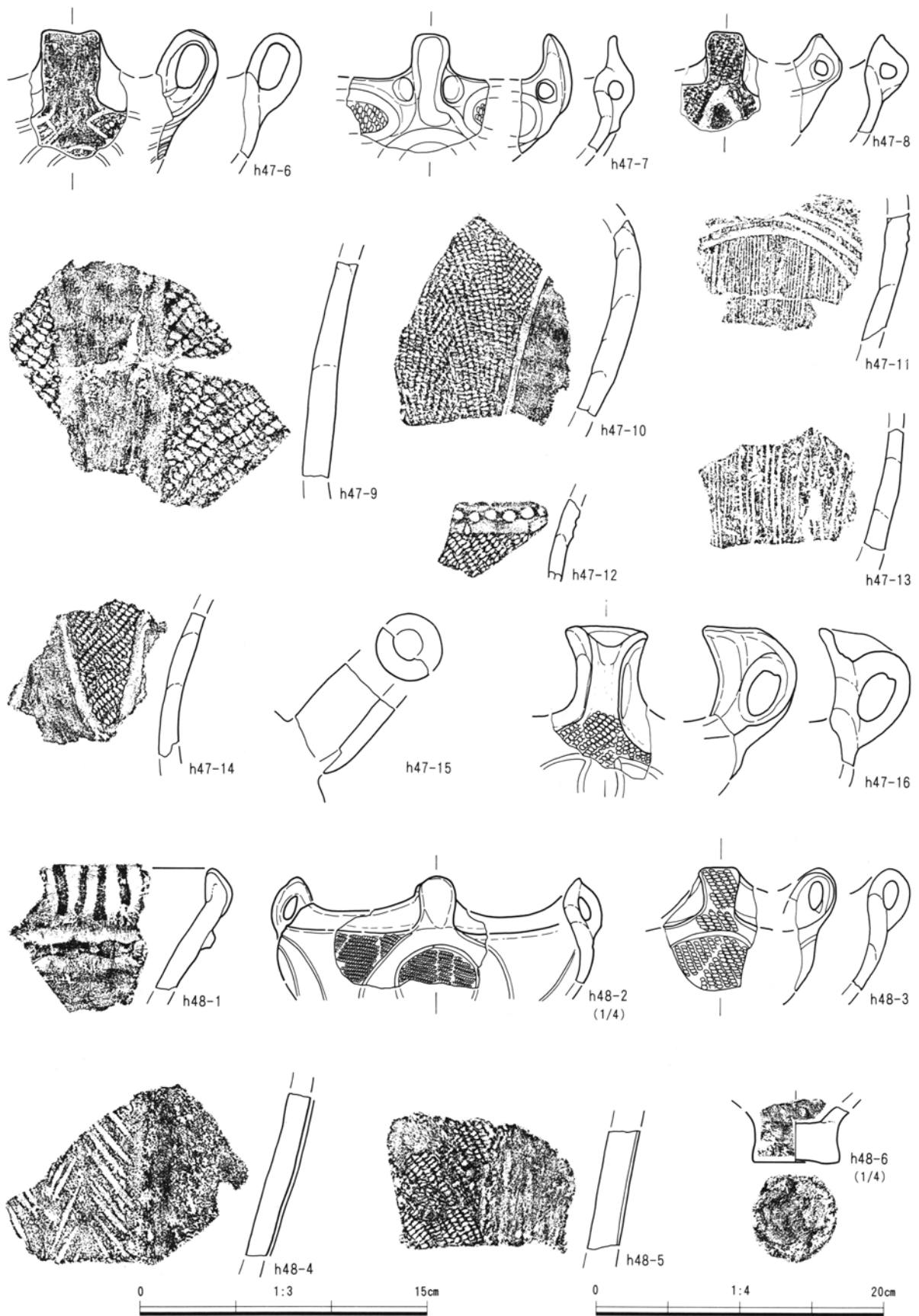


第80図 G区グリッド出土土器実測図(7)

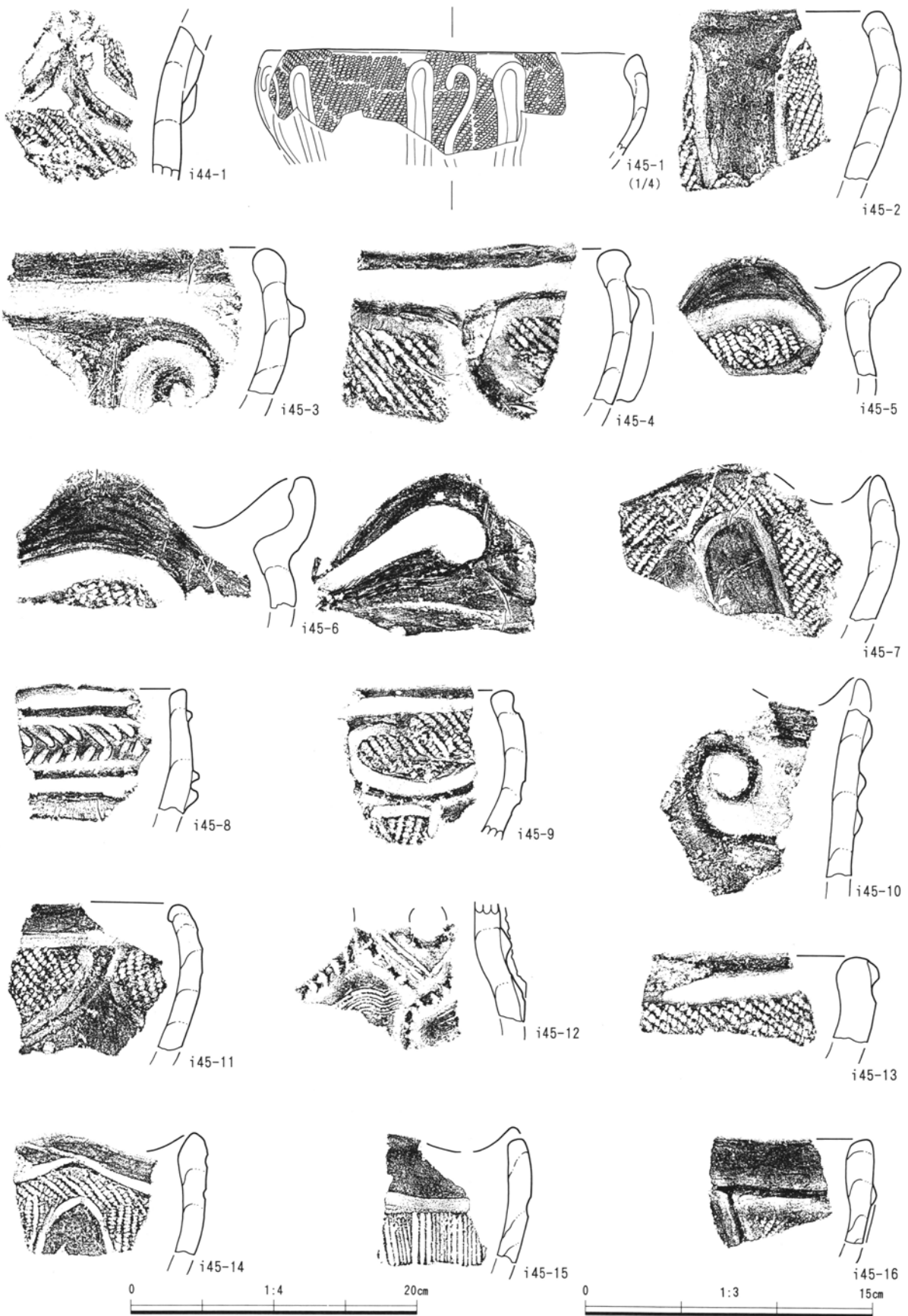


第81図 G区グリッド出土土器実測図(8)

第2節 縄文時代

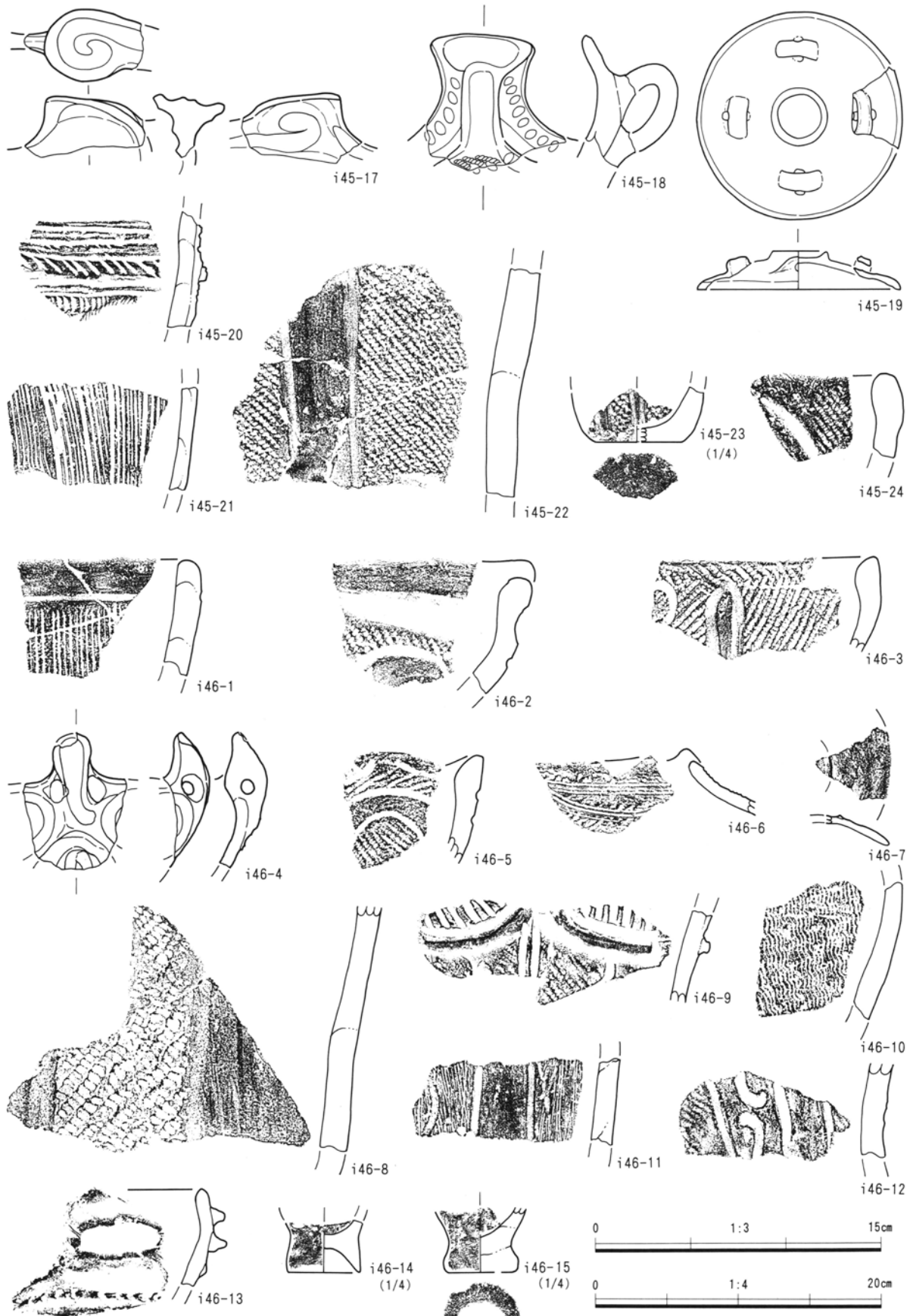


第82図 G区グリッド出土土器実測図(9)

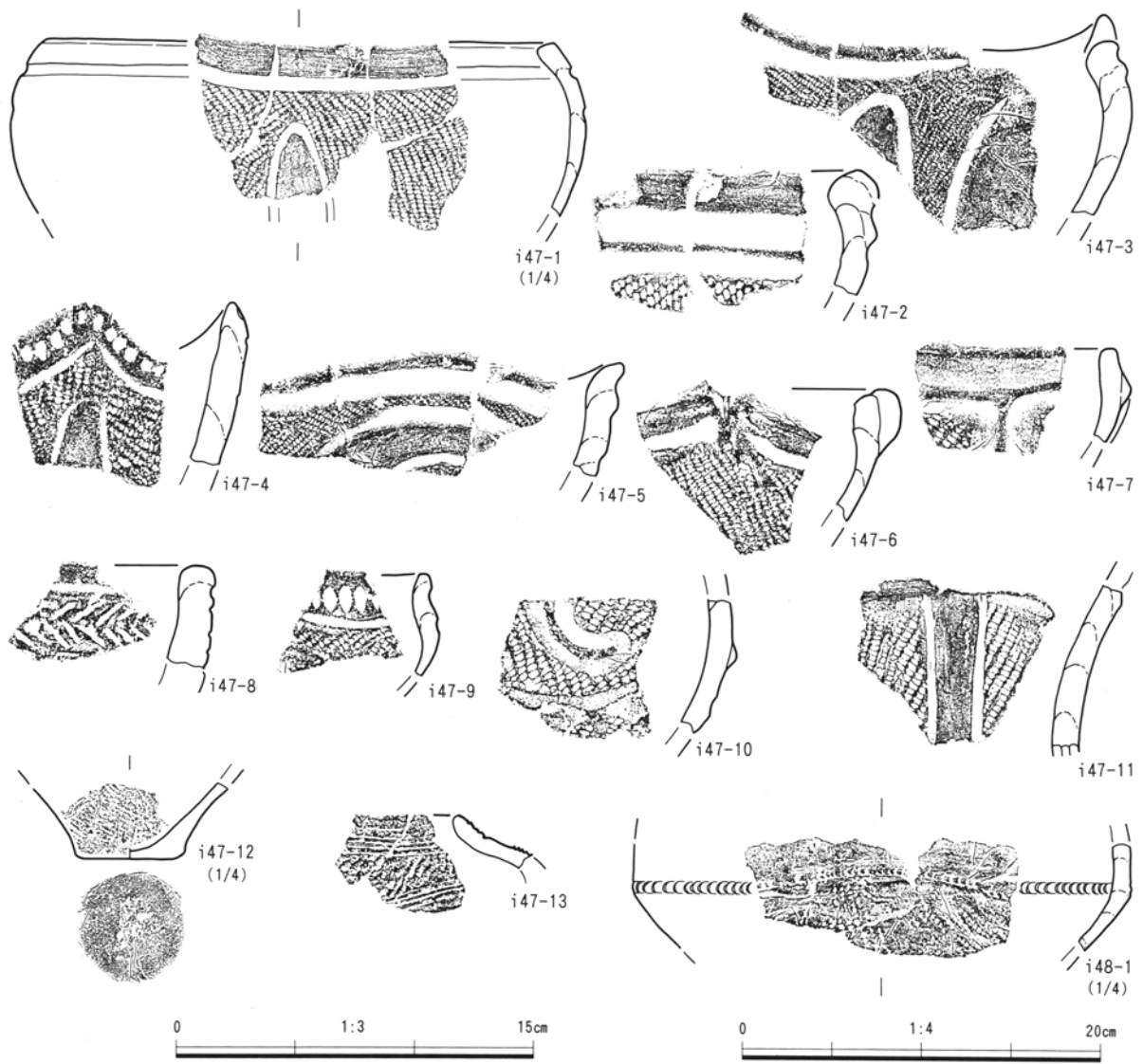


第83図 G区グリッド出土土器実測図(10)

第2節 縄文時代

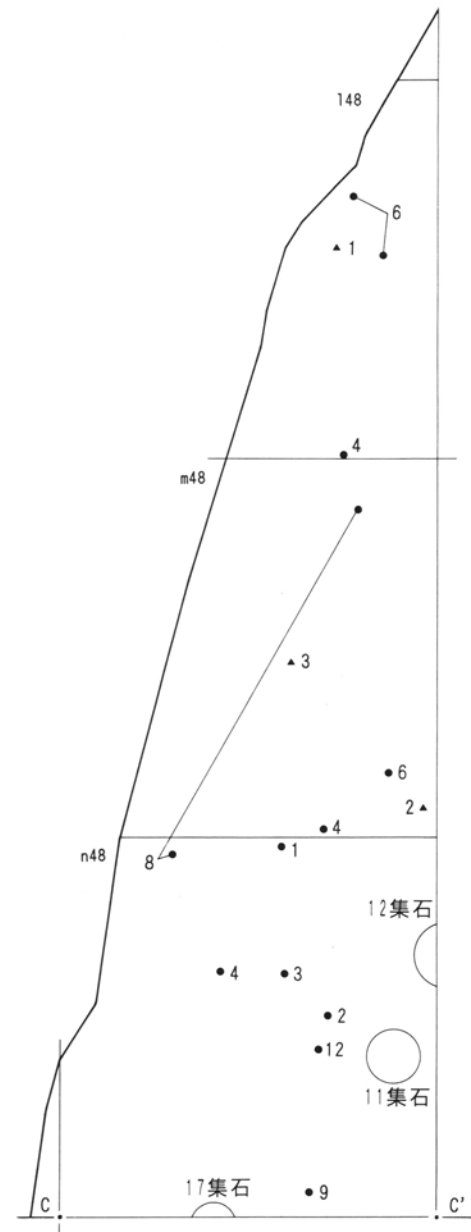
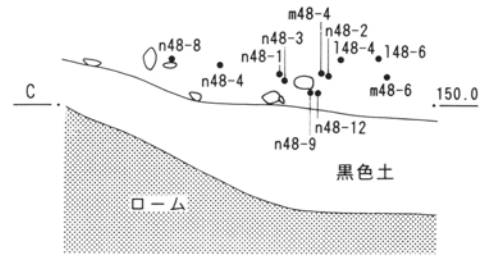
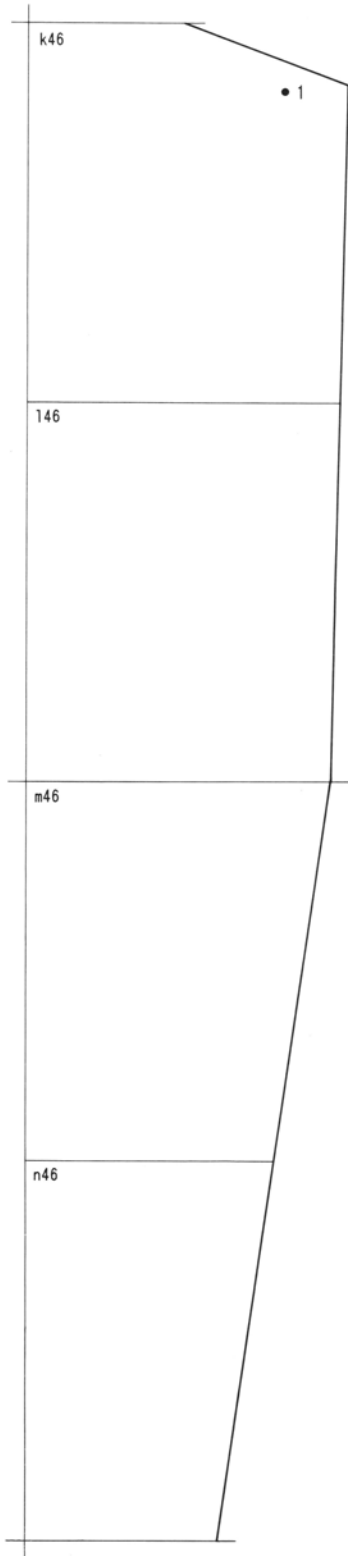


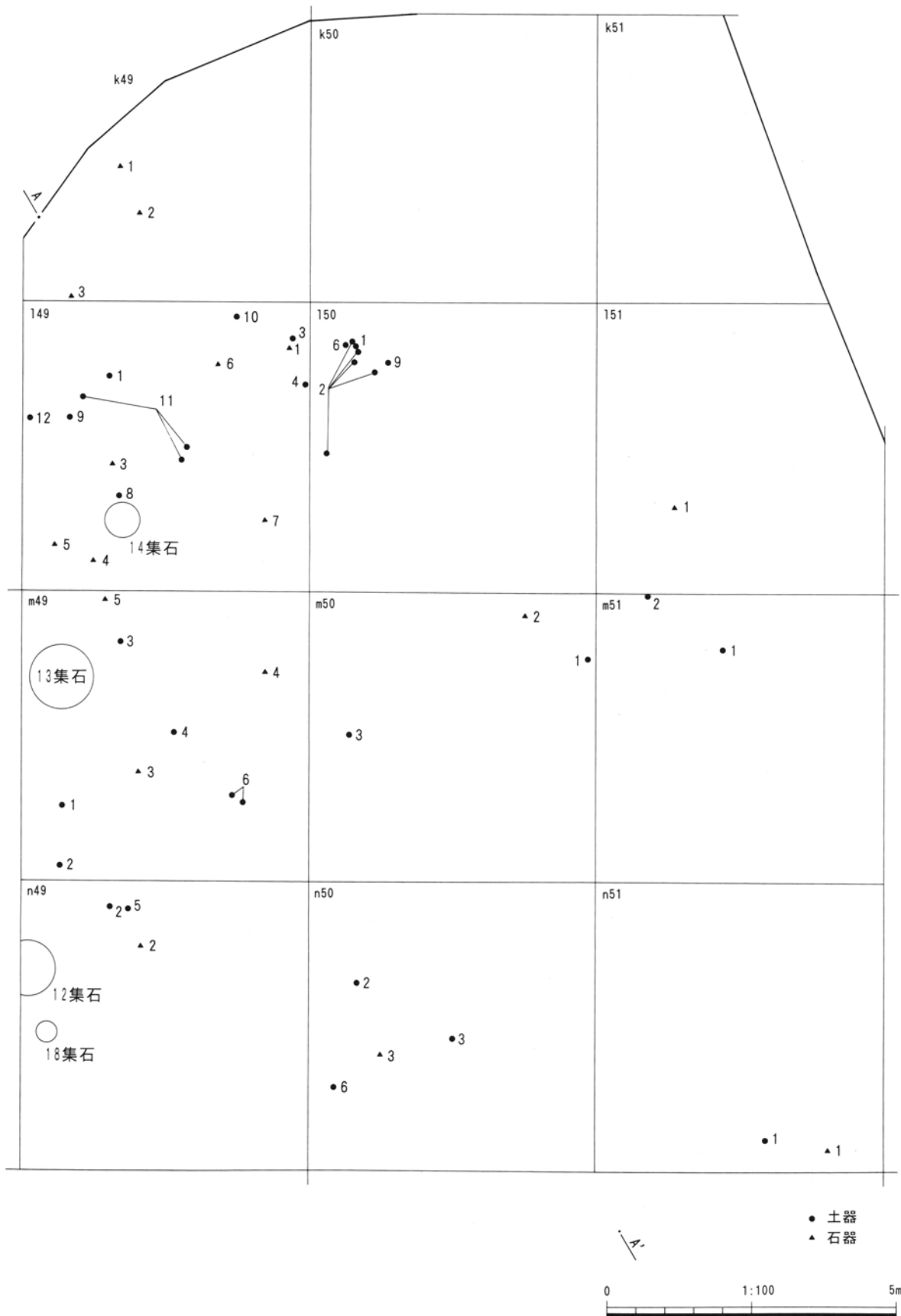
第84図 G区グリッド出土土器実測図 (11)



第85図 G区グリッド出土土器実測図(12)

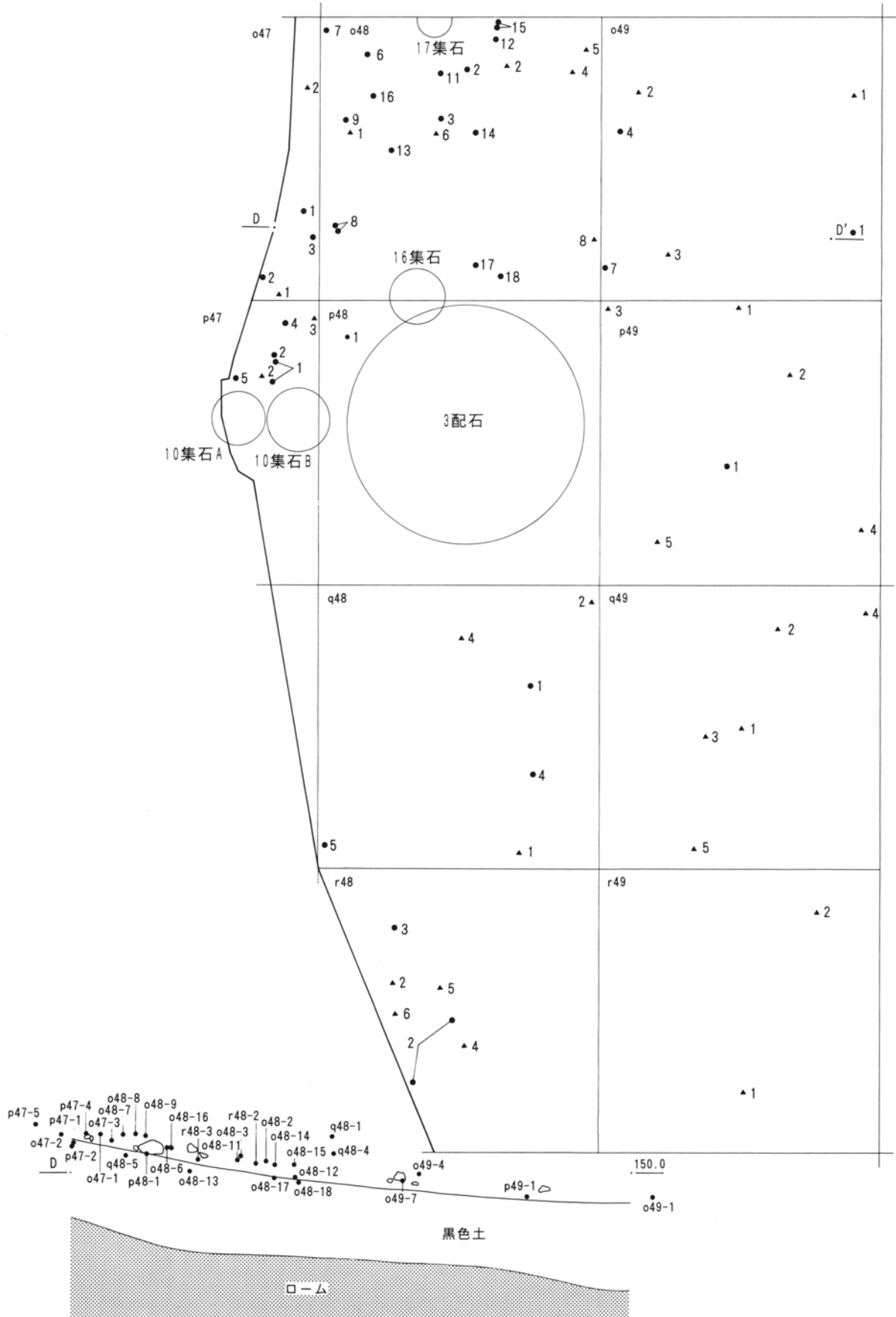
第2節 縄文時代

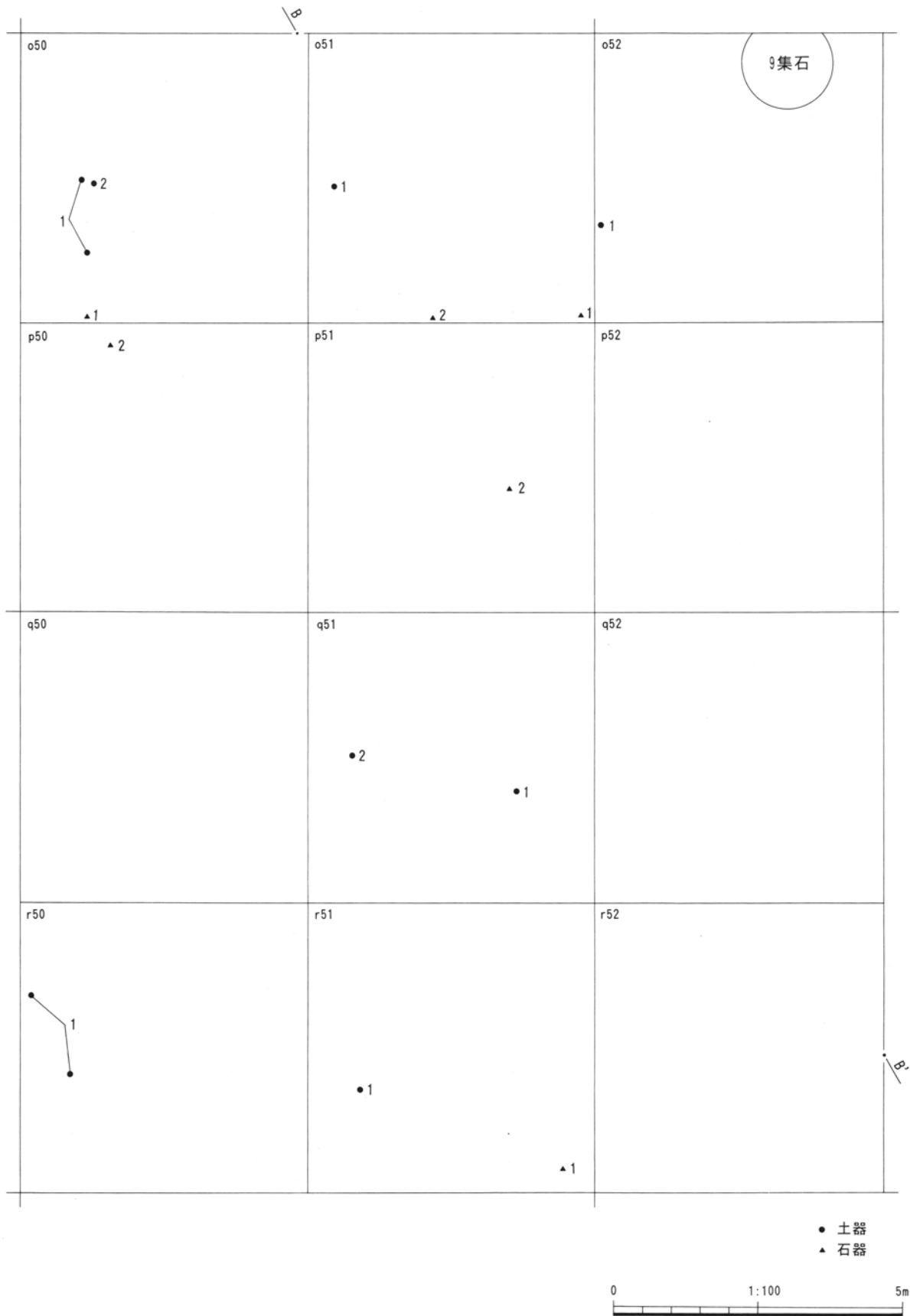




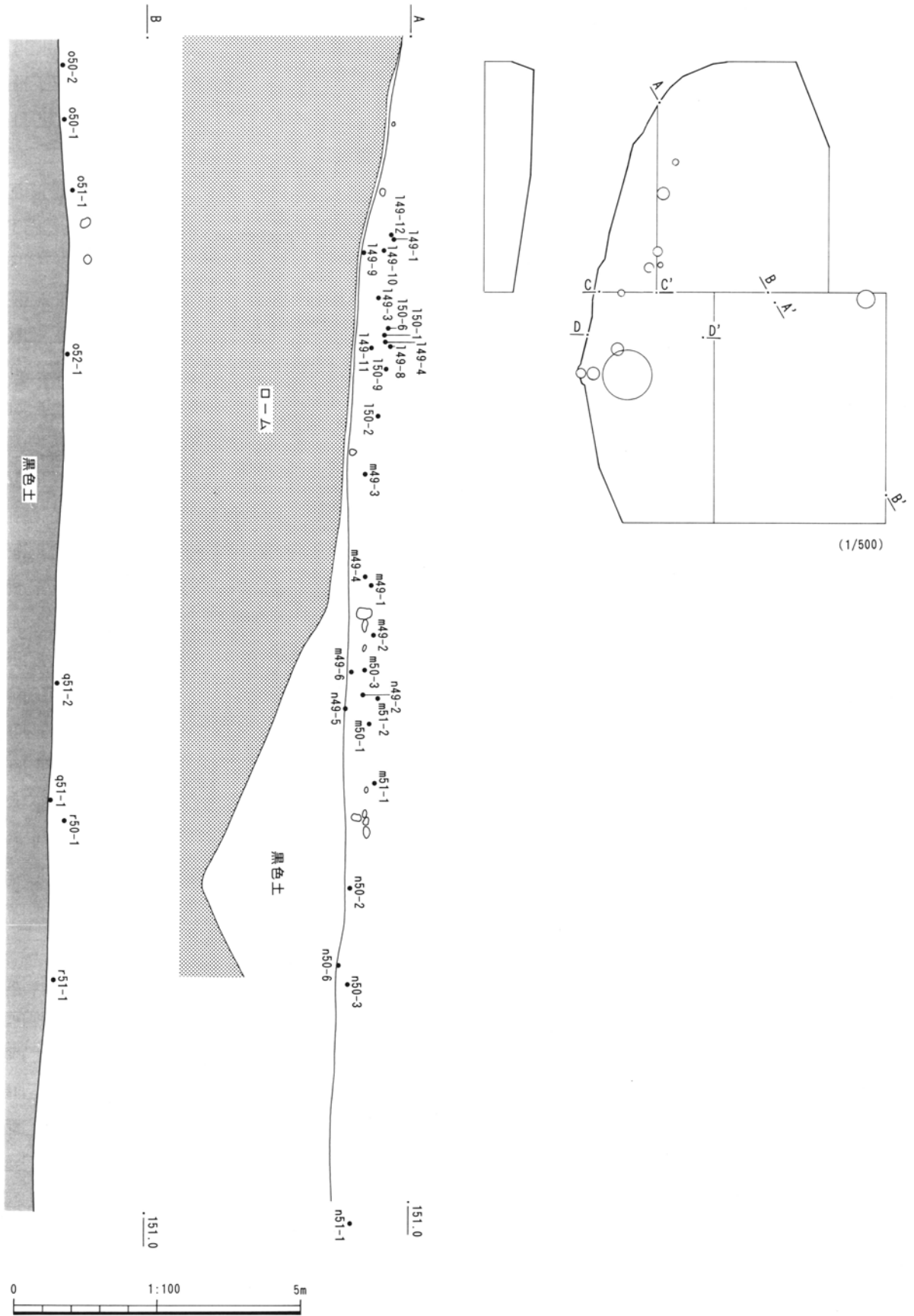
第86図 G区グリッド出土土器分布図(2)

第2節 縄文時代

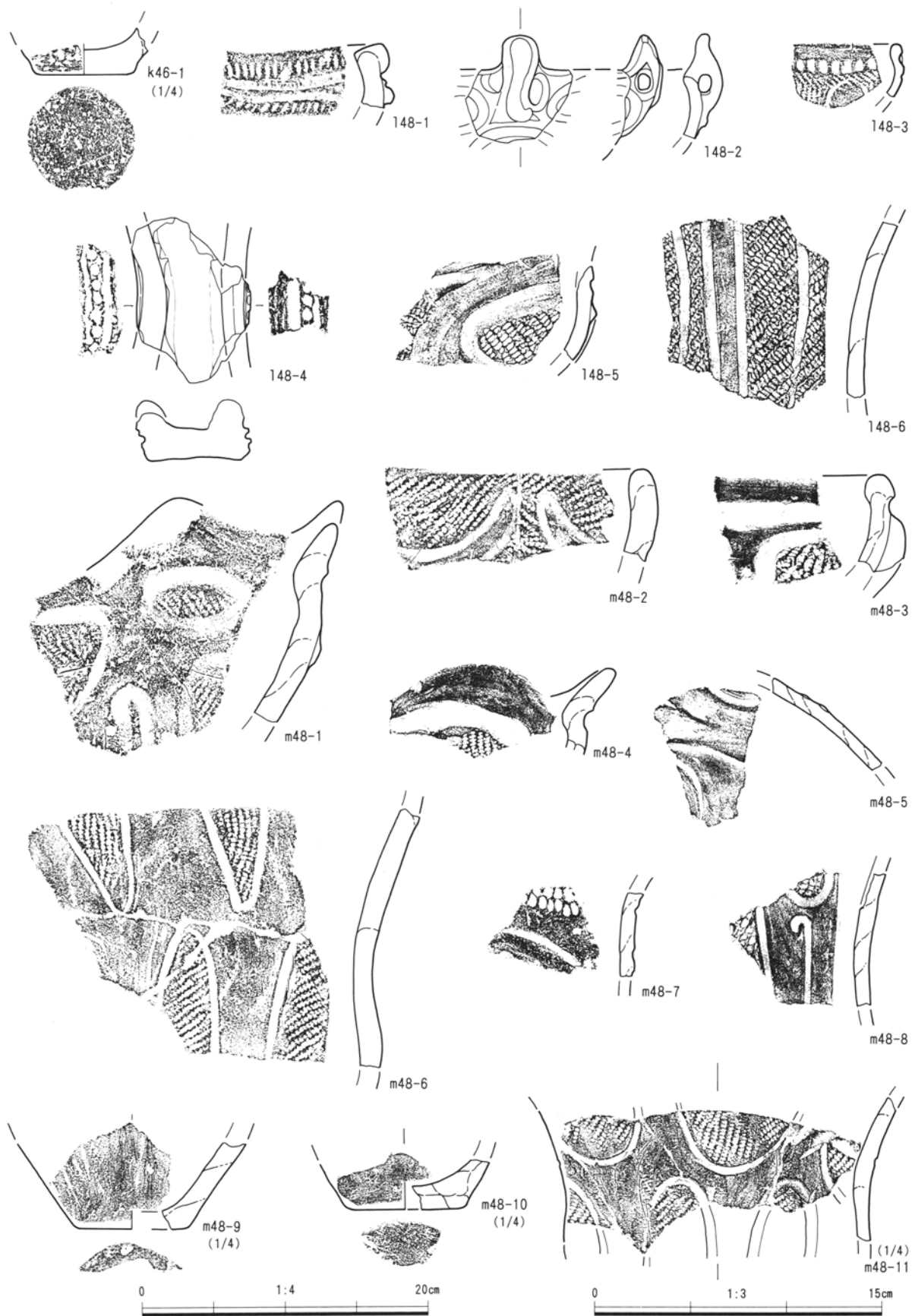




第87図 G区グリッド出土土器分布図(3)

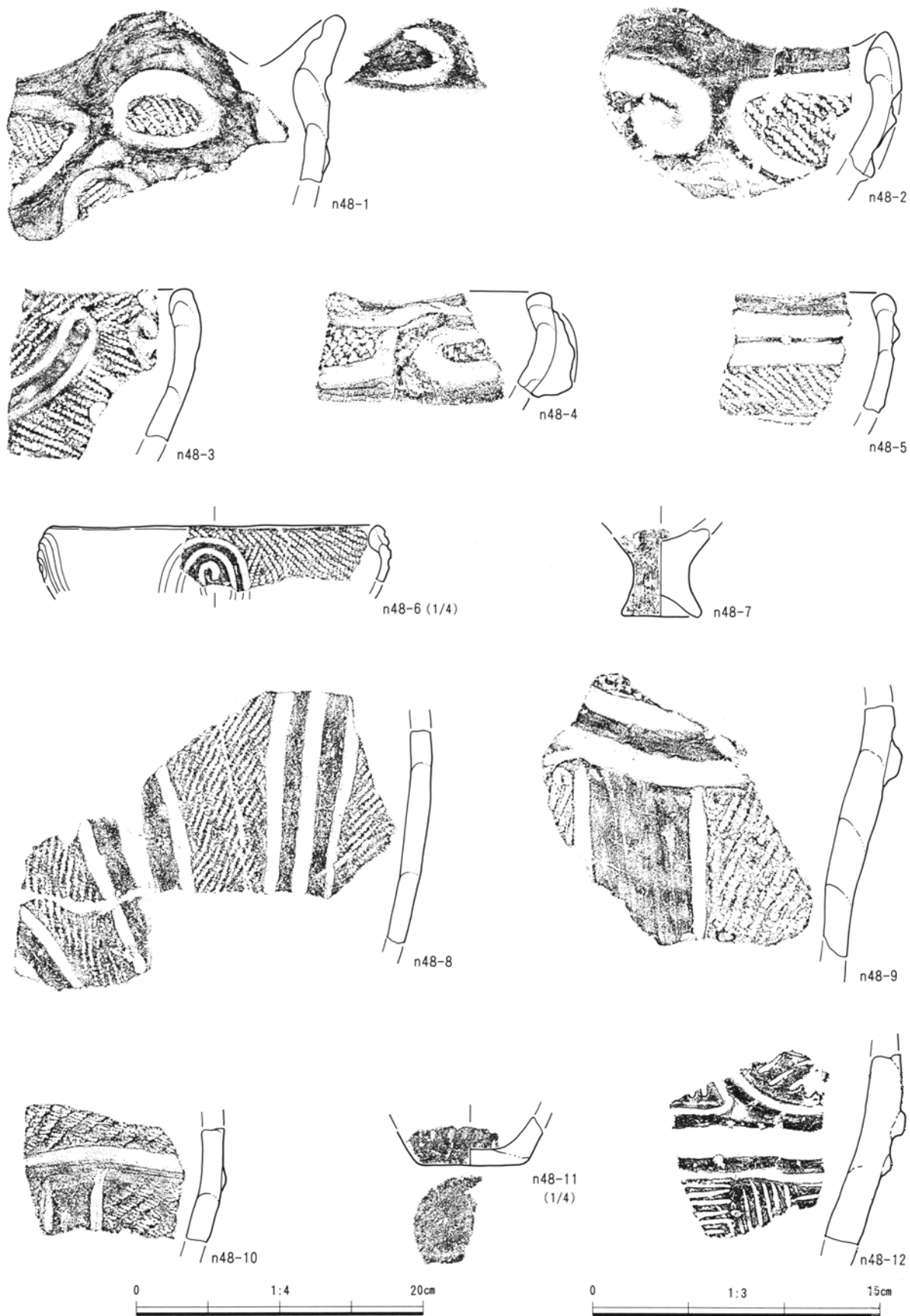


第88図 G区グリッド出土土器投影図

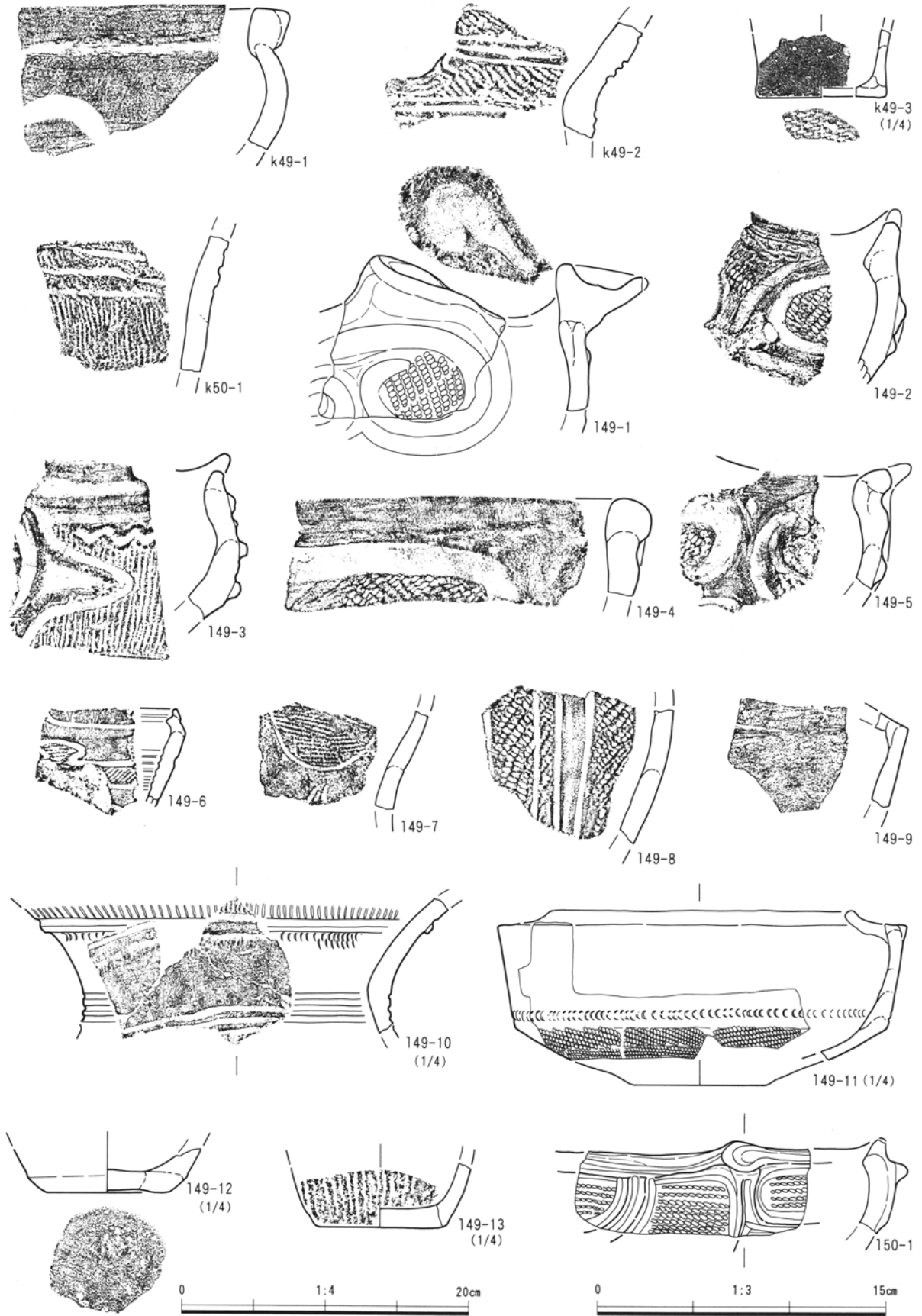


第89図 G区グリッド出土土器実測図 (13)

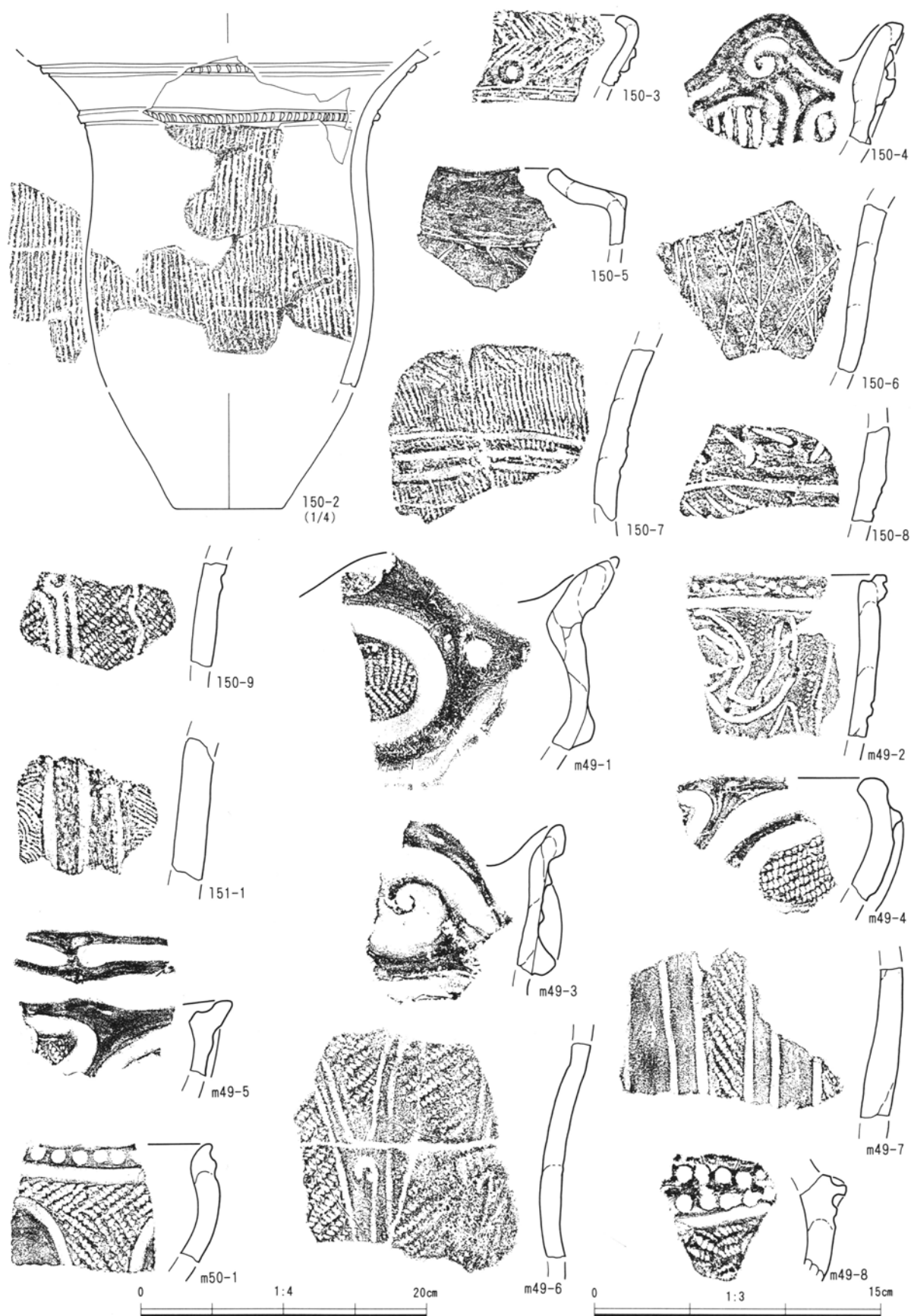
第2節 縄文時代



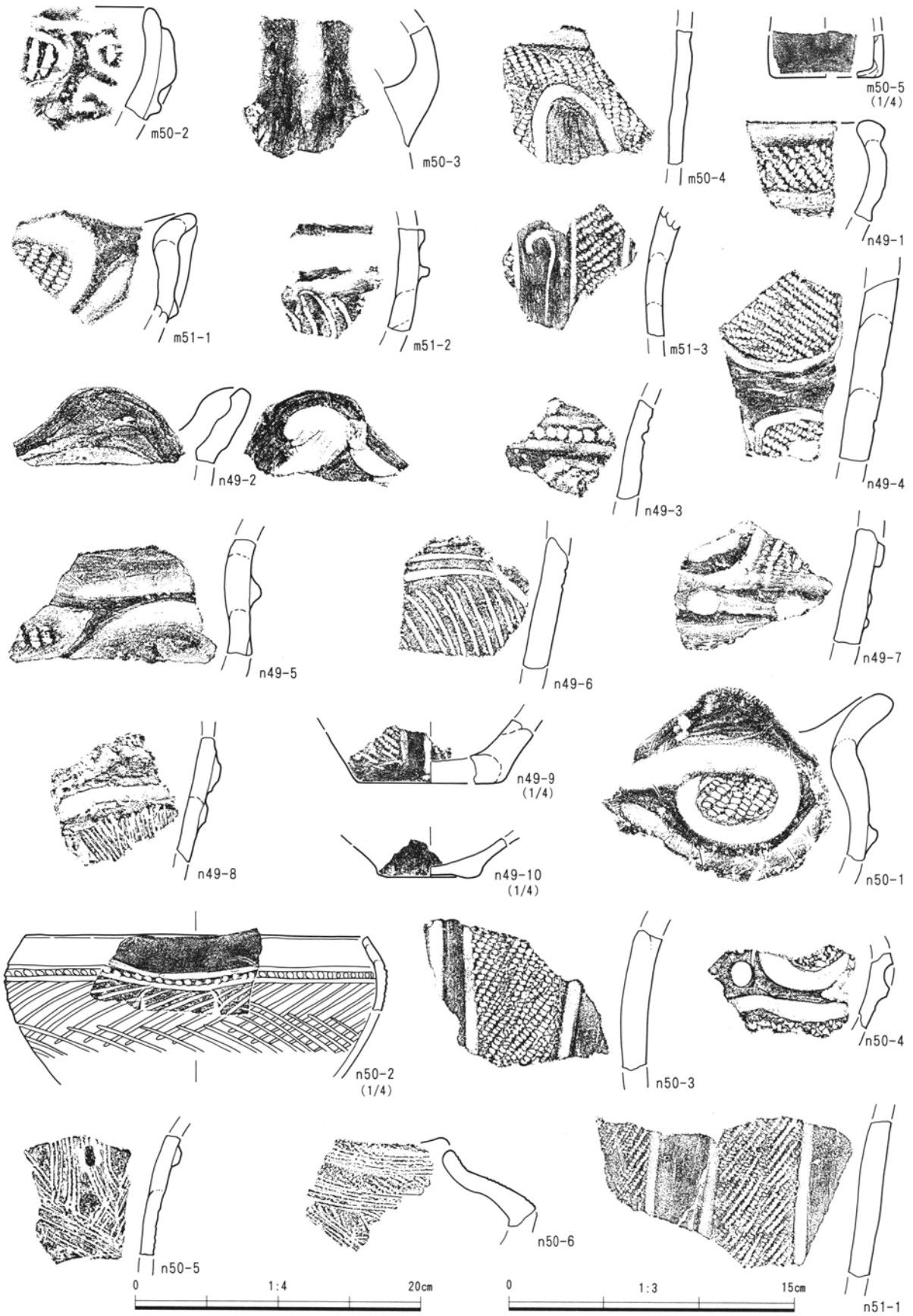
第90図 G区グリッド出土土器実測図 (14)



第91図 G区グリッド出土土器実測図 (15)

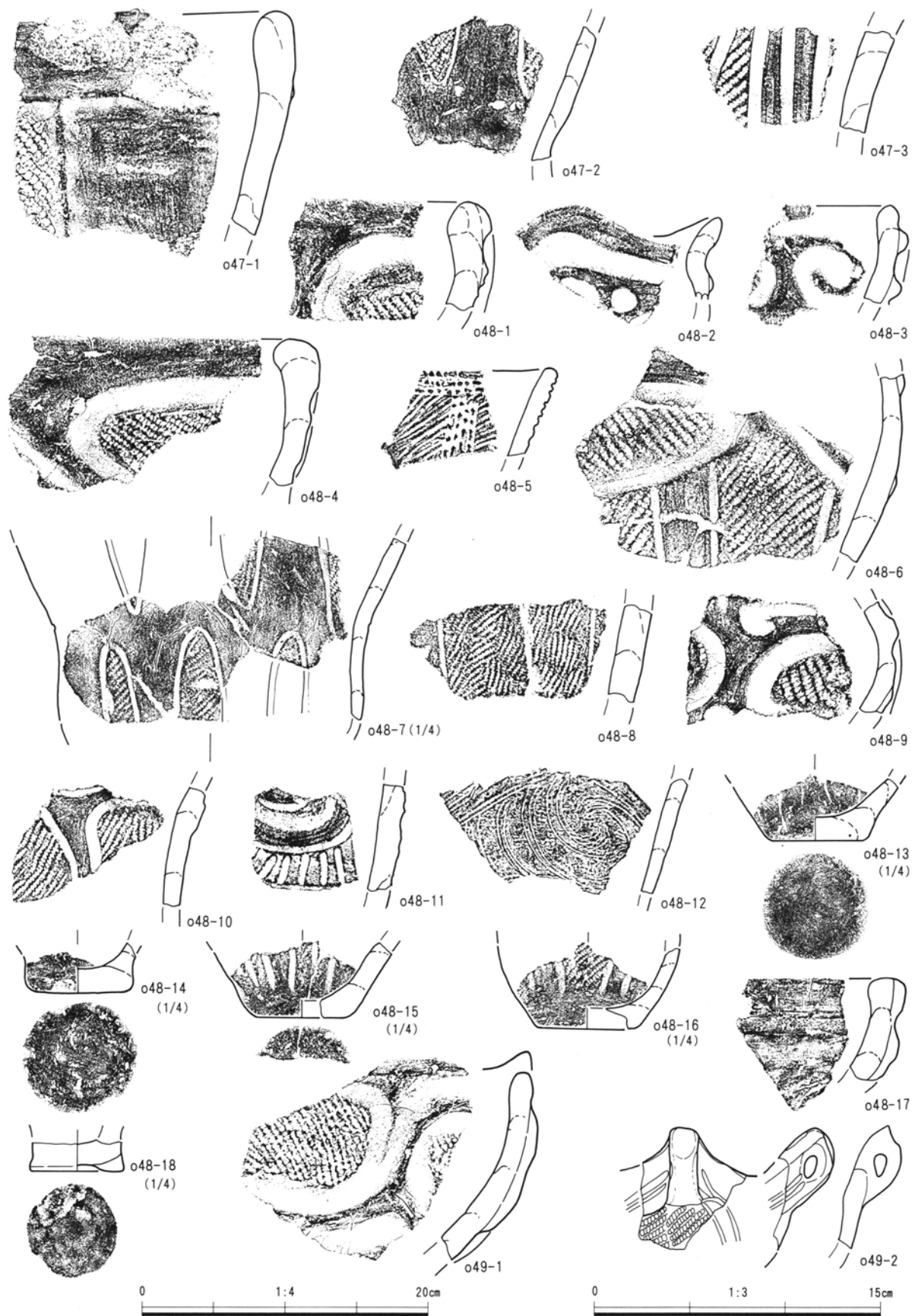


第92図 G区グリッド出土土器実測図 (16)

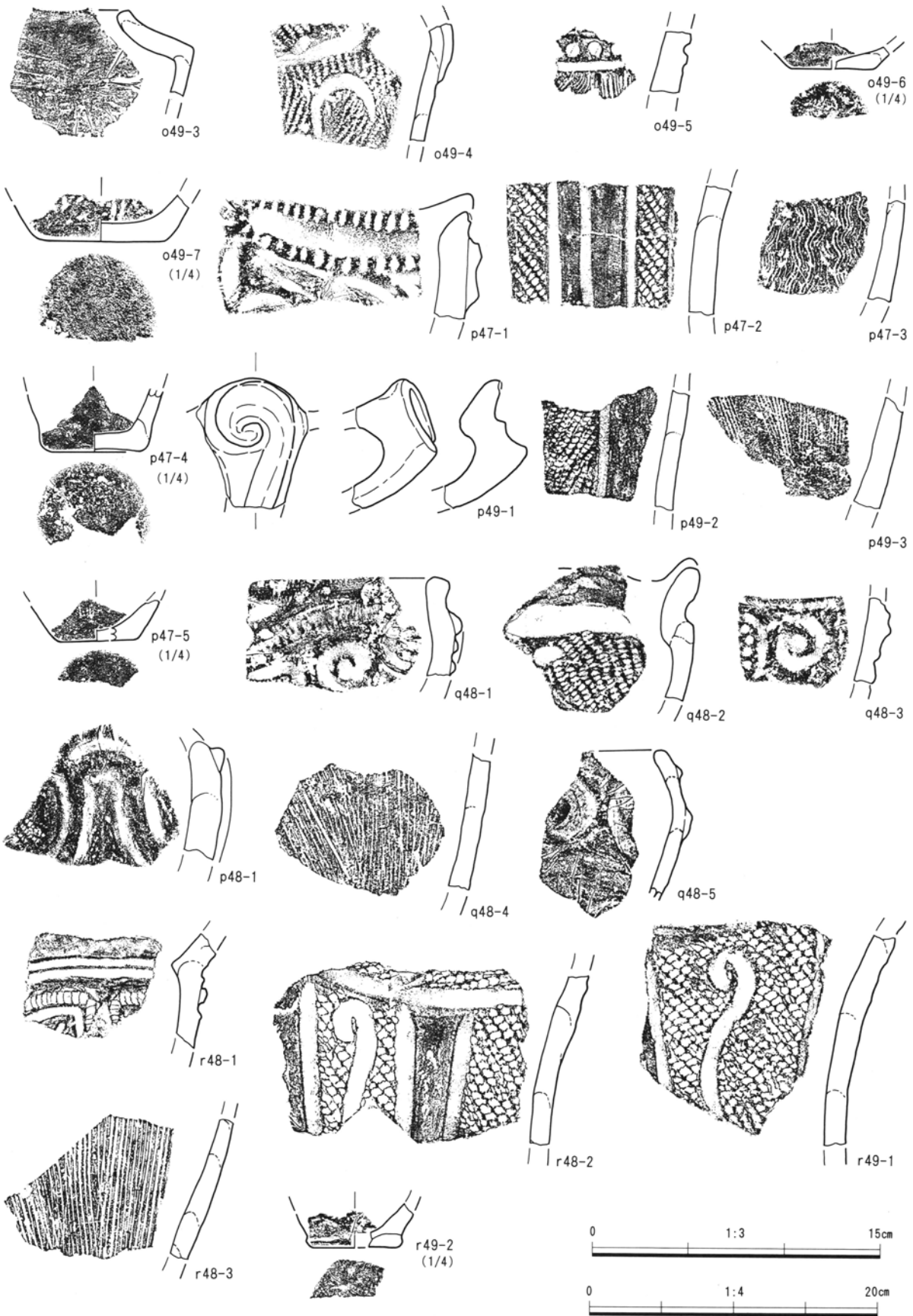


第93図 G区グリッド出土土器実測図 (17)

第2節 縄文時代



第94図 G区グリッド出土土器実測図(18)



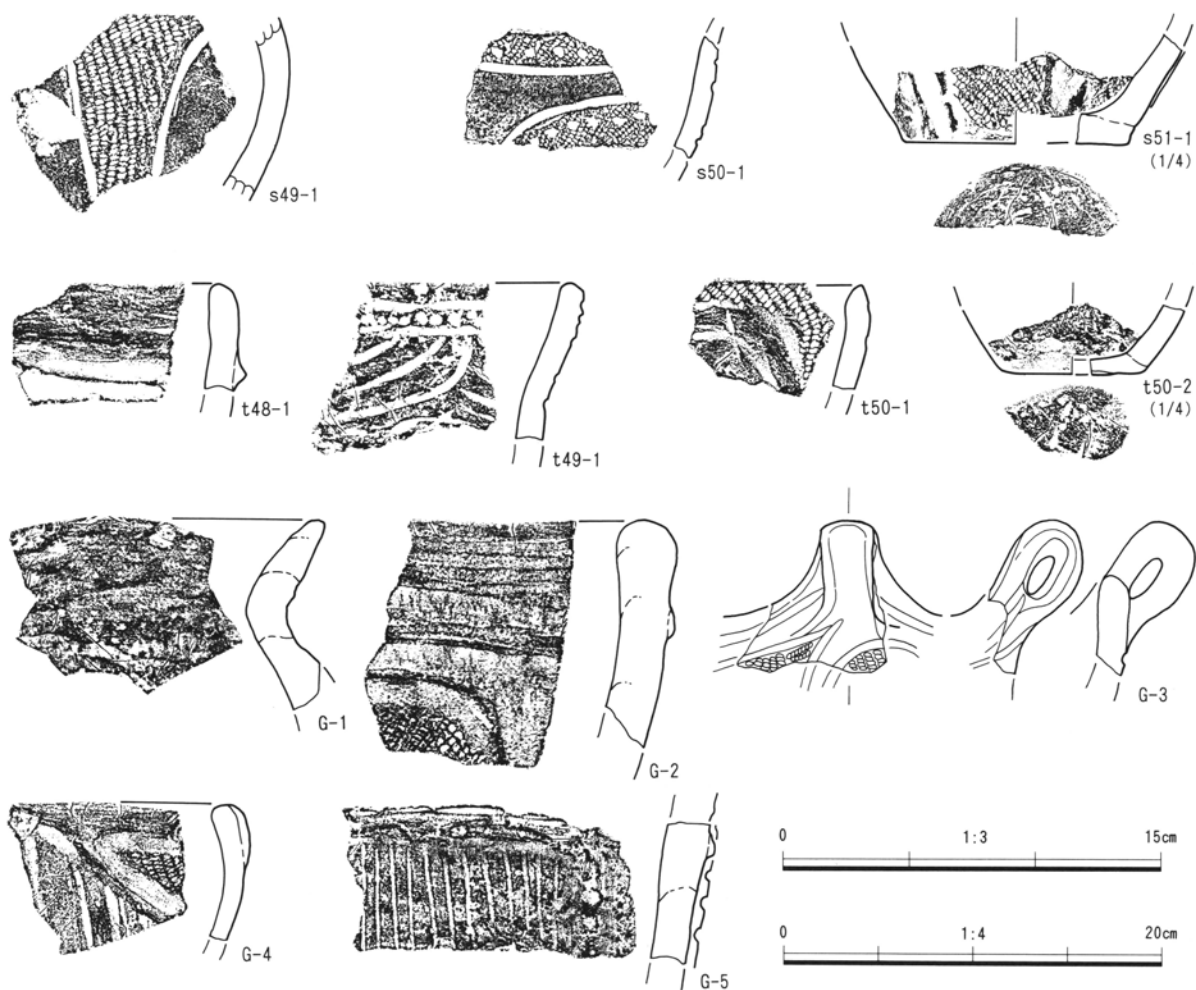
第95図 G区グリッド出土土器実測図 (19)

第2節 縄文時代



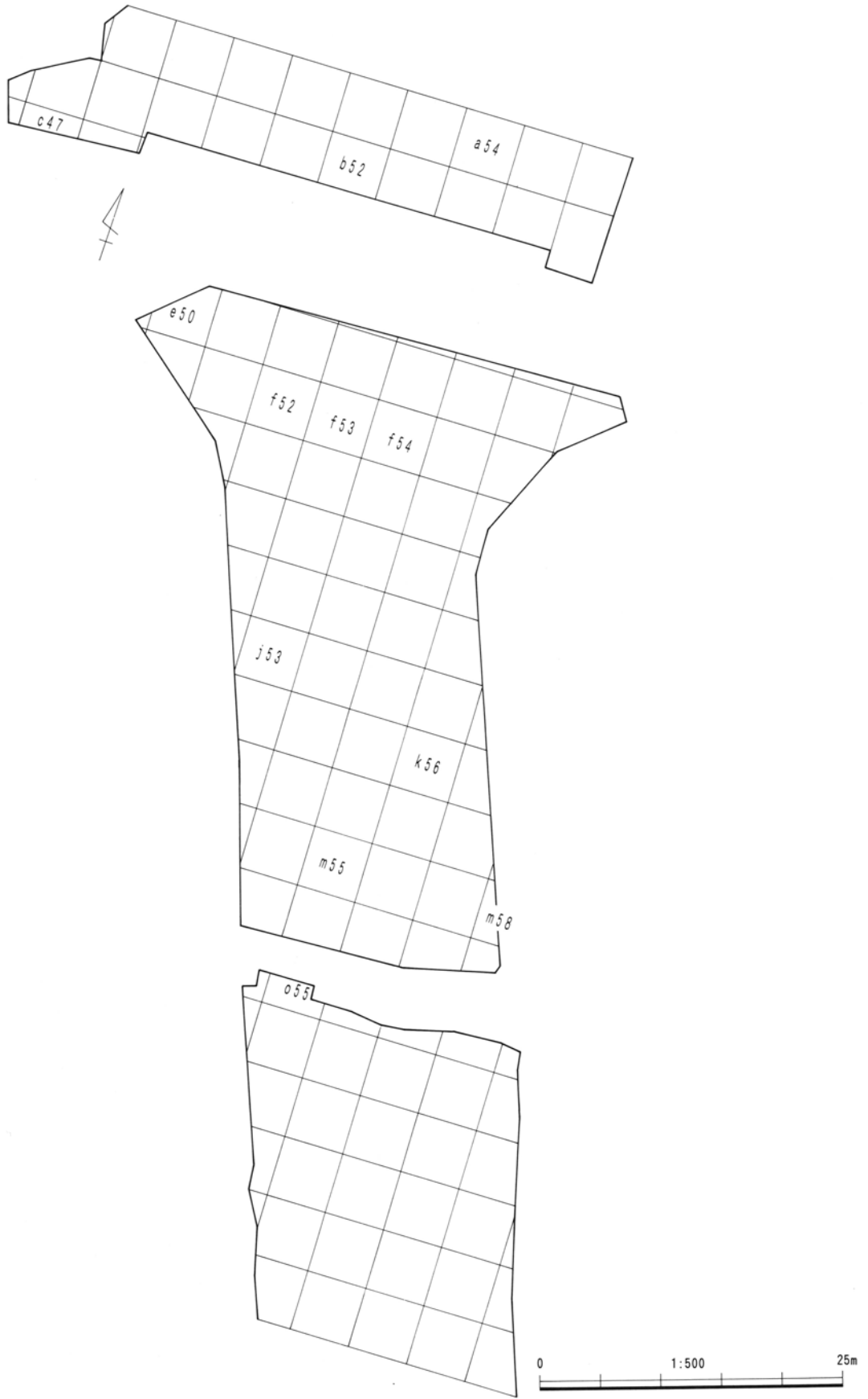
第96図 G区グリッド出土土器実測図 (20)

グリッド出土土器

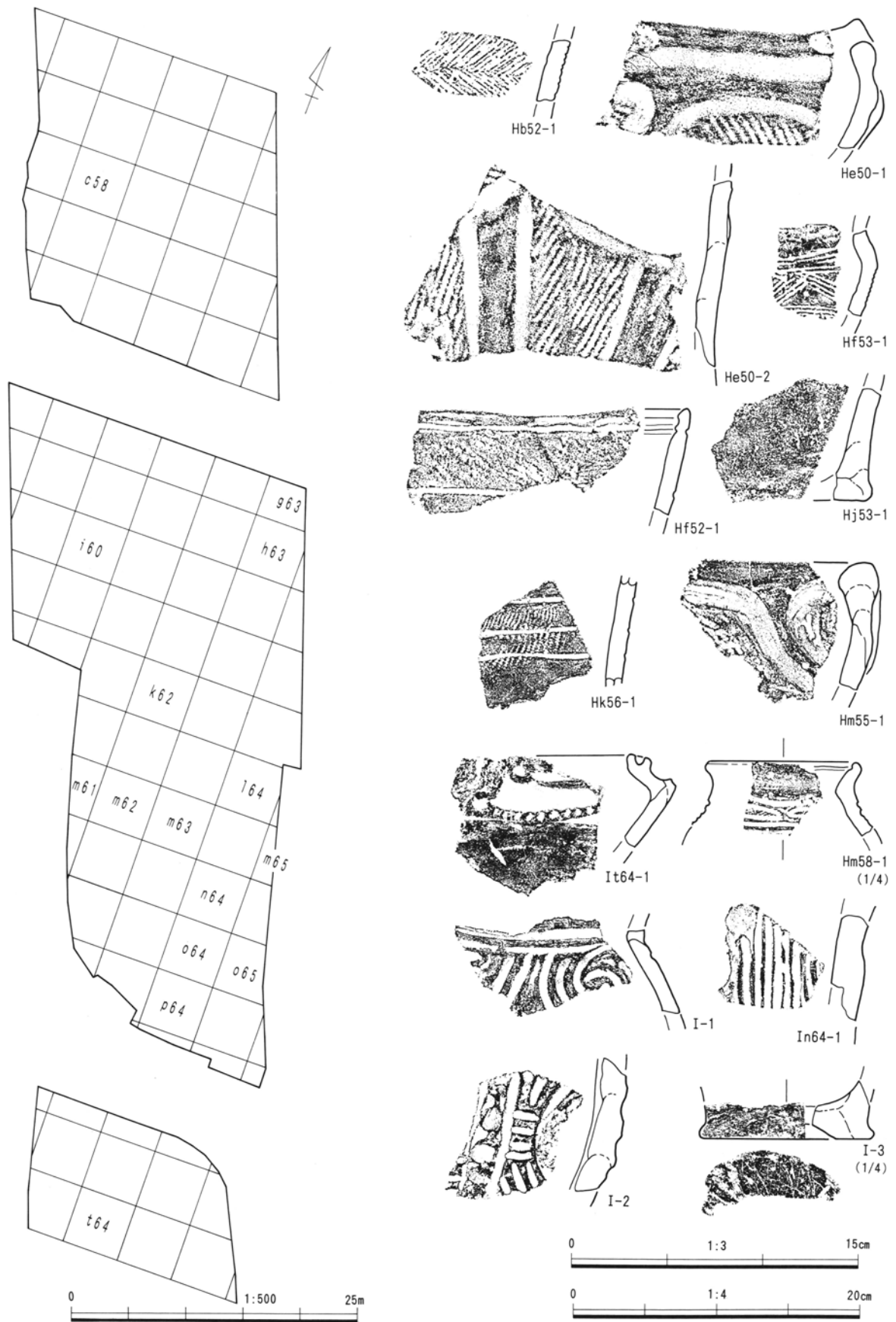


第97図 G区グリッド出土土器実測図 (21)

第2節 縄文時代

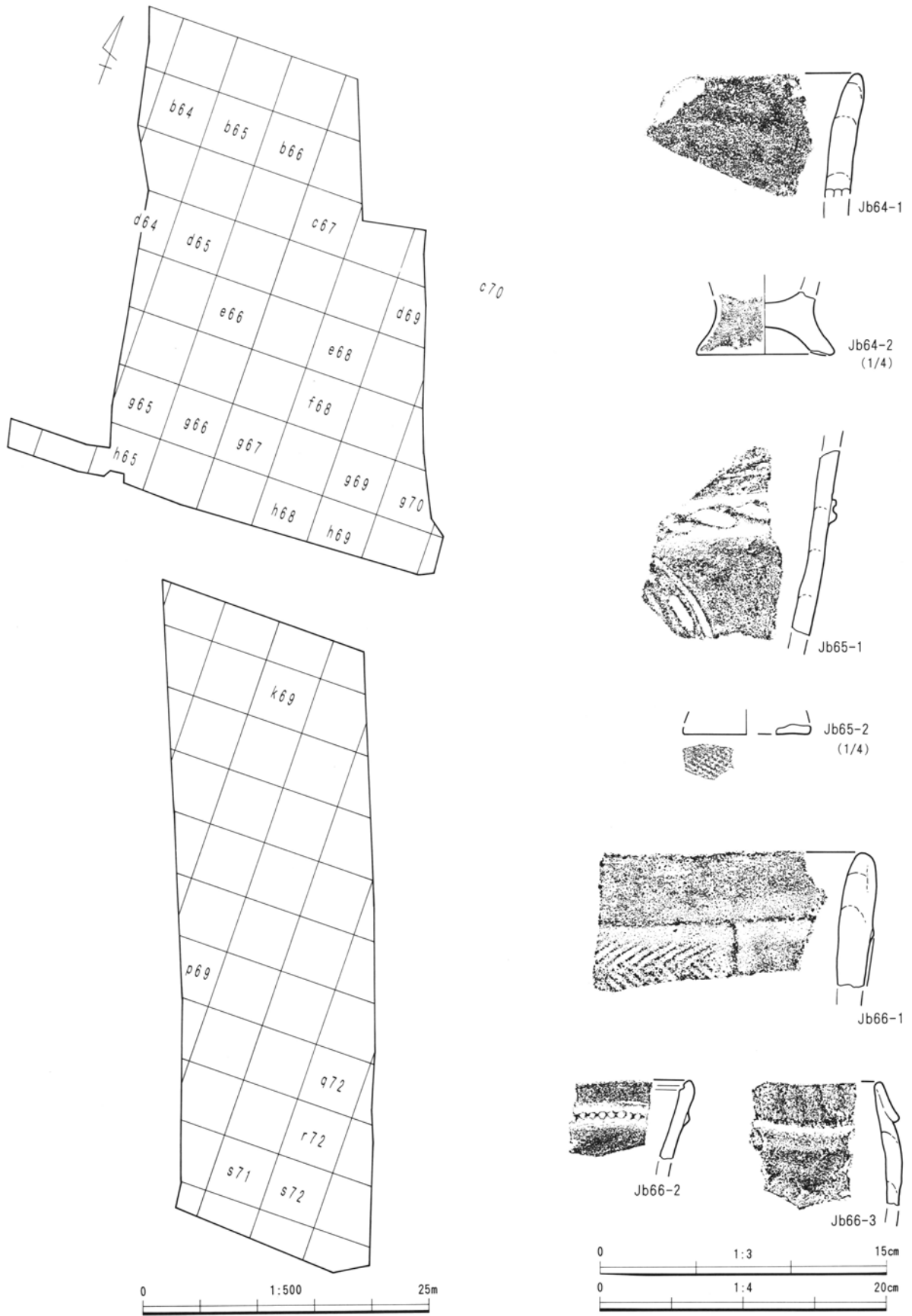


第98図 H区グリッド配置図



第99図 Ⅰ区グリッド配置図、H区・Ⅰ区グリッド出土土器実測図

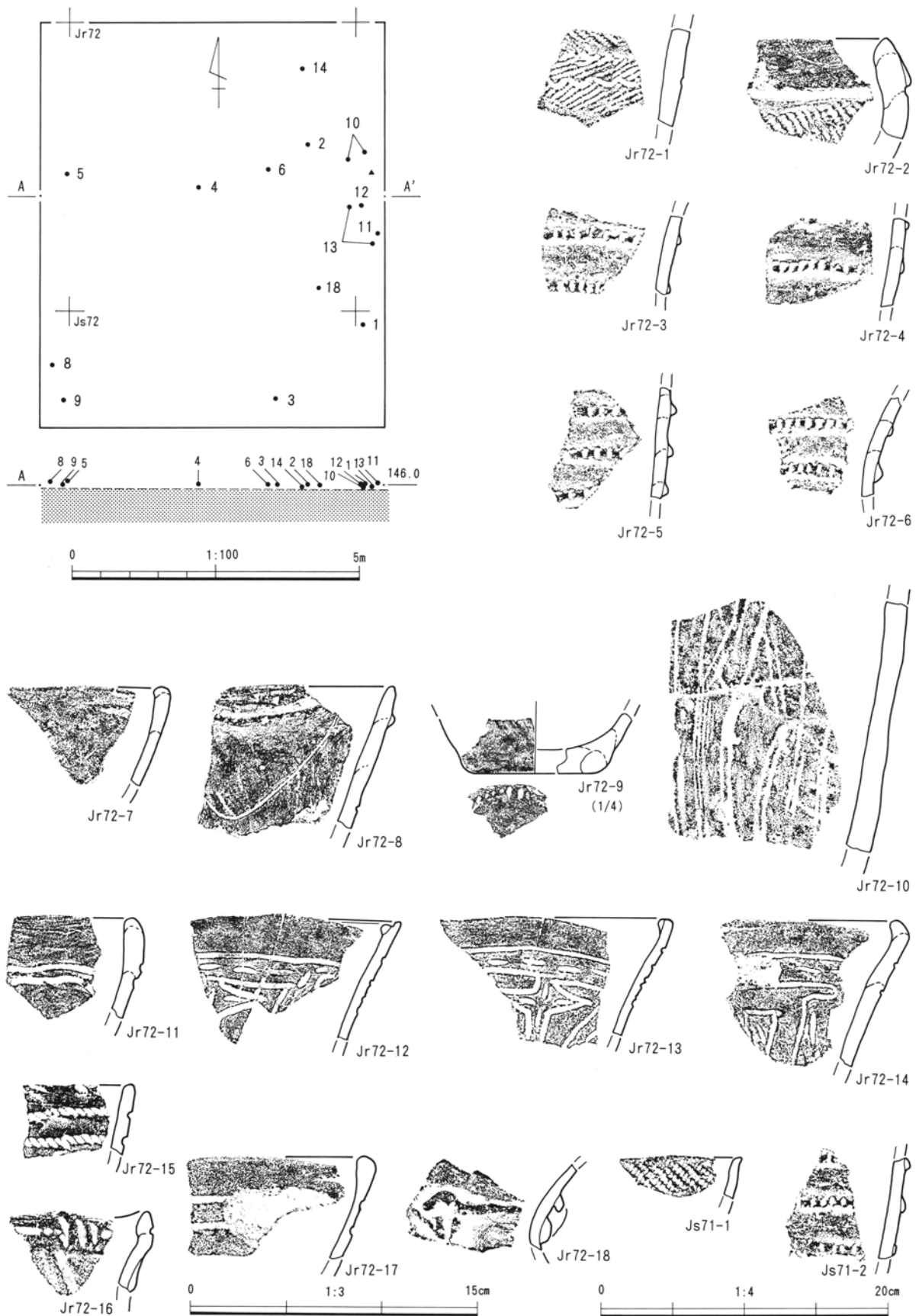
第2節 縄文時代



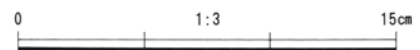
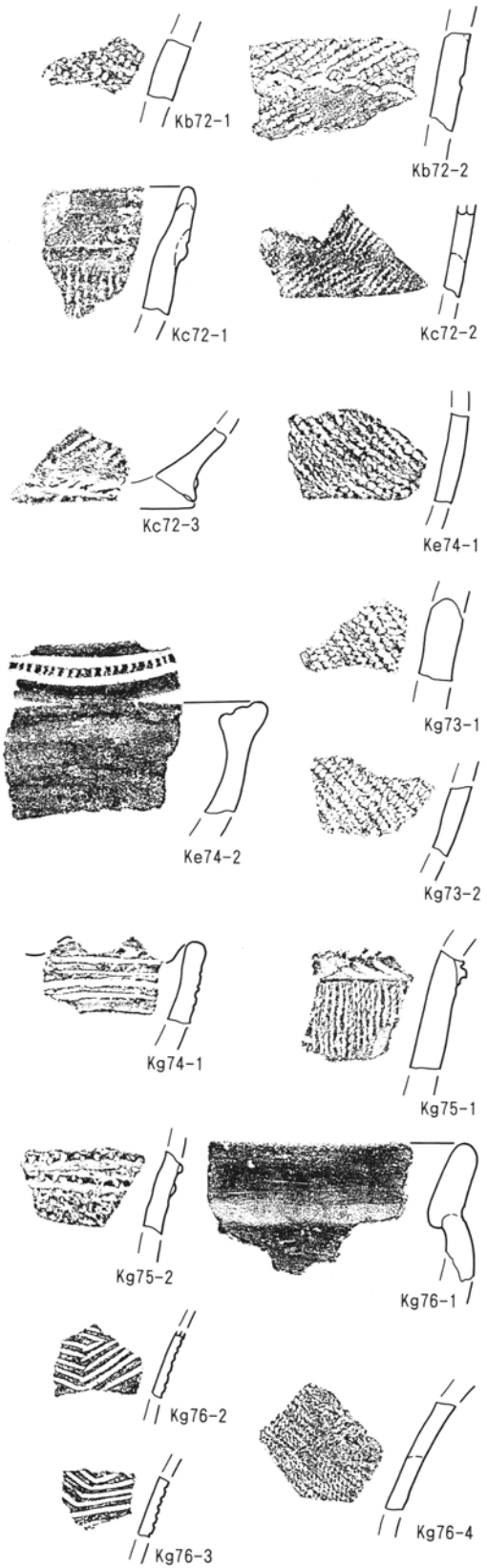
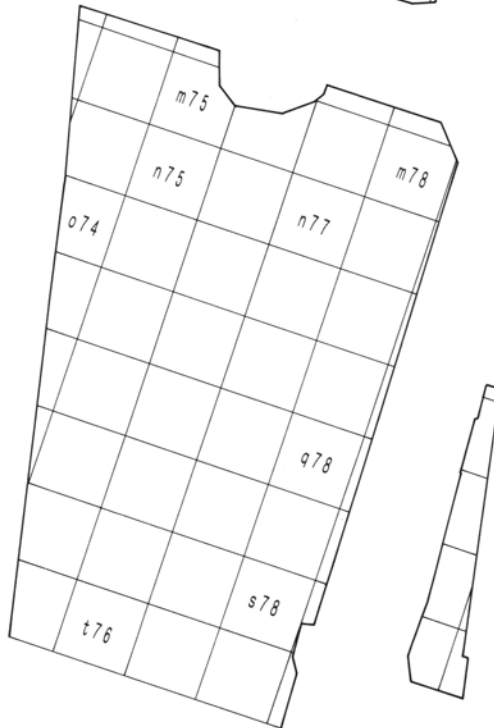
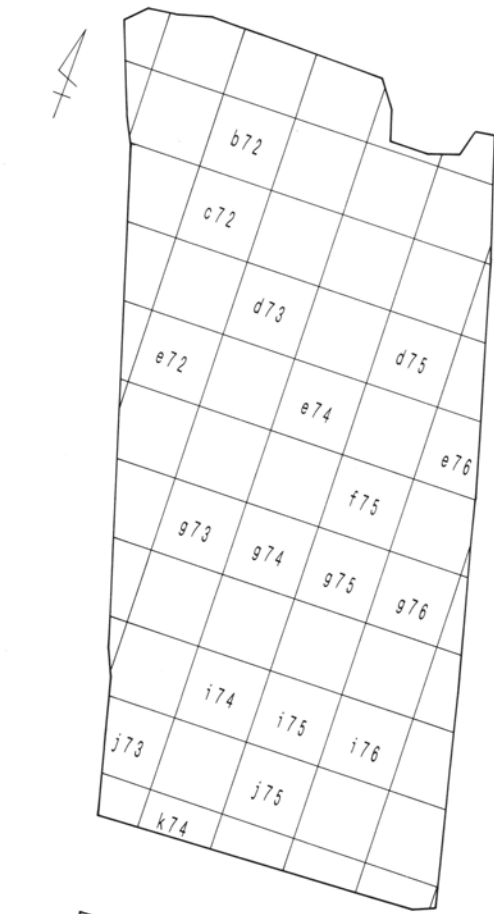
第100図 J区グリッド配置図・出土土器実測図(1)



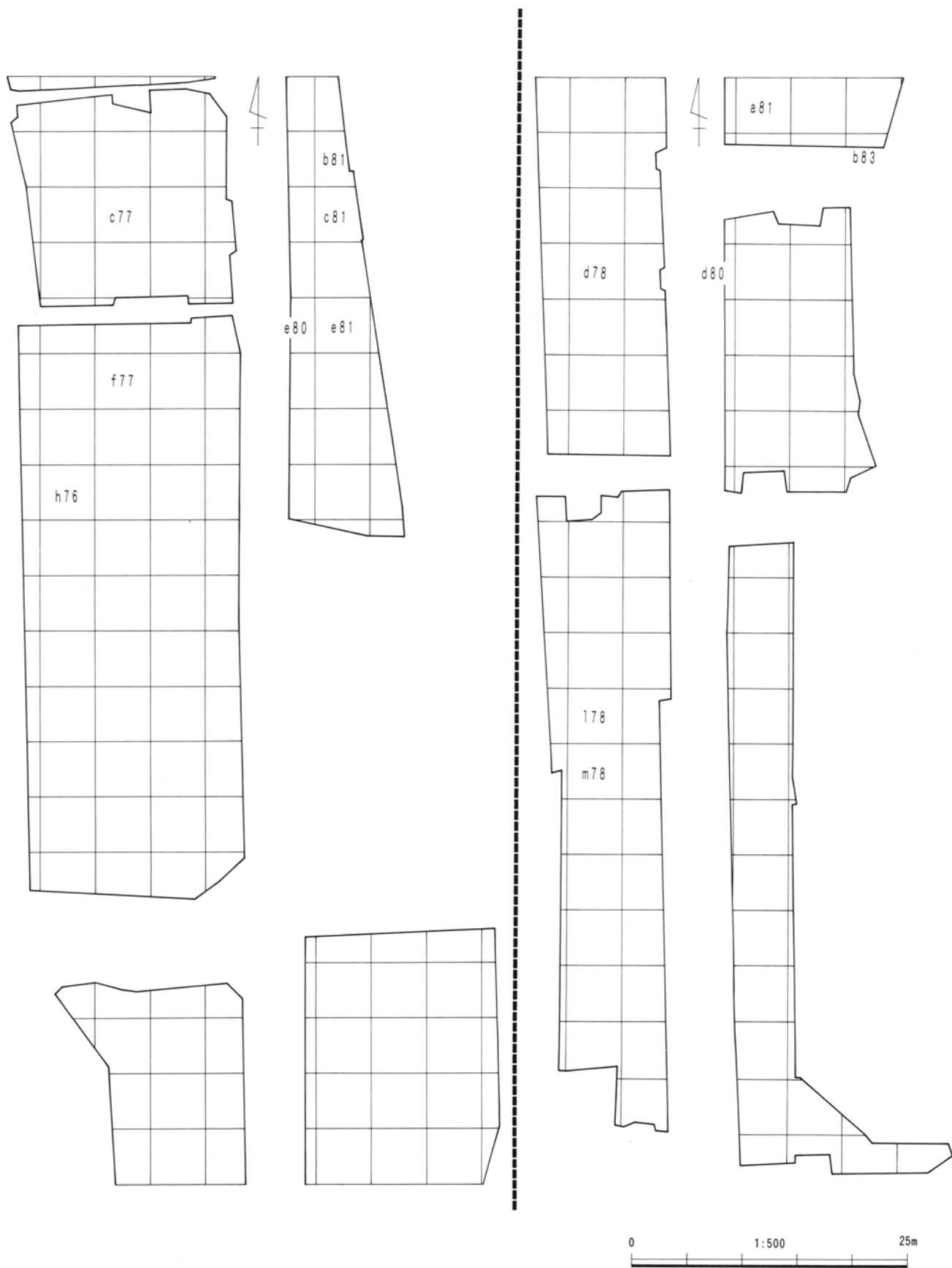
第101図 J区グリッド出土土器実測図(2)



第102図 J区グリッド出土土器実測図(3)



第103図 K区グリッド配置図・出土土器実測図

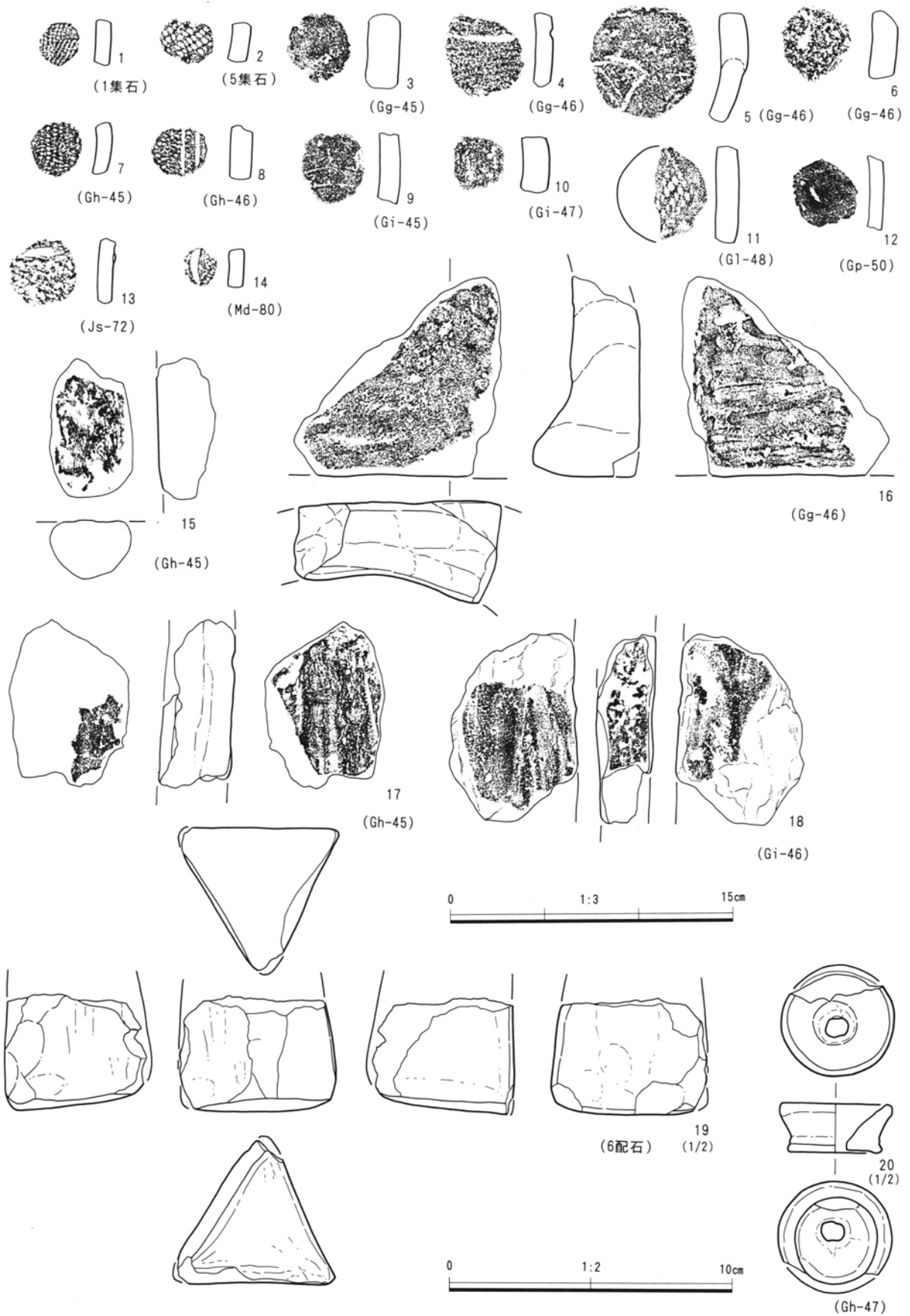


第104図 L区・M区グリッド配置図



第105図 K区・L区・M区グリッド出土土器実測図

第2節 縄文時代



第106図 特殊土製品実測図

第12表 G区グリッド出土土器観察表(1)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Ge-48G -1 第74図 P L 73	浅鉢	胴部片 口— 底— 高(4.5)	G区 e-48	①中砂。石英・白色粒多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③良好	内外面横位磨き。	V群
Ge-48G -2 第74図 P L 73	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.1)	G区 e-48	①中砂。輝石・白色粒多量、 赤褐色粒・石英少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③良好	波状口縁。横位2条微隆線の内沿いに 幅5mm棒状工具による円形刺突文施 文。	V群
Gf-43G -1 第74図 P L 73	注口 土器	注口部 口— 底— 高—	G区 f-43	①細砂。白色粒・輝石多量、 石英・赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	外面磨き、内面に接合痕残す。	VI群
Gf-45G -1 第74図 P L 73	深鉢	口縁片 口— 底— 高(15.1)	G区 f-45	①粗砂。石英多量、赤褐色粒・ 輝石・白色粒・チャート少量 ②明黄褐10Y R7/6 ③やや悪い	口縁僅かに内傾。口縁下に幅広横位沈 線、その下に横位微隆線貼付、2条微 隆線による渦巻文、RL縄文施文。	V群
Gf-45G -2 第74図 P L 73	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.2)	G区 f-45	①粗砂。赤褐色粒・輝石・石 英・白色粒少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③やや良し	横位「の」字状渦巻文、横位楕円文、L R縄文充填。	V群 外面一部黒変
Gf-45G -3 第74図 P L 73	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.7)	G区 f-45、 g-45	①細砂。白色粒子・石英・輝 石・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③良好	内彎口縁。口縁下に浅い幅広沈線横位 施文。幅1.1cm 4本櫛状工具による縦 位波状文施文。	V群 外面黒斑
Gf-45G -4 第74図 P L 73	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.1)	G区 f-45	①中砂。白色粒子・赤褐色粒 子・石英・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③良好	波状口縁。口唇部に沈線施文。隆帯に よる円形文、楕円区画文、内部にRL 縄文充填。	V群
Gf-45G -5 第74図 P L 73	深鉢	口縁片 口— 底— 高(8.1)	G区 f-45	①中砂。白色粒・石英・赤褐 色粒・輝石少量 ②にぶい褐7.5Y R5/3 ③やや悪い	口縁下に深い横位沈線、その下に幅 1.1cm 6本の櫛状工具による縦位沈線 施文。	V群 外面煤付着
Gf-45G -6 第74図 P L 73	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.9)	G区 f-45	①中砂。白色粒・赤褐色粒・ 石英・輝石少量 ②明黄褐10Y R7/6 ③不良	波状口縁。突起下に沈線による逆「の」 字状渦巻文、横位楕円区画文、間に円 形刺突文、LR縄文充填。	V群 外面黒変 被熱器面粗れる
Gf-45G -7 第74図 P L 73	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.9)	G区 f-45	①中砂。7mm礫、白色粒・赤 褐色粒・石英・輝石少量 ②橙2.5Y R6/6 ③やや悪い	部厚いつくり、口唇部は角張る。弧線 文、間にφ2cmの円形凹み施文。	V群
Gf-45G -8 第74図 P L 73	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.8)	G区 f-45	①粗砂。白色粒・石英・輝石 ・角閃石少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③やや良し	「の」字状渦巻文、横位楕円文、胴部は 2条沈線により分割、RL縄文充填。	V群
Gf-45G -9 第74図 P L 73	深鉢	口縁片 口— 底— 高(3.8)	G区 f-45	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②灰黄褐10Y R4/2 ③良好	口縁部内彎。口縁に押圧、その下に浅 い沈線施文。弧状沈線施文。RL縄文 充填。	V群 外面煤付着黒変
Gf-45G -10 第74図 P L 73	深鉢	頸部片 1/4 口— 底— 高(5.5)	G区 f-45	①中砂。赤褐色粒多量、輝石 ・白色粒子・石英少量 ②淡黄2.5Y 8/4 ③やや悪い	口辺部波状沈線文。胴部「∩」状沈線文、 RL縄文充填。	V群
Gf-45G -11 第74図 P L 73	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.6)	G区 f-45	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②浅黄2.5Y 7/4 ③不良	横位楕円文又は渦巻文、胴部3条沈線 により分割、RL縄文充填。	V群
Gf-45G -12 第74図 P L 73	深鉢	底部片 口— 底 7.2 高(3.6)	G区 f-45	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③不良	胴部縦位磨き。丸底。	V群 内面黒変

第2節 縄文時代

第12表 G区グリッド出土土器観察表(2)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gf-46G -1 第75図 P L 74	深鉢	口縁片 口一 底一 高(10.6)	G区 f-46	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③やや悪い	緩い波状口縁。口縁下に幅広浅沈線、突起下に摘み出し状微隆線貼付、その下に弧状微隆線貼付。R L縄文充填。	V群 外面一部黒変
Gf-46G -2 第75図 P L 74	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.5)	G区 f-46	①中砂。白色粒多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③ややよし	口縁部内彎。口縁下に幅広横位沈線施文、逆「の」字状渦巻文、R L縄文充填。隆帯・沈線は明瞭。	V群 外面一部煤付着(黒変)
Gf-46G -3 第75図 P L 74	深鉢	口縁部突起 長(4.3) 幅(3.7) 厚(3.5)	G区 f-46	①中砂。白色粒・石英多量、輝石・赤褐色粒少量 ②暗灰黄2.5Y5/2 ③やや悪い	ラッパ状に先端が開く橋状突起部分、刺突文は両脇から施文。	V群
Gf-46G -4 第75図 P L 74	深鉢	底部片 口一 底(6.8) 高(3.2)	G区 f-46	①粗砂。赤褐色粒・輝石・石英・白色粒子少量 ②淡黄2.5Y8/4 ③良好(硬質)	薄手。縦位沈線により胴部区画、R L縄文充填。	V群 外面一部黒変
Gf-46G -5 第75図 P L 74	深鉢	胴部片 口一 底一 高(9.2)	G区 f-46	①中砂。赤褐色粒・白色粒・石英多量、輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③やや悪い	縦位2条沈線により分割、L R縄文充填。	V群
Gf-46G -6 第75図 P L 74	深鉢	胴部片 口一 底一 高(8.8)	G区 f-46	①中砂。白色粒・石英・赤褐色粒・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや悪い	幅1.2cm6本櫛状工具による縦位、波状沈線文。	V群 外面煤付着黒変
Gf-46G -7 第75図 P L 74	深鉢	口辺部片 口一 底一 高(5.1)	G区 f-46	①粗砂。結晶片岩・微細雲母多量、石英・輝石少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③やや悪い	口縁部文様帯は隆帯による「の」字状渦巻文、地文は燃糸文L横位施文、頸部無文帯あり。	V群 外面一部黒変
Gf-47G -1 第75図 P L 74	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.3)	G区 f-47	①中砂。白色粒多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②明黄褐10Y R7/6 ③やや悪い	口縁やや内傾。口縁下に幅広横位沈線、その下に横位楕円区画文、R L縄文充填。	V群 内外面風化
Gf-47G -2 第75図 P L 74	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.4)	G区 f-47	①中砂。輝石・石英・白色粒子・赤褐色粒少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③ややよし	波状口縁。口唇部に沈線、突起部で蕨手状に巻く。内面にも同様な渦巻き施文。外面突起下には楕円又は円形文施文。	V群
Gf-47G -3 第75図 P L 74	深鉢	胴部片 口一 底一 高(10.5)	G区 f-47	①中砂。白色粒多量、石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③ややよし	隆帯による楕円区画文又は渦巻文、中程に幅広横位沈線施文。0段多条R L縄文充填。	V群 外面煤付着黒変
Gf-47G -4 第75図 P L 74	深鉢	胴部片 口一 底一 高(12.3)	G区 f-47	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②明黄褐10Y R7/6 ③やや悪い	縦位3条1単位沈線により胴部分割、R L縄文縦位充填。	V群 外面一部黒変
Gf-48G -1 第75図 P L 74	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.1)	G区 f-48	①細砂。輝石多量、石英・白色粒少量。 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③ややよし	隆帯とその両脇沈線により区画、内部に縦位沈線充填。	V群
Gg-44G -1 第75図 P L 74	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.1)	G区 g-44	①細砂。石英・輝石・白色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③ややよし	薄手。波状、内彎口縁。口縁より2cm下に微隆線貼付、そこから下に「n」字状微隆線貼付。R L縄文充填。	V群 外面口縁炭化物付着(黒変)
Gg-44G -2 第75図 P L 74	深鉢	口縁片 口一 底一 高(9.1)	G区 g-44	①中砂。赤褐色粒・石英・白色粒・輝石少量 ②橙7.5Y R6/6 ③ややよし	縦位3条沈線により胴部分割、L R縄文充填後、沈線懸垂。	V群 外面一部黒変
Gg-45G -1 第75図 P L 74	深鉢	口~胴部1/4 口(34.0) 底一 高(11.8)	G区 g-45	①細砂。輝石・石英・白色粒子少量 ②明黄褐10Y R7/6 ③ややよし	口縁横位磨き。口縁下に横位隆帯貼付、胴部を2条1単位隆帯で分割する。8分割? R L縄文縦位施文。	V群 外面煤付着黒変

第12表 G区グリッド出土土器観察表(3)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gg-45G -2 第75図 P L 74	深鉢	口縁片 口— 底— 高(8.4)	G区g-45	①中砂。6mm礫、白色粒・輝石多量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③不良	口唇部やや肥厚、やや内傾。高い隆帯による逆「の」字状渦巻文、LR縄文充填。	V群 風化顕著
Gg-45G -3 第76図 P L 75	深鉢	口縁～胴上部1/2 口 25.6 底— 高(22.2)	G区g-45	①細砂。輝石・石英・白色粒子多量 ②橙2.5Y R6/8 ③やや良し	口縁部文様帯は2重の隆帯による逆「の」字状渦巻文と「ㄣ」字状弧線文、弧線文の間には縦沈線充填。頸部に無文部分があるが、胴部との間に区画はない。胴部RL縄文縦位施文。	V群 内面及び外面口縁煤付着黒変
Gg-45G -4 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口— 底— 高(9.3)	G区g-45	①細砂。白色粒子・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい褐7.5Y R5/3 ③良好	渦巻文又は横位楕円文施文。内部に櫛状工具による沈線充填。	V群
Gg-45G -5 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口— 底— 高(9.3)	G区g-45	①中砂。輝石・白色粒子多量、石英少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや良し	口縁下と頸部に横位隆帯貼付区画、口縁部文様帯斜め弧状隆帯貼付、左上斜位、右下縦位沈線充填。	V群 外面一部黒変
Gg-45G -6 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.1)	G区g-45	①細砂。白色粒子・石英・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③やや良し	緩い波状口縁。摘み出し状隆帯により連結、横位楕円文区画。胴部縦位隆帯により分割。	V群 外面一部黒斑
Gg-45G -7 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口— 底— 高(4.1)	G区g-45	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②灰黄褐10Y R5/2 ③良好	波状口縁。突起下には摘み出し状の隆帯貼付、その下に弧状隆帯貼付。RL縄文縦位充填。	V群 外面一部黒変
Gg-45G -8 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.2)	G区g-45	①中砂。白色粒子・石英・赤褐色粒子・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③不良	口縁下に横位細沈線施文。幅1cm6本櫛状工具による縦位沈線施文。無文部分あり。	V群 内外面風化
Gg-45G -9 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.2)	G区g-45	①細砂。φ5mm礫、白色粒子・輝石・石英少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	細隆帯による「の」字状渦巻文貼付、その下に「ㄣ」状沈線垂下。RL縄文充填。	V群
Gg-45G -10 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.0)	G区g-45	①中砂。白色粒子・輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③やや良し	口縁と口縁下隆帯上に連続刻み施文。その下に横位沈線、RL縄文施文。	V群 外面煤付着黒変
Gg-45G -11 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.2)	G区g-45	①中砂。白色粒多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	横位楕円区画文? RL縄文充填。	V群 内外面風化
Gg-45G -12 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.7)	G区g-45	①中砂。輝石・石英・白色粒・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y 8/3 ③やや良し	波状、内彎口縁。薄手。沈線による「の」字状渦巻文。	V群 口縁一部黒変
Gg-45G -13 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.5)	G区g-45	①粗砂。4mmチャート礫、輝石・石英・白色粒子少量 ②灰黄褐10Y R4/2 ③やや悪い	口縁外反。内外面横位磨き、φ1cm貫通部4mmの補修孔あり。	V群
Gg-45G -14 第76図 P L 75	深鉢	胴部片 口— 底— 高(8.9)	G区g-45	①細砂。輝石多量、石英・白色粒子少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③やや良し	縦位2条沈線により胴部分割、RL縄文縦位充填。	V群 内外面上部淡く黒変
Gg-45G -15 第76図 P L 75	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.1)	G区g-45	①中砂。結晶片岩・輝石・石英・白色粒子少量 ②にぶい赤褐5Y R4/4 ③やや良し	口縁外屈。幅7mm半截竹管による平行沈線。頸部に4単位施文。下に横位爪形刻み。	IV群 内面淡く黒変
Gg-45G -16 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.3)	G区g-45	①中砂。5mm礫、石英・白色粒多量、輝石・赤褐色粒少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③やや良し	波状、内彎口縁。口縁下に断面三角形棒状工具による2列の連続刺突文。橋状把手部分欠損。下に微隆線による双弧文、外の三角形部分にLR縄文充填。	V群 外面胴部炭化物付着黒変 内面黒変

第2節 縄文時代

第12表 G区グリッド出土土器観察表(4)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gg-45G -17 第76図 P L 75	深鉢	底部片 2/3 口— 底 8.8 高(6.2)	G区g-45	①中砂。白色粒多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③ややよし	内外面磨き。底部と胴部の境は角張る。	V群 内面黒変
Gg-45G -18 第76図 P L 75	深鉢	底部片 口— 底(8.8) 高(6.7)	G区g-45	①中砂。白色粒多量、赤褐色粒・輝石・石英少量 ②明黄褐10Y R6/6 ③ややよし	底部厚手。縦位2条沈線により分割、擦糸文L縦位、斜め縦位施文。	V群 外面赤変、器面粗れる
Gg-45G -19 第76図 P L 75	深鉢	底部片 口— 底 6.0 高(3.9)	G区g-45	①中砂。白色粒・赤褐色粒・輝石・石英少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③ややよし	内外面磨き。縦位2条沈線により分割。	V群 外面赤変・黒変
Gg-45G -20 第76図 P L 75	浅鉢	底部片 1/2 口— 底(6.0) 高(3.1)	G区g-45	①細砂。白色粒多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③ややよし	丸底。体部は薄く開いて立ち上がる。	V群 外面煤付着黒変
Gg-46G -1 第77図 P L 76	深鉢	口縁片 1/4 口(25.2) 底— 高(10.9)	G区g-46	①中砂。石英・白色粒・輝石多量 ②明黄褐10Y R7/6 ③ややよし	緩い波状、内彎口縁。波状頂部下に摘み出し状の突起貼付、その下に「 \cap 」字状沈線文、右に逆「 Γ 」字状渦巻文。L R縄文充填。	V群 外面口辺煤付着黒変
Gg-46G -2 第77図 P L 76	深鉢	口縁片 口— 底— 高(9.8)	G区g-46	①細砂。石英・白色粒子・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③ややよし	波状口縁。口縁部磨き、その下に隆帯が沿う。波状頂部下に摘み出し状の隆帯貼付。下の区画も隆帯により分割される。L R縄文充填。	V群
Gg-46G -3 第77図 P L 76	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.1)	G区g-46	①中砂。石英・白色粒子多量、赤褐色粒子・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	口辺部横位磨き。細沈線による波状文。L R縄文施文。	V群 口縁部炭化物付着黒変
Gg-46G -4 第77図 P L 76	深鉢	口縁片 口— 底— 高 8.2	G区g-46	①中砂。白色粒子多量、石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③ややよし	隆帯と脇沈線による横位楕円文又は渦巻文、R L縄文充填。	V群 外面黒斑
Gg-46G -5 第77図 P L 76	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.9)	G区g-46	①中砂。白色粒・輝石・赤褐色粒・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③良好(硬質)	波状口縁。沈線による横位楕円文。R L縄文充填。	V群 外面一部黒変
Gg-46G -6 第77図 P L 76	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.7)	G区g-46	①細砂。赤褐色粒、輝石・石英・白色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③悪い	4単位波状口縁、口縁沿いに刺突文、その下に細沈線が沿う。細沈線波状文、R L縄文充填。	V群 外面赤変、黒斑
Gg-46G -7 第77図 P L 76	深鉢	口縁片 口— 底— 高(4.6)	G区g-46	①細砂。赤褐色粒・輝石・石英・白色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③悪い	口唇部小突起貼付、口縁下に横位細沈線が沿う。その下に細沈線山形波状文、外側にR L縄文充填。 ϕ 1cm、貫通部分0.5cmの補修孔あり。	V群 外面赤変(風化)
Gg-46G -8 第77図 P L 76	深鉢	口縁片 口— 底— 高(3.4)	G区g-46	①細砂。赤褐色粒・輝石・石英少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③悪い	緩い波状口縁。口縁沿いに連続刺突文、その下に横位細沈線。下の区画には細沈線波状文、R L縄文充填。	V群 外面一部黒変 Gg-46-9に類似
Gg-46G -9 第77図 P L 76	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.6)	G区g-46	①細砂。赤褐色粒・輝石・石英少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③悪い	口縁沿いに連続刺突文、その下に横位細沈線。R L縄文施文。	V群 Gg-46-8に類似
Gg-46G -10 第77図 P L 76	深鉢	口縁片 口— 底— 高(3.3)	G区g-46	①中砂。石英・白色粒子多量、赤褐色粒子・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③良好	波状口縁、口縁下に連続刺突文2条施文、その下に「 \cap 」状文。L R縄文充填。	V群
Gg-46G -11 第77図 P L 76	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.0)	G区g-46	①中砂。石英・白色粒子・輝石・赤褐色粒子少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③やや悪い	波状口縁。口縁下に横位沈線、弧線文。L R縄文充填。	V群 内外面風化

第12表 G区グリッド出土土器観察表(5)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gg-46G -12 第 77図 P L 76	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.2)	G区g-46	①細砂。白色粒子・石英・赤褐色粒子・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	波状口縁。口縁下に2条刺突文が沿い、間に横位沈線1条施文。φ1cm、貫通部分0.5cm程の補修孔あり。	V群 口唇部内面黒変、赤変
Gg-46G -13 第 77図 P L 76	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.0)	G区g-46	①細砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや悪い	波状口縁、口縁下に2条横位細沈線、下の線から沈線双弧文施文。0段多条のRL細縄文充填。	V群 内外面黒変
Gg-46G -14 第 77図 P L 76	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.0)	G区g-46	①細砂。白色粒・石英多量、輝石・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③やや悪い	口縁下に微隆線、その下に双弧文、LR縄文充填。	V群 外面煤付着(黒変)
Gg-46G -15 第 77図 P L 76	深鉢	口縁部突起 口一 底一 高(5.1)	G区g-46	①中砂。石英・結晶片岩多量、輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/2 ③良好	上面に隆帯によるハート形渦巻文施文。	V群
Gg-46G -16 第 77図 P L 76	浅鉢	胴部片 口一 底一 高(10.1)	G区g-46	①中砂。赤褐色粒・白色粒・石英・輝石少量 ②橙5Y R7/6 ③やや悪い	口縁部横位磨き。頸部に微隆線、胴部に幅1.0cm6本の櫛状工具による流水沈線文施文。	V群 外面黒変、赤変
Gg-46G -17 第 77図 P L 76	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.2)	G区g-46	①中砂。白色粒子・石英多量、赤褐色粒子・チャート・輝石少量 ②灰黄2.5Y7/2 ③良好	幅1.8cm6本櫛状工具による横位波状文施文。	V群
Gg-46G -18 第 77図 P L 76	深鉢	底部片 口一 底7.0 高(5.7)	G区g-46	①中砂。石英・赤褐色粒多量、白色粒・輝石少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③不良	無文。胴部縦位磨き。底部上底。	V群 外面黒変、粗れる
Gg-46G -19 第 77図 P L 76	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.1)	G区g-46	①中砂。輝石・白色粒子多量、石英少量 ②にぶい褐7.5Y R5/3 ③ややよし	口縁は部厚く、角張る。内面横位削り。	V群 外面赤色塗彩
Gg-46G -20 第 77図 P L 76	深鉢	底部片 口一 底(4.5) 高(0.9)	G区g-46	①中砂。石英・白色粒・赤褐色粒・輝石少量 ②橙7.5Y R6/8 ③良好	やや薄手。内面撫で、外面磨き。	V群
Gg-46G -21 第 77図 P L 76	浅鉢?	肩部片 口一 底一 高(3.3)	G区g-46	①細砂。石英粒子多量、白色粒・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③良好	薄手。頸部に幅0.7cm横位沈線、下にRL縄文施文。内面～沈線部分まで赤色塗彩残る。	V群 赤色塗彩
Gg-47G -1 第 78図 P L 77	深鉢	胴下部片 口一 底一 高(14.5)	G区g-47, i-46	①中砂。輝石・赤褐色粒・白色粒子・チャート少量 ②橙5Y R6/8 ③ややよし	胴部縦位3条沈線による懸垂文6単位、2条1単位施文。RL縄文縦位充填。	V群 内面黒変
Gg-47G -2 第 78図 P L 77	深鉢	1/3 口(20.8) 底一 高(21.7)	G区g-47	①中砂。輝石・石英・白色粒少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③ややよし	口唇部に2ヶ1対の凹み(1ヶ欠損)。器面全面に横位RL縄文施文。	III群 外面煤付着黒変 内面器面剥落
Gg-47G -3 第 78図 P L 77	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.5)	G区g-47	①中砂。石英・白色粒多量、輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③不良	口縁内彎。細沈線による逆「の」字状渦巻文、RL縄文充填。	V群 外面一部黒斑 内面黒変
Gg-47G -4 第 78図 P L 77	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.5)	G区g-47	①中砂。石英・白色粒多量、赤褐色粒・輝石少量 ②灰黄褐10Y R5/2 ③ややよし	内屈口縁。細沈線による渦巻文又は双弧文。LR縄文充填。	V群 外面淡く黒変
Gg-47G -5 第 78図 P L 77	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.8)	G区g-47	①中砂。石英・白色粒多量、輝石・赤褐色粒少量 ②灰黄褐10Y R4/2 ③ややよし	内彎口縁。「∩」字状沈線文、LR縄文口縁横位、縦位充填。	V群 外面黒変

第2節 縄文時代

第12表 G区グリッド出土土器観察表(6)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gg-47G -6 第78図 P L77	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.9)	G区g-47, i-48	①中砂。石英・輝石・白色粒 少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	口縁外反。R L縄文横位施文。	III群
Gg-47G -7 第78図 P L77	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.7)	G区g-47	①中砂。石英・白色粒多量、 輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③やや良し	口縁より2.5cm下に横位微隆線、L R 縄文施文。	V群 内外面煤付着 (黒変)
Gg-47G -8 第78図 P L77	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.7)	G区g-47	①中砂。輝石・チャート・白 色粒・石英少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③良好	口縁外反。R L縄文横位施文。	III群
Gg-47G -9 第78図 P L77	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.9)	G区g-47	①細砂。石英・白色粒子多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②灰黄2.5Y 7/2 ③良好(硬質)	口縁やや内彎。沈線による逆「の」字状 渦巻文。	V群
Gg-47G -10 第78図 P L77	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.0)	G区g-47	①細砂。チャート・石英・白 色粒子少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③良好	内彎口縁。口縁より1.2cm下にヘラ状 工具による横位、弧状細沈線。R L縄 文充填。	V群 外面一部黒変
Gg-47G -11 第78図 P L77	深鉢	頸部片 口一 底一 高(6.3)	G区g-47	①中砂。石英・チャート・結 晶片岩多量、輝石少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや良し	口縁外反。肩部に横位隆帯貼付、蕨手 状沈線文、横位楕円文?内部に0段多 条R L横位充填。	V群 外面淡く黒変、赤変 内面一部淡く黒変
Gg-47G -12 第78図 P L77	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.3)	G区g-47	①中砂。石英・白色粒・赤褐 色粒多量、輝石少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③やや悪い	弧状、「U」字状細沈線、R L縄文充填。	V群 外面上部淡く黒変 下部赤変、内面上部 黒変、器面風化
Gg-47G -13 第78図 P L77	深鉢	胴部片 口一 底一 高(7.4)	G区g-47	①中砂。石英・輝石・白色粒 ・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/8 ③やや悪い	「n」「u」字状細沈線文、L R縄文 充填。	V群
Gg-47G -14 第78図 P L77	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.0)	G区g-47	①粗砂。石英・結晶片岩多量、 赤褐色粒少量 ②にぶい赤褐2.5Y R5/4 ③やや良し	0段多条然糸文L縦位施文。	V群 外面黒変
Gg-47G -15 第78図 P L77	浅鉢	底部片 1/8 口一 底(7.6) 高(2.4)	G区g-47	①中砂。赤褐色粒・白色粒・ 輝石多量、石英少量 ②にぶい橙7.5Y R7/3 ③やや良し	外面胴部磨き、底部無調整ザラつく。 内面磨き。	V群 外面一部黒変
Gg-47G -16 第78図 P L77	深鉢	底部片 口一 底 6.2 高(3.9)	G区g-47	①中砂。5mm礫、結晶片岩・ 石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや良し	縦位隆帯により6単位分割、底部部厚 いつくり。外面撫で、内面磨き。	V群 外面一部黒変
Gg-48G -1 第78図 P L77	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.1)	G区g-48	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③良好	波状内彎口縁。幅広浅沈線による横位 楕円区画文、L R L複節縄文充填。	V群 外面黒斑あり
Gg-48G -2 第78図 P L77	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.2)	G区g-48	①中砂。白色粒多量、輝石・ 石英・赤褐色粒少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③やや良し	波状口縁。突起部外反、口縁やや内彎。 逆「の」字状渦巻文。L R L複節縄文充 填。	V群 外面黒変
Gg-48G -3 第78図 P L77	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.4)	G区g-48	①中砂。赤褐色粒・輝石・石 英・白色粒子少量 ②橙2.5Y R6/8 ③やや良し	口縁沿いに半截竹管状工具による円形 回転刺突文。L R縄文施文。	V群 内外面風化
Gg-48G -4 第78図 P L77	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.7)	G区g-48	①中砂。白色粒多量、輝石・ 赤褐色粒・石英少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや良し	薄手。内彎口縁。L R L複節縄文施文。	V群

第12表 G区グリッド出土土器観察表(7)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gg-48G -5 第78図 P L 77	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.3)	G区g-48	①中砂。輝石・白色粒多量、 石英・赤褐色粒少量 ②におい赤褐5Y R5/4 ③やや良し	縦位沈線により胴部分割、R L縄文縦 位施文後沈線による逆「の」字状渦巻 文。	V群 外面黒変
Gg-48G -6 第78図 P L 77	深鉢	胴部片 口— 底— 高(7.0)	G区g-48	①中砂。赤褐色粒多量、輝石 ・石英・白色粒少量 ②明赤褐5Y R5/6 ③良好	縦位沈線により分割、「n」「u」字 状沈線文。R L縄文縦位充填後波状沈 線懸垂。	V群 内面黒変
Gg-48G -7 第78図 P L 77	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.9)	G区g-48	①中砂。白色粒・石英・赤褐 色粒・輝石少量 ②におい赤褐5Y R5/4 ③やや良し	幅2mm半截竹管による平行沈線で横位 ・斜位施文。地文はR L縄文横位施文。	III群 外面淡く黒変
Gg-48G -8 第78図 P L 77	深鉢	胴～底部 口— 底— 高(6.5)	G区g-48	①中砂。白色粒・赤褐色粒多 量、輝石・石英少量 ②橙7.5Y R7/6 ③やや良し	縦位3条沈線により分割、R L縄文縦 位充填。	V群
Gh-44G -1 第79図 P L 78	深鉢	胴部片 口— 底— 高(9.2)	G区h-44	①粗砂。チャート・結晶片岩 多量、石英・輝石少量 ②橙7.5Y R6/6 ③良好	縦位2条沈線により分割、R L縄文縦 位充填。	V群
Gh-45G -1 第79図 P L 78	深鉢	口縁片 口— 底— 高(13.1)	G区h-45	①粗砂。φ8mm礫、白色粒多 量、輝石・石英少量 ②淡黄2.5Y 8/3 ③不良	特に大形。口唇部肥厚。「∩」字状区画 内R L縄文横位施文。	V群 内面黒変
Gh-45G -2 第79図 P L 78	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.2)	G区h-45	①中砂。白色粒・輝石多量、 赤褐色粒・石英少量 ②におい黄橙10Y R7/3 ③良好	口縁やや内彎。楕円区画の交点で「×」 字状を呈し、間に三角形に近い回転刺 突文を上下2つ施す。	V群 外面淡く黒変
Gh-45G -3 第79図 P L 78	深鉢	口縁片 口(28.0) 底— 高(5.2)	G区g-45、 h-45、 i-45	①中砂。石英多量、輝石・白 色粒子・赤褐色粒子少量 ②におい黄橙10Y R7/3 ③やや悪い	4単位波状口縁。口縁下に刺突文2列、 その間に沈線。「n」字状2重弧線文。 L R縄文充填。	V群 外面一部黒変 内面黒変 G h-45-6に類似
Gh-45G -4 第79図 P L 78	瓢形 土器	口縁片 1/4 口(10.6) 底— 高(7.7)	G区h-45	①中砂。輝石・石英・白色粒 子少量 ②におい黄橙10Y R6/4 ③良好	薄手。内彎口縁。肩部に横位微隆線、 φ2mmの紐孔が12個開くものと推定さ れる。2重微隆線による渦巻又は弧線 文、懸垂文。外面良く研磨、内面磨き。	V群 内面燻し黒色処理 外面赤色塗彩
Gh-45G -5 第79図 P L 78	深鉢	口縁片 口— 底— 高(8.2)	G区h-45	①細砂。白色粒子・石英多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②浅黄2.5Y 7/3 ③不良	口縁下に幅広沈線、幅9mm4本櫛状工 具による波状沈線文。	V群 外面黒斑赤変あり
Gh-45G -6 第79図 P L 78	深鉢	口縁片 口(24.4) 底— 高(6.6)	G区h-45、 h-46、 h-47	①中砂。輝石・石英・白色粒 子少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好(硬質)	「n」字状沈線施文、R L縄文口縁横位、 他は縦位充填。	V群 外面黒斑赤斑 G h-45-3に類似
Gh-45G -7 第79図 P L 78	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.2)	G区h-45	①中砂。白色粒多量、輝石・ 赤褐色粒・石英少量 ②灰黄2.5Y 6/2 ③不良	口唇部肥厚、やや外反。幅1.7cm 8本 櫛状工具に縦位沈線文。	V群 外面黒変
Gh-45G -8 第79図 P L 78	浅鉢	口縁片 口— 底— 高(8.0)	G区h-45	①細砂。石英・白色粒子多量、 雲母・輝石少量 ②におい赤褐5Y R5/4 ③良好	口唇部外反。赤色塗彩による渦巻又は 弧状文。内面部分的に赤色塗彩残る。	V群 外面黒斑 赤色塗彩
Gh-45G -9 第79図 P L 78	深鉢	口縁片 口— 底— 高(8.5)	G区h-45	①中砂。石英・白色粒子多量、 赤褐色粒・輝石少量 ②浅黄2.5Y 7/3 ③やや良し	波状口縁。口縁下に刻み付き隆帯によ る横位楕円文、下に「n」状隆帯貼付。 R L縄文充填。	V群 外面煤付着黒変
Gh-45G -10 第79図 P L 78	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.6)	G区h-45	①中砂。石英・チャート・結 晶片岩・赤褐色粒子少量 ②淡黄2.5Y 8/3 ③良好(硬質)	薄手。口唇部外反、口縁突起下に逆 「の」字状渦巻文、R L縄文充填。	V群 内面器面粗れる

第2節 縄文時代

第12表 G区グリッド出土土器観察表(8)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gh-45G -11 第 79図 P L 78	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.8)	G区 h-45	①中砂。赤褐色粒多量、輝石・白色粒子・石英少量 ②におい黄橙10Y R6/3 ③やや悪い	細沈線による渦巻文、R L縄文充填。	V群 外面黒変
Gh-45G -12 第 79図 P L 78	深鉢	胴部片 口— 底— 高(8.8)	G区 h-45	①中砂。白色粒子多量、輝石・石英・雲母少量 ②灰黄2.5Y 6/2 ③やや良し	縦位2条沈線により分割、0段多条R L縄文縦位充填。	V群 外面黒変 G h-45-13に類似
Gh-45G -13 第 79図 P L 78	深鉢	胴部片 口— 底— 高(9.3)	G区 h-45, h-46	①中砂。白色粒子多量、輝石・石英少量 ②灰白5Y 7/2 ③やや悪い	横位楕円文、区画内R L縄文充填。	V群 外面黒斑黒変 G h-45-12に類似
Gh-45G -14 第 79図 P L 78	深鉢	胴部片 口— 底— 高(12.0)	G区 h-45	①中砂。白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②灰黄2.5Y 7/2 ③不良	横位楕円文、胴部縦位沈線後R L縄文充填、その上に蕨手沈線文、内面研磨。	V群
Gh-45G -15 第 80図 P L 79	深鉢	胴部片 口— 底— 高(12.0)	G区 h-45	①粗砂。白色粒・輝石・石英少量 ②におい褐7.5Y R5/4 ③良好	縦位沈線分割。R L縄文充填。	V群 外面煤付着(黒変)
Gh-45G -16 第 80図 P L 79	深鉢	胴部片 口— 底— 高(4.8)	G区 h-45	①細砂。輝石多量、石英・白色粒子少量 ②橙2.5Y R6/6 ③やや良し	2重隆帯による逆「の」字状渦巻文、下に刻み付横位隆帯貼付、頸部無文帯あり。	V群 外面黒変あり
Gh-45G -17 第 80図 P L 79	深鉢	胴~底部1/3 口— 底 11.2 高(18.9)	G区 g-45, h-45	①粗砂。結晶片岩多量、石英・輝石少量 ②赤10Y R5/8 ③不良	胴部弧状キャタピラ文、その脇にペン先状刺突文が沿う。胴下部は隆帯とペン先状刺突文による三角区画文。下端は無文。	IV群 内面黒変
Gh-45G -18 第 80図 P L 79	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.7)	G区 h-45	①中砂。輝石・白色粒子多量、石英少量 ②におい褐7.5Y R5/4 ③やや良し	細沈線による三角区画文。L R細縄文充填。	VI群 外面一部黒変
Gh-45G -19 第 80図 P L 79	深鉢	底部片 口— 底 9.2 高(4.0)	G区 h-45	①中砂。5mm礫、赤褐色粒多量、白色粒・石英・輝石少量 ②におい黄橙10Y R7/4 ③やや良し	底部中心やや肥厚、磨き。	V群
Gh-45G -20 第 80図 P L 79	深鉢	底部片 口— 底 7.4 高(3.3)	G区 h-45	①細砂。白色粒子・輝石・赤褐色粒・石英少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや悪い	底部は上底。ドーナツ状に貼付。	V群
Gh-45G -21 第 80図 P L 79	深鉢	底部片 口— 底 5.4 高(3.7)	G区 h-45	①中砂。輝石・赤褐色粒子多量、白色粒子・石英少量 ②におい褐7.5Y R6/3 ③良好	R L縄文縦位施文。底部中心はやや上底。	V群 外面底部黒変あり
Gh-46G -1 第 80図 P L 79	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.9)	G区 h-46	①中砂。白色粒多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②におい黄橙10Y R7/4 ③やや良し	波状口縁。隆帯による渦巻文、横位楕円文、R L縄文充填。	V群 外面煤付着(黒変)
Gh-46G -2 第 80図 P L 79	深鉢	口縁片 口(27.0) 底— 高(12.0)	G区 h-46	①中砂。石英・結晶片岩多量、白色粒・輝石少量 ②におい褐7.5Y R5/4 ③やや良し	内彎口縁。横位隆帯区画内に2重隆帯による逆「の」字状渦巻文4単位、「ㄣ」字状区画文。地文はR L縄文施文。頸部無文帯あり。	V群 内外面口辺部黒変 G h-46-27と同一個体?
Gh-46G -3 第 80図 P L 79	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.6)	G区 h-46	①中砂。白色粒・石英・チャート・輝石少量 ②におい黄橙10Y R6/3 ③良好(硬質)	口縁部内彎。口縁から3.5cm下の折り返し部分に横位沈線。	V群 外面一部黒変、 赤色塗彩 内面黒斑
Gh-46G -4 第 80図 P L 79	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.0)	G区 h-46	①中砂。輝石多量、石英・白色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	口縁やや内傾、口唇部角張る。口隆帯両脇に沈線、その上区画に短沈線2条、L R縄文横位、斜位施文。	V群

第12表 G区グリッド出土土器観察表(9)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gh-46G -5 第80図 P L 79	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.8)	G区h-46, i-47	①中砂。石英・雲母多量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③ややよし	口唇部外反、浅沈線施文。結節沈線による斜行、弧線文。	IV群
Gh-46G -6 第80図 P L 79	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.4)	G区h-46	①中砂。雲母・石英多量、輝石・白色粒少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③良好	内屈口縁。口縁に逆「の」字状高隆帯及び縦位隆帯貼付。頸部に三角刺突文。	IV群 内面一部煤付着
Gh-46G -7 第80図 P L 79	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.9)	G区h-46	①細砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③ややよし	口縁部内彎。口縁下に横位沈線、下に「∩」字状沈線文、外にLR縄文縦位充填。	V群 外面煤付着黒変
Gh-46G -8 第80図 P L 79	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.3)	G区h-46	①中砂。輝石・白色粒・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③ややよし	波状口縁、口唇部に沈線1条、渦巻文、横位楕円文、RL縄文充填。	V群 外面黒斑淡く黒変
Gh-46G -9 第80図 P L 79	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.9)	G区h-46	①細砂。石英・白色粒・輝石・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y 8/4 ③ややよし	口縁部内彎。口縁下に横位2条沈線、「∩」字状沈線施文。地文はLR縄文横位施文。	V群 口唇部黒斑
Gh-46G -10 第80図 P L 79	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.8)	G区h-46	①細砂。石英・白色粒・輝石少量 ②淡黄2.5Y R8/4 ③ややよし	内縁内彎、極く緩い波状。双弧状細沈線、外側の三角区画内LR縄文充填。	V群 内面黒変(黒色塗膜状物質あり)
Gh-46G -11 第80図 P L 79	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.2)	G区h-46	①細砂。石英・白色粒子・輝石少量 ②淡黄2.5Y 8/3 ③良好(硬質)	薄手。波状、内彎口縁。「∩」字状沈線文。RL縄文充填。	V群 外面黒変 内面一部黒変
Gh-46G -12 第80図 P L 79	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.7)	G区h-46	①中砂。白色粒多量、石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③良好	厚手。口縁と口縁より3cm下に篋状工具による刻み、間に浅い沈線。	V群
Gh-46G -13 第80図 P L 79	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.0)	G区h-46	①中砂。白色粒子・石英・赤褐色粒・輝石少量 ②橙5Y R6/6 ③ややよし	波状口縁、口縁内彎。隆帯による渦巻文、RL縄文充填。	V群
Gh-46G -14 第80図 P L 79	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.8)	G区h-46	①中砂。赤褐色粒・白色粒・石英・輝石少量 ②橙2.5Y R6/6 ③ややよし	口縁やや内彎。波状細沈線文。RL縄文充填。	V群
Gh-46G -15 第80図 P L 79	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.8)	G区h-46	①中砂。赤褐色粒多量、石英・輝石・白色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	波状口縁?口縁部に刺突文、その下に横位沈線。「∩」字状細沈線文、RL縄文充填。	V群
Gh-46G -16 第80図 P L 79	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.4)	G区h-46	①中砂。赤褐色粒多量、白色粒・石英少量 ②にぶい褐7.5Y R5/3 ③ややよし	口縁内彎。横位楕円区画、渦巻文、斜行沈線文。	V群 外面煤付着(黒変)
Gh-46G -17 第81図 P L 80	深鉢	頸部片 1/4 口一 底一 高(19.1)	G区g-46, h-46, i-46	①中砂。輝石多量、白色粒子・石英少量 ②橙5Y R7/6 ③ややよし	頸部無地文帯あり。口縁部より波状沈線垂下、胴部との境に横位3条沈線施文。胴部は縦位3条沈線で分割、交点に渦巻文。地文はLR粗い縄文施文。	V群 内外面煤付着淡く黒変
Gh-46G -18 第81図 P L 80	深鉢	胴部片 口一 底一 高(9.4)	G区h-46	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②明黄褐10Y R7/6 ③良好	縦位2条沈線により分割、RL縄文縦位充填。	V群 外面上部黒変 内面黒変
Gh-46G -19 第81図 P L 80	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.2)	G区h-46, i-46	①細砂。石英・輝石・白色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③良好	縦位2条沈線により分割、RL縄文縦位充填、波状沈線懸垂、無文部に蕨手文施文。	V群 外面一部黒変、赤変 内面黒変

第2節 縄文時代

第12表 G区グリッド出土土器観察表 (10)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gh-46G -20 第 81図 P L 80	深鉢	胴部片 口— 底— 高(9.8)	G区h-46	①中砂。白色粒・輝石・石英 少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③やや悪い	縦位微隆線、LR縄文充填。	V群 外面煤付着黒変
Gh-46G -21 第 81図 P L 80	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.2)	G区h-46	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R7/6 ③やや良し	縦位2条沈線により分割、LR縄文縦 位充填。	V群
Gh-46G -22 第 81図 P L 80	深鉢	頸部片 口— 底— 高(3.4)	G区h-46	①中砂。石英・白色粒・輝石多 量、結晶片岩・赤褐色粒少量 ②浅黄2.5Y 7/3 ③やや良し	内外面磨き。口縁は外反して立ち上 がる。肩部は内彎する。紐通し孔はφ1. 2cm。	V群 内外面赤色塗彩
Gh-46G -23 第 81図 P L 80	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.1)	G区h-46	①細砂。石英・白色粒子多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい褐7.5Y R6/3 ③やや良し	頸部に横位2条沈線、下線上に連続刺 突文、その下に沈線による横位楕円区 画文、RL縄文充填。	V群
Gh-46G -24 第 81図 P L 80	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.3)	G区h-46	①中砂。結晶片岩多量、輝石 ・石英・白色粒子少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	幅4mm半截竹管による平行沈線で弧状 施文。一部ヘラ状刻みと半截竹管によ る爪形文施文。	IV群
Gh-46G -25 第 81図 P L 80	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.0)	G区h-46	①細砂。白色粒・石英・赤褐 色粒・輝石少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③やや良し	幅2cm10本櫛状工具による弧状沈線 文。	V群
Gh-46G -26 第 81図 P L 80	深鉢	底部片 3/4 口— 底(4.0) 高(3.7)	G区h-46	①細砂。石英・チャート・輝 石・白色粒子少量 ②灰黄2.5Y 7/2 ③良好(硬質)	薄手。胴部RL縄文縦位・斜位施文。 底部磨き、やや上底気味。内面磨き、 一部赤色塗彩残存。	V群 外面黒斑 赤色塗彩
Gh-46G -27 第 81図 P L 80	深鉢	口～胴部 口(22.2) 底— 高(12.1)	G区h-45, h-46	①中砂。石英・結晶片岩多量、 白色粒・輝石少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③やや良し	内彎口縁。横位隆帯区画内に2重隆帯 による逆「の」字状渦巻文4単位、「ㄣ」 字状区画文。地文はRL縄文施文。頸 部無文帯あり。	V群 外面口縁一部黒変 内面一部黒変 Gh-46-8と同一個体?
Gh-46G -28 第 81図 P L 80	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.0)	G区h-46	①中砂。石英・白色粒・輝石 少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③良好	薄手。沈線による三角形区画文。	VI群
Gh-47G -1 第 81図 P L 80	深鉢	口縁片 口— 底— 高(9.0)	G区h-47	①中砂。白色粒・輝石多量、 石英少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③やや良し	口縁より3cm下に横位隆帯貼付、その 上に沈線、頸部に波状隆帯貼付。RL 縄文充填。	V群
Gh-47G -2 第 81図 P L 80	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.3)	G区h-47	①中砂。白色粒・チャート・ 石英・輝石・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや良し	口縁より1.5cm下に竹管状工具による 横位沈線、RL縄文横位・縦位施文。	V群 外面煤付着黒変
Gh-47G -3 第 81図 P L 80	深鉢	口縁部突起 口— 底— 高(7.3)	G区h-47	①中砂。白色粒・輝石多量、 赤褐色粒・石英少量 ②橙2.5Y R6/6 ③やや不良	波状口縁。横位短沈線を施す眼鏡状隆 帯を2段貼付。	IV群 内面一部黒変
Gh-47G -4 第 81図 P L 80	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.5)	G区h-47	①中砂。赤褐色粒多量、白色 粒・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	横位楕円区画文、内部縦位沈線充填。	V群 内面黒変
Gh-47G -5 第 81図 P L 80	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.4)	G区h-47	①中砂。赤褐色粒・石英多量、 白色粒・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや良し	微隆線による横位弧状貼付文。区画内 RL縄文充填。	V群 内面黒変
Gh-47G -6 第 82図 P L 81	深鉢	口縁部把手 口— 底— 高(6.6)	G区h-47	①粗砂。5mm礫、輝石・石英 ・白色粒・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③良好	波状、内彎口縁。橋状把手下に双弧状 細沈線施文。LR縄文充填。	V群 外面口縁～橋状部 煤付着黒変、内面下 端炭化物付着黒変

第12表 G区グリッド出土土器観察表 (11)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gh-47G -7 第82図 P L 81	深鉢	口縁部把手 口一 底一 高(6.2)	G区h-47	①中砂。白色粒・輝石多量、 赤褐色粒・石英少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③良好	波状、内彎口縁。橋状把手上に浅沈線による下向き蕨手文、下に微隆線による弧線文、両側に横位楕円区画内RL縄文充填。	V群 内面～外面口縁煤 附着黒変
Gh-47G -8 第82図 P L 81	深鉢	口縁部把手 口一 底一 高(5.2)	G区h-47	①細砂。白色粒・赤褐色粒・ 輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③ややよし	波状、内彎口縁。橋状把手下に双弧状微隆線貼付、外にRL縄文充填。	V群 外面黒変
Gh-47G -9 第82図 P L 81	深鉢	胴部片 口一 底一 高(11.2)	G区h-47	①中砂。白色粒極多量、雲母 ・輝石・石英少量 ②褐灰10Y R4/1 ③ややよし	縦位2条沈線により胴部分割、0段多 条RL縄文充填。	V群
Gh-47G -10 第82図 P L 81	深鉢	胴部片 口一 底一 高(10.1)	G区h-47	①細砂。輝石・白色粒・石英 少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	斜縦位細沈線、RL縄文充填。	V群 内面一部煤附着黒 変外面一部黒変
Gh-47G -11 第82図 P L 81	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.5)	G区h-47	①粗砂。結晶片岩多量、チャー ト・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③不良	幅5mm竹管状工具による3条沈線弧状 施文。地文は幅1.2cm 8本櫛状工具に よる縦位沈線文。	V群
Gh-47G -12 第82図 P L 81	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.2)	G区h-47	①中砂。輝石・赤褐色粒・白 色粒・石英少量 ②淡黄2.5Y 8/4 ③ややよし	横位2条沈線間に円形刺突文、下にRL 縄文横位施文。	V群
Gh-47G -13 第82図 P L 81	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.2)	G区h-47	①粗砂。5mm角礫、チャー ト多量、輝石・石英・白色粒少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③ややよし	幅1.1cm 4本櫛状工具による縦位沈線 文。	V群 外面黒斑、赤斑
Gh-47G -14 第82図 P L 81	深鉢	胴部片 口一 底一 高(7.4)	G区h-47	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R7/6 ③良好	波状沈線文？RL縄文縦位充填。	V群 内外面一部黒変
Gh-47G -15 第82図 P L 81	注口 土器	注口片 長(4.9) 幅(3.7) 厚(1.0)	G区h-47	①中砂。輝石・石英・白色粒 子少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③やや悪い	外面磨き。内面無で。	VI群
Gh-47G -16 第82図 P L 81	深鉢	口縁部把手 口一 底一 高(7.8)	G区h-47	①中砂。5mmチャー ト礫、輝石・ 石英・白色粒・チャー ト少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③ややよし	波状、内彎口縁。橋状把手頂部はラッ パ状に開く。把手上は浅く凹む。把手 下に双弧状細沈線施文。RL縄文充填。	V群 内外面黒変
Gh-48G -1 第82図 P L 81	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.1)	G区h-48	①中砂。白色粒・赤褐色粒多 量、輝石・石英少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③ややよし	口唇部内傾、折り返し口縁、口縁に幅 5mm粘土紐縦位貼付、下に横位押圧隆 帯貼付。外面に指紋が残る。	IV群
Gh-48G -2 第82図 P L 81	深鉢	口縁片 口(22.8) 底一 高(7.7)	G区h-48	①中砂。石英・白色粒・輝石 多量、赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③ややよし	波状、内彎口縁。橋状把手中央に幅広 浅沈線、下に弧状細沈線、口縁より2. 5cm下に微隆線貼付、LR縄文充填。	V群 外面口縁黒変、 下半赤変 内面下半黒変
Gh-48G -3 第82図 P L 81	深鉢	口縁部把手 口一 底一 高(6.3)	G区h-48	①細砂。赤褐色粒多量、輝石 ・石英・白色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③良好	波状、内彎口縁。橋状把手下に細沈線 による弧線文。LR縄文縦位充填。	V群 外面一部煤附着黒 変
Gh-48G -4 第82図 P L 81	深鉢	胴部片 口一 底一 高(8.1)	G区h-48	①中砂。石英・白色粒多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③不良	縦位微隆線により分割、矢羽状沈線充 填。	V群 外面一部煤附着
Gh-48G -5 第82図 P L 81	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.1)	G区h-48	①中砂。白色粒・石英多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③不良	縦位微隆線により分割、LR縄文縦位 充填。	V群

第2節 縄文時代

第12表 G区グリッド出土土器観察表 (12)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gh-48G -6 第82図 P L81	深鉢	底部片 口— 底6.0 高(3.8)	G区h-48	①中砂。白色粒多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③やや悪い	底部は部厚く、外面中心はやや上底気味となる。内面篋状工具による撫で。	V群 内面黒変
Gi-44G -1 第83図 P L82	深鉢	胴部片 口— 底— 高(7.9)	G区i-44	①中砂。赤褐色粒極多量、白色粒・石英・輝石少量 ②にぶい黄褐10Y R4/3 ③悪い	横位楕円区画文交点部分。区画内及び下側にRL縄文横位施文。	V群
Gi-45G -1 第83図 P L82	深鉢	口縁片 1/4 口(26.0) 底— 高(7.1)	G区h-45、 i-45、 i-48	①中砂。白色粒多量、輝石・石英少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	「 \cap 」状沈線文による懸垂文垂下、その間に蕨手文施文。4単位? 地文はRL縄文充填。	V群 内外黒変
Gi-45G -2 第83図 P L82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(8.7)	G区i-45	①中砂。5mm礫、白色粒・輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや良し	「 \cap 」状沈線文、区画内RL縄文充填。	V群 外面煤付着(黒変) 内面器面粗れる
Gi-45G -3 第83図 P L82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.5)	G区i-45	①中砂。結晶片岩多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③やや良し	隆帯と沈線による横位楕円文と逆「 \cap 」字状渦巻文。RL縄文充填。	V群
Gi-45G -4 第83図 P L82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(8.0)	G区i-45	①中砂。結晶片岩多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y 8/4 ③やや良し	口縁下に横位浅沈線、隆帯による横位楕円文、RL縄文縦位施文。	V群
Gi-45G -5 第83図 P L82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.8)	G区i-45	①中砂。白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②浅黄2.5Y 7/3 ③良好	口唇部外反、横位渦巻文。RL縄文充填。	V群 内面口縁炭化物付着(黒変)
Gi-45G -6 第83図 P L82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.8)	G区i-45	①中砂。赤褐色粒・白色粒多量、輝石・石英少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	波状内彎口縁、突起下に横位渦巻文、RL縄文充填。内面横位蕨手文。	V群
Gi-45G -7 第83図 P L82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.5)	G区i-45	①細砂。白色粒子・輝石・石英少量 ②暗灰黄2.5Y 5/2 ③やや良し	波状口縁、「 \cap 」状沈線、RL縄文充填。	V群 外面黒変
Gi-45G -8 第83図 P L82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.4)	G区i-45	①中砂。白色粒多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/2 ③やや良し	口縁下に2条横位隆帯貼付、その間に矢羽状沈線文充填、その下に横位隆帯を貼付し、頸部と区画。	V群 外面一部黒変
Gi-45G -9 第83図 P L82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.7)	G区i-45	①中砂。白色粒・石英・輝石少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③良好	口縁下に横位沈線、横位楕円文、胴部縦位沈線、RL縄文充填。	V群 外面黒変
Gi-45G -10 第83図 P L82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(8.4)	G区i-45	①中砂。5mm礫、白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③やや良し	波状口縁、突起下に逆「 \cap 」字状渦巻文。	V群 外面口縁煤付着(黒変)
Gi-45G -11 第83図 P L82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.6)	G区i-45	①中砂。白色粒・石英多量、輝石・赤褐色粒少量 ②浅黄2.5Y 7/3 ③やや良し	口縁下に横位沈線、横位楕円文、胴部縦位沈線、RL縄文充填。沈線は極めて浅く不明瞭、隆帯の貼付もない。	V群 内面黒変
Gi-45G -12 第83図 P L82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.7)	G区i-45	①中砂。雲母・白色石英多量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③やや良し	波状口縁、中央に ϕ 1.5cm程の孔があく。口縁や隆帯頂部に刻み、幅1cm4本の櫛状工具による波状沈線文、幅6mm半載竹管による結節沈線施文。	IV群
Gi-45G -13 第83図 P L82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(4.1)	G区i-45	①中砂。赤褐色粒・白色粒子・石英・輝石少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③やや良し	口唇部肥厚、口縁下に横位沈線、RLR複節縄文横位施文。	V群

第12表 G区グリッド出土土器観察表 (13)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gi-45G -14 第 83図 P L 82	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.3)	G区 i-45	①中砂。赤褐色粒・白色粒多量、輝石・石英少量 ②灰黄褐10Y R5/2 ③ややよし	口縁下に細沈線、「n」字状沈線、R L 縄文充填。	V群 外面煤付着(黒変)
Gi-45G -15 第 83図 P L 82	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.4)	G区 i-45	①細砂。白色粒・石英・輝石少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	波状口縁。口縁下に横位沈線、その下に幅1.6cm 6本櫛状工具による縦位沈線施文。	V群 口縁赤色塗彩
Gi-45G -16 第 83図 P L 82	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.4)	G区 i-45	①中砂。石英・白色粒子多量、輝石少量 ②灰黄褐10Y R6/2 ③良好(硬質)	口縁下に横位微隆線、そこから下に弧状微隆線貼付。	V群 内面煤付着(黒変)
Gi-45G -17 第 84図 P L 83	深鉢	口縁部突起 口一 底一 高(3.3)	G区 i-45	①中砂。輝石・石英多量、白色粒・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③良好	内彎口縁。内面・外面・上面の3面に沈線による渦巻文施文。	V群 上面～内面一部黒変
Gi-45G -18 第 84図 P L 83	深鉢	口縁部把手 口一 底一 高(7.0)	G区 i-45	①中砂。輝石・石英・白色粒・赤褐色粒少量 ②灰黄2.5Y 6/2 ③ややよし	波状、内彎口縁。頂部は環状に窪む。橋状部分欠損。口縁沿いに刺突文2列が連続し、間に浅沈線を施す。L R 縄文充填。	V群 内外面淡く黒変
Gi-45G -19 第 84図 P L 83	蓋	口縁片 1/6 口(10.8) 摘一 高(1.7)	G区 i-45	①細砂。白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②褐灰10Y R4/1 ③良好	薄手。φ6mm孔あり。	V群
Gi-45G -20 第 84図 P L 83	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.0)	G区 i-45	①中砂。結晶片岩多量、輝石・石英・白色粒少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③ややよし	刻み付き横位隆帯貼付、両脇に半截竹管による平行沈線、下に連続爪形文。	IV群 外面煤付着(黒変)
Gh-45G -21 第 84図 P L 83	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.3)	G区 h-45、 i-45	①細砂。石英・白色粒子・輝石少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好(硬質)	薄手。幅1.8cm 7本の櫛状工具による縦位沈線文。	V群
Gi-45G -22 第 84図 P L 83	深鉢	胴部片 口一 底一 高(11.8)	G区 i-45	①中砂。白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②暗灰黄2.5Y 5/2 ③不良	縦位2条沈線で分割。L R L 複節縄文充填。	V群
Gi-45G -23 第 84図 P L 83	深鉢	底部片 口一 底(3.3) 高(3.7)	G区 i-45	①中砂。赤褐色粒・輝石・石英・白色粒子少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③良好	縦位2条沈線により分割、L R L 複節縄文充填。	V群 外面底黒変
Gi-45G -24 第 84図 P L 83	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.3)	G区 4 集石 覆土	①中砂。白色粒・赤褐色粒・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③不良	口縁やや内彎、弧状沈線、L R 縄文施文。	V群 外面煤付着黒変
Gi-46G -1 第 84図 P L 83	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.9)	G区 i-46	①細砂。石英・輝石・白色粒子・赤褐色粒少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③やや悪い	口縁部僅かに内傾。口縁から1.5cm下に横位細沈線、下に幅1.2cm 5本縦位沈線充填。	V群 口唇部黒斑 外面黒変
Gi-46G -2 第 84図 P L 83	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.3)	G区 i-46	①中砂。白色粒・輝石多量、石英・赤褐色粒少量 ②暗灰黄2.5Y 5/2 ③やや悪い	緩い波状口縁、口縁下沿いに幅広浅沈線、下に弧状沈線文、L R L 複節縄文横位充填。	V群
Gi-46G -3 第 84図 P L 83	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.8)	G区 i-46	①中砂。白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/6 ③ややよし	平口縁。「n」字状沈線文、R L 縄文口縁横位、下は縦位施文。	V群
Gi-46G -4 第 84図 P L 83	深鉢	口縁部突起 口一 底一 高(7.2)	G区 i-46	①中砂。白色粒・赤褐色粒・輝石多量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③ややよし	波状、内彎口縁。橋状把手上に浅沈線による下向き蕨手文、下に沈線による縦位楕円文又は渦巻文、両側は横位楕円区画文。	V群 内面～口縁炭化物付着黒変

第2節 縄文時代

第12表 G区グリッド出土土器観察表 (14)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gi-46G -5 第84図 P L 83	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.5)	G区 i-46	①中砂。石英・白色粒多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②灰黄褐10Y R5/2 ③不良	緩い波状口縁。口縁沿いに細沈線、突出部分で途切れ、下に弧状細沈線施文。 L R縄文充填。	V群
Gi-46G -6 第84図 P L 83	深鉢	口縁片 口一 底一 高(2.6)	G区 i-46	①中砂。白色粒多量、石英・ 輝石少量 ②赤褐2.5Y R4/6 ③良好	波状口縁、内屈。幅3mm半截竹管による平行沈線、地文はL R縄文横位施文。	III群
Gi-46G -7 第84図 P L 83	蓋	口縁片 口(12.0) 摘一 高(1.4)	G区 i-46	①細砂。輝石・石英・白色粒 子少量 ②黄灰2.5Y 5/1 ③良好	内外面撫で。中央付近に摘み出し状に微粒線貼付。	V群
Gi-46G -8 第84図 P L 83	深鉢	胴部片 口一 底一 高(12.7)	G区 i-46	①中砂。輝石・石英・白色粒 少量 ②黄灰2.5Y 5/1 ③良好	縦位幅広沈線により分割、0段多条R L縄文縦位充填。	V群
Gi-46G -9 第84図 P L 83	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.8)	G区 i-46	①中砂。白色粒・赤褐色粒・ 輝石・石英少量 ②灰黄褐10Y R5/2 ③良好(硬質)	高い隆帯による横位楕円区画、竹管状工具による縦位、斜縦位沈線充填、縦位2条沈線により分割、波状沈線懸垂。 地文はR L縄文横位施文。	V群 5集石-8に類似
Gi-46G -10 第84図 P L 83	深鉢	胴部片 口一 底一 高(7.2)	G区 i-46	①中砂。輝石・石英・白色粒 子・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや悪い	幅1.1cm 6本櫛状工具による縦位波状沈線文。	V群 内外面一部黒変
Gi-46G -11 第84図 P L 83	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.4)	G区 i-46	①中砂。輝石・白色粒・石英 少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③やや良し	縦位2条沈線により分割、幅6mm 4本櫛状工具による縦位沈線充填後波状文懸垂。	V群 外面淡く黒変 内面赤変
Gi-46G -12 第84図 P L 83	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.8)	G区 i-46	①中砂。輝石・白色粒・石英 少量 ②橙5Y R6/6 ③やや良し	縦位2条沈線により分割、上下蕨手沈線文、L R縄文縦位充填。	V群
Gi-46G -13 第84図 P L 83	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.0)	G区 i-46	①粗砂。結晶片岩・微細雲母 多量、輝石・石英少量 ②灰褐7.5Y R4/2 ③良好	口縁下に横位楕円隆帯貼付、その下に幅6mm半截竹管による爪形刻み付き隆帯貼付。	IV群 外面煤付着黒変
Gi-46G -14 第84図 P L 83	深鉢	底部片 口一 底5.0 高(3.7)	G区 i-46	①細砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②明赤褐5Y R5/6 ③やや良し	上底かなり小さい。内外面撫で。	V群
Gi-46G -15 第84図 P L 83	深鉢	底部片 口一 底(5.2) 高(4.5)	G区 i-46	①中砂。白色粒・輝石・石英 少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや良し	小形、底部は厚く、中央はやや凹む。 胴部に2条沈線懸垂。	V群 内面黒変
Gi-47G -1 第85図 P L 84	深鉢	口縁～胴部 口(28.4) 底一 高(7.7)	G区 g-45, i-47	①中砂。結晶片岩・チャート ・石英・輝石少量 ②橙5Y R6/6 ③やや良し	口縁下に深い横位沈線施文。「n」字状細沈線、R L縄文充填。	V群 外面口縁黒変
Gi-47G -2 第85図 P L 84	深鉢	口縁片 口一 底一 高5.2	G区 i-47	①中砂。白色粒子・石英・輝 石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや不良	口唇部肥厚、やや内傾。口縁下に横位幅広沈線、その下に横位楕円区画文、L R縄文横位施文。	V群 外面黒斑
Gi-47G -3 第85図 P L 84	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.2)	G区 i-47	①細砂。白色粒子・石英多量、 輝石・赤褐色粒子少量 ②橙5Y R6/6 ③やや不良	波状口縁。口縁沿いに沈線、その下に「n」字状沈線施文、その外側にR L細縄文充填。	V群 外面煤付着(黒変)
Gi-47G -4 第85図 P L 84	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.8)	G区 i-47	①中砂。石英・白色粒子多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③やや不良	波状口縁、口縁沿いに刺突文、その下に細沈線が沿う。突出部下には「n」字状細沈線、L R縄文充填。	V群 外面口縁煤付着(黒変)

第12表 G区グリッド出土土器観察表 (15)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gi-47G -5 第 85図 P L 84	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.7)	G区 i-47	①中砂。白色粒子・石英・輝石少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③やや不良	緩い波状口縁。口唇部外反、口縁下に幅広浅沈線が沿う。波状突出部下に弧状沈線施文。RL細かい縄文充填。	V群 外面一部煤付着(黒変)
Gi-47G -6 第 85図 P L 84	深鉢	口縁～胴部 口一 底一 高(5.6)	G区 i-47	①細砂。白色粒子・赤褐色粒子・輝石・石英少量 ②灰黄褐10Y R5/2 ③やや不良	口縁部に摘み出し状の突起貼付、両脇から口縁沿いに横位沈線施文。LR縄文縦線施文。	V群 内外面黒変
Gi-47G -7 第 85図 P L 84	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.8)	G区 i-47	①中砂。白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③ややよし	口縁下に幅広沈線、「T」字形に細隆線貼付、その脇は撫で、RL縄文縦線施文。	V群 外面口縁一部黒斑
Gi-47G -8 第 85図 P L 84	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.3)	G区 i-47	①中砂。輝石・赤褐色粒・白色粒・石英少量 ②橙5Y R6/6 ③不良	口唇部やや肥厚。口縁下に横位沈線、その下に横位矢羽状沈線施文。	V群 器面粗れる
Gi-47G -9 第 85図 P L 84	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.3)	G区 i-47	①中砂。白色粒子・石英・赤褐色粒子・輝石少量 ②灰黄褐10Y R5/2 ③やや悪い	波状口縁?薄手。口縁下に細長い刺突文、横位細沈線、LR縄文充填。	V群 外面黒変
Gi-47G -10 第 85図 P L 84	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.5)	G区 i-47	①中砂。結晶片岩・チャート多量、石英・白色粒子少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③良好	隆帯による「の」字状渦巻文、RL縄文充填。	V群 外面赤変黒変
Gi-47G -11 第 85図 P L 84	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.9)	G区 i-47	①中砂。石英・チャート・赤褐色粒・輝石少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③良好(硬質)	横位微隆線により区画、胴部は縦位2条沈線により分割、RL縄文充填。	V群
Gi-47G -12 第 85図 P L 84	深鉢	底部片 口一 底 6.2 高(4.2)	G区 i-47	①中砂。白色粒子・石英・赤褐色粒・輝石少量 ②灰黄褐10Y R6/3 ③良好	底部はやや丸底気味。薄手。LR縄文縦位～斜縦位施文。	V群 外面底部煤付着(黒変)
Gi-47G -13 第 85図 P L 84	浅鉢	口縁片 口一 底一 高(3.4)	G区 i-47	①粗砂。白色粒多量、赤褐色礫・輝石・石英少量 ②にぶい赤褐2.5Y R5/4 ③ややよし	波状、内傾口縁。幅8mm4本櫛状工具による横位沈線、地文はLR縄文横位施文。	III群
Gi-48G -1 第 85図 P L 84	浅鉢	頸部～胴部 口一 底一 高(5.8)	G区 h-47, i-47, i-48	①中砂。白色粒子・輝石・石英少量 ②赤褐2.5Y R4/6 ③良好	頸部は横位磨き。幅5mm半截竹管による爪形文1条横位施文。胴部はRL縄文施文。	III群 内面一部黒斑
Gk-46G -1 第 89図 P L 85	深鉢	底部片 口一 底(7.0) 高(3.2)	G区 k-46	①中砂。白色粒・輝石・石英少量 ②橙5Y R6/6 ③ややよし	胴部縦位磨き。2条沈線により縦位分割。底部内外面磨き。	V群 被熱、器面剥落
GI-48G -1 第 89図 P L 85	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.3)	G区 l-48	①細砂。輝石・石英多量、白色粒子少量 ②にぶい褐7.5Y R5/3 ③ややよし	内彎口縁、口唇部角張る。口縁隆帯貼付、横位刻み列施文。隆帯脇に沈線施文。	IV群
GI-48G -2 第 89図 P L 85	深鉢	口縁部把手 口一 底一 高(5.5)	G区 l-48	①中砂。輝石・石英・白色粒多量、赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③ややよし	内彎口縁。橋状把手上に浅沈線による蕨手状渦巻文、両側に横位楕円区画、下に弧状沈線文。沈線内に赤色塗彩残る。	V群 外面赤色塗彩 内面炭化物付着黒変
GI-48G -3 第 89図 P L 85	深鉢	口縁片 口一 底一 高(2.8)	G区 l-48	①細砂。輝石・石英・白色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③ややよし	内彎口縁。口縁下に横位沈線+半月形刺突文。その下に「 \cap 」状細沈線、RL細縄文充填。	V群 外面煤付着(黒変)
GI-48G -4 第 89図 P L 85	深鉢	口縁部把手 口一 底一 高(8.6)	G区 l-48	①粗砂。8mm礫、赤褐色粒多量、輝石・石英・白色粒子少量 ②橙2.5Y R6/6 ③やや悪い	かなり大形の口縁部把手部分と思われる。両側に沈線間に ϕ 5mm程の連続円形刺突文を施す。	V群

第2節 縄文時代

第12表 G区グリッド出土土器観察表 (16)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G1-48G -5 第89図 P L85	深鉢	胴部片 口— 底— 高(4.7)	G区1-48	①中砂。5mmチャート礫、白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③良好(硬質)	低隆線と沈線による横位楕円区画内R L縄文横位充填。	V群 外面一部黒変
G1-48G -6 第89図 P L85	深鉢	胴部片 口— 底— 高(9.0)	G区1-48	①中砂。チャート・輝石・石英・白色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③良好(硬質)	縦位2条1単位沈線により分割、R L縄文縦位充填後緩い波状沈線懸垂。	V群 外面一部黒変
Gm-48G -1 第89図 P L85	深鉢	口縁片 口— 底— 高(10.3)	G区m-48	①粗砂。石英多量、白色粒子・赤褐色粒・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③悪い	波状口縁、突起下に横位楕円文、胴部に沈線による「∩」字状懸垂文。R L縄文充填。	V群 内面黒斑
Gm-48G -2 第89図 P L85	深鉢	口縁片 口— 底— 高(4.8)	G区m-48, m-49	①中砂。赤褐色粒多量、輝石・白色粒子少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③やや良し	沈線による弧状文施文。L R縄文口縁横位、下縦位充填。	V群 外面黒斑
Gm-48G -3 第89図 P L85	深鉢	口縁片 口— 底— 高(4.8)	G区m-48	①中砂。赤褐色粒多量、輝石・白色粒子少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③やや良し	口縁下に横位沈線。横位楕円文、間の隆帯は太く高い。L R縄文充填。	V群 外面一部黒変
Gm-48G -4 第89図 P L85	深鉢	口縁片 口— 底— 高(4.4)	G区m-48	①細砂。白色粒子多量、石英・輝石少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好(硬質)	波状口縁、突起部分外反。突起下に逆「の」字状渦巻文。R L縄文充填。	V群 口縁一部黒斑
Gm-48G -5 第89図 P L85	瓢形土器	胴部片 口— 底— 高(4.8)	G区m-48	①細砂。白色粒子・石英・輝石少量 ②褐灰10Y R5/1 ③良好(硬質)	微隆線による渦巻文。内外面ともよく研磨後燻し。	V群 内外面赤色塗彩
Gm-48G -6 第89図 P L85	深鉢	胴部片 口— 底— 高(13.3)	G区m-48, n-48, n-49	①中砂。輝石・石英・白色粒子・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③良好	沈線による縦位花卉状波状文2段施文。R L縄文充填。	V群 内外面一部煤付着(黒変)
Gm-48G -7 第89図 P L85	深鉢	胴部片 口— 底— 高(4.3)	G区m-48	①中砂。白色粒子・石英極多量、赤褐色粒多量、輝石少量 ②にぶい黄褐10Y R5/3 ③やや不良	横位2条連続刺突文、その下に2条細沈線による横位楕円文。	V群 器面風化
Gm-48G -8 第89図 P L85	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.7)	G区m-48	①細砂。赤褐色粒・白色粒子・輝石・石英少量 ②浅黄2.5Y 7/3 ③良好(硬質)	胴部縦位細沈線による分割、間に「U」字状文、その下に蕨手文。R L縄文充填。	V群
Gm-48G -9 第89図 P L85	深鉢	底部片 1/4 口— 底(4.0) 高(6.0)	G区m-48	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	縦位2条～3条沈線により分割、R L縄文充填。	V群
Gm-48G -10 第89図 P L85	深鉢	底部片 口— 底(4.2) 高(3.3)	G区m-48	①細砂。白色粒子多量、石英・輝石少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③やや不良	部厚いつくり、底はやや丸味をもつ。胴部撫で、無文。	V群
Gm-48G -11 第89図 P L85	深鉢	胴部片 1/3 口— 底— 高(9.8)	G区m-48, m-49, o-48	①中砂。輝石・白色粒・赤褐色粒・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③やや良し	胴部「U」「∩」字状沈線文、R L縄文充填。	V群
Gn-48G -1 第90図 P L86	深鉢	口縁片 口— 底— 高(8.6)	G区n-48	①中砂。石英多量、チャート・輝石・白色粒子少量 ②橙7.5Y R6/6 ③良好	波状口縁、突起部外反。沈線による横位楕円文、L R縄文充填。沈線や隆帯は浅く不明瞭。内面弧線文。	V群 内面煤付着(黒変)
Gn-48G -2 第90図 P L86	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.6)	G区n-48	①粗砂。赤褐色粒多量、白色粒子・輝石少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③良好	波状口縁、突起下に沈線による逆「の」字状渦巻文、横位楕円文、R L縄文充填。	V群 外面一部煤付着(黒変)

第12表 G区グリッド出土土器観察表 (17)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gn-48G -3 第90図 P L 86	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.8)	G区n-48	①粗砂。赤褐色粒多量、白色 粒子・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③やや悪い	弧状沈線文、LR縄文充填。	V群 外面一部煤付着 (黒変)
Gn-48G -4 第90図 P L 86	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.2)	G区n-48	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③良好	横位楕円文、渦巻文、0段3条RLR 複節縄文充填。	V群
Gn-48G -5 第90図 P L 86	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.1)	G区n-48	①中砂。白色粒多量、輝石・ 石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③良好	口縁下に横位2条幅広浅沈線、下にR L縄文充填。	V群 外面黒斑
Gn-48G -6 第90図 P L 86	深鉢	口縁片 口(22.6) 底一 高3.8	G区m-48, n-48	①中砂。赤褐色粒・輝石・白 色粒・石英少量 ②橙7.5Y R6/6 ③ややよし	「∩」字状沈線文、内部に蕨手状沈線 施文。RL縄文口縁横位、他縦位・斜 位施文。	V群 内外面黒変
Gn-48G -7 第90図 P L 86	深鉢	底部片 口一 底(4.2) 高(4.5)	G区n-48	①中砂。石英・赤褐色粒多量、 輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	上底、底径は小さく、胴部との境は耳 飾り状に括れ立ち上がる。	V群
Gn-48G -8 第90図 P L 86	深鉢	胴部片 1/3 口一 底一 高(10.9)	G区m-48, n-48	①中砂。5mm角礫、白色粒子 ・輝石・石英少量 ②明赤褐2.5Y R5/8 ③やや悪い	縦位3条沈線により分割、RL縄文縦 位充填。	V群 外面黒変風化
Gn-48G -9 第90図 P L 86	深鉢	胴部片 口一 底一 高(12.9)	G区n-48	①中砂。石英・輝石・赤褐色 粒・チャート少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③ややよし	隆帯と両脇の浅沈線による渦巻又は楕 円文、胴部幅広2条沈線により分割、 RL縄文充填。	V群 内外面一部黒変
Gn-48G -10 第90図 P L 86	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.8)	G区n-48	①細砂。赤褐色粒・白色粒子 ・石英・輝石少量 ②褐10Y R4/4 ③良好	頸部横位微隆線とその上脇に浅沈線、 縦位2条沈線により胴部分割、0段3 条RLR縄文充填。	V群 外面炭化物付着 (黒変)
Gn-48G -11 第90図 P L 86	深鉢	底部片 口一 底7.2 高(3.3)	G区n-48	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②明黄褐10Y R6/6 ③やや悪い	縦位沈線で胴部分割。器面磨き。	V群 器面風化
Gn-48G -12 第90図 P L 86	深鉢	胴部片 口一 底一 高(9.9)	G区n-48	①中砂。白色粒・赤褐色粒多 量、輝石・石英少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③ややよし	横位2条隆帯、弧状隆帯貼付、上下の 区画内に幅2mm棒状工具による横位・ 斜位沈線充填。	V群
Gk-49G -1 第91図 P L 87	浅鉢	口縁片 口一 底一 高(7.2)	G区k-49	①中砂。石英・チャート多量、 白色粒・赤褐色粒少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③良好	口唇部上端平坦で断面方形、2cm下に 横位沈線、胴部弧状に赤色塗彩残る。 内面も部分的に赤色塗彩残る。	V群 口唇部黒斑 赤色塗彩
Gk-49G -2 第91図 P L 87	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.0)	G区k-49	①中砂。白色粒多量、石英・ 輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③ややよし	幅7mm半截竹管による横位平行沈線2 単位3条施文。RL縄文横位施文。	III群
Gk-49G -3 第91図 P L 87	深鉢	底部片 1/4 口一 底(9.0) 高(4.7)	G区k-49	①中砂。赤褐色粒・白色粒・ 輝石・石英少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	非常に薄手。外面胴部磨き。底面網代 痕あり。内面磨き。	III群 内面黒変 器面剥落
Gk-50G -1 第91図 P L 87	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.9)	G区k-50	①中砂。白色粒・石英多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②明赤褐5Y R5/6 ③やや悪い	横位3条沈線、地文は撚糸文R縦位施 文。	V群 外面一部煤付着
Gl-49G -1 第91図 P L 87	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.4)	G区l-49	①中砂。赤褐色粒・石英多量、 輝石・白色粒少量 ②橙2.5Y R6/8 ③ややよし	波状、内彎口縁。口唇部に沈線による 逆「の」字状渦巻文、その下に沈線よ る逆「の」字状渦巻文、RL縄文充填。	V群 器面風化

第2節 縄文時代

第12表 G区グリッド出土土器観察表(18)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様・成・整形の特徴	備考
G1-49G -2 第91図 P L87	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.1)	G区1-49	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③良好	波状口縁、やや内傾。突起下に渦巻又は円形文、右に横位楕円区画文、RL縄文充填。	V群 外面一部黒変
G1-49G -3 第91図 P L87	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.6)	G区1-49	①中砂。白色粒多量、輝石・石英少量 ②明赤褐5Y R5/6 ③やや良し	波状口縁。口縁下に横位隆帯貼付、弧状隆帯に三角隆帯連結、波状沈線。地文は燃糸文L縦位施文。	V群 外面煤付着黒変
G1-49G -4 第91図 P L87	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.0)	G区1-49	①中砂。白色粒・輝石多量 ②淡黄2.5Y 8/4 ③やや良し	口縁やや直立気味、口唇部肥厚。横位楕円文、渦巻文、内部RL縄文充填。	V群
G1-49G -5 第91図 P L87	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.2)	G区1-49	①中砂。白色粒・輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R7/2 ③良好	波状口縁。渦巻文、楕円区画内RL縄文充填。	V群 内面下端黒変
G1-49G -6 第91図 P L87	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.1)	G区1-49	①中砂。白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②浅黄2.5Y 7/3 ③やや良し	口縁内傾。口唇部に刻み、内面1条横位隆帯貼付、半截竹管による6条横位平行沈線。外面口縁下～頸部に横位沈線+「Ω」状沈線。LR細縄文充填。	VI群
G1-49G -7 第91図 P L87	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.1)	G区1-49	①中砂。石英多量、輝石・白色粒・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや良し	細沈線による「U」字状文、「八」字状沈線文、内部にLR細縄文充填。	V群 内面黒変
G1-49G -8 第91図 P L87	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.9)	G区1-49	①中砂。チャート・石英・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③良好(硬質)	胴部縦位2条沈線により分割、RL縄文縦位充填後沈線懸垂。	V群 内面黒変
G1-49G -9 第91図 P L87	浅鉢	胴部片 口一 底一 高(4.6)	G区1-49	①細砂。輝石・石英・白色粒少量 ②暗赤褐5Y R3/3 ③良好	有稜屈折口縁。内外面ともよく研磨。	III群 G1-49-11, G1-50-5と 同一個体?
G1-49G -10 第91図 P L87	深鉢	頸部片 口一 底一 高(9.3)	G区1-49	①中砂。輝石・石英・白色粒少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③やや良し	口縁部文様帯横位隆帯で区画、上脇に沈線、その両脇に半截竹管による刻み施文。頸部無文帯横位磨き、横位3条沈線により胴部と区画。	V群 外面一部黒変
G1-49G -11 第91図 P L87	浅鉢	口～体部1/4 口一 底一 高(9.2)	G区1-49	①中砂。輝石・石英・白色粒少量 ②赤褐2.5Y R4/6 ③良好	有稜屈折口縁。口縁～頸部横位磨き。幅5mm半截竹管による爪形文。体部RL縄文横位、斜位施文。	III群 G1-49-9, G1-50-5と 同一個体?
G1-49G -12 第91図 P L87	深鉢	底部片 口一 底 8.4 高(3.0)	G区1-49	①中砂。白色粒多量、石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや悪い	外面胴部縦位磨き、底面上底ぎみで器面磨き。底部と胴部の変換点は焼成後研磨。内面撫で。接合痕を明瞭に残す。	V群
G1-49G -13 第91図 P L87	深鉢	胴下～底部 口一 底(9.0) 高(4.5)	G区1-49, 1-50	①中砂。5mm礫、白色粒・輝石・石英少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③やや悪い	燃糸文L縦位施文。	V群 内面炭化物付着黒変 外面淡く黒・赤変
G1-50G -1 第91図 P L87	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.8)	G区1-50	①中砂。輝石・石英・白色粒多量 ②暗赤灰10R 4/1 ③良好	緩い波状口縁、口縁下に沈線と隆帯、途中に隆帯による逆「の」字状渦巻文、下に2重隆帯による横位楕円区画、燃糸文L横位充填。	V群 外面黒変
G1-50G -2 第92図 P L88	深鉢	頸～胴部1/2 口一 底一 高(23.5)	G区1-47, 1-49, 1-50	①細砂。輝石・白色粒子多量、石英少量 ②橙5Y R6/6 ③やや良し	爪形刻み付き横位隆帯2条により頸部無文帯区画。同隆帯両側に沈線施文。胴部に燃糸文L縦位施文。	V群 外面煤付着黒変
G1-50G -3 第92図 P L88	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.7)	G区1-50	①中砂。白色粒多量、輝石・石英・赤褐色粒・チャート少量 ②淡黄2.5Y 8/3 ③やや良し	幅4mm半截竹管による矢羽状沈線文、その下に同竹管による横位平行沈線2単位4条、両者の間にφ1.3cmのボタン状貼付文。	III群 外面口縁黒変

第12表 G区グリッド出土土器観察表 (19)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
GI-50G -4 第92図 P L88	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.3)	G区1-50	①中砂。白色粒・石英・輝石多量 ②にふい褐7.5Y R5/3 ③ややよし	波状口縁。突起下に沈線による「の」字状渦巻文、口縁下に沈線が沿う。渦巻下に弧状隆帯による楕円区画、区画内縦位沈線充填。	V群 外面口縁黒変
GI-50G -5 第92図 P L88	浅鉢	口縁~胴部 口一 底一 高(3.9)	G区1-50	①中砂。輝石・石英・白色粒少量 ②赤褐2.5Y R4/6 ③良好	有稜屈折口縁。内外面横位磨き、内面に接合痕及び指頭痕残す。	III群 G1-49-9・11と同一個体?
GI-50G -6 第92図 P L88	深鉢	胴部片 口一 底一 高(8.7)	G区1-50	①粗砂。結晶片岩・微細雲母多量、石英・チャート・輝石少量 ②にふい赤褐5Y R5/3 ③良好	篋状工具による縦位沈線と斜行沈線により格子目文施文。	V群
GI-50G -7 第92図 P L88	深鉢	胴部片 口一 底一 高(8.8)	G区1-50	①中砂。白色粒多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にふい赤褐5Y R5/3 ③不良	中央に横位低隆帯と脇沿いの沈線により上下区画、破片上端にLR縄文施文。地文は幅1.2cm5本櫛状工具による縦位沈線文。	V群 外面淡く黒変
GI-50G -8 第92図 P L88	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.5)	G区1-50	①中砂。チャート多量、石英・輝石・白色粒子少量 ②橙2.5Y R6/8 ③ややよし	竹管状工具による横位沈線により胴部と区画、上に列点文、下に斜行沈線施文。	VI群
GI-50G -9 第92図 P L88	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.3)	G区1-50	①中砂。白色粒・角閃石・輝石多量、石英・赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③やや悪い	縦位3条沈線途中で蕨手状渦巻沈線文、RL縄文縦位充填後波状沈線懸垂。	V群 内面炭化物付着黒変
GI-51G -1 第92図 P L88	深鉢	胴部片 口一 底一 高(7.3)	G区1-51	①中砂。赤褐色粒多量、白色粒・輝石少量 ②にふい橙7.5Y R7/4 ③やや悪い	縦位3条沈線により分割、幅1.0cm5本櫛状工具による波状、斜行沈線文。	V群 外面下端黒変
Gm-49G -1 第92図 P L88	深鉢	口縁片 口一 底一 高(9.7)	G区m-49	①中砂。赤褐色粒・輝石・石英・白色粒子少量 ②橙5Y R6/8 ③ややよし	波状口縁。突起部分は外反し、その下に渦巻又は楕円沈線文、隆帯は高く三叉部にφ1.5cmの円形凹み施文。内部RL縄文充填。	V群 内外面赤変部あり
Gm-49G -2 第92図 P L88	深鉢	口縁片 口(19.0) 底一 高(8.4)	G区m-49, n-48	①中砂。白色粒子・輝石・石英少量 ②にふい褐7.5Y R5/4 ③良好	平縁。口唇部に幅5mm程の沈線が一条巡り区画、口縁部刺突文、2条沈線による曲・直線文施文。条間の粗いLR縄文充填。	VI群 内外面黒斑
Gm-49G -3 第92図 P L88	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.8)	G区m-49	①中砂。5mm礫、赤褐色粒多量、白色粒子・輝石・少量 ②橙5Y R6/6 ③ややよし	波状口縁、突起下に沈線による「の」字状渦巻文施文。	V群
Gm-49G -4 第92図 P L88	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.3)	G区m-49	①細砂。4mmチャート片、白色粒子・輝石・石英・赤褐色粒子少量 ②にふい褐7.5Y R5/4 ③ややよし	横位楕円文、渦巻文施文。隆帯は比較的高くしっかりしている。LR縄文充填。	V群 外面淡く黒変
Gm-49G -5 第92図 P L88	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.8)	G区m-49	①細砂。赤褐色粒・輝石・石英少量 ②にふい黄橙10Y R7/4 ③良好(硬質)	緩い波状口縁。横位楕円文、渦巻文施文。RL縄文充填。口唇部沈線は突起部分で途切れる。	V群
Gm-49G -6 第92図 P L88	深鉢	胴部片 口一 底一 高(11.2)	G区m-49	①中砂。白色粒・赤褐色粒多量、輝石・石英少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや不良	細沈線による「n」字状文、間に「V」字状文、途中で蕨手状沈線文施文。RL縄文縦位充填。	V群 外面風化 内面黒変
Gm-49G -7 第92図 P L88	深鉢	胴部片 口一 底一 高(7.7)	G区m-49	①中砂。白色粒子・石英多量、輝石・赤褐色粒子少量 ②橙5Y R6/6 ③やや不良	3条縦位沈線により胴部分割、LR縄文充填。	V群 内面黒変
Gm-49G -8 第92図 P L88	深鉢	口辺部片 口一 底一 高(5.5)	G区m-49	①粗砂。赤褐色粒多量、白色粒子・石英・輝石少量 ②にふい橙5Y R6/4 ③やや不良	横位隆帯の上下脇にφ8mmの円形刺突文列が沿う。その下に横位沈線、RL縄文施文。	V群

第2節 縄文時代

第12表 G区グリッド出土土器観察表 (20)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gm-50G -1 第92図 P L88	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.2)	G区m-50	①細砂。石英・輝石・白色粒子少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	口縁部φ8mm円形刺突文列が沿う。その下に横位沈線、弧線文施文。LR縄文充填。	V群 口唇部一部外反
Gm-50G -2 第93図 P L89	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.8)	G区m-50	①中砂。白色粒子・石英・輝石多量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③やや悪い	口縁下に横位沈線、隆帯による横位楕円文、交点下に「の」字状渦巻文施文。楕円区画内に縦位沈線充填。	V群 内外面一部黒変
Gm-50G -3 第93図 P L89	浅鉢	把手 口— 底— 高(6.3)	G区m-50	①中砂。白色粒子・輝石・石英・赤褐色粒子少量 ②橙7.5Y R7/6 ③ややよし	把手の中央部が浅く凹む。外面磨き、内面撫で。	V群
Gm-50G -4 第93図 P L89	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.9)	G区m-50	①中砂。白色粒・輝石・石英・チャート少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③良好	横位沈線、その下に「n」状沈線、RL縄文施文。	V群
Gm-50G -5 第93図 P L89	深鉢	底部片 口— 底(4.0) 高(3.0)	G区m-50	①細砂。輝石・石英・白色粒子少量 ②灰黄褐10Y R6/2 ③良好	薄手。底部中央はやや上底ぎみ。内外面磨き。	III群 外面淡く黒変
Gm-51G -1 第93図 P L89	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.5)	G区m-51	①中砂。石英・白色粒子多量、輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや悪い	波状口縁。横位楕円文又は渦巻文、区画内LR縄文充填。	V群
Gm-51G -2 第93図 P L89	深鉢	頸部片 口— 底— 高(5.2)	G区m-51	①粗砂。赤褐色粒多量、輝石・石英・白色粒子少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③不良	横位隆帯2条、その下に弧状沈線文。	V群
Gm-51G -3 第93図 P L89	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.7)	G区m-51	①中砂。白色粒・輝石・石英少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③ややよし	縦位2条沈線により胴部分割、その間に蕨手状沈線文施文。RL縄文縦位充填。	V群
Gn-49G -1 第93図 P L89	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.2)	G区n-49	①中砂。白色粒・輝石・石英・チャート・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③良好	横位楕円文、RLR複節縄文充填。	V群
Gn-49G -2 第93図 P L89	深鉢	口縁片 口— 底— 高(3.7)	G区n-49	①中砂。チャート・赤褐色粒・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③良好	波状口縁、突起外反。外面渦巻沈線文、内面突起下に「の」字状渦巻沈線文、口縁沿いに沈線施文。	V群
Gn-49G -3 第93図 P L89	深鉢	頸部片 口— 底— 高(5.2)	G区n-49	①中砂。白色粒・輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③やや悪い	浅い横位沈線間に円形刺突文、胴部弧線文RL縄文充填。	V群
Gn-49G -4 第93図 P L89	深鉢	胴部片 口— 底— 高(9.4)	G区n-49	①中砂。8mmチャート・白色粒・輝石多量、石英・チャート・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R5/3 ③ややよし	上「U」字状、下「n」字状沈線文施文。内部LR縄文充填。	V群
Gn-49G -5 第93図 P L89	深鉢	頸部片 口— 底— 高(6.1)	G区n-49	①細砂。石英・白色粒子多量、輝石・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄褐10Y R5/4 ③ややよし	横位楕円文又は渦巻文、RL縄文充填。	V群 外面一部黒変
Gn-49G -6 第93図 P L89	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.7)	G区n-49	①中砂。結晶片岩多量、輝石・石英・白色粒・チャート少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	弧状隆帯、脇に沈線が沿い横位弧状沈線下に斜め縦位沈線施文。	V群
Gn-49G -7 第93図 P L89	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.9)	G区n-49	①中砂。赤褐色粒多量、白色粒子・輝石・石英少量 ②褐7.5Y R4/3 ③不良	弧状隆帯、浅隆帯間にφ1.5cmの浅い円形凹み、RL縄文充填。	V群

第12表 G区グリッド出土土器観察表 (21)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gn-49G -8 第93図 P L 89	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.4)	G区 n-49	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒・チャート少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③やや良し	横位沈線下に幅2cm 8本櫛状工具による沈線文施文。	V群
Gn-49G -9 第93図 P L 89	深鉢	底部片 1/6 口(10.6) 底— 高(4.2)	G区 n-49	①粗砂。白色粒・赤褐色粒・輝石多量 ②橙5Y R6/8 ③やや良し	縦位2条沈線で胴部分割、R L縄文充填。	V群 内面黒変
Gn-49G -10 第93図 P L 89	浅鉢	底部片 口— 底(7.2) 高(2.6)	G区 n-49	①中砂。赤褐色粒多量、石英・チャート・輝石少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③やや良し	薄手。体部磨き、底部中央は特に薄くやや上底ぎみ。	V群 外面炭化物付着(黒変)
Gn-50G -1 第93図 P L 89	深鉢	口縁片 口— 底— 高(8.7)	G区 n-50	①中砂。石英多量、赤褐色粒・輝石・白色粒子・チャート少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや良し	波状口縁、突起部外反。沈線による逆「の」字状渦巻文、L R縄文充填。	V群 内面黒変
Gn-50G -2 第93図 P L 89	浅鉢	口縁片 口— 底— 高(5.1)	G区 n-50	①細砂。輝石・石英・チャート・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③良好(硬質)	口縁部磨き。口縁から2.5cm下に横位2条沈線、その間に幅3mm竹管による刺突文、その下に幅3mm斜行沈線施文。	VI群
Gn-50G -3 第93図 P L 89	深鉢	胴部片 口— 底— 高(7.3)	G区 n-50	①中砂。輝石・石英・白色粒子少量 ②橙2.5Y R6/8 ③やや良し	縦位2条沈線により胴部分割、R L縄文縦位充填。	V群
Gn-50G -4 第93図 P L 89	深鉢	胴部片 口— 底— 高(3.9)	G区 n-50	①中砂。赤褐色粒・輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③良好(硬質)	渦巻文又は楕円文、横位隆帯途中にφ1.2cmの円形刺突文、R L R複節縄文充填。	V群
Gn-50G -5 第93図 P L 89	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.2)	G区 n-50	①中砂。石英・白色粒子多量、輝石・チャート少量 ②橙7.5Y R6/6 ③良好	幅3mm半截竹管による斜格子文、貼付文。	III群
Gn-50G -6 第93図 P L 89	浅鉢	口縁片 口— 底— 高(3.4)	G区 n-50	①中砂。5mm礫、輝石・石英・白色粒子少量 ②橙5Y R6/6 ③やや良し	波状口縁。逆「く」の字状に折曲する。幅3mm半截竹管による平行沈線を口縁下と体部との変換部分に施文。	III群
Gn-51G -1 第93図 P L 89	深鉢	胴部片 口— 底— 高(7.9)	G区 n-51, n-52	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや良し	縦位2条沈線により胴部分割、R L縄文縦位充填。	V群
Go-47G -1 第94図 P L 90	深鉢	口縁片 口— 底— 高(11.5)	G区 o-47	①中砂。輝石・白色粒・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや良し	微隆線を横位、縦位「T」字状貼付、分割。無文部幅が広い。L R縄文充填。	V群 外面黒変
Go-47G -2 第94図 P L 90	深鉢	胴部片 口— 底— 高(7.0)	G区 o-47	①中砂。白色粒・石英・赤褐色粒・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③良好	「V」字状波状沈線文2段施文? R L縄文縦位充填。	V群 外面黒変
Go-47G -3 第94図 P L 90	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.2)	G区 o-47	①中砂。白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③良好	縦位3条沈線により胴部分割、R L縄文縦位充填後波状沈線施文。	V群 内面器面粗れる
Go-48G -1 第94図 P L 90	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.6)	G区 o-48	①中砂。白色粒極多量、輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③やや不良	口唇部肥厚、内傾。隆帯と脇沈線による横位楕円区画文、R L縄文横位充填。	V群 外面黒変
Go-48G -2 第94図 P L 90	深鉢	口縁片 口— 底— 高(4.3)	G区 o-48	①中砂。赤褐色粒多量、白色粒・石英・輝石少量 ②橙7.5Y R7/6 ③やや良し	薄手。突起部外反、波状口縁。口縁沿いに幅広沈線、渦巻沈線文、φ1.5cm円形文。	V群 外面一部黒変

第2節 縄文時代

第12表 G区グリッド出土土器観察表 (22)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Go-48G -3 第94図 P L 90	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.0)	G区0-48	①中砂。赤褐色粒・石英・白色粒子・輝石少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③やや不良	口縁下に横位沈線、沈線による横位楕円文、逆「の」字状渦巻文施文。	V群
Go-48G -4 第94図 P L 90	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.6)	G区0-48	①中砂。赤褐色粒多量、白色粒・石英・輝石少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③不良	口唇部肥厚、内傾。横位楕円区画文、R L縄文充填。	V群
Go-48G -5 第94図 P L 90	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.7)	G区0-48	①細砂。結晶片岩多量、赤褐色粒子・石英・海綿骨針少量 ②浅黄2.5Y 7/3 ③良好	口縁下に幅4mm半截竹管による横位結節沈線3条、縦位4条同沈線施文。地文は同竹管による斜行平行沈線。	IV群
Go-48G -6 第94図 P L 90	深鉢	胴部片 口一 底一 高(9.7)	G区0-48	①中砂。白色粒・赤褐色粒多量、輝石・石英少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③やや良し	沈線による横位楕円文。胴部縦位2条沈線により分割。R L縄文充填。	V群 外面黒変
Go-48G -7 第94図 P L 90	深鉢	胴部片 1/3 口一 底一 高(12.5)	G区0-48	①中砂。輝石・角閃石多量、白色粒・赤褐色粒少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③やや良し	花卉状波状文2段施文、R L縄文充填。	V群 内面黒変
Go-48G -8 第94図 P L 90	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.0)	G区0-48	①中砂。チャート・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや悪い	縦位細沈線で胴部分割、R L縄文充填。	V群 内面剥落
Go-48G -9 第94図 P L 90	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.7)	G区0-48	①中砂。白色粒子・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい褐7.5Y R5/3 ③やや良し	蕨手文、横位楕円文、横位蕨手文。R L縄文充填。	V群 外面黒変
Go-48G -10 第94図 P L 90	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.1)	G区0-48	①中砂。白色粒子・石英・チャート・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③良好	「n」状沈線、R L縄文充填。	V群 内面下端黒変
Go-48G -11 第94図 P L 90	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.5)	G区0-48	①中砂。チャート・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	沈線による渦巻文、竹管状工具による沈線間に筧状工具による沈線施文。	V群
Go-48G -12 第94図 P L 90	深鉢	底部片 口一 底一 高(6.0)	G区0-48	①中砂。赤褐色粒多量、白色粒・輝石・石英少量 ②灰褐7.5Y R4/2 ③良好	波状口縁、口縁沿いに平行沈線、幅6mm半截竹管による渦巻文。地文L R縄文。	III群
Go-48G -13 第94図 P L 90	深鉢	底部片 口一 底 7.0 高(4.2)	G区0-48	①中砂。白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや良し	縦位沈線、底面磨き。	V群 外面底黒変
Go-48G -14 第94図 P L 90	深鉢	底部片 口一 底 7.2 高(3.4)	G区0-48	①中砂。赤褐色粒・石英・白色粒子・輝石少量 ②橙5Y R6/6 ③やや良し	底部はやや厚手。器面磨き。	V群
Go-48G -15 第94図 P L 90	深鉢	底部片 口一 底(7.0) 高(5.2)	G区0-48	①中砂。白色粒子多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/6 ③やや悪い	縦位沈線により胴部分割、R L縄文充填。	V群 外面赤変
Go-48G -16 第94図 P L 90	深鉢	底部片 口一 底(7.0) 高(5.7)	G区0-48	①中砂。白色粒子・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③やや良し	縦位2条沈線により分割、R L縄文縦位充填。	V群 内面黒変
Go-48G -17 第94図 P L 90	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.2)	G区0-48	①中砂。赤褐色粒・白色粒多量、輝石・石英少量 ②黄灰2.5Y 4/1 ③やや悪い	口縁下横位幅広浅沈線、その下に沈線による渦巻文。	V群

第12表 G区グリッド出土土器観察表 (23)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Go-48G -18 第 94図 P L 90	深鉢	底部片 口— 底 6.6 高(2.1)	G区 0-48	①細砂。白色粒子・輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	底部中心は上底。接合痕を明瞭に残す。	V群 内面黒変 外面黒斑黒変
Go-49G -1 第 94図 P L 90	深鉢	口縁片 口— 底— 高(10.2)	G区 0-49	①中砂。チャート・輝石・石英・白色粒・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R7/6 ③やや良し	波状口縁。隆帯と脇沈線による横位楕円文、渦巻文。LR縄文充填。	V群 外面一部黒変
Go-49G -2 第 94図 P L 90	深鉢	口縁部把手 口— 底— 高(6.3)	G区 0-49	①中砂。石英・チャート・結晶片岩多量、輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい褐7.5Y R6/3 ③良好	波状、内彎口縁。橋状把手下に双弧状細沈線文内LR縄文充填。	V群 内外面部分的に黒変
Go-49G -3 第 95図 P L 91	浅鉢	口縁片 口— 底— 高(4.4)	G区 0-49	①中砂。白色粒・赤褐色粒・石英・輝石少量 ②赤褐2.5Y R4/6 ③良好(硬質)	「く」字状屈曲口縁。内外面研磨。	III群
Go-49G -4 第 95図 P L 91	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.0)	G区 0-49	①中砂。白色粒子・石英・輝石・赤褐色粒子少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③やや良し	横位楕円文又は渦巻文、縦位「n」状沈線、RL縄文充填。	V群 器面粗れる
Go-49G -5 第 95図 P L 91	深鉢	頸部片 口— 底— 高(3.1)	G区 0-49	①中砂。赤褐色粒多量、白色粒子・輝石・石英少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③不良	横位2条沈線間にφ7mmの円形刺突文施文。その下に幅1.1cm6本櫛状工具による沈線施文。	V群
Go-49G -6 第 95図 P L 91	浅鉢	底部片 口— 底(5.8) 高(1.5)	G区 0-49	①中砂。赤褐色粒・輝石・白色粒・石英少量 ②灰黄褐10Y R4/2 ③やや良し	薄手。内面撫で、外面磨き。	V群 外面炭化物付着(黒変)
Go-49G -7 第 95図 P L 91	深鉢	底部片 口— 底(8.6) 高(3.3)	G区 0-49	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③不良	2条沈線により縦位分割、RL縄文充填。底部中心やや上底ぎみ。	V群 外面風化
Gp-47G -1 第 95図 P L 91	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.4)	G区 P-47	①中砂。白色粒多量、輝石・石英少量 ②暗灰黄2.5Y5/2 ③やや悪い	緩い波状口縁、口唇部とその下の隆帯に刻み施文。頂部下に弧状隆帯貼付。	V群 外面黒変
Gp-47G -2 第 95図 P L 91	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.6)	G区 P-47	①細砂。石英・白色粒多量、輝石少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③やや良し	縦位3条沈線により分割、LR縄文充填。	V群 内面黒変
Gp-47G -3 第 95図 P L 91	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.3)	G区 P-47	①細砂。白色粒子多量、輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③やや悪い	幅6mm4本櫛状工具による縦位波状沈線文。	V群 外面黒変
Gp-47G -4 第 95図 P L 91	深鉢	底部片 口— 底 3.5 高(4.1)	G区 P-47	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/6 ③やや悪い	外面胴部磨き。底部撫で、上底ぎみ。内面指撫で。	V群 内面炭化物付着黒変
Gp-47G -5 第 95図 P L 91	深鉢	底部片 口— 底(3.0) 高(2.7)	G区 P-47	①中砂。白色粒・石英・輝石多量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③良好	外面磨き。底部平坦。内面撫で。	V群 内面黒変
Gp-48G -1 第 95図 P L 91	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.2)	G区 P-48	①中砂。輝石多量、白色粒・石英・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R7/6 ③やや悪い	波状口縁?弧状隆帯を「n」字状に連結する。RL縄文充填。	V群
Gp-49G -1 第 95図 P L 91	深鉢	口縁部突起 口— 底— 高(6.6)	G区 P-49	①中砂。白色粒・輝石多量、石英・赤褐色粒少量 ②にぶい赤褐2.5Y R5/4 ③やや良し	口縁部「の」字状渦巻突起、彫りが深く明瞭。橋状に貼付され、中空となる。	V群

第2節 縄文時代

第12表 G区グリッド出土土器観察表 (24)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gp-49G -2 第95図 P L 91	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.2)	G区P-49	①細砂。白色粒子・石英・輝石少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③やや良し	縦位沈線により分割、RL縄文充填。	V群
Gp-49G -3 第95図 P L 91	深鉢	胴下部 口— 底— 高(5.6)	G区P-49	①中砂。白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや良し	幅8mm本櫛状工具による縦位沈線文。	V群
Gq-48G -1 第95図 P L 91	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.1)	G区Q-48	①中砂。チャート・石英多量、白色粒・輝石・赤褐色粒少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③やや悪い	口縁やや内傾。沈線による逆「の」字状渦巻文、横位楕円区画文。	V群
Gq-48G -2 第95図 P L 91	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.8)	G区Q-48	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③良好	波状口縁、口唇部外反。突起下に沈線による逆「の」字状渦巻文、RL縄文充填。	V群
Gq-48G -3 第95図 P L 91	深鉢	口辺部片 口— 底— 高(4.3)	G区Q-48	①中砂。白色粒・赤褐色粒多量、石英・輝石少量 ②明赤褐10Y R6/6 ③不良	沈線による逆「の」字状渦巻文、横位楕円区画内、幅3mm棒状工具による刺突文充填。	V群 器面風化
Gq-48G -4 第95図 P L 91	深鉢	胴部片 口— 底— 高(7.1)	G区Q-48	①中砂。石英・白色粒多量、輝石・赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③やや良し	幅1.3cm本櫛状工具による縦位沈線文。	V群 外面炭化物付着黒変 変上端赤変 内面上端黒変
Gq-48G -5 第95図 P L 91	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.8)	G区Q-48	①中砂。白色粒・赤褐色粒・輝石・石英少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	微隆線による逆「の」字状渦巻文、横位楕円区画文。内外面磨き。	V群 内面煤付着黒変
Gr-48G -1 第95図 P L 91	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.0)	G区r-48	①細砂。石英多量、輝石・白色粒・赤褐色粒・雲母少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好	波状口縁？頸部横位2条沈線、下に「T」字状に隆帯貼付、その脇に角押し文と沈線で区画、内部に沈線文施文。	IV群
Gr-48G -2 第95図 P L 91	深鉢	胴部片 口— 底— 高(8.8)	G区r-48	①中砂。白色粒多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや良し	口縁部横位楕円区画、胴部縦位2条沈線により分割、LRL複節縄文縦位充填後、蕨手状沈線施文。	V群 外面一部黒変
Gr-48G -3 第95図 P L 91	深鉢	胴部片 口— 底— 高(7.3)	G区r-48	①中砂。白色粒多量、石英・輝石・赤褐色粒少量 ②黒褐5Y R3/1 ③良好	1.2cm本櫛状工具による縦位沈線文施文。	V群 外面黒変 内面あばた状剥落
Gr-49G -1 第95図 P L 91	深鉢	胴部片 口— 底— 高(10.9)	G区r-49	①中砂。白色粒多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③やや良し	縦位沈線により胴部分割、LRL複節縄文縦位充填後蕨手状沈線施文。	V群
Gr-49G -2 第95図 P L 91	深鉢	底部片 口— 底(6.8) 高(3.0)	G区r-49	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/8 ③やや悪い	内外面撫で。底部やや上底ぎみ。底部周縁は磨滅。	V群
Go-50G -1 第96図 P L 92	深鉢	口縁片 口(37.8) 底— 高(11.3)	G区o-50	①粗砂。赤褐色粒多量、輝石・石英・チャート・白色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③良好	波状口縁、低隆帯と沈線による横位楕円文。胴部「∩」状沈線文。LR縄文充填。	V群 外面黒変
Go-50G -2 第96図 P L 92	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.9)	G区o-50	①中砂。白色粒・赤褐色粒・石英・輝石少量 ②明褐7.5Y R5/6 ③良好	縦位沈線より胴部分割、「∩」字状沈線文、LR縄文充填。	V群 外面黒・赤変 内面黒変
Go-50G -3 第96図 P L 92	深鉢	底部片 口— 底(4.8) 高(3.2)	G区o-50	①中砂。白色粒・石英・輝石少量 ②にぶい黄褐10Y R5/3 ③やや良し	薄手。小型品。縦位沈線施文。器面磨き。	V群

第12表 G区グリッド出土土器観察表 (25)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Go-51G -1 第 96図 P L92	深鉢	底部片 □— 底(7.4) 高(2.5)	G区o-51	①中砂。白色粒・石英・チャート・輝石・赤褐色粒子少量 ②にぶい褐7.5Y R6/3 ③良好	底部中央かなり薄い。内外面磨き。	V群
Go-52G -1 第 96図 P L92	深鉢	口縁片 □— 底— 高(4.2)	G区o-52	①粗砂。結晶片岩・石英多量、輝石・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	内彎口縁。口唇部に短隆線3条貼付する眼鏡状浮線文、口縁部に短隆線を貼付する浮線文を横位、弧状施文。獣面突起欠損。地文はRL縄文横位施文。	III群
Go-52G -2 第 96図 P L92	深鉢	口縁片 □— 底— 高(6.6)	G区o-52	①中砂。チャート・白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③良好	口唇部肥厚、外反。低隆帯と沈線による弧線文、RL縄文充填。	V群 外面一部黒変
Go-52G -3 第 96図 P L92	深鉢	口縁片 □— 底— 高(5.6)	G区o-52	①細砂。赤褐色粒・輝石・石英・チャート少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③良好(硬質)	波状口縁、突起外反。下に沈線による逆「の」字状渦巻文、0段3条RLR複節縄文充填。内面に沈線による「の」字状渦巻文、口縁沿いに沈線施文。	V群
Gp-50G -1 第 96図 P L92	深鉢	口縁片 □— 底— 高(4.7)	G区p-50	①中砂。輝石・石英・白色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③不良	口縁やや内傾。口縁下に横位連続刺突文と沈線、LR縄文充填。	V群
Gp-50G -2 第 96図 P L92	深鉢	肩部片 □— 底— 高(3.9)	G区p-50	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②暗赤褐2.5Y R3/4 ③ややよし	やや薄手。肩部内彎。内外面横位磨き。	VI群 外面黒斑 特殊-12と同一個体?
Gp-50G -3 第 96図 P L92	深鉢	胴部片 □— 底— 高(6.1)	G区p-50	①中砂。白色粒・石英多量、チャート・輝石少量 ②橙7.5Y R6/6 ③良好	器面磨き後弧状沈線施文。	VI群
Gq-50G -1 第 96図 P L92	深鉢	胴部片 □— 底— 高(5.0)	G区q-50	①中砂。輝石・赤褐色粒・石英・白色粒子・チャート少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③ややよし	縦位沈線により区画、RL縄文充填後波状沈線懸垂。	V群 内面淡く黒変
Gq-51G -1 第 96図 P L92	深鉢	胴部片 □— 底— 高(5.2)	G区q-51	①中砂。白色粒・輝石・赤褐色粒・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③ややよし	弧状低隆帯貼付、LR縄文充填。	V群 外面一部淡く黒変
Gq-51G -2 第 96図 P L92	浅鉢	底部片 □— 底(9.4) 高(1.5)	G区q-51	①中砂。赤褐色粒・石英・白色粒・輝石少量 ②にぶい赤褐5Y R4/3 ③やや悪い	薄手。内外面磨き、底面網代痕あり。	V群? 内外面一部黒変
Gr-50G -1 第 96図 P L92	深鉢	胴部片 □— 底— 高(5.8)	G区r-50	①中砂。白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y 8/4 ③やや悪い	幅1.6cm 8本櫛状工具による弧状沈線文、上端RL縄文縦位施文。	V群 外面煤付着黒変
Gr-51G -1 第 96図 P L92	深鉢	口縁片 □— 底— 高(7.2)	G区r-51	①中砂。白色粒・赤褐色粒多量、輝石・石英少量 ②橙7.5Y R7/6 ③やや悪い	口唇部肥厚。沈線による渦巻文、横位楕円区画内RL縄文充填。接合痕明瞭。	V群 口唇部黒斑
Gs-49G -1 第 97図 P L93	深鉢	胴部片 □— 底— 高(7.1)	G区s-49	①中砂。輝石多量、白色粒・赤褐色粒・石英少量 ②橙5Y R6/6 ③ややよし	細沈線による波状又は渦巻状沈線文、RL縄文充填。	V群
Gs-50G -1 第 97図 P L93	深鉢	胴部片 □— 底— 高(4.6)	G区s-50	①細砂。5mm礫、白色粒・石英多量、チャート・輝石少量 ②灰黄褐10Y R6/2 ③良好(硬質)	幅3mm竹管状工具による緩い弧状沈線間LR細縄文充填後沈線沿いに刺突文施文。無文部磨き。	VI群
Gs-51G -1 第 97図 P L93	深鉢	底部片 1/3 □— 底(12.0) 高(5.8)	G区s-51	①中砂。輝石・白色粒多量、石英・赤褐色粒少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③ややよし	縦位2条微隆線により分割、LR縄文縦位充填。	V群 内面炭化物付着黒変

第2節 縄文時代

第12表 G区グリッド出土土器観察表 (26)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gt-48G -1 第97図 P L93	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.2)	G区 t-48	①中砂。赤褐色粒・輝石多量、 白色粒・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	口縁横位磨き。3.5cm下に横位微隆線 貼付。内面横位撫で。	V群 口唇部淡く黒変
Gt-49G -1 第97図 P L93	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.2)	G区 t-49	①中砂。白色粒子多量、輝石 ・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい褐7.5Y R5/3 ③やや良し	波状口縁。口縁下に横位2条沈線間に 円形刺突文、頸部に弧状又は斜行沈線 文。	VI群 内面黒変 外面煤付着(黒変)
Gt-50G -1 第97図 P L93	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.1)	G区 t-50	①中砂。石英・輝石・白色粒 少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや良し	薄手。2条沈線による弧状沈線文。R L縄文口縁横位施文。	V群
Gt-50G -2 第97図 P L93	深鉢	底部片 1/4 口一 底一(7.8) 高(3.7)	G区 t-50	①細砂。石英粒子・白色粒子 多量、輝石・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y 8/4 ③良好	外面横位撫で、底部中央は薄い。内面 磨き。	V群 内面黒変
G区一括 -1 第97図 P L93	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.5)	G区一括	①中砂。白色粒・赤褐色粒・ 輝石・石英少量 ②橙5Y R6/6 ③やや良し	口縁部「く」の字状外反。内面～口縁横 位撫で、肩部磨き。	V群 外面淡く黒変
G区一括 -2 第97図 P L93	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.9)	G区一括	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②灰黄褐10Y R5/2 ③やや良し	口唇部肥厚、微隆線による横位、弧状 区画内RL縄文充填。	V群
G区一括 -3 第97図 P L93	深鉢	口縁部把手 口一 底一 高(6.0)	G区一括	①中砂。輝石・石英・白色粒 ・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③やや良し	波状、内彎口縁。口縁沿いに沈線1条、 橋状把手下に弧状細沈線文、RL縄文 充填。	V群 口縁淡く黒変
G区一括 -4 第97図 P L93	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.3)	G区一括	①細砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや良し	薄手。口縁やや内彎、「ㄣ」状区画内R L縄文充填。縦位3条沈線施文。	V群 外面淡く黒変
G区一括 -5 第97図 P L93	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.5)	G区一括	①中砂。赤褐色粒多量、輝石 ・石英・白色粒少量 ②にぶい黄褐10Y R5/3 ③やや良し	隆帯による方形区画、縦位隆帯に押圧 あり。棒状工具による縦位沈線充填。	V群 外面煤付着黒変

第13表 H区グリッド出土土器観察表 (1)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Hb-52G -1 第99図 P L93	深鉢	胴部片 口一 底一 高(3.1)	H区 b-52	①中砂。チャート・石英・輝 石・白色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③やや良し	幅3mm半截竹管による矢羽状沈線文。	III群 内面黒変
He-50G -1 第99図 P L93	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.6)	H区 e-50	①中砂。白色粒多量、赤褐色 粒・輝石・石英少量 ②橙5Y R6/6 ③やや良し	口縁部内彎、波状口縁。沈線による「の」 字状渦巻文と横位楕円文、区画内RL 縄文充填。	V群 外面黒・赤変あり 器面風化 He-50-2と類似
He-50G -2 第99図 P L93	深鉢	胴部片 口一 底一 高(9.4)	H区 e-50	①中砂。白色粒多量、赤褐色 粒・輝石・石英少量 ②橙5Y R6/6 ③やや良し	口縁部は渦巻文、横位楕円文。縦位2 条沈線により胴部分割、RL縄文縦位 充填。	V群 外面黒・赤変あり 器面風化 He-50-1と類似
Hf-52G -1 第99図 P L93	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.0)	H区 f-52	①中砂。白色粒多量、輝石・ 石英・チャート少量 ②赤褐2.5Y R4/8 ③やや良し	内面口縁下に横位2条沈線。上は深く 明瞭、下は浅く不明瞭。外面口縁部は 横位2条細沈線間にRL縄文充填。	VI群
Hf-53G -1 第99図 P L93	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.4)	H区 f-53	①中砂。白色粒多量、石英・ 輝石・赤褐色粒少量 ②明赤褐5Y R5/8 ③不良	幅3mm半截竹管による横位平行沈線間 に山形沈線施文。	III群
Hj-53G -1 第99図 P L93	深鉢	底部片 口一 底一 高(5.8)	H区 j-53	①中砂。輝石・白色粒多量、 石英・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/8 ③不良	内外面磨き。底面ザラつく。	V群 外面風化

第13表 H区グリッド出土土器観察表(2)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Hk-56G -1 第99図 P L93	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.7)	H区k-56	①中砂。赤褐色粒・輝石・石英・白色粒少量 ②明赤褐5Y R5/6 ③ややよし	横位細沈線間LR縄文充填。	VI群 外面一部黒変
Hm-55G -1 第99図 P L93	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.6)	H区m-55	①中砂。白色粒・赤褐色粒・輝石・石英少量 ②淡黄2.5Y8/3 ③やや悪い	口縁部渦巻文、横位楕円文。LR縄文充填。	V群 外面一部黒変
Hm-58G -1 第99図 P L93	壺形土器	口縁片 口(8.0) 底一 高(3.8)	H区m-58	①細砂。白色粒子・輝石多量、石英・赤褐色粒少量 ②にぶい橙2.5Y R6/4 ③良好	内面口縁下に横位沈線施文。外面口縁部横位磨き。沈線による「工」字文、LR細縄文充填。	VI群

第14表 I区グリッド出土土器観察表

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
It-64G -1 第99図 P L93	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.8)	I区t-64	①中砂。7mm礫白色粒子・石英多量、輝石・赤褐色粒少量 ②明黄褐10Y R7/6 ③良好(硬質)	薄手。口辺部横位隆帯。途中に円形刺突付貼付文を斜め連結、肩部篋刻み。体部横位磨き。	VI群 内面黒斑
In-64G -1 第99図 P L93	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.5)	I区n-64	①中砂。白色粒子・輝石多量 ②褐7.5Y R4/3 ③ややよし	幅3mm竹管による縦位沈線。	IV群
I区一括 -1 第99図 P L93	深鉢	頸部片 口一 底一 高(4.1)	I区一括	①中砂。結晶片岩多量、チャート・石英・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/8 ③良好	頸部横位2条沈線、胴部渦巻沈線文。	VI群
I区一括 -2 第99図 P L93	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.6)	I区一括	①中砂。白色粒多量、輝石・石英少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③ややよし	斜位押圧隆帯貼付、幅4mm竹管による弧状沈線文。	VI群 内面剥落
I区一括 -3 第99図 P L93	深鉢	底部片 口一 底(12.2) 高(4.0)	I区一括	①中砂。石英・白色粒子多量、結晶片岩・輝石・赤褐色粒少量 ②浅黄橙10Y R8/3 ③良好	部厚いつくり、底面に木葉痕あり。	V群?

第15表 J区グリッド出土土器観察表(1)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Jb-64G -1 第100図 P L94	浅鉢	口縁片 口一 底一 高(6.4)	J区b-64	①中砂。赤褐色粒・石英・輝石少量 ②橙2.5Y R7/6 ③不良	口唇部はやや薄く、外反する。	V群 外面亦変黒変
Jb-64G -2 第100図 P L94	深鉢	底部片 口一 底9.8 高(4.3)	J区b-64	①中砂。白色粒・赤褐色粒多量、石英・輝石少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③不良	比較的厚手。底部中央に焼成時のヒビ割れが認められる。	V群
Jb-65G -1 第100図 P L94	深鉢	頸部片 口一 底一 高(9.5)	J区b-65	①中砂。石英・白色粒多量、赤褐色粒・チャート・輝石少量 ②橙7.5Y R7/6 ③不良	頸部横位押圧隆帯貼付、胴部と区画、胴部斜行沈線施文。	VI群
Jb-65G -2 第100図 P L94	深鉢	底部片 口一 底(9.0) 高一	J区b-65	①細砂。赤褐色粒・白色粒・輝石・石英少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③ややよし	底部網代痕あり。	III群?
Jb-66G -1 第100図 P L94	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.0)	J区b-66	①粗砂。結晶片岩多量、石英・輝石・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R7/6 ③不良	口縁横位磨き、下に横位微隆線貼付、胴部は縦位2条微隆線により分割。LR縄文横位・縦位充填。	V群
Jb-66G -2 第100図 P L94	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.1)	J区b-66	①中砂。輝石・石英・白色粒・チャート少量 ②明赤褐5Y R5/6 ③やや悪い	口唇部内面横位沈線1条、外面口縁1.5cm下に押圧微隆線貼付。	VI群

第2節 縄文時代

第15表 J区グリッド出土土器観察表(2)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様・成・整形の特徴	備考
Jb-66G -3 第100図 P L94	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.3)	J区b-66	①中砂。白色粒・輝石多量、石英・チャート・赤褐色粒少量 ②灰黄2.5Y7/2 ③良好	内傾、折り返し口縁。接合痕明瞭。	VI群
Jd-64G -1 第101図 P L94	深鉢	頸部片 口一 底一 高(5.4)	J区d-64	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒・チャート少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好(硬質)	薄手。頸部横位2条沈線、弧状沈線、斜行沈線施文。沈線明瞭。	VI群 Jd-64-2・3 と同一個体?
Jd-64G -2 第101図 P L94	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.5)	J区d-64	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒・チャート少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③良好(硬質)	斜行沈線施文。沈線明瞭。	VI群 Jd-64-1・3 と同一個体?
Jd-64G -3 第101図 P L94	深鉢	胴部片 口一 底一 高(2.3)	J区d-64	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒・チャート少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好(硬質)	斜行沈線施文。沈線明瞭。	VI群 Jd-64-1・2 と同一個体?
Jd-65G -1 第101図 P L94	深鉢	底部片 口一 底(5.4) 高(3.0)	J区d-65	①細砂。輝石・石英・白色粒・赤褐色粒少量 ②浅黄2.5Y7/3 ③やや良し	薄手。底部中心はやや薄い。胴部削後磨き。	VI群
Jd-65G -2 第101図 P L94	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.6)	J区d-65	①中砂。白色粒・石英・赤褐色粒・輝石少量 ②浅黄橙10Y R8/3 ③やや悪い	口縁部横位磨き、4.5cm下に横位細隆線、その下に「n」状細隆線貼付。R L縄文外側に充填。	V群 外面黒斑黒変あり
Jd-65G -3 第101図 P L94	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.9)	J区d-65	①細砂。8mm礫、輝石・石英・チャート・白色粒・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y8/3 ③良好	幅4mm竹管による円形刺突文下に円形沈線文、弧状沈線文施文。	VI群 Jd-65-4類似
Jd-65G -4 第101図 P L94	深鉢	胴部片 口一 底一 高(3.7)	J区d-65	①細砂。白色粒・石英・チャート・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y8/3 ③良好	弧状沈線文、横位三角沈線文、L R縄文充填。	VI群 Jd-65-3類似
Jd-69G -1 第101図 P L94	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.5)	J区d-69	①細砂。輝石・石英・白色粒子・赤褐色粒少量 ②赤褐2.5Y R4/6 ③良好	口唇部内屈。口縁下に横位2条押圧微隆線、途中を竹管による刺突文付き微隆線で繋ぐ。下に竹管による横位2条沈線施文。	VI群
Jg-70G -1 第101図 P L94	深鉢	口縁片 口一 底一 高(11.2)	J区g-70	①細砂。石英・白色粒・輝石・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/8 ③やや良し	波状口縁。口縁下に細隆線が沿う。体部に幅6mm4本櫛状工具による沈線縦位施文。	V群 外面赤変 内面黒変
Jh-65G -1 第101図 P L94	深鉢	胴部片 口一 底一 高(7.4)	J区h-65	①中砂。石英極多量、白色粒・輝石・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y8/3 ③不良	2条微隆線による弧線文、その外側にL R縄文充填。	V群
Jh-68G -1 第101図 P L94	深鉢	底部片 口一 底(13.2) 高(4.9)	J区c下No1	①中砂。白色粒極多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③やや悪い	内外面撫で。底部幅広網代痕あり。	V群 内面黒変 器面風化
Jp-69G -1 第101図 P L94	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.3)	J区p-69	①中砂。輝石・白色粒多量、赤褐色粒少量 ②明赤褐5Y R5/6 ③良好	薄手。上下に刺突のある摘み状小突起貼付、細沈線区画内L R細縄文充填。	VI群
Jp-69G -2 第101図 P L94	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.4)	J区p-69	①中砂。チャート・結晶片岩・赤褐色粒・石英少量 ②浅黄橙10Y R8/3 ③良好	薄手。口縁沿いに浅い沈線2条施文。	VI群?
Jp-69G -3 第101図 P L94	深鉢	底部片 口一 底(6.8) 高(0.9)	J区p-69	①中砂。白色粒・輝石多量、赤褐色粒・石英少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	厚さ7mm円形粘土で底部を作り、胴部を積み上げている。接合部で剥れている。	III群 底部網代痕

第15表 J区グリッド出土土器観察表(3)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
J区一括 -1 第101図 P L94	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.0)	J区c黒上面	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好	横位三角区画文、L R細縄文充填。	VI群
J区一括 -2 第101図 P L94	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.4)	J区c黒	①粗砂。白色粒・輝石・石英多量、赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/6 ③やや良し	口縁部肥厚、内傾。口縁下に横位沈線、横位楕円区画文、R L縄文充填。	V群
J区一括 -3 第101図 P L94	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.6)	J区一括	①中砂。5mm礫、結晶片岩多量、赤褐色粒・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③やや良し	口縁内外に1条ずつ横位沈線が巡る。外面横位指撫で明瞭。	VI群 内外面風化
J区一括 -4 第101図 P L94	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.7)	J区一括	①粗砂。結晶片岩・微細雲母多量、輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや悪い	口縁内傾、口縁下に縦位隆帯とその下に横位2条隆帯貼付、下の隆帯上に半截竹管による爪形文施文。	IV群
Jr-72G -1 第102図 P L95	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.9)	J区r-72	①細砂。結晶片岩・石英・輝石多量、白色粒子少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③やや良し	結節のある縄文R LとL R横位施文。	III群
Jr-72G -2 第102図 P L95	浅鉢	口縁片 口一 底一 高(5.2)	J区r-72	①中砂。石英・白色粒・輝石・赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/8 ③やや良し	口縁横位磨き、下に横位沈線施文。L R縄文充填。	V群
Jr-72G -3 第102図 P L95	深鉢	頸部片 口一 底一 高(4.1)	J区r-72	①粗砂。結晶片岩・微細雲母多量、8mm礫少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや良し	幅6mm半截竹管により爪形施文する隆帯横位2条貼付。	IV群 器面風化 Jr-72-4・5・6 Js-71-2に類似
Jr-72G -4 第102図 P L95	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.6)	J区r-72	①粗砂。結晶片岩・微細雲母多量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや良し	幅6mm半截竹管により爪形施文する隆帯横位2条貼付。	IV群 器面風化 Jr-72-3・5・6 Js-71-2に類似
Jr-72G -5 第102図 P L95	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.7)	J区r-72	①粗砂。結晶片岩・微細雲母多量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや良し	幅6mm半截竹管により爪形施文する隆帯横位3条貼付。	IV群 器面風化 Jr-72-3・4・6 Js-71-2に類似
Jr-72G -6 第102図 P L95	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.2)	J区r-72	①粗砂。結晶片岩・微細雲母多量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや良し	幅6mm半截竹管により爪形施文する隆帯横位2条貼付。	IV群 器面風化 Jr-72-3・4・5 Js-71-2に類似
Jr-72G -7 第102図 P L95	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.0)	J区r-72	①中砂。結晶片岩多量、赤褐色粒・白色粒・石英・チャート少量 ②橙7.5Y R7/6 ③やや良し	口縁部無文。口唇部は角張り、やや内傾。	VI群
Jr-72G -8 第102図 P L95	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.3)	J区r-72	①細砂。白色粒子多量。輝石・石英・赤褐色粒子少量 ②橙7.5Y R6/6 ③良好	口縁下に微隆線、その下に三角形細沈線施文。	VI群
Jr-72G -9 第102図 P L95	深鉢	底部片 口一 底(9.0) 高(4.1)	J区r-72	①粗砂。結晶片岩多量、赤褐色粒少量 ②明赤褐5Y R5/6 ③硬質	内面撫で、外面磨き。	V群?
Jr-72G -10 第102図 P L95	深鉢	胴部片 口一 底一 高(12.9)	J区r-72	①中砂。石英・白色粒多量、輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	幅6mm半截竹管による縦位平行沈線と弧線文、間に幅1cm5本櫛状工具による沈線文。	VI群 内外面被熱 器面粗れる
Jr-72G -11 第102図 P L95	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.1)	J区r-72	①中砂。輝石・石英・白色粒子・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y 8/3 ③やや良し	口縁下に横位2条沈線、それ以外研磨。	V群

第2節 縄文時代

第15表 J区グリッド出土土器観察表(4)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Jr-72G -12 第102図 P L 95	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.2)	J区 r-72	①中砂。結晶片岩多量、石英・白色粒子・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③良好	かなり薄手。口唇部内面に沈線が一条巡る。「J」字状文、間に列点文あり。	VI群
Jr-72G -13 第102図 P L 95	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.0)	J区 r-72	①中砂。結晶片岩多量、石英・白色粒子・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③良好	かなり薄手。「J」字状文、間は「十」字状となる。列点文あり。	VI群
Jr-72G -14 第102図 P L 95	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.5)	J区 r-72	①中砂。結晶片岩極多量、赤褐色粒・石英・白色粒子少量 ②赤褐2.5Y R4/6 ③やや良し	薄手。「J」字状文、間に列点文あり。	VI群
Jr-72G -15 第102図 P L 95	深鉢	口縁片 口— 底— 高(3.6)	J区 r-72	①細砂。白色粒子・輝石・石英・チャート少量 ②灰黄褐10Y R6/2 ③やや良し	口唇部篋刻み、口縁下に横位2条RL R複節縄文を巻いている。	VI群?
Jr-72G -16 第102図 P L 95	深鉢	口縁片 口— 底— 高(4.2)	J区 r-72	①細砂。白色粒子多量、輝石・石英少量 ②橙7.5Y R6/6 ③良好	緩い波状口縁。横位沈線の始めと終わりに刺突文、間に縦位3条沈線施文。斜位隆線貼付。	VI群
Jr-72G -17 第102図 P L 95	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.2)	J区 r-72	①中砂。結晶片岩多量、赤褐色粒・白色粒・石英少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③良好	薄手。口唇部肥厚、内傾。外面横位2条沈線施文。	VI群 外面風化
Jr-72G -18 第102図 P L 95	深鉢	頸部片 口— 底— 高(4.5)	J区 r-72	①細砂。石英粒子多量、輝石・赤褐色粒子・チャート少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや良し	薄手。頸部横位隆帯の途中に「∩」状部分あり。	VI群
Js-71G -1 第102図 P L 95	深鉢	口縁片 口— 底— 高(2.2)	J区 s-71	①細砂。チャート・結晶片岩・石英・赤褐色粒子少量 ②明赤褐5Y R5/6 ③良好	口唇部やや外反。RL縄文横位施文。	III群
Js-71G -2 第102図 P L 95	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.1)	J区 s-71	①粗砂。結晶片岩・微細雲母多量、赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや良し	幅6mm半截竹管により爪形施文する隆帯横位3条貼付。	IV群 Jr-72-3~6に類似

第16表 K区グリッド出土土器観察表(1)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Kb-72G -1 第103図 P L 96	深鉢	胴部片 口— 底— 高(2.4)	K区 b-72	①中砂。白色粒多量、石英・赤褐色粒・結晶片岩少量 ②明赤褐5Y R5/6 ③やや良し	RL縄文横位施文。	V群
Kb-72G -2 第103図 P L 96	深鉢	胴部片 口— 底— 高(4.0)	K区 b-72	①粗砂。石英多量、チャート・輝石・赤褐色粒・雲母少量 ②灰黄褐10Y R5/2 ③良好	結節のあるRL縄文横位施文。	III群
Kc-72G -1 第103図 P L 96	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.3)	K区 c-72	①細砂。石英粒子・赤褐色粒多量、輝石・白色粒子少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③やや悪い	口縁2.5cm下に横位低隆帯貼付、頸部に燃糸文L縦位施文。	V群 内面炭化物付着 黒変
Kc-72G -2 第103図 P L 96	深鉢	胴部片 口— 底— 高(3.8)	K区 c-72	①細砂。石英粒子・赤褐色粒多量、チャート・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③良好	比較的薄手。RL縄文横位施文。	III群 内面一部黒変
Kc-72G -3 第103図 P L 96	深鉢	胴下部 口— 底— 高(3.0)	K区 c-72	①中砂。輝石・石英・白色粒子・チャート少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③良好	胴部0段多条LR縄文横位施文。底部との境に刻み付き浮線文横位貼付。	III群 内面胴部黒変
Ke-74G -1 第103図 P L 96	深鉢	胴部片 口— 底— 高(3.7)	K区 e-74	①細砂。輝石・石英・白色粒少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③良好	RL縄文横位施文。	III群

第16表 K区グリッド出土土器観察表(2)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Ke-74G -2 第103図 P L 96	浅鉢	口縁片 口一 底一 高(4.6)	K区 e-74	①中砂。チャート・結晶片岩・石英多量、赤褐色粒・輝石少量 ②橙5Y R6/6 ③良好(硬質)	内彎口縁、口唇部に幅1cm平行沈線間に半載竹管による爪形刻み施文。	VI群
Kg-73G -1 第103図 P L 96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(3.3)	K区 g-73	①粗砂。白色粒多量、輝石・石英少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好	縦位沈線間L R L複節縄文縦位施文。	V群
Kg-73G -2 第103図 P L 96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(3.0)	K区 g-73	①中砂。植物繊維・赤褐色粒多量、輝石・石英少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③良好	R L縄文横位施文。	II群 外面淡く黒変
Kg-74G -1 第103図 P L 96	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.2)	K区 g-74	①中砂。輝石・石英・白色粒子少量 ②にぶい赤褐5Y R4/3 ③良好	口唇部に摘み出し状の小突起貼付。幅6mm半載竹管による横位平行沈線3単位施文。	III群
Kg-75G -1 第103図 P L 96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.9)	K区 g-75	①中砂。結晶片岩・チャート・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	頸部に横位隆帯、隆帯上に横「八」の字状刻み、下に横位沈線が沿う。胴部に撚糸文L縦位施文。	V群
Kg-75G -2 第103図 P L 96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(3.4)	K区 g-75	①細砂。輝石・石英・白色粒・赤褐色粒少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③良好(硬質)	頸部横位2条浮線文上R L縄文施文。浮線文脇には沈線が沿う。地文はR L縄文横位施文。	III群
Kg-76G -1 第103図 P L 96	浅鉢	口縁片 口一 底一 高(5.6)	K区 g-76	①中砂。石英・輝石多量、白色粒・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③良好	口縁外反、頸部内彎。内外面横位磨き。外面一部に赤色塗彩残る。	V群 外面赤色塗彩 内面燻し (黒色処理)
Kg-76G -2 第103図 P L 96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(2.8)	K区 g-76	①細砂。結晶片岩多量、輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③良好(硬質)	かなり薄手。幅2mm沈線による菱形文。地文はL R縄文横位施文。	VI群 外面黒斑 内面炭化物付着黒変 Kg-76-3と同一個体?
Kg-76G -3 第103図 P L 96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(2.4)	K区 g-76	①細砂。結晶片岩多量、輝石・石英少量 ②灰黄褐10Y R5/2 ③良好(硬質)	かなり薄手。幅2mm沈線による菱形文。地文はL R縄文横位施文。	VI群 外面黒斑 内面炭化物付着黒変 Kg-76-2と同一個体?
Kg-76G -4 第103図 P L 96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.5)	K区 g-76	①中砂。チャート・赤褐色粒多量 ②明赤褐5Y R5/6 ③良好	頸部外反。R L縄文横位施文。	III群 内面器面風化
Ki-74G -1 第105図 P L 96	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.5)	K区 i-74	①中砂。輝石・石英・白色粒子少量 ②灰黄2.5Y 7/2 ③良好	やや厚手。口縁下幅1.0cm半載竹管による平行沈線+爪形文2条以上施文、間に斜位刻み施文。	III群
Ki-74G -2 第105図 P L 96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.5)	K区 i-74	①中砂。赤褐色粒多量、輝石・石英・白色粒少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好	刻み付き浮線文による「の」字状渦巻文、胴部との境には横位浮線文施文。地文はR L縄文横位施文。	III群
Ki-74G -3 第105図 P L 96	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.3)	K区 i-74	①細砂。白色粒子・石英粒子多量、赤褐色粒・輝石少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好	薄手。口縁下に2条以上の押圧微隆線貼付。内外面良く研磨。	VI群 内外面黒変あり
Ki-74G -4 第105図 P L 96	深鉢	口縁片 口一 底一 高(2.7)	K区 i-74	①細砂。輝石多量、石英・白色粒子少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③良好	波状、内彎口縁。口縁下に押圧微隆線を緩い弧状に貼付、途中に刺突付ボタン状貼付文、内外面とも良く研磨。	VI群 外面一部黒変
Ki-74G -5 第105図 P L 96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.1)	K区 i-74	①中砂。輝石多量、白色粒・チャート・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③良好	横位沈線間に斜位沈線を施し、三角区画文とし、L R細縄文充填。	VI群 内面黒変

第2節 縄文時代

第16表 K区グリッド出土土器観察表(3)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Ki-74G -6 第105図 P L 96	深鉢	胴部片 口— 底— 高(4.0)	K区 i-74	①中砂。結晶片岩極多量 ②にふい黄橙10Y R7/4 ③良好(硬質)	2条沈線による弧線文。L R縄文充填。	V群
Ki-75G -1 第105図 P L 96	深鉢	口縁片 口— 底— 高(3.1)	K区 i-75	①中砂。結晶片岩・微細雲母 多量、輝石・赤褐色粒少量 ②にふい橙7.5Y R6/4 ③良好	口縁下に押圧波状隆帯貼付、その下に R L縄文横位施文。	IV群
Ki-75G -2 第105図 P L 96	深鉢	頸部片 口— 底— 高(3.3)	K区 i-75	①中砂。赤褐色粒・輝石多量、 石英・白色粒子少量 ②にふい橙7.5Y R7/4 ③良好	頸部に「八」字状刻み付き浮線文2状以 上貼付、下にR L縄文横位施文。	III群 内面器面粗れる
Ki-76G -1 第105図 P L 96	深鉢	口縁片 口— 底— 高(2.2)	K区 i-76	①中砂。結晶片岩・石英多量、 輝石少量 ②にふい橙5Y R5/4 ③ややよし	口縁下に幅2mm沈線2条による横位区 画、間に同沈線による斜行文、篋状工 具による三角形印刻文、押圧円形文。 地文はL R縄文横位施文。	IV群
Ki-76G -2 第105図 P L 96	深鉢	口縁片 口— 底— 高(4.8)	K区 i-76	①中砂。輝石・石英・白色粒 少量 ②にふい橙5Y R6/4 ③良好	波状、内彎口縁。口縁下に横位隆帯・ 沈線。R L縄文横位施文。接合痕明瞭。	V群
Ki-76G -3 第105図 P L 96	深鉢	胴部片 口— 底— 高(3.1)	K区 i-76	①中砂。輝石多量、石英・白 色粒・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③ややよし	幅3mm竹管状工具による刻み付き隆帯 横位貼付、下に同工具による横位沈線、 下の区画に燃糸文L縦位施文。	V群
Kj-75G -1 第105図 P L 96	深鉢	口縁片 口— 底— 高(3.2)	K区 j-75	①中砂。白色粒・石英・輝石 少量 ②浅黄2.5Y 7/4 ③良好	波状口縁。口唇部幅2mm竹管による刻 み、口縁から1.5cm下に斜位刺突文、 下区画にR L縄文施文。	VI群 内面赤色塗彩
Kk-74G -1 第105図 P L 96	深鉢	口縁部突起 口— 底— 高(3.8)	K区 k-74	①中砂。赤褐色粒・石英多量、 結晶片岩・白色粒・輝石少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好	波状、内彎口縁。獣面突起の省略形? φ2mmの竹串状工具による刺突が3つ 施文。刻み等は認められない。	III群
Kk-74G -2 第105図 P L 96	深鉢	口縁片 口— 底— 高(8.3)	K区 k-74	①中砂。石英多量、結晶片岩 ・赤褐色粒・輝石少量 ②にふい黄橙10Y R7/3 ③良好(硬質)	口唇部はやや角張り、口縁は外側に開 く。内外面横位磨き。	VI群
Km-75G -1 第105図 P L 96	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.1)	K区 m-75	①中砂。輝石多量、石英・白 色粒少量 ②にふい橙5Y R7/4 ③良好(硬質)	口縁部「L」字形に刻み付き隆帯貼付、 その脇に幅2mm沈線を施す。胴部との 境にも隆帯と沈線を施すものと思われ る。頸部は無文帯となる。	IV群 外面煤付着(黒変)
Km-75G -2 第105図 P L 96	深鉢	底部片 口— 底— 高(4.3)	K区 m-75	①中砂。輝石多量、赤褐色粒 ・白色粒・石英少量 ②にふい橙7.5Y R6/4 ③良好	外面胴部L R縄文横位間隔施文。底部 は比較的平坦。内面はやや粗れる。	III群 内面上半黒変
Kn-77G -1 第105図 P L 96	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.1)	K区 n-77	①細砂。輝石・白色粒子多量、 石英・赤褐色粒少量 ②灰黄2.5Y 7/2 ③良好(硬質)	頸部無文帯あり。胴部との境に横位2 条隆帯貼付、そこから下に隆帯貼付、 間に沈線施文。胴部方形区画内L R縄 文充填。	IV群 外面淡く黒変
Ko-74G -1 第105図 P L 96	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.2)	K区 o-74	①細砂。植物繊維多量、輝石 ・石英少量 ②灰褐5Y R4/2 ③良好	R LとL R縄文による羽状縄文。内面 磨き。	II群 繊維土器 外面淡く黒変
Kq-78G -1 第105図 P L 96	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.8)	K区 q-78	①細砂。輝石・白色粒多量、 石英少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	波状、内彎口縁。隆帯による「の」字渦 巻文と横位楕円文、L R縄文充填。	V群 中期後半(加E III)
Kq-78G -2 第105図 P L 96	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.8)	K区 q-78	①中砂。輝石・白色粒多量、 石英少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	縦位隆帯により区画、間に半截竹管に よる縦位平行沈線、同竹管による横位 短沈線施文。	IV群 内面黒変

第17表 L区グリッド出土土器観察表

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Lc-77G -1 第105図 P L 96	深鉢	胴部片 口— 底— 高(3.6)	L区c-77	①中砂。白色粒・輝石多量、 石英少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③良好	R L縄文縦位、斜位施文。	V群
Lc-77G -2 第105図 P L 96	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.5)	L区c-77	①中砂。輝石多量、白色粒・ 石英少量 ②灰褐7.5Y R4/2 ③良好	弧状細沈線の交点で「V」字状を呈する。LR縄文充填。	VI群 外面炭化物付着 (黒変)
Lh-76G -1 第105図 P L 96	深鉢	口縁片 口— 底— 高(10.0)	L区h-76	①粗砂。7mm礫、赤褐色粒・石英 ・白色粒多量、輝石少量 ②にぶい橙5Y R7/4 ③良好	口唇部小突起貼付、口縁下に幅広沈線、 横位隆帯貼付、連続刺突文、その下は 沈線による横位楕円文、内部にLR縄 文横位充填。	VI群

第18表 M区グリッド出土土器観察表

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Ma-81G -1 第105図 P L 96	深鉢	口縁片 口— 底— 高(3.7)	M区a-81	①細砂。白色粒、輝石多量、 石英少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	口縁内彎。口縁下に横位隆帯貼付、下 に頂部に沈線を施す隆帯による「∞」 字状渦巻文。地文はRL縄文縦位施文。	V群 外面口縁煤 付着(黒変) 内面 口縁より1.5cm以 下煤付着黒変
Mb-83G -1 第105図 P L 96	深鉢	口縁片 口— 底— 高(4.1)	M区b-83	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤 褐色粒少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③良好	内彎口縁。口縁下に横位沈線貼付。下 に「八」の字状刺突文。その下に短沈 線を3条施す突起貼付。	V群
Md-78G -1 第105図 P L 96	浅鉢	肩部片 口— 底— 高(4.6)	M区d-78	①中砂。輝石多量、白色粒・ 石英・赤褐色粒少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③良好	内折口縁、刻み付き浮線文渦巻、横位 貼付。地文はRL縄文横位施文。	III群 外面煤付着黒変
Mm-78G -1 第105図 P L 96	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.0)	M区m-78	①中砂。輝石・白色粒・赤褐 色粒多量 ②橙5Y R6/6 ③良好(硬質)	粗製土器。折返し口縁、内彎。内外面 とも口縁に指頭痕残す。	VI群
Mm-78G -2 第105図 P L 96	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.4)	M区m-78	①中砂。輝石・白色粒多量、 石英・赤褐色粒少量 ②黄灰2.5Y4/1 ③ややよし	波状口縁。突起部分。「八」字状隆帯と 沈線施文。LR細縄文充填。	VI群
Mm-78G -3 第105図 P L 96	深鉢	口縁片 口— 底— 高(10.6)	M区m-78	①中砂。5mm礫、輝石・白色粒 ・赤褐色粒多量、石英少量 ②浅黄橙10Y R8/3 ③良好	粗製土器。口縁下に半円状貼付文。外 面指撫で、指頭痕残す。内面横位撫で。	VI群
Mm-78G -4 第105図 P L 96	深鉢	底部片 口— 底(11.2) 高(1.7)	M区m-78	①中砂。輝石・白色粒多量 ②灰褐7.5Y R4/2 ③良好	やや薄手。外面胴部撫で、底部に木葉 痕?内面横位撫で。	VI群?
M区一括 -1 第105図 P L 96	深鉢	底部片 口— 底(13.0) 高(3.9)	M区一括	①中砂。輝石多量、石英・白 色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③良好	横位刻み付き浮線文3条貼付。地文は RL縄文横位施文。内面撫で。	III群

第19表 特殊土製品観察表(1)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
特殊 -1 第106図 P L 97	土製 円盤	完形品 長 2.4 幅 2.1 厚 0.8	G区1集石 覆土	①中砂。赤褐色粒多量、輝石 ・石英・白色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③良好	RL縄文施文。打ち欠き成形後研磨整 形。	V群
特殊 -2 第106図 P L 97	土製 円盤	完形品 長 2.0 幅 3.0 厚 1.0	G区5集石 覆土	①細砂。石英粒子・輝石多量、 白色粒子少量 ②橙5Y R6/8 ③ややよし	RL縄文施文。打ち欠き成形後、研磨。	V群 内面黒変
特殊 -3 第106図 P L 97	土製 円盤	完形品 長 3.9 幅 3.5 厚 1.8	G区g-45	①中砂。白色粒・石英・輝石 多量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③ややよし	内面撫で後磨き、外面磨き。打ち欠き 後、研磨整形。	V群

第2節 縄文時代

第19表 特殊土製品観察表(2)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
特殊 -4 第106図 P L97	土製 円盤	完形品 長 3.9 幅 4.2 厚 0.8	G区g-46	①中砂。石英・白色粒・赤褐色粒多量、輝石少量 ②明黄褐10Y R7/6 ③不良	横位細沈線下にR L縄文斜位施文。打ち欠き後研磨?	V群 器面風化
特殊 -5 第106図 P L97	土製 円盤	完形品 長 5.6 幅 5.5 厚 1.4	G区g-46	①中砂。赤褐色粒多量、白色粒・石英・輝石少量 ②明褐7.5Y R5/6 ③やや悪い	弧状細沈線文施文後L R縄文充填。打ち欠き成形後研磨整形。	V群 外面煤付着黒変、赤変
特殊 -6 第106図 P L97	土製 円盤	完形品 長 3.5 幅 3.5 厚 1.3	G区g-46	①中砂。輝石多量、石英・白色粒少量 ②橙7.5Y R7/6 ③やや悪い	打ち欠き成形後研磨整形。	V群
特殊 -7 第106図 P L97	土製 円盤	完形品 長 2.7 幅 2.8 厚 0.8	G区h-45	①細砂。輝石・白色粒多量、赤褐色粒・石英少量 ②橙2.5Y R6/6 ③ややよし	L R縄文施文。縁辺打ち欠き成形後研磨整形。	V群 外面一部赤変
特殊 -8 第106図 P L97	土製 円盤	完形品 長 2.8 幅 2.9 厚 1.2	G区h-46	①中砂。輝石・石英・白色粒少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③やや悪い	縦位3条細沈線施文後R L縄文施文。打ち欠き成形後研磨整形。	V群
特殊 -9 第106図 P L97	土製 円盤	完形品 長 3.7 幅 3.7 厚 1.1	G区i-45	①中砂。輝石・白色粒子・赤褐色粒子少量 ②浅黄2.5Y 7/3 ③やや不良	打ち欠き成形のみ。	
特殊 -10 第106図 P L97	土製 円盤	完形品 長 2.9 幅 2.9 厚 1.4	G区i-47	①中砂。輝石・赤褐色粒子・白色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	打ち欠き成形後研磨整形。	V群 内外面風化
特殊 -11 第106図 P L97	土製 円盤	1/2 長 5.0 幅(3.0) 厚(10.3)	G区l-48	①細砂。輝石・石英・白色粒子・赤褐色粒子少量 ②淡黄2.5Y 8/4 ③やや悪い	L R縄文充填。	V群
特殊 -12 第106図 P L97	土製 円盤	完形品 長 3.5 幅 3.4 厚 0.7	G区p-50	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②暗赤褐2.5Y R3/4 ③ややよし	内外面横位磨き。	VI群 G P-50-2と同一個体?
特殊 -13 第106図 P L97	土製 円盤	完形品 長 3.5 幅 3.6 厚 0.9	J区s-72	①中砂。6mm礫、結晶片岩多量、輝石・チャート・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③ややよし	横位沈線下に刻み付き浮線文。地文R L縄文横位施文。	III群
特殊 -14 第106図 P L97	土製 円盤	ほぼ完形 長 2.1 幅 1.8 厚 0.8	M区d-80	①中砂。赤褐色粒多量、白色粒・輝石・石英少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③ややよし	縁辺を打ち欠き成形後、研磨整形。弧状沈線文、R L縄文充填。	V群 小形品
特殊 -15 第106図 P L97	土製 破片	破片 長(7.4) 幅(4.4) 厚(3.1)	G区h-45	①中砂。白色粒多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②灰5Y 5/1 ③不良	指撫で。	V群?
特殊 -16 第106図 P L97	土製 破片	破片 長(10.5) 幅(11.0) 厚(5.6)	G区g-46	①中砂。白色粒・赤褐色粒・輝石・石英少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③不良	かなり部厚いつくり。内外面撫で。外面指頭痕残す。	V群? 被熱
特殊 -17 第106図 P L97	土製 破片	破片 長(8.7) 幅(6.4) 厚(3.6)	G区h-45	①細砂。5mm礫、白色粒子・石英・赤褐色粒子・輝石少量 ②にぶい橙7.5Y R7/3 ③不良	指撫で。	V群? 二次被熱
特殊 -18 第106図 P L97	土製 破片?	破片 長(9.9) 幅(6.7) 厚(3.0)	G区i-46	①細砂。白色粒・輝石・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R7/6 ③不良	指撫で、断面長方形に成形。	V群? 被熱
特殊 -19 第106図 P L97	三角 柱形 土製 土製品	1/3 長 4.1 幅 5.5 厚 5.0	G区6配石 覆土	①中砂。輝石・石英・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y 8/4 ③良好	断面はほぼ正三角形に近いが、中央部はやや凹む。三方は摘み出して尖らせている。そのうち2カ所は連続する剝離痕が認められる。4面とも指撫で。	V群 側面一面黒斑
特殊 -20 第106図 P L97	耳飾 り	ほぼ完形 上径 4.0 底 3.2 高 1.7	G区h-47	①中砂。白色粒・石英・輝石少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好	やや薄手。上径が広く、下径が狭く中央にφ8mm程の孔が開く、環状を呈する。指撫で痕がよく残るが、中央の孔のまわりには篋痕が残る。	V群

第6項 出土石器

(第107～196図、P L98～141)

現場で単なる遺構の構成礫として石材や大きさ重さ等を計測して置いてきたもの以外、石器として取り上げたものは剥片等の実測しなかったものも含めて全部で4,166点、剥片・石核を除くいわゆる石器類だけで2,106点あった。

各器種毎にその割合を見ると打製石斧は594点、全体の14.2%、剥片・石核を除いたいわゆる石器類の中では28.2%にあたる。形態的には沼南遺跡では欠落していた分銅形を含め、短冊形、撥形の3種類がすべて揃っている。その割合は短冊形や撥形が圧倒的に多い。刃部に顕著な磨滅が認められるものと中程から上に磨滅が認められるものがある。前者は刃が対象物に当たった際の使用によるものと考えられるが、後者は柄ずれと考えられる。欠損後刃部を再生しているものや方形の削器に再生しているものもある。

磨製石斧は17点、全体の0.4%に当たり、いわゆる石器類では0.8%であり、1%にも満たない。生産地の遺跡以外の通常の遺跡（消費地の遺跡）では多くても1～2%程度であり、ほぼ似たような傾向が認められる。それだけに刃部を再生・研ぎ直しして大切に使用されている例が多い。数多くの打製石斧が完形のまま放棄・廃棄されていることとは対照的である。遺跡に残された点数の少なからずとも貴重であったことが伺える。

スクレイパー類は各遺跡によって色々に分類されて報告されており、その基準も報告書や担当者毎によって様々である。従って、ここではひとまず便宜的ではあるが、削器だけでなく石匙・U F・R Fも含めてスクレイパー類として一括して扱っていきたい。その上で今後はその中を細分していくことが必要と考えられる。スクレイパー類の総点数は746点、全体の17.9%、いわゆる石器類の中では35.5%にあたる。もしかしたらこの割合の少ない他の遺跡では剥片と分類されたものの中に多くのU FやR Fが含まれている可能性がある。

石鏃は47点、全体の1.1%、いわゆる石器類の中では2.2%にあたる。一般的な中期の遺跡においては遺物の中で主たる位置を占めるものとはならない。この遺跡では平面形が二等辺三角形で下辺中央が抉れる有脚鏃がほとんどであり、有茎のものや抉れの無いものは少なかった。特徴的なのはf45-2の有脚鏃のように表裏中央部を研磨した局部磨製石鏃が含まれていることである。

石錐は20点、全体の0.5%、いわゆる石器類の中では0.9%にあたる。石錐には先端部を細長く作出するタイプのもとの僅かに両脇から剥離を入れて短く作出するタイプのものがある。この遺跡では前者がやや多かった。

磨石・敲石・凹石は528点、全体の12.7%、いわゆる石器類の中では25.1%にあたる。磨石でも石鱗状に整形されたものと礫の表面がやや磨れただけのものがあつて、分けて考える必要はあると思われる。また、凹石には凹を有する磨石・敲石と凹だけしかないものがある。こうした凹石は陣場岩屑なだれの角礫や亜角礫を素材としている場合が多い。それらの多くのは配石や集石の一部に使用されていたものである。

石皿は20点、全体の0.5%、いわゆる石器類の中では0.9%にあたる。長方形に整形されているものはあつたが、彫刻の施された特殊なものは1点も検出されなかった。この遺跡でも部分破片が多く、完形品は1点もなかった。その割れ口を見ると人為的に割つたことが伺える。他の遺跡では1%程度であり、多くても2%前後である。

短剣形石器は21点、全体の0.5%に当たり、いわゆる石器類の中では1.0%であり、沼南遺跡では総点数84点、全体の1.2%に当たり、いわゆる石器類の中では2.3%である。この両者を比較するとその割合は1:2となっている。他の遺跡ではどういふものかわからなかったため分類できていないので、この2遺跡と単純に比較はできない。時期的な問題なのか、遺跡の性格上の問題なのか、個人的な予測としては中期に特徴的な石器と思われるものの、今後検討の

第2節 縄文時代

余地は残る。この名称についても沼南遺跡で数多く検出されたので、仮にそう付けたが、まだ検討の余地はある。分布地域や時期もかなり限定されてくる可能性もある。その機能・用途もまだまだ十分な検討もされておらず、今後に残された課題も多い。ぜひ中期の遺跡を整理したら注意して気に止めてもらいたい石器である。

石棒は14点、全体の0.3%に当たり、いわゆる石器類の中では0.7%であり、傘や全体の形をきちんと作るものとした棒状礫をそのまま僅かに敲いたり、研磨したりしただけのものと分けて考える必要はあると思われる。他の遺跡では実測図のないものについては現物に当たり直さなければならず、詳しい比較・検討はできない。しかし、製作跡などの特殊な遺跡を除き、一見石棒が目立つ遺跡でもその総数の中で見るとそう飛び抜けて多いわけではないと思われる。石材にデイスaitを用いているものもあり、下仁田町の方から完成された形で持ち込まれた可能性が考えられる。

台石は総点数17点、全体の0.4%に当たり、いわゆる石器類の中では0.8%であり、機能・用途的には石皿に近いものも多く、他の遺跡では磨石や石皿に分類されているところもあり、単純に比較はできない。形態的には形をきちんと作っている石皿と明確に区別する必要がある。全体に占める割合は傾向としては極端に多いものではないと言えよう。

剥片は総点数2,027点、全体の48.7%に当たり、全体の半分近くが加工痕や使用痕も無い剥片である。ある程度の大きさがあるものの、石器の素材とはな

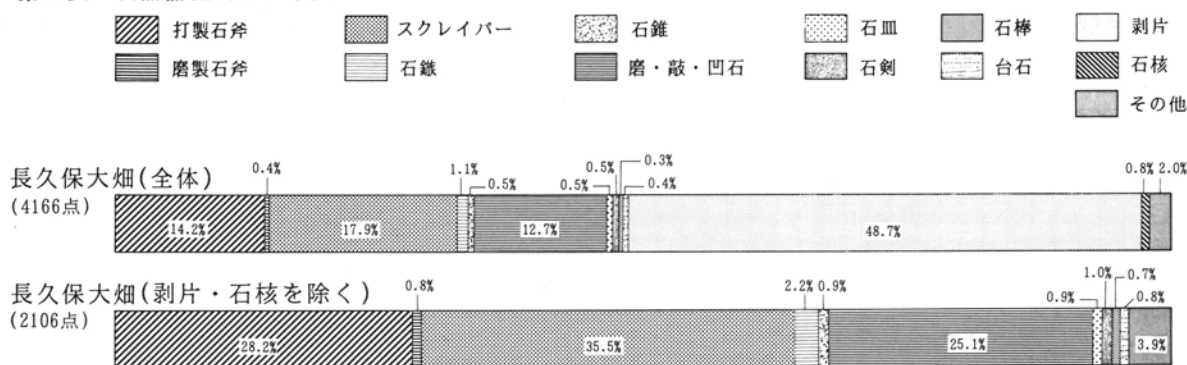
らないものが多く、こうした剥片が多いということは、この遺跡では若干の調整加工も行われていることが伺える。しかし、礫素材の石器を除いても残された石器と加工した剥片がほぼ1:1に近いということは調査で見逃したものがあつたことを考慮してもその場で一から加工したとは考えられない。どこか別の場所で大まかな形を作り、遺跡に持ち込んで細部を仕上げた可能性がある。また、打製石斧については刃部再生を施しているものも多く認められることからするとその際の調整剥片の可能性も考えられる。

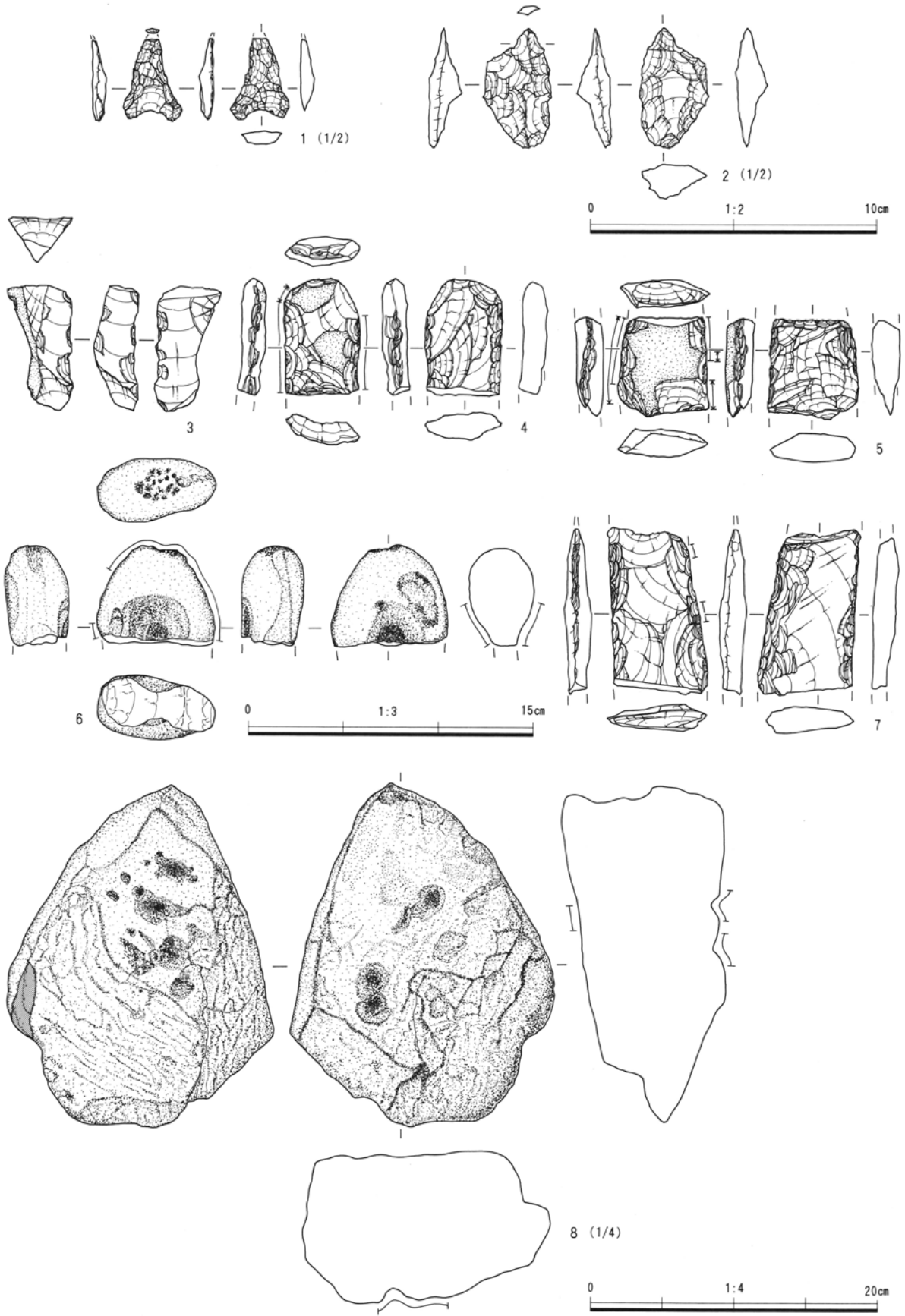
石核は総点数33点、全体の0.8%に当たり、剥片石器の残核とまだ剥離することが可能なものと分けて考えることができる。剥片石器は石鏃や石錐等の小形のものと大形の削器等があるが、後者の方がやや多い。素材となる剥片も後者の方が多いこととも一致する。

その他は総点数82点、全体の2.0%に当たり、いわゆる石器類の中では3.9%である。石錘が1点ある。また、研磨により円形に仕上げられた石器があり、いわゆる土製円盤と全く同じ形態・大きさを持つものである。今までにも円礫を素材として研磨したものは見たことがあるが、これほどまでに角をきちんと仕上げたものはなく、特徴的である。

遺跡の全般的な傾向を振り返って見ると、剥片が多いことと剥片・石核を除くと磨石・敲石・凹石とスクレイパー類が多く、その分打製石斧がやや少ない傾向が認められる。それは配石・集石が主体をなすという遺跡の性格に由来するものと思われる。

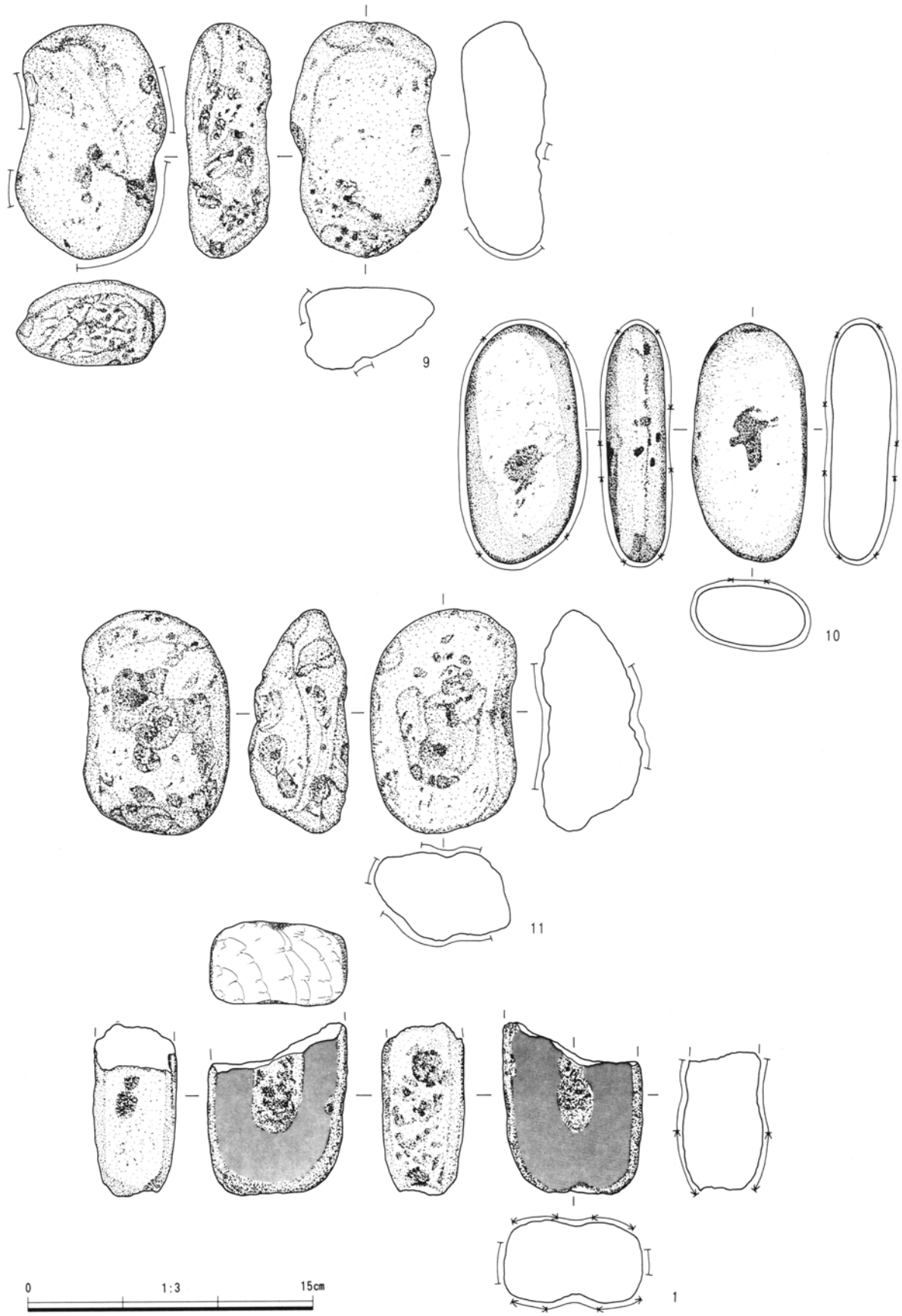
第20表 石器器種別百分率表



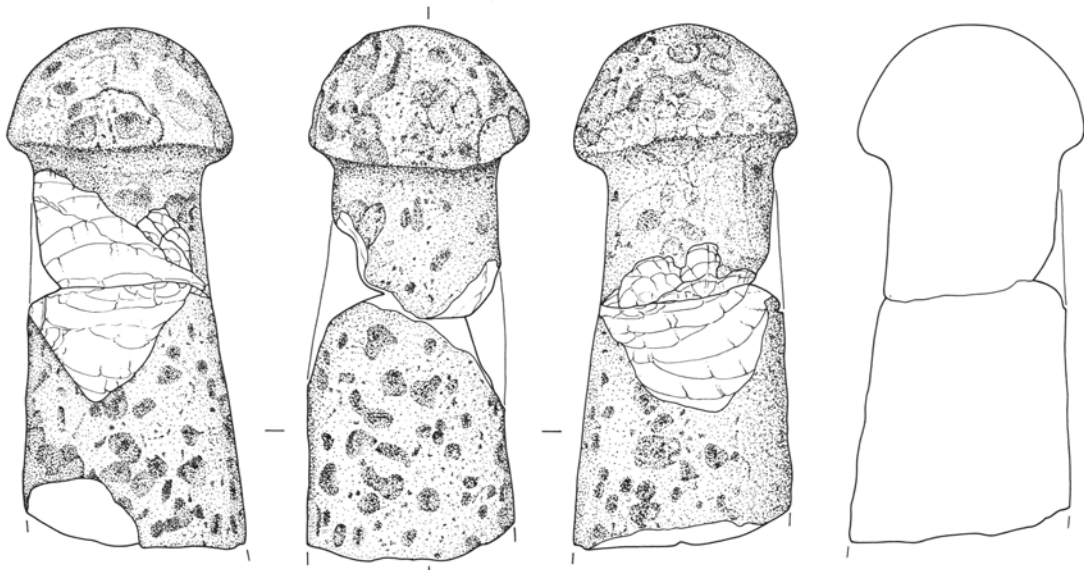


第107图 1号集石出土石器实测图

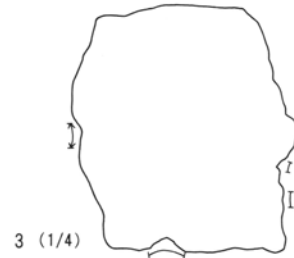
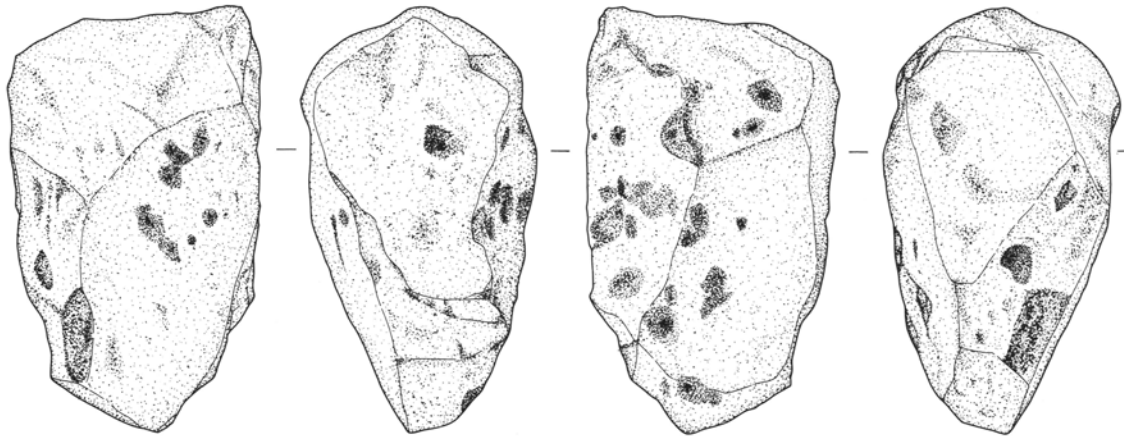
第2節 縄文時代



第108図 1号・3号集石出土石器実測図



2 (1/4)

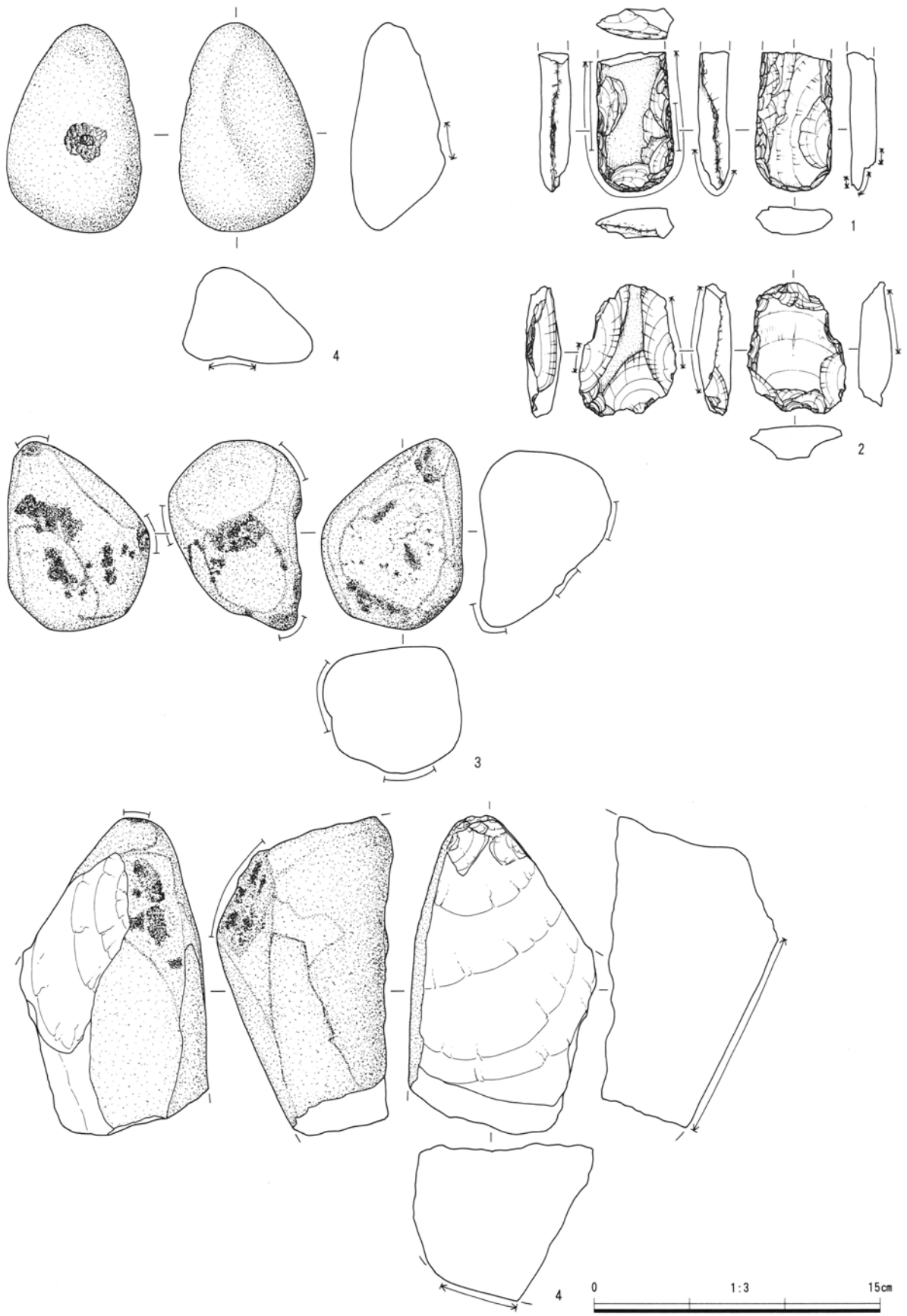


3 (1/4)

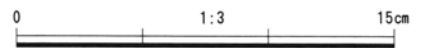
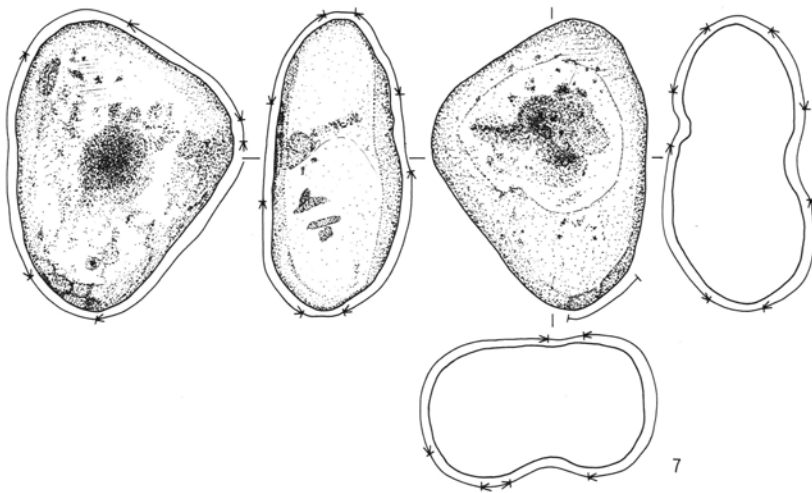
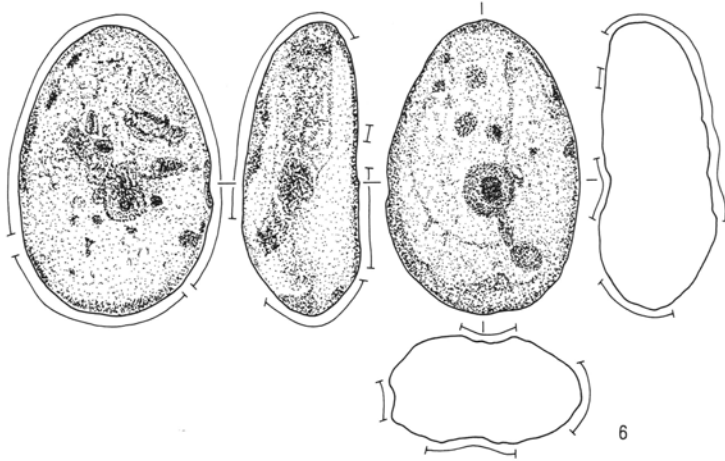
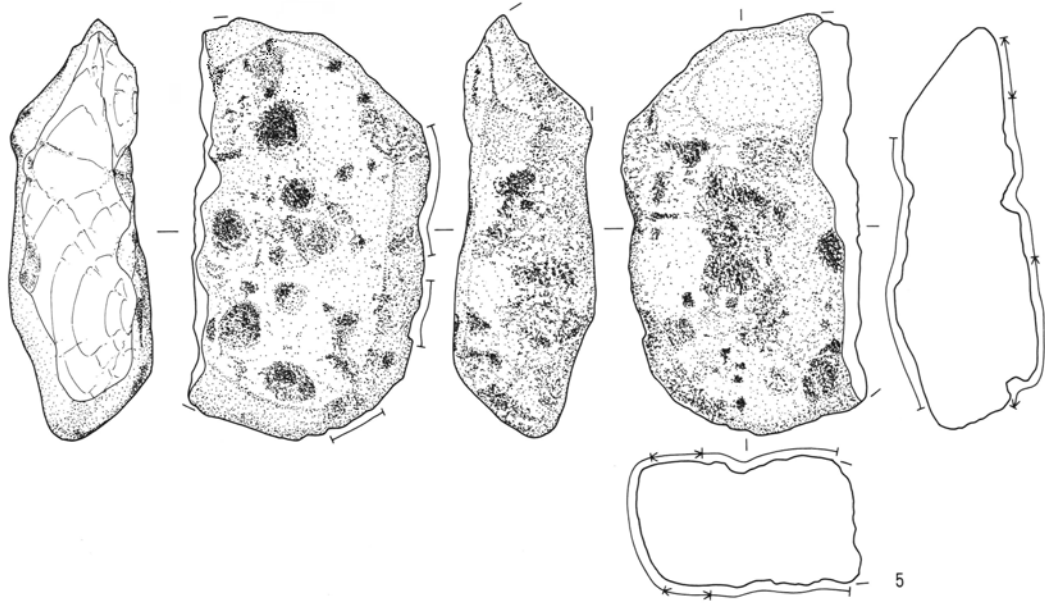


第109图 3号集石出土石器实测图

第2節 縄文時代

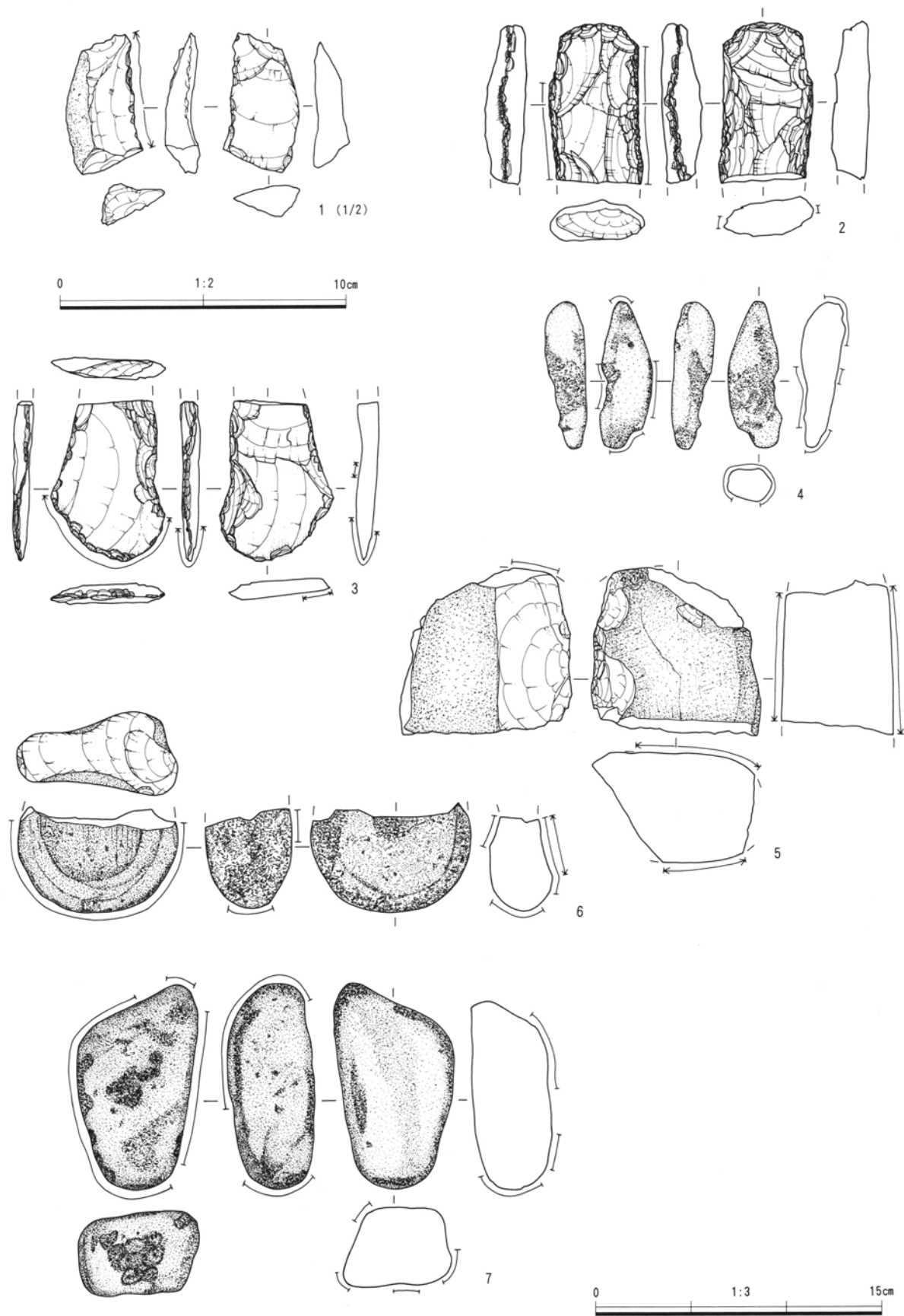


第110図 3号・4号集石出土石器実測図

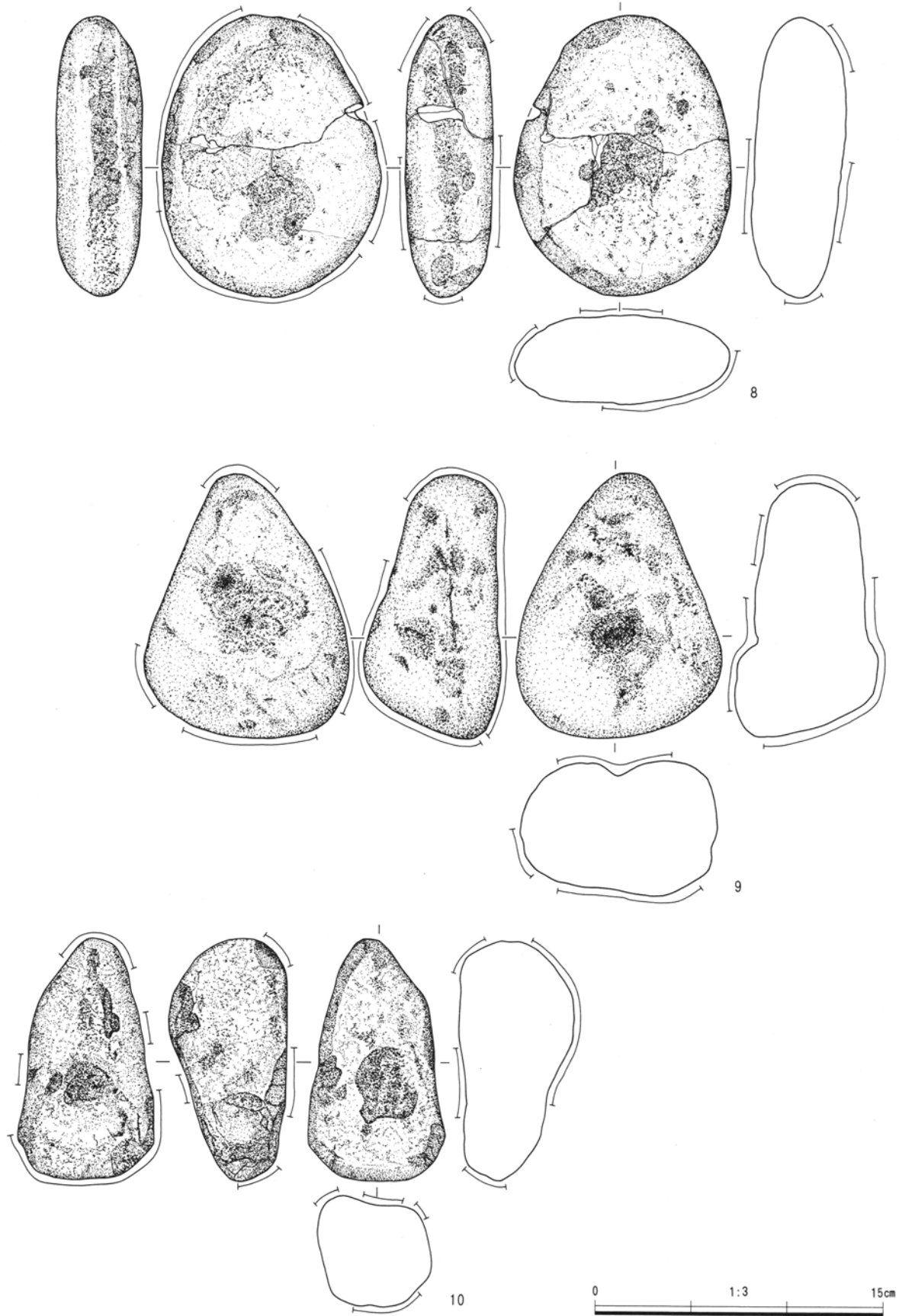


第111图 4号集石出土石器实测图

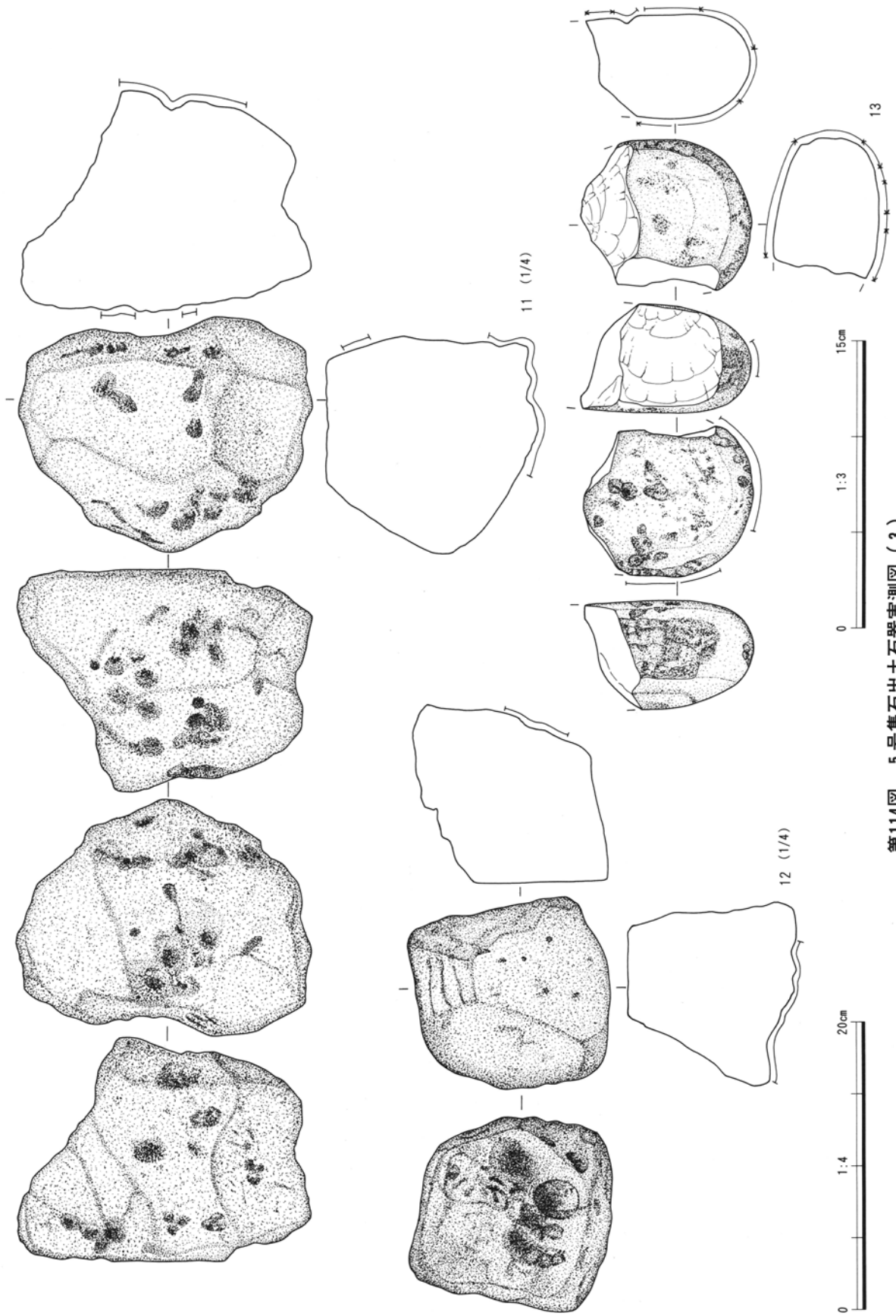
第2節 縄文時代



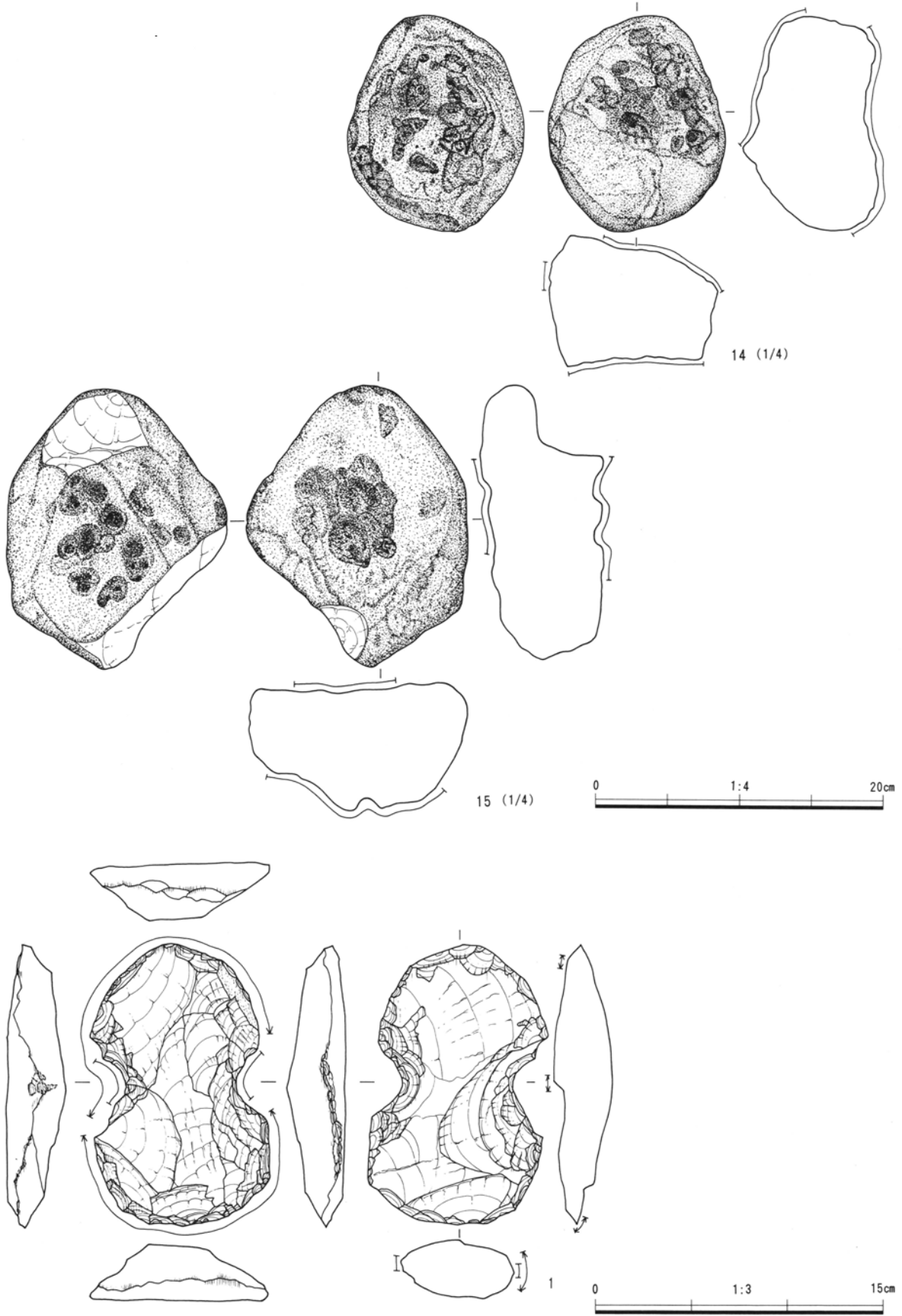
第112図 5号集石出土石器実測図(1)



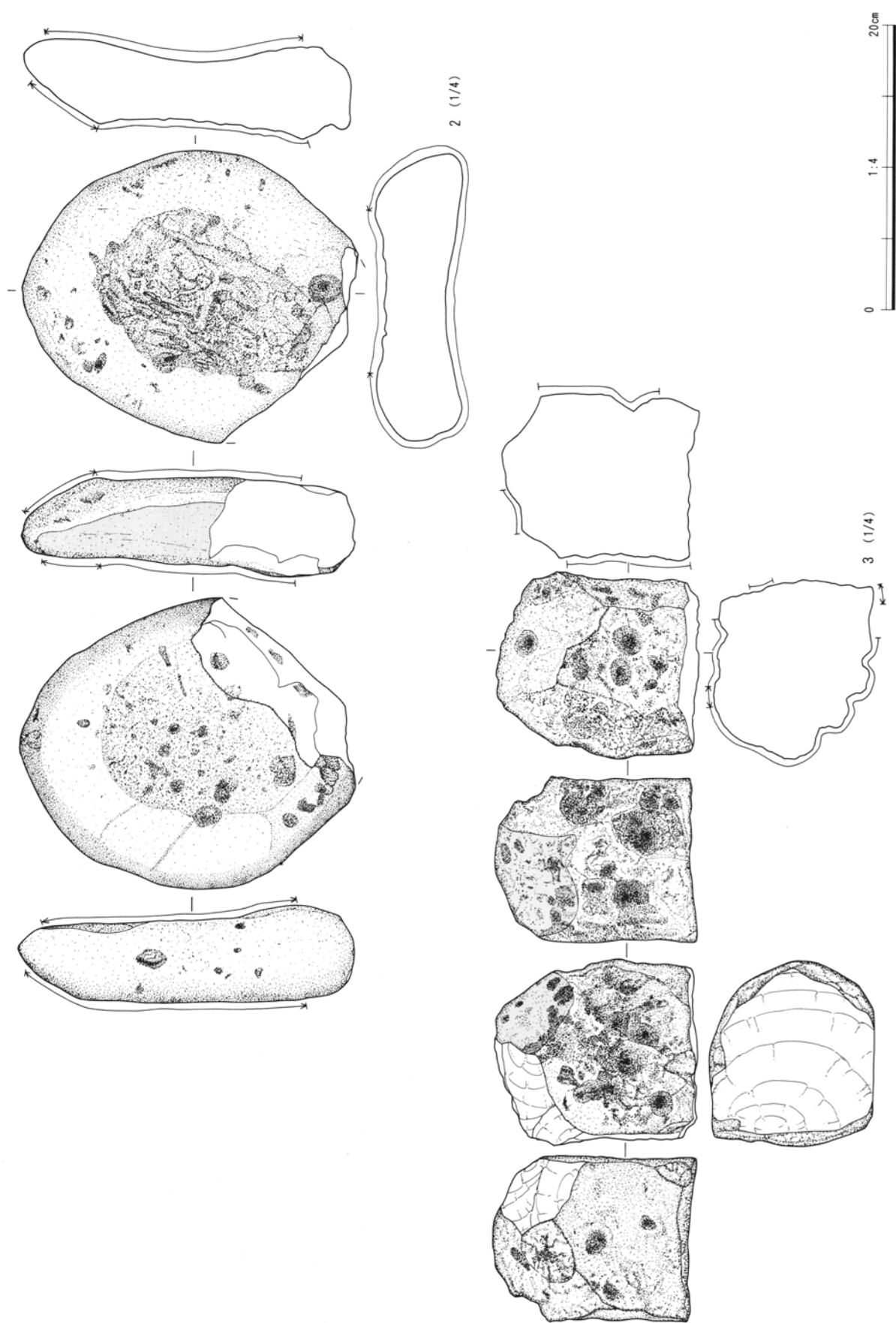
第113图 5号集石出土石器实测图(2)



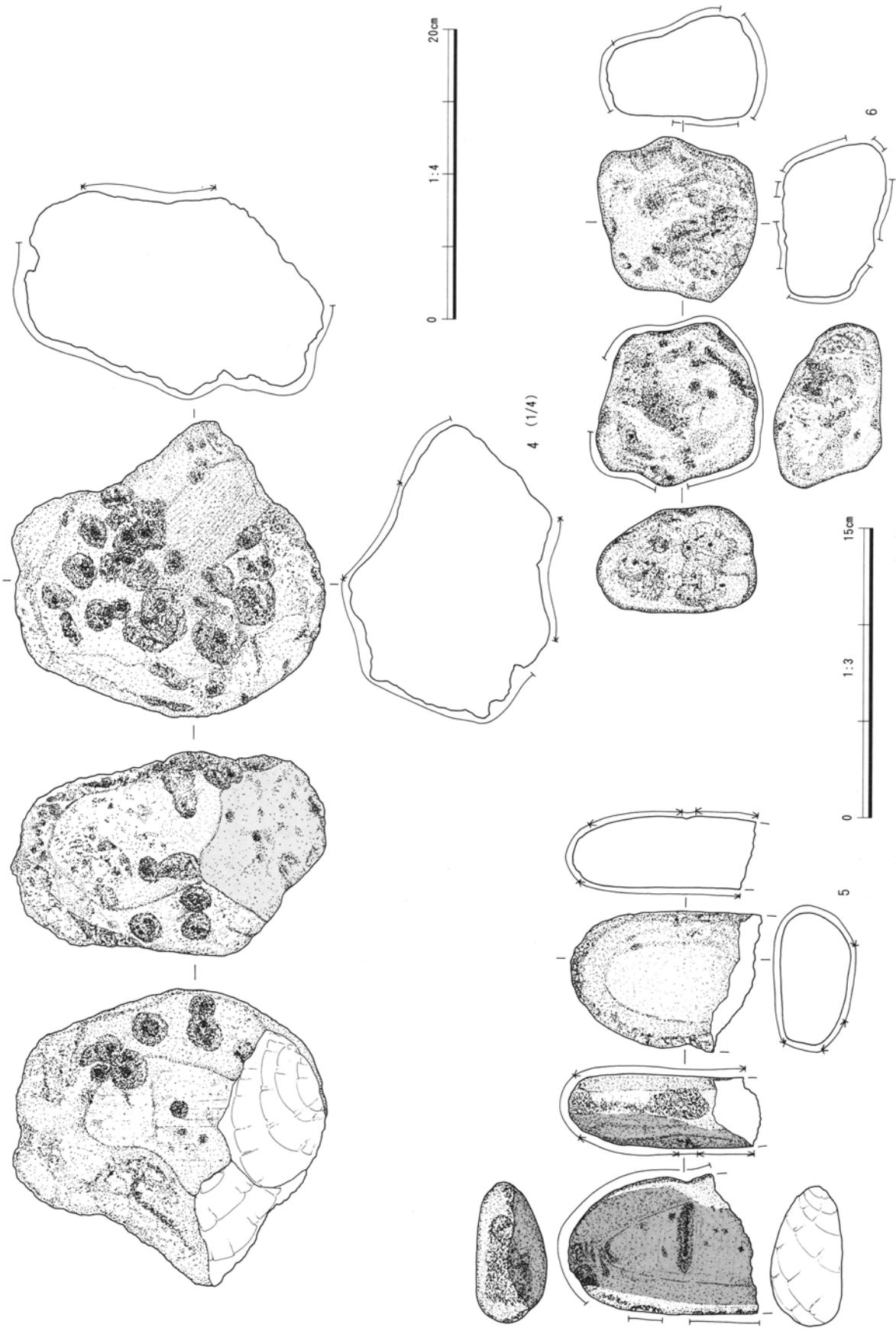
第114図 5号集石出土石器実測図(3)



第115图 5号・6号集石出土石器实测图



第116図 6号集石出土石器実測図(1)



第117图 6号集石出土石器实测图(2)